

明代中興雲居山真如寺顓愚觀衡和尚
清住南康府同安寺嗣法門人法璽正印
重編 語錄

紫竹林顓愚觀衡和尚語錄

佛陀教育基金會印贈

重印《顓愚衡和尚語錄》緣起文

顓愚觀衡大師（1579-1646），按《寶通賢首傳燈錄》，嗣法於五台山空印鎮澄，為賢首第二十六世，而禪宗則印可於憨山德清，為憨大師獨契（按：《靈峰宗論序說》）。顓愚大師打通禪教兩端，於當時叢林頗稱異數。憨山德清圓寂之後，大師深負江南叢林一時人望之所歸。見月讀體、蕩益智旭參學過程中皆曾蒙其獎掖（按：廖肇亨博士，法鼓佛學學報第14期《欲識玄玄公案，黃梁未熟以前》）。

萬曆年間（公元1612年），重興江西雲居山道場的諸緣洪斷和尚，告老返歸北京萬佛堂前，因恐雲居山十方叢林演變為子孫叢林，遂將自己的所有徒屬共十人分別遣散到各地之小寺庵，虛方丈席以待高賢。但寺院卻因無得力人經營，一度進入低谷。當時有艾城護法熊德陽，見此情景，出面邀請味白常慧禪師上山暫理寺務。直到明崇禎十年（公元1637年），味白禪師夢見樹下湧一寶塔，隨後顓愚和尚登雲居山禮祖塔，禮畢，跌坐樹下。沙彌報味白師曰，樹下老僧跌坐如佛。院主聞之，大生歡喜，以真如常住付託顓愚和尚。大師初拒不受，次日不辭而別。但去至途中疾作，臥疾甘露庵。味白師得悉，乃與合山僧眾居士等往返虔請再三，因緣如此，顓大師只得允之。大師住持真如禪寺七年間，雲居山一片中興之象。

大師道德之深遠，非是尋常附庸風雅之流所及，待人接物，令人如沐春風，崇敬有加。其禪法精微，獨步江右，提攜後輩，觀機設教，使人頓悟上乘。言語身行，堪為世范，飛錫之地，頓成叢林。

顓愚和尚一生最重視《楞嚴經》，發願生生世世弘揚《楞嚴經》，並十分推崇圓通懺法。其著述有《楞嚴經四依解》《金剛經四依解》等，發明心宗，言簡理當。栽培弟子眾多，大師圓寂后，諸弟子將其開示法要整理成《紫竹林顓愚衡和尚語錄》，并《四依解》等，

刻印成書，流通於世。

後來，此《語錄》被收錄在嘉興藏（J）第 28 冊，文內大部份沒標點，今參考《雲居法匯》及上海圖書館藏珍本年譜叢刊內《五臺顛愚和尚年譜》及國圖《紫竹林顛愚衡和尚語錄》和虛雲老和尚時期出版《雲居山志》，重新整理。

《紫竹林顛愚衡和尚語錄》內示眾法語，文簡易懂，句句刺中要害，諄諄善導開悟捷徑，正如清朝施博居士所言：「圓融透快，如珠走盤，一言之下便可斷人命根。其鉗鎚妙密，高出棒喝之上。良因見處深廣，行履精嚴，故其言中有響，轟塗毒鼓，聞者無不喪身失命也。」

值此末法時期，應了《楞嚴經》那句「邪師說法，如恆河沙」。佛法衰微，令人哀歎。蕩益大師對顛愚和尚的道德十分欽服，《靈峰蕩益大師宗論》內的《祭顛愚大師爪髮衣鉢塔文》曾提到：「旭每悲如來正法，一壞於道聽塗說、入耳出口之夫，再壞於色厲內荏、羊質虎皮之徒。」「當今知識，罕不以名相牽、利相餌，聲勢權位相依倚，如翁古道自愛者有幾？當今知識，罕不以掠虛伎倆籠罩淺識，令生驚詫，如翁平實穩當者有幾？當今知識，罕不侈服飾、據華堂，恣情適意，如翁破衫草履、茅茨土階者有幾？」

此《語錄》或因成書于明朝末年，時局動蕩，及近代以來，烽火連天，天災人禍不斷，所以未能廣為傳播。幸得祖師加被，龍天護佑，此書未為戰火湮沒，而其針砭時弊，開示禪法，尤能匡扶禪宗法脈，值此太平之世，若不廣為弘傳，實為可惜！故殷切盼望《語錄》再現，令末法眾生同蒙法益，大師若見此書重刊流行，亦當悲喜！

目錄

顓愚禪師語錄序	21
敘	23
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第一	25
示眾	25
1. 雲居示眾	25
2. 示眾	26
3. 結制示眾	27
4. 五臺庵示眾	29
5. 紫竹林示眾	30
晚參	33
1	33
2	33
3	33
4	34
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第二	35
法語	35
1. 示桂輪洪禪人	35
2. 示脩悟禪人	36
3. 示唯心禪人	37
4. 示音迪	38
5. 示慧心照禪人	40
6. 示興化乘子	41
7. 示真覺受禪人	43
8. 示罕鳴雷座主	44
9. 示自如定門人	46
10. 示德山住持靈宗禪人	47

11. 示無味參子	48
12. 示覺岸航子	49
13. 示本一頤子	50
14. 示萬白顥子	52
15. 示歸宗源戒子	53
紫竹林顥愚衡和尚語錄卷第三.....	56
16. 示寬居用禪人	56
17. 示天衣曇子	57
18. 示石印常上座	58
19. 示西意法子（即音源）	59
20. 示雲谷上座	61
21. 示石蓮際法子	62
22. 示詡楷塵禪人朝南海并參諸方	63
23. 示天隨宜子	65
24. 示闕止遂禪人	67
25. 示超宗翼子	68
26. 示元白可闍黎	70
27. 示無盡學禪人	71
28. 示晦之明侍者	72
紫竹林顥愚衡和尚語錄卷第四.....	75
29. 示道生夏居士	75
30. 示都護稚隆李公.....	77
31. 示五峰梁居士	80
32. 示若訥舒公工夫切要	82
33. 示屏伯王公	84
34. 示菩薩戒弟子公茂謝居士.....	85
35. 示淨戒弟子覺華林公	87
36. 示熙明周居士	88
37. 示念心袁居士淨土語	89

38. 示止甫蔡居士淨土語	90
39. 示真復譚居士（法名音瀚）	91
40. 示內白陳居士（法名音潛）	93
41. 示聞孺尹居士	94
42. 示上宇呂居士（法名音習）	95
43. 示伯賢王居士（法名音蓉）	97
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第五.....	99
書問	99
1. 答思履王公	99
2. 答孝則車公	101
3. 答吾鏡居士	103
4. 答六長劉公	104
5. 與飛孺王公	105
6. 答貞復譚公	105
7. 答白蛟劉居士	106
8. 答紫蘿劉居士	107
9. 答寶慶熊太守	108
10. 答湘潭生因李公.....	108
11. 答公茂謝公	109
12. 答覺華林公	110
13. 答我尚王居士（法名音凌）	111
14. 答吉卿王居士（法名音徹）	112
15. 答安城叔監鄒孝廉.....	112
16. 與綠蘿劉公	113
17. 與仲初劉公	114
18. 答浩若周公	114
19. 答石者朱公	115
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第六.....	118
20. 答建業旻昭陳公.....	118

21. 答侍御旋觀王公.....	118
22. 復夢覺洪居士	119
23. 答舒茂才.....	120
24. 答孝則劉殿元	121
25. 與郭首龍居士	122
26. 答安于劉公	122
27. 與元公黃居士	123
28. 答介子黃居士	123
29. 答伊少劉居士	123
30. 與安于劉公	124
31. 答季納熊公	125
32. 答熊青嶼給諫	126
33. 答寶慶諸大檀越.....	127
34. 答德安鄭茂才	127
35. 與金豈凡觀察	128
36. 上五乳本師憨老人書	128
37. 答澄芳大師	130
38. 答見玄大師	130
39. 答雲居味白叟	131
40. 答樂愚和尚	131
41. 與雲居明月堂法璽印西堂.....	132
紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第七.....	134
經序	134
1. 刻千佛名經序	134
2. 心經標言序	134
3. 金剛般若經四依解序.....	135
4. 首楞嚴經四依解序.....	138
5. 刻圓通懺序	140
6. 刺血書華嚴經跋	141

7. 血墨合書妙法蓮華經跋	143
8. 禮板的達像跋	145
9. 華嚴經綱要序	146
10. 刻方冊藏經目錄序	149
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第八.....	154
書序	154
1. 同聞思修發菩提心錄序	154
2. 生生篇序.....	156
3. 翼醫通考補序	157
4. 中庸說白序	159
5. 律儀常軌序	160
6. 擬古長詩述志序	160
7. 貝葉記序.....	162
8. 禮佛發願儀序	163
9. 王介公閉戶吟序	165
10. 法喜志序.....	166
11. 題穢跡金剛像卷序	166
12. 蓮社箴規序	168
13. 傘居閉門語自序.....	171
14. 題漢末時侯留犢圖卷序	172
15. 黃庭內景玉經序.....	173
16. 授戒科儀序	174
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第九.....	176
17. 自知錄序.....	176
18. 閒閒菴集序	177
19. 匡山蓮華峰志略序	178
20. 三堂傳戒儀序	181
21. 永嘉禪師證道歌註頌重刊序	182
22. 諸祖道影跋	184

23. 燕貽孫居士書華嚴經跋	184
贈序	186
1. 贈若訥舒公序	186
2. 贈本來譚居士序	188
3. 酬海藏上師舍利序	190
4. 贈孝則車公序	192
5. 贈幼潛王公序	194
紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十	196
募疏	196
1. 募造檀香佛疏	196
2. 募化藏經疏	197
3. 募齋僧疏	198
4. 募茶疏	199
5. 古攸報恩寺募藏經疏	199
6. 匡山五乳寺募米疏	200
7. 募米疏	201
8. 德山乾明寺募藏經疏	201
9. 山西大同府白衣庵募造佛疏	203
10. 長干大報恩寺三藏殿募田疏	204
11. 北京梅檀庵募造梅檀像佛疏	205
12. 募三衣疏	207
13. 寶集林募揀骨普度引	208
機緣	210
1	210
2	210
3	210
4	210
5	211
6	211

7	211
8	211
9	211
10.....	212
11.....	212
12.....	212
13.....	212
14.....	212
15.....	213
16.....	213
17.....	213
18.....	214
19.....	214
20.....	214
21.....	214
22.....	214
23.....	214
24.....	215
25.....	215
26.....	215
27.....	215
28.....	216
29.....	216
30.....	216
31.....	217
32.....	217
33.....	217
34.....	217
35.....	218

36.....	218
37.....	218
38.....	218
39.....	218
40.....	219
41.....	219
42.....	219
43.....	219
44	220
紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十一	221
佛祖真贊.....	221
1. 釋迦老子雪山像（二首）	221
2. 釋迦拈花像.....	221
3. 栴檀像	222
4. 阿彌陀佛像.....	222
5. 吳中石像.....	223
6. 新昌大佛像.....	224
7. 三教老人圖.....	225
8. 觀音大士像（二十四首）	225
9. 送子觀音大士	226
10. 觀音大士一首（三目像）	226
又（十六首）	227
11. 黃介子畫三十二應總像（二首）	232
12. 準提大士像（二首）	233
13. 地藏大士像	234
14. 出海羅漢像	234
15. 李龍眠居士白描五百羅漢像	235
16. 渡海羅漢像	236
17. 過海羅漢像	236

18. 寶掌和尚像（三首）	237
19. 達磨初祖像（三首）	238
20. 寶誌公大師像	240
21. 曹溪六祖像	240
22. 碧峰經大師像	240
23. 紫柏大師像	241
24. 雲棲大師像	241
25. 本師憨山國師像	242
26. 空印大師像	243
27. 天童密雲和尚像（二首）	244
28. 三昧和尚像	244
自贊（八十二首）	246
1. 河南福府李舍人請	246
2. 齊安林伯滋音夔請	246
3. 中湘謝孺玉孝廉音萱請	247
4. 謝惟高音蘭請	247
5. 劉省吾音萬請	247
6. 中湘姜思安音萃請	248
7. 李成甫音艾請	248
8. 武攸梁五峰音範請	248
9. 朱鳳起音蒼請	249
10. 程乾初音荔請	249
11. 中湘林本初音藿請	249
12. 吉水婁豹玄音浚請	250
13. 安城鄒叔監孝廉音潔請	250
14. 音彌請	250
15. 音頤請	251
16. 王伯賢音蓉請	251
17. 古攸譚真復音瀚請	251

又（十四首）	252
18. 半身像贊	256
19. 行像贊	256
又（十首）	257
20. 九嶷戒子請	260
21. 李愛軒銀師請	260
22. 五臺庵典座請	260
23. 古攸劉朴先請	260
24. 古攸諸戒子請	261
25. 古攸陳斗衡居士請	261
26. 古攸劉漢水音潢請	261
又（九首）	262
27. 兵憲金豈凡居士請	265
28. 素而郭居士請	266
29. 蘇門郭茂才請	266
又（二首）	267
30. 法璽印西堂請	267
31. 季納熊公請	268
32. 直心李公請	269
又（四首）	269
33. 別駕青陽李公請	270
34. 弟子性願請	271
35. 音溥馬居士請	271
36. 南京王奉吾居士請	272
37. 舟泊白門鬼臉城眾居士請	272
38. 讓字劉公問道圖請	273
題像	274
1. 題明翁蔡居士六袂初度行樂圖	274
2. 題集生余老居士像	274

3. 題雲池馬老居士像.....	275
真銘	276
禮觀音大士銘（四首）	276
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十二.....	280
佛事	280
1. 曹溪憨山老人訃音至懸真燒香	280
2. 五臺山空印大師訃音至設奠為文哭之..	280
3. 為月舟和尚起龕	281
4. 為無方和尚起龕	282
傳.....	284
曹溪中興憨山先師傅.....	284
銘.....	300
1. 南京栖賢庵樂愚和尚塔銘.....	300
2. 樵長章先生墓誌銘.....	303
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十三.....	307
歌.....	307
1. 雲居插田歌.....	307
2. 皮囊歌	326
又（三首）	327
3. 孝思車公劬園歌	331
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十四.....	333
經解	333
1. 心經小談.....	333
2. 首楞嚴經懸談	335
3. 金剛般若經略談	345
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十五.....	355
中庸說白	355
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十六.....	378
雜著	378

1. 天主說辯（并序）	378
2. 為安城石者朱太史結放生社文	383
3. 放生社文.....	385
4. 蓮社成規.....	386
5. 圓通會成規.....	388
6. 為父母禮懺疏.....	390
7. 宗侯為母生日禮懺疏.....	392
8. 曉幽冥榜.....	393
9. 戒壇榜示（青原）	394
戒壇榜示	396
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十七.....	399
頌.....	399
圓通頌百首.....	399
偈.....	418
1. 淨土詠（五十首）	418
2. 曹溪贈禪人.....	426
3. 贈若拙師刺血書經.....	427
4. 訪慕湘車八.....	427
5. 次碩卿劉公韻	427
6. 贈十洲曾公	427
7. 示覺海禪人.....	427
8. 示法璽印禪人行腳.....	428
9. 與元白可法子	428
10. 與超宗翼法子	428
11. 與法璽印西堂住雲居明月堂.....	428
12. 示安止黃居士	428
13. 舟次雲間贈可參座主	429
14. 雲間西林寺贈道間座主講法華經	429
15. 贈道開座主講涅槃經	429

16. 贈玉田知客	429
17. 舟次青浦別宗元陸公	430
18. 雲居同眾插禾（四首）	430
19. 和一衲遮身韻（十首）	431
20. 贈約生熊給諫以差竣復命	434
21. 示自潔禪人	435
22. 示可凡禪人	435
23. 贈首龍郭公六袂	435
24. 贈香谷居士	437
25. 示達原覺禪人行腳	438
26. 示一乘開士為丹術所誤	439
27. 壽蘇溪郭中書六袂	439
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十八	441
詩（四言古）	441
1. 述志	441
2. 思山	441
3. 懷霞衣大師	441
4. 題快哉亭（四首）	442
5. 為陳母周安人作	443
詩（五言古）	445
1. 擬古（十九首）	445
2. 贈寶檀上人之南海	450
3. 讀癡僧傳	450
4. 閱宋僧書藏經卷	451
5. 讀紫柏老人集	451
6. 賡熊翁韻	452
7. 贈六藏禪人（二首）	452
8. 過吉水隴洲懷晉翁劉孝廉北上	453
擬古長詩	454

述志.....	454
紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十九.....	468
詩（五言律）.....	468
1. 贈彭工部.....	468
2. 賀五臺曾明府六秩.....	468
3. 壽思履王明府六秩.....	468
4. 南陽殿下遊南嶽過五臺庵以墨竹菊見贈奉 謝并贈行李.....	469
5. 賀靈山屈居士誕日禮佛飯僧.....	469
6. 次善長徐公韻并贈行李.....	469
7. 贈復公歸匡山.....	470
8. 贈青陽李公北上.....	470
9. 山居（二首）.....	470
10. 瞻白孫侯為羅城令贈行李.....	471
11. 樺皮笠.....	471
12. 藤杖.....	471
13. 放生鵝.....	472
14. 蟬.....	472
15. 蠶.....	472
16. 蜘蛛.....	472
17. 螢.....	473
18. 燈蛾.....	473
19. 蟻.....	473
20. 鴈.....	474
21. 促織.....	474
22. 鵬.....	474
23. 演古（二首）.....	475
24. 贈龔大理奉命賞邊.....	475
25. 壽本來居士五十.....	475

26. 贈冉三尹行李	476
27. 贈若訥舒公	476
28. 贈思履王明府	476
29. 贈魁宇郭都護	477
30. 贈武林逸度黃公行李	477
31. 壽郡伯澹然黃公六秩	477
32. 贈別駕路公	478
33. 壽郡侯杜公六秩.....	478
34. 贈孝則車公行李.....	478
35. 東阿道中.....	478
36. 秋夜露地乘涼	479
37. 炯公何部郎見訪.....	479
38. 鄭太白太史見訪.....	479
39. 謝給諫見訪	480
40. 謝馬明府送衲衣.....	480
41. 為豈凡金副憲作.....	480
42. 贈惕若王公從鄉試之閩吳.....	481
43. 郡侯熊翁見贈佳韻賦此以謝	481
44. 遊龍牙寺.....	481
45. 遊白鹿寺.....	481
46. 禮德山鑿禪師塔（八首）	482
47. 游武陵溪口	484
48. 贈覺花林茂才	484
49. 贈惟高謝茂才	485
50. 次朴先劉公韻	485
51. 贈邑侯	485
52. 贈真復譚公	486
53. 贈閒閒陳居士	486
54. 禮青原祖塔（八首）	486

55. 贈旋觀王公	489
56. 贈平田劉明府	489
57. 為幼潛王公題墨竹枝	489
58. 謝郡侯李翁贈米麵	489
59. 為雲郡侯熊翁見訪	490
60. 留別任之郭公	490
61. 為給諫熊青翁作	490
62. 壽旋觀王翁六秩	491
63. 為給諫約生熊公	491
64. 懷郭首龍居士	491
65. 懷素而郭公	492
66. 贈孝先劉二公	492
67. 贈石者朱部郎	492
68. 贈叔監鄒孝廉	492
69. 再過青原	493
70. 贈安于劉二公	493
71. 贈安世劉四公	494
72. 答元公黃居士	494
73. 游金山寺	494
74. 游焦山寺	495
75. 訪朱涇船子道場（四首）	495
詩（七言律）	497
1. 懷霞衣和尚	497
2. 和車大參韻	497
3. 壽太常劉翁七旬	497
4. 思鄉	498
5. 懷旋湛師	498
6. 次耽野山人韻	498
7. 次紫蘿居士韻	498

8. 次車四公韻.....	499
9. 懷清海呂居士.....	499
10. 和太常劉公韻.....	499
11. 和孝廉王公韻.....	500
12. 遊冶城棲霞寺.....	500
13. 自述（二首）.....	500
14. 秋日晚望.....	501
15. 鷺鷥.....	501
16. 題畫.....	501
17. 次郡侯熊翁韻.....	502
18. 初遊雲居作.....	502
19. 輓六來王郡伯.....	502
20. 璧黃介公玻璃瓶.....	503
21. 謝斧丘沈司馬齋.....	503
22. 次王介公韻.....	503
23. 答黃介子用來韻.....	503
24. 宿祖堂有感.....	504
25. 靈谷寺禮寶公塔.....	504
26. 游雞鳴寺.....	504
27. 禮長干塔.....	505
28. 次靈谷堂頭覺公韻.....	505
七言絕句.....	506
1. 輓憨山本師和尚.....	506
2. 懷霞衣和尚.....	506
3. 遊白蓮池.....	506
4. 遊武夷水簾洞.....	506
5. 山居（三首）.....	506
6. 題畫.....	507
7. 秋思.....	507

8. 壽車翁自心居士	507
9. 壽香巖劉居士	507
10. 送馬茂才	508
11. 送龔茂才	508
12. 送彭茂才	508
13. 歲旦贈車翁	508
14. 賀玉田李公新門	508
15. 贈市隱居士	508
16. 贈五臺曾公	509
17. 題畫	509
18. 懷守心叟	509
19. 嶺南送禪客歸五臺山	509
20. 贈易門劉公啟制	510
21. 贈明宇歸武陵	510
22. 贈中潛居士歸鄉	510
23. 贈應度居士遊南嶽	510
24. 贈思履王公北上	510
25. 次孝廉羅青田韻	510
26. 題小畫	511
27. 贈東川李居士七十九	511
28. 題墨畫蘆鴈	511
29. 懷司空澹然黃翁	511
30. 贈克遠曾國學五旬	511
31. 贈玄印上座	512
32. 寄懷雪嶠和尚（有引）	512
五言絕句	513
1. 懷古	513
2. 秋夜（二首）	513
3. 晚望	513

4. 送禪人歸雲陽	513
5. 雨中	514
6. 林間坐	514
7. 山居（五首）	514
紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第二十	516
詩	516
雲居雪獅子韻（一百首）	516
紫竹林顓愚衡和尚語錄附卷	546
行狀	546
塔銘	559
雲居顓老和尚語錄後敘	563
後跋	564
【附錄】	566
答墀隆李將軍	566
示顓愚衡禪人	568
訊顓愚衡公病	570
紫竹林顓愚大師爪髮衣鉢塔誌銘	571
祭顓愚大師爪髮衣鉢塔文	574
讚顓愚大師	576
輓顓愚大師（二首）	576

顓愚禪師語錄序

余自甲申避難而南。聞禪宗之盛。爭相傳囑。比肩接衽。莫可殫述。心竊異之。彼天竺文佛勤苦化導四十餘年。時最上根行、供養無量諸佛者不知其幾。而直指正法眼藏獨許摩訶迦葉則又何也。既而聞憨山老人智慧聞識為黑白之所推仰。乃於承先屬後之際。若不勝其難且慎者。問其法嗣阿誰。則止稱曾於柳巷親見笑巖和尚。其後花發異時之句。亦必往復再四而乃付之顓大師。何其峻也。當是時憨老人已不可得見。顓大師亦各勝刹迎主不一。俛仰江干。徒增朝饑耳。自時厥後。奔僕風塵二十餘年。而顓大師之嗣法璽公。吾蜀人也。從同安來都。開堂清化。且請敘大師語錄。將授之梓。余惟神熹以還。南宗大振。人人自以為探穴吸髓。風馳濤湧。不可蹙抑。而顓大師獨始終信嚮一來處分明之憨老人。夫就燥者易為熱。因響者易為聲。若顓大師者。不亦難乎。而頂骨蓮花之識。乾崗踏月之機。卒能使聲光赫奕。智炬長紅。又安在特立之不可以震服人天乎。總之佛性圓明。人人具足。要於本分實相見地明了。則雖寡猶眾也。雖隱猶顯也。迄今顓大師已邈。試問等虛空界安在。非其慈雲法雨所霑蔭也哉。而況其因緣開導、提唱親切。若經天之日月。行地之江河。有確乎不可掩者乎。余昔聞其語錄甚多。今法璽公頗為刪定。得若干卷。夫佛法不離文字。不落文字。正法眼藏當在阿堵。能以若干卷與拈花無語作一例勘。庶不負顓大師筆舌樂趣與法璽公刪定刻布苦心也。

康熙十有二年菊月

賜進士及第內閣學士兼禮部侍郎遂寧李儼根拜書

敘

蓋聞世尊說法四十九年。最後以正法眼藏、教外別傳囑付摩訶迦葉。此我佛以慈悲之過。不免話作兩橛。然阿難身任結集脩多羅而即為第二世祖。正以宗教之傳。雖曰如車兩輪。摠為一大事因緣也。萬曆間。憨山老人幻參我里法舟禪師之嗣雲谷大師。後至都中柳巷。再參笑巖和尚。機緣相契。一時緇素咸仰憨大師為古佛重來。真達摩所謂行解相應。名之曰祖。此其人已。老人生平雖盤桓教乘。而咳唾掉臂盡是宗門牙爪。其入理深談。實與臨濟、雲門當日拈提若合符節。因思釋迦老子既睹明星。無處開口。復三七思維。始依先佛儀則說三藏十二分教。迨曹溪而下。諸老說法。離奇光怪。尤不可思議。有時恁麼恁麼。有時不恁麼不恁麼。蓋時節若至。其理自彰。初非欲語句尖新。圖超出諸方。道如是故也。宜其晚得顛愚和尚。問答數言。如函合蓋。其示眾法語。博敬焚香展誦。圓融透快。如珠走盤。一言之下便可斷人命根。其鉗鎚妙密。高出棒喝之上。良因見處深廣。行履精嚴。故其言中有響。轟塗毒鼓。聞者無不喪身失命也。豈與夫豁達之流。見古人有只貴眼明、不貴操履之語。便作實法會。提經律二字。便搖首抵足者等哉。須知這事千虛不博一實。真正過量人。作用自是不同。顛愚和尚師資。正與龍池、天童共出隻手。中興濟上一脈也。茲有嗣法弟子法璽大師。從同安至禾。刪定和尚語錄。重新鋟成二十卷。入於大藏流通。博雖門外漢。不辭蕪陋。特弁數言。深愧無當萬一。第願盡大地眾生見聞隨喜。知憨老人為柳巷真子。莫被它瞞過。

康熙丙辰孟秋約菴道人施博拜敘

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第一

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

示眾

1. 雲居示眾

向上一事。至廣至大。極遍極圓。無聖無凡。非迷非悟。仰之莫能覷。俯之莫能窺。不可以言語形容。不可以意思測度。雖然如是。要知道不遠人。人之為道而自遠。故我世尊于皇宮初降之時。便能一手指天。一手指地。周行七步。目顧四方。作大獅子吼云。「天上天下。唯我獨尊。」可謂世尊婆心太切。欲令人人知有。奈何一切眾生。自無始以來。染心濃厚。習氣淵深。只知逐妄飄流。不解回光返照。以致墜墮三塗。從劫至劫。無有出期。世尊于此。不得不為曲垂方便。向荊棘叢中轉身吐氣。太阿鋒上縱步橫行。頓捨皇宮。遙登雪嶺。六載苦行。夜睹明星。乃得成道。嘆曰。「奇哉。一切眾生具有如來智慧德相。皆因妄想執著。不能證得。」只此者一段因緣。可與諸人作個入道的樣子。

然雖如是。二乘聲聞。未免難明此事。所以更向人天會上放光現瑞。屈尊就卑。于一毫端。現寶王刹。坐微塵裏。轉大法輪。隨其眾生根器。洞徹淵源。解粘除縛。依時取證。是以末後于靈鷲拈花。遂以正法眼藏付囑摩訶迦葉。傳至達磨初祖。航海而來。以教外別傳。不立文字。亟令人人見性成佛之旨。始授之于二祖乃至六祖大師之後。故有南岳。青原。石頭。馬

祖。頓起五宗。唯我臨濟一宗遍滿天下。大播寰區。其中使喝使棒。豎拂拈槌。舉指拋毬。張弓架箭。如是作用。莫不有主有賓。有照有用。有縱有奪。有殺有活。互換之機。如雷若電。

今日病僧者裏（同這裡，後文者個、者些，用法同）總無者些伎倆。只要諸人各自直下承當。隨方接引。不負來機者。便是病僧一片真實心腸。百千萬劫搖掇不動。汝等諸人。切忌依言生解。惑影迷途。墮坑落塹去也。還會麼。設若不會。行去諸方。不得錯舉。

2. 示眾

學道人須是騎龍跨虎之勢。移山追日之能。止知拼命前行。斷不回頭轉腦。又如疋馬單鎗。百萬軍中擒猛將。只許進前。不容退後。稍有絲毫恐怖之心。早已喪身失命了也。或有一等參禪者。不能苦志勞形。真參實悟。徒學幾句口頭三昧。逢人便說機鋒。開口便言悟道。若遇明眼知識。問到三回五回。依舊手忙腳亂。因此怕見高人。甘自隨波逐浪。此其參禪之弊也。

或有一等學講者。一出講堂便懷我慢。其實自己毫忽未知。偏說他人長短。浮情涉獵。冒謂親傳。章句未分。強爭教理。倘得三五成群。便欲開敷床座。妄談般若。邪解真詮。如是宣揚。自他何益。此其學講之弊也。

或有一等學戒者。纔得登壇受具。便云我是比丘。誑取尊崇。妄邀供養。粗心浮氣。我慢貢高。毘尼不知。威儀不曉。問及佛法知見。便自緘口無言。此其學律之弊也。

若夫者等學道。不唯人天會上無有出頭之分。誠恐將來地獄三途亦無有出脫之期。得不孤父母生育之恩并自披剃之志耶。況此禪講律者。乃戒定慧之本也。汝等諸人既得出家為僧。必當藉此超越。務宜各人勇猛精進。極力推求。進步竿頭。遊心界外。將自己無始以來根塵種子、習氣無明、懶惰懈怠、業識牽纏從空放下。盡淨無餘。以此禪講律三字蘊結胸中。廢寢忘餐。朝參暮究。潛心玩索。扣頂窮源。不唯續佛慧命。紹祖家風。利己利人。千秋埋沒不得。到恁麼地。一任毘盧頂上撒手橫行。濁惡世中。等心濟物。無不隨緣自在。逐類逍遙。方稱學道之事備矣。不然。饒汝謁盡天下叢林。訪遍名山知識。也是徒費草鞋錢。到頭止做得個負笠擔囊。觀山翫（同玩）水底漢。究竟于佛法禪道生死分中了無交涉。可不悲夫。

古人立雪斷臂。為法忘軀。非懇求之不切也。三登投子。九上洞山。非請益之不專也。脅不至席。味不知甘。非用心之不勤也。古來實學真參。如繩若井。盡其舌根不能枚舉。諸人各各企想。前人翹勤佛法。體惜光陰。痛哀生死。免得三十日到來閻羅老子與汝算飯錢。抵當不得。那時。卻也怪不得病僧不為諸人說破。

3. 結制示眾

紅爐積雪。海底生煙。寒熱兩無。春秋不涉。向者裏承當得下。大地山河。盡皆清淨法身。明暗色空。總是遮那妙體。白雲流水。始稱自在莊嚴。碧漢晴空。正合圓通境界。涅槃生死。體出一原。煩惱菩提。本無二致。四處十六會。徒勞施設。

三乘十二分。枉自閑談。相好光明。眼中著屑。語音文句。耳裏埃塵。智慧神通。了無交涉。乃至三玄三要、四主四賓、五位君臣、十種真智、一字關、六義相、薩婆訶、顧鑒咦。種種權衡。總用他不著。到與麼地。方許頂門具眼。腦後懸符。出羅籠。脫窠臼。知生死。識去來。設若未然。也須緊把繩頭。扭著鼻孔。看觀音大士即今在什麼處。只此一句話頭提起。直與鐵壁銀山相似。進不得退不得。左不得右不得。山水不是山水。人物不是人物。到者個時節。自然撞著磕著。得大受用。慶快平生。此時。一任諸人橫來豎去。說性談心。左之右之。隨緣得妙。眾中有隨緣得妙者麼。出來道看。眾下語。不契。

師云。你諸人終日下語。終日酬機。究竟于本分事未得相應。一切處不能透脫。皆因墮在語言文字中、義路規繩上。自纏自縛。區分好惡。諸人既來雲居。病僧亦忍俊不禁。只得將古人葛藤。為諸人舉似一上。昔日華藏座主。初參圓悟老人。展轉酬機。展轉不恰。一日自以己見白悟曰。尋常拈鎚豎拂。豈不是經中道。一切世界諸所有相。皆即菩提妙明真心。悟笑云。你元來在者裏作活計。主又曰。下喝敲床時。又豈不是返聞聞自性。性成無上道。悟曰。你豈不見經中道。妙性圓明。離諸名相。主于言下有省。

師云。以楔出楔。烏雞立雪。移方就圓。達本窮源。雖然如是。也要是華藏座主得之。方可脫卸羅籠。設若他人得之。未免肩枷帶鎖。何以故。恁麼會即是。恁麼會即不是了也。所以我來荒草裏。汝又入深村。金屑雖貴。落眼成塵。汝等諸人會得圓悟老人。能以經中一句出脫人情。始不辜病僧平日與諸

人商量的佛法。商量且置。祇如出離窠臼。一句作麼生道。良久。顧眾云。蘭卉叢中生桂子。蜘蛛尾上吐蠶絲。

4. 五臺庵示眾

古人云。「我要一向舉揚宗乘。法堂前草深一丈。」如今要求個法堂前草深一丈的善知識。了不可得。大都皆好溫煖。皆好人承事。無非將高就低。隨波逐浪。大家混入野狐精隊裏去也。咸謂播揚大教。不知實為傷風敗教之徒。良可太息。

近來學者輩不論有識無識。有學無學。有年無年。有患無患。但識得三五個字就視禮誦為庸鄙之事。以閒曠為高品之行。每見學者臨課誦時。如懶驢上磨。巴不得就早完。或得躲過。更為便宜。嗚呼。不知佛法憑誰住持。祖燈憑何相續。

所以病僧開法以來。自知根性下劣。不敢妄擬諸方棒喝。不敢妄擬門牆高峻。但每日十二時。惟取二時。每一時念佛三百聲。以為攝持身心。以為決定勝行。以為勝精進力。以為佛法住持。以為成佛根本。以為萬行總歸。以為不墮斷滅之大導師。以為法界莊嚴之如意寶。離此一句阿彌陀佛。則參禪看教究竟何為。搬磚運瓦勞苦何益。穿衣喫飯所為何事。此是病僧行徑。

汝等諸人亦當如此行去。自然有個不辜負處。仍于十二時中。將五個時去打瞌睡養精神。將五個時去明禪道學佛法。若無此二時禮誦。恐工夫淨沉死水。而血脈不能周流。久而成疾。況此二時禮誦。又為破昏沉、起淨寂之大智炬也。或謂三百聲雖不可增減。至於寒熱閒忙時增減些何害。曰。「古人云。人生

在世。如一場瘧子病相似。寒了又熱熱了又寒。寒熱得幾番。了卻一生。」如此若隨寒熱轉移者。則無念佛之時。若隨閒忙轉移者。則無決定之志。唯有不被寒熱閒忙轉移者。始可與他商量。此事各宜珍重。

5. 紫竹林示眾

貫之畢居士請念佛二字。乃十方三世諸佛一切教藏之總相法門也。諸佛諸有法數。皆念佛差別之相耳。蓋諸佛出世說法。唯此成佛一事。成佛無別作用。唯祇念佛而已。是則念佛成佛四字。極盡十方三世諸佛出世說法之本致。大經云。「奇哉。眾生身中具有如來智慧德相。由妄想故而不證得。」此是諸佛興悲出世之本。證於此智慧德相者。諸佛眾生不二體相之智德也。眾生與佛同體不同用者。為妄想故異耳。

妄想者。念也。諸佛念念唯念自己本體。唯念自己德相。故光明相好、慈悲喜捨等遍法界。因該果海。果徹因源。相續不斷。究竟常住。亦名回光返照。亦名背塵合覺。亦名返本還源。總是念佛成佛一義而已。眾生念念唯念幻妄身心。唯念幻妄名利。故憎愛取捨。生住異滅。觸處顛倒。心逐境行。境隨心轉。生滅不停。輪迴無已。亦名喪本受淪。亦名認物為己。亦是念眾生。為眾生。是佛與眾生。唯一念之分耳。此一念。誠諸佛眾生之要關。

諸佛出世說法底意。只為念佛成佛。別無片事可得。外此四字。餘有半字可說。即成戲論。諸佛教人布施。持戒。忍辱。精進。禪定。智慧。願。方便。力。智。種種萬行。皆念佛之

因相也。又示人光明相好。慈悲喜捨。解脫神通。樂自在吉祥。種種三昧。皆念佛之果相也。因果皆屬德相。乃至末後拈花。摩詰掩室。教人念自己本體。即念佛清淨法身也。是則諸佛法藏。諸祖門庭。不出念佛二字盡矣。然佛意祖意。皆以念佛為宗本、為總相審矣。

能念之念。不離六根。在眼念佛光明。在耳念佛音聲。在鼻念佛法香。在舌念佛法味。在身念佛威德。在意念佛智慧。又念以明記不忘為義。在口不忘。嘗持佛名號。在身不忘。嘗禮佛相好。在意不忘。嘗觀佛德容。所念之佛不出六塵。眼中所念皆屬色塵。耳中所念皆屬聲塵。鼻中所念皆屬香塵。舌中所念皆屬味塵。身中所念皆屬觸塵。意中所念皆屬法塵。

又則六根門頭。以無分別心念佛。能念即不動智。所念之佛。六塵皆佛。清淨法身。即自己本來面目。若以有分別心念佛。能念即後得智。妙觀察智。所念之佛皆六塵境耳。乃至念極。菩提涅槃。真如佛性。菴末羅識。空如來藏。大圓鏡智。亦是法塵邊事。總之。能念所念。無二無二分。無別無斷故。方入不思議大解脫念佛境界。又能念之機。通乎九界。所念之佛。周乎十方。今則見人唯念西方極樂世界阿彌陀佛者。是我娑婆世界。都為阿彌陀佛願海所攝故。九界眾生皆只念阿彌陀佛。即我支那國。不過一片土耳。上至天子。下至庶民。士農工商。飛空走陸。若老若少。若善若不善。乃至嬰兒處子。偶遇善不善境。不覺失聲皆念阿彌陀佛。又則此一片土。上無論名邑大邦。偏陬僻域。城隍聚落。幽谷長汀。若苦若樂。若華若非華。乃至淫房酒肆。忽著順不順境。亦不覺失聲念阿彌陀

佛。試看有意無意。皆知念阿彌陀佛。而不見念藥師佛、彌勒佛者。誠為彌陀願海所攝無疑矣。

又念佛之方便。有擇處者。有不擇處者。有好結會者。有好閉戶者。有好記數者。有密念不記數者。方便好樂不同。念佛是一耳。記數者。有以定香記者。有以刻漏記者。有以貫珠記者。有以豆粒記者。有以指記者。有以步記者。能記方便不同。所記佛亦無二也。

有貫之畢老居士。幼年稟道骨。好書好山水。唯佛是期。於如來差別法相。一一透過。歸心於念佛法門。如是諸佛諸祖之心宗。出生死。證菩提。歸無所得。無逾於此。得此微妙受用。不忍自私。特請病僧舉揚此事。普勸高賢名士。善男信女。同入彌陀願海之中。從一人如是念。勸至百人如是念。如是展轉。乃至勸百千萬億人如是念。乃至勸不可說不可說數人如是念。從一家如是念。勸至百家如是念。如是展轉。乃至勸至百千萬億家如是念。乃至勸不可說不可說數家如是念。若鄉若城。若邑若郡。若邦若國。若一部洲。若四天下。若一小千。若一中千。若一大千。若一佛界。百佛界。乃至百千萬億佛界。如是乃至不可說不可說數佛界。如是乃至等遍法界。盡未來際。唯此一念。是則前念後念。唯佛一貫。左念右念。皆佛出現。如是念佛。是究竟念。是法界一相念。是三世平等念。是自性清淨念。即不思議大解脫念也。發如是廣大心。行如是廣大行。其人之根器廣大可知矣。傘居道人觀衡合爪說。

晚參

1

晚參問答畢。師云。病僧者裏佛法禪道。實與諸方不同。不許胡統亂統。胡喝亂喝。饒你一問百答百問千答。也是染心習氣不除。病僧亦未敢輕信。所以興化道。東廊下也喝。西廊下也喝。直饒你把老僧一喝喝上三十三天。一撲撲下地。撲得一點氣也沒有。待我甦醒轉來。輕輕向你道未在。病僧今日為諸人拈出古人的葛藤。你諸人也須向者裏看破始得。便歸方丈。

2

至道無難。惟嫌揀擇。但莫憎愛。洞然明白。你諸人終日在雲居寺裡。與病僧砌羅漢垣。石頭大的大。小的小。繩墨高的高。低的低。大則大用。小則小用。搬來拽去。無不隨宜。無不妥當。且道其中還有揀擇憎愛也無。有則相違至道。無則不合砌牆。你諸人試定當看。眾無語。師示偈曰。信手拈來具大方。其中只恐不承當。果然洞徹無餘礙。至道何妨一堵牆。

3

眾作禮侍立次。一僧出問。楞嚴咒心還是五會通是。還是唵字後數句是。師云。字字是。進云。有謂末後是。師云。前面是什麼。進云。是鬼王名。師云。後面是什麼。進云。是咒心。師云。鬼王與咒心是一是二。僧無語。師云。若是一。僮侗不少。若道是二。又成兩橛。諸上座畢竟作麼生。有僧云。就請和尚道看。師遂彈指云。任從滄海變。終不為君通。

有一物。天不蓋。地不載。極偏極圓。無損無壞。投之于火。火不能燒。擲之于水。水不能溺。亙古亙今。巍然獨立。且道什麼物。便有恁麼奇特。莫是無為真佛麼。莫是生死根本麼。莫是日用主人公麼。若喚作。入地獄如箭射。若不喚作。入地獄如箭射。你諸人畢竟作麼生響（音你，句末語氣詞，相當於呢、哩等）。若向者裏緇素得出。便與諸佛諸祖同一鼻孔。同一受用。其或未然。普請諸人歸堂喫茶去。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第一

（盛京錦州府錦縣信女王門夫人李氏發心喜刻顛愚和尚語錄第一卷。序字五千二百七十個。該銀三兩乙錢六分。意薦中憲大夫嘉興府知府先夫王章。號遵度。仗斯般若之因。早證菩提之果者。康熙十三年十二月 日楞嚴藏經坊附板）

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第二

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

法語

1. 示桂輪洪禪人

夫出家者。乃超塵離俗解脫法門也。近代以來。多見出家兒不捨鄉土。結菴營產而樁櫪之。雖聞名山及善知識。如風過樹。設有作意。又不能解離樁櫪。或有能移一二步地。依舊被他牽繫回來。如是出家者。不知與俗何異。惜哉。

又有一等出家。不求明師指示。朋於愚黨。南遊普陀。北走清涼。徒悅耳目。苟趁衣食。比前樁櫪者。尤可厭也。

大抵出家一事。甚是難言。非徒離俗室、削俗髮為出家。要知五蘊四大是家。放下五蘊四大是真出家。乃至六根、六塵、十二處、十八界、百八煩惱、六十二見是家。超此方名出家。又復四諦、十二緣、六度萬行、菩提涅槃。總之世出世法。有一纖毫許放之於心。即名染污。即名繫縛。即是居家。若世出世法。一切淨盡。不即不離。方是究竟出家。是大解脫人。果能如是。雖不離俗土。周遍十方。而在家即出家也。或不解此。任從走遍天下名山。見過天下善知識。徒費草鞋錢。乃至有神通妙用。一念能游四天下。若有一法當情。即名家繫。而出家行腳之士。可不慎哉。

桂輪洪禪人。本衡陽人。出家於潭州茶陵雲谷菴。戊午春。

偕一二侶謁予邵陵五臺菴中。執勤三載。頗知急緩。有才。有量。可為叢林幹蠱。但於向上事。不曾見一言請益。予多疾。亦不能鉤餌。一日辭予朝禮名山。予謂山不在高。有賢則名。水不在深。有龍則靈。子今朝山。必須務求山中主人。決擇大事。不然空視頑石。虛聆谷響。思之何益。然名山必有所以名而名也。子莫效尋常流輩。徒趨衣食。雖走遍名山。而不得名山之受用。不知名山孤負游者。不知游者孤負名山。良可慨也。子今一去。登山思高。涉水思明。見賢思齊。此雖非向上行腳。較之飯袋子猶稍可也。昔洞山解夏。云「秋初夏末。水冷草枯。弟兄向甚麼處去。直須向萬里無寸草處去始得」。後有僧舉似石霜。霜云。「出門便是草漫漫地。」又云。「直道不出門。亦是草漫漫地。」於此透過。方是真行腳人。荊棘林中。便能放身穩臥。月明簾外。撒手便行。觀音文殊只在眉睫眼上。普陀清涼不離拄杖頭邊。可謂真到名山。真見山中主人。則不負病夫所囑也。思之思之。

2. 示脩悟禪人

古人每每有禪律性相相忌者。豈古人見諦不明、有人我是非哉。但為激勵初心耳。如佛說法。讚法華則忘楞嚴。讚楞嚴則忘法華。豈佛一口之談而有彼此。今諸方不達古人之意。實作是非分別。曾不思禪律性相。皆佛一語身、一法身也。禪若無律必落狂見。律若無禪。必墮執著。蔓延至于天魔外道。終不能覺者有之。性是相之根本。相是性之枝葉。非根本無以生枝葉。非枝葉何以見根本。是則禪乃律之禪。相乃性之相。性相融通。名之曰佛。如身心和合。名之曰人。離身則心為幽識。

離心則身成死屍。身心各離既不名人。而性相不融。又豈名佛哉。首楞嚴經云。「理則頓悟。乘悟併消。事非頓除。因次第盡。」此禪律、性相、修悟。不可偏廢。佛語為明證也。又先悟後修。其修為真修。先修後悟。其悟為證悟。而禪律相因益明矣。禪人既受此稱。當實踐之。

3. 示唯心禪人

唯心慧禪人。楚雲陽劉氏子。襁褓時。相師占曰。此兒出家則可。在家難養。父母驚憐。至六歲。送本郡栖雲菴水天運和尚為童行沙彌。萬曆壬子秋。病僧為湛公接至雲陽結冬。彼時禪人方十一歲。亦從其席。為堂中行者。因識之。見其眼光口利。嘗私語湛公曰。此子他日欲成大器。至甲寅春。病僧為舊識接過邵陵。結茆雙清磯後。以調理病軀為事。不覺臥疾濱江一十五年。每聞禪人肯修學。禁足持誦。精進不群。常懷之。

崇禎改元戊辰秋。禪人至。一見觀其音聲相貌。語默動靜。較之昔時儼若未識。私喜曰。書云後生可畏。聖言有證矣。於向上一事猶疑之。亦不忍置之。由是病僧念其才器可尚。因留之。禪人固辭之曰。父母有病。師長有命。不能久侍和尚巾瓶。余雖不喜違我之意。極喜禪人侍父母師長之誠。在流輩中。亦甚希有真孝行之僧。

觀禪人此一孝念。大似金剛床子（按：應作金剛幢子）。八風不能搖動。是以佛成道日。集眾為證盟與授具足戒。事訖將歸。復謂禪人曰。子孝行心切。持戒心切。曰。孝行持戒俱切。曰。何為二心俱切。曰。父母必要孝。戒行必要持。病僧曰。

子將孝與戒為兩橛耶。豈不聞梵網經云「孝名為戒」。是則孝外無戒。戒外無孝。諸佛諸祖。古今聖賢。皆不外此孝道一事。但有染淨深淺。理事差別耳。所以一切律師持此一事。一切法師講此一事。一切禪師發揚此一事。從古至今。天下老和尚。雄機大辯。棒喝交馳。呵佛罵祖。揚眉豎目。種種變通。唯此一事。別無奇特。子脫信不及。但看寶鏡三昧。云臣奉於君。子順於父。不順非孝。不奉非輔。此是曹洞宗之密印。病僧雖不是曹洞兒孫。因此語有義理可入。為子言之。若是吾臨濟本色宗師。見子者般舉止。正好與一頓痛棒打出去始得。此一孝道達于古今。通乎上下。充滿法界。使見者聞者。稍有些血性。不無小益。子持此一念不移去。因緣時節到來。決然了當。便能撒手懸巖。縱橫自在。到者時節。父母恩。師長恩。諸佛諸祖恩。大地眾生恩。一時報足。亦不孤病僧今日饒舌一二。惜子老病切身。子之發用時。想不能見。可勉可勉。

4. 示音迪

剃髮弟子音迪。字無覺。永陽文氏子。幼禮大海禪師。受優婆塞戒。同心持袁公結上蓮社。專心淨業。於壬戌春。持袁公書來。乞病僧薙髮。是年四月八日。大眾羯磨與其披剃。於向上事不能領荷。禮誦頗精勤。病僧為風疾所撓一十四載。時常要人按摩。一日。迪為病僧撮背。曰。音迪事和尚三年矣。只是者等個嘴臉。無一些進益。欲行腳去。不知可否。病僧但曰。行腳是最妙事。但莫昧此嘴臉。則不孤負病僧。

一日回鄉省親。拈香請益。病僧曰。子先日言事病僧三年。

只是者個嘴臉。子還識此嘴臉麼。子若識此嘴臉。則知病僧不孤子侍立三年。若不識此嘴臉。則子孤病僧多矣。子欲去諸方。想別求一嘴臉耶。若不別求。在病僧左右。定不孤負子之殷勤。子去諸方。若保得此嘴臉。他日見病僧有分。若換個神頭鬼臉。那時再見病僧難矣。豈不見有僧問曹山。諸佛未出世時如何。曹山曰。曹山不如。僧又問。出世後如何。曹山曰。不如曹山。子會曹山此二轉語。則知病僧之言不汝欺也。病僧雖無諸方善知識鉗鎚。亦不解魔味人家男女。不能與人減一毫。不能與人增一毫。但隨分具足。子初來時。人謂子是俗相。病僧不知子何處是俗相。今子歸。人謂子是僧相。病僧亦不識子何處是僧相。子信得及。來去果無二相。識此無二相。便是子自己本來嘴臉。者個嘴臉。三世諸佛不能為汝增減。病僧豈能為子增減。無怪子言在此三年無一些進益。亦無怪病僧不能與子進益。子若不昧此嘴臉。隨子換出神頭鬼臉。菩薩嘴臉。如來嘴臉。及人王宰官。白衣居士。有形無形。有想無想。於一塵中。現無量身於一一身。現無量頭。無量手眼。於者個嘴臉。一毫不能動。便能竿木隨身。逢場作戲。可謂百尺竿頭重進步。十方世界現全身。則知山河大地。草木叢林。十方如來。一切有情。只是者個嘴臉。子去諸方萬里之外。者個嘴臉不曾離病僧左右。子日日在病僧座側。者個嘴臉亦不曾違背諸方知識。子果能如是會得。則不負父母生汝身。袁公指汝出家。病僧與汝祝髮。十方諸佛恩。師長父母恩。國王檀越一切有情之恩。一時報足。子知報恩處麼。左右只是者個音迪。信之信之。

5. 示慧心照禪人

慧心禪人。乃湖北沔陽張氏子。幼多疾。父母送於荆之監利因果寺出家。依師住十六年。辭師行腳。初至南嶽。遍參隱者。尋過邵陵五臺庵。歸堂讀誦楞嚴。期三年。辭去。至廬陵大覺庵。從麗中法師習聽法華楞嚴諸品教法。後至匡山。從接愚法師習淨三載。於向上一事猶未了然。甲子冬。復造邵陵。求病僧印證。探其胸中所見。皆尋常知見之習。全不曾在自己腳跟下照管。

病僧策之曰。佛法固是要學。若不會用。則與不學等也。教中學般若。宗門中用般若。所以能照世出世間。一切凡聖境界。當體全空。一法不立。故能左右逢源。縱橫自在。不被生死涅槃之所感動。便能拈弄佛祖。不被佛祖之所拈弄。古人如是解脫自在。總只是學而會用。子今徒記取玄言妙語。說得頑石點頭。於自己分上全沒交涉。如是知見。如紙糊燈籠。不敢觸著。無一些力量。豈能衝風抵浪、呵佛罵祖哉。子若肯究竟。此事不難。如草必有根。見草尋根。何難之有。人為萬物最靈。豈無根本。將自己身心排放面前。看他在甚麼處安立。身從何來。終歸何所。心從何有。終成何物。看來看去。忽然看破。方知此事不從人得。那時不但無身心可得。盡虛空界。無芥子許佛法知見而與子作障礙。盡十方界是自己個面孔。隨自己開也好。合也好。將三十二相作乾屎橛也好。將乾屎橛作三十二相也好。豈不暢快平生。而知見又奚能作障礙者哉。子果能到此田地。方信自己可名性照。真是慧心。原如來藏中。有遍照法界義。有大智慧光明義。此是自性具足。不屬脩證。如是智

照。子縱不照管他。他亦不失。但不得受用。子能決志檢點身心是甚麼物。甕裏必不能走了驚。勉之。

6. 示興化乘子

乘子。號興化。古潭州攸邑楊氏子。生而穎異。相師占之。此兒清拔不凡。恐不宜居俗室。父母疑之。年六歲。送之本邑高橋山黃龍庵。禮妙玄通和尚為受業師。其師先十年前。有方外一病頭陀投師養病。其師殷勤給事湯藥。期三年。病乃愈。其病頭陀感師三年之中溫涼調養。隨喚隨應。隨欲隨與。無少倦色。乃向其師曰。蒙師再造之慈。無一可報。捨此身後。願與師作一弟子。是我本意也。其師曰。汝疾幸瘳。何言及此。病頭陀曰。此意決然。但俟再來耳。其病頭陀禮辭師去。走南海天台。僅一載有餘。復來見師。淚下如雨。曰。此身幾不能見師。此一來。特了前願。身微微有恙。未幾。告其師曰。吾身欲捨去。再來事師。師曰。以何為證。曰。向後師得弟子。七歲能書法華經。即我再來。言訖。寂如蟬蛻。其師與之剃削澡浴。荼毗後。將骨石埋於本山中。其楊氏送兒禮師之時。師問此兒生庚有幾。父母如實報之。其師私謂此兒生日。正當前病頭陀之去日。疑是前之病頭陀。此兒愛樂筆墨。七歲時。模書法華經一部。益信實前病頭陀有證矣。從此合庵清眾皆新目保重。其師延有名德先生教之。其飲食衣服諸有所需。皆師自造自與。不假他人。此兒年十歲。自知好學。能書能詩。內外典籍過目能誦。至十五歲。其師率之同謁三昧大師。受沙彌戒。未三載。其師得疾甚篤。囑此子曰。吾疾不能瘳矣。吾去後。當前進尋明眼知識。究竟大事。甚勿滯此。復囑一弟子名法弘。

曰。汝當終身隨事師兄。即承事我也。弘唯唯應諾。其師言此即化去。此子悲慟師之恩。顧悶絕幾不返。幸再甦而周師之後事。事竣。厭庵皆俗務。乃憶師之遺囑。束裝行李。丁卯春。造邵陽謁予五臺庵中。時弘與之影響也。病僧見此子形儀端肅。語音清亮。識為法門良器。不與眾視之。

一日。此子向病僧具陳出家始末。極念受業恩深難報。病僧曰。既知師恩難報。子作麼生報。此子曰。乘參學發明大事。願效阿難尊者。發願將此深心奉塵刹。是則名為報佛恩。將報佛恩心奉報師恩。可否。病僧曰。出家兒發言吐語。要自有筋力始得。豈可拾他人涕唾當自己心髓耶。此子曰。依和尚明教。如何得報本師恩去。病僧曰。但要子真實見到行到。不可徒以語言為事。子今不必效他人開如是口。且就本師自己分上作一報恩事。更見親切。此子曰。乘不知。求和尚指示。病僧曰。汝師身後茶毗耶、棺槨耶。曰。茶毗。病僧曰。壙耶、塔耶。曰。壙。曰。何不與師造一無縫塔。令師受用不盡。乃見子之真孝也。

此子曰。不知此塔作麼生造。病僧曰。子但十二時中。追尋本師即今在甚麼處安身立命。若尋著汝師安身立命處。子自知造無縫塔。則不勞病僧饒舌。

此子唯唯辭退。三日後。自詣病僧榻前。曰。前承和尚指示。無縫塔今已造成。呈似和尚。不知可合和尚樣否。若依某甲見處。此塔不用造作。但將身心世界。若佛若魔。迷悟去來。染淨生死。一切名相。觀之如幻如化。本無所有。畢竟空寂。其無縫塔自然現前。孤迥迥。圓陀陀。究竟堅固。不可破壞。

堪與本師受用不盡。病僧曰。此與爾師有何交涉。曰。從此不生不死去。病僧曰。未也。曰。無彼無此去。病僧曰。未也。曰。見一切人即見本師。病僧曰。子但看一念孝心在甚麼處。可以不昧師恩。此子曰。乘從此以去。與本師永無遠離分。病僧曰。是則是。子前來說。若論此塔不用造作。今已造作三日。祇造作得不遠離三字。只當的個塔基尚欠工夫在。此子曰。不遠離三字。早是縫罅。再要施工。即七花八裂去也。病僧曰。任爾七花八裂。總動他不著。此子休去。日夜提撕。語默無廢。

是秋。子歸高橋。明春復來登壇受具。圓菩薩大戒。一日請益。病僧曰。子先日為師造無縫塔。至今不聞消息何如。此子曰。若可通消息。即縫罅也。病僧曰。不然。子豈不聞。無手人能行拳。無舌人能語。無縫處正好通消息。豈可作無用如如耶。若論此事就到無縫罅處。還是依通。猶是外服。更有貼體汗衫。直須脫卻。若去此貼體汗衫。方見本來面目。此猶是百尺竿頭事。須知百尺竿頭。還要進步始得。不然命根終是未斷。所以古人云。「撒手懸崖處。分身萬象中。」方有少分相應。總之此事萬一不得坐住。愈進愈遠。愈剝愈光。剝得無可剝處。皮毛骨髓淨盡無餘。方是脫體無依。便能將十方世界、大地眾生、諸佛諸祖捏聚成團。放開萬別。吞吐自由。縱橫無礙。縱到恁麼田地。還要在病僧手裏驗過始得。珍重珍重。

7. 示真覺受禪人

從上諸佛諸祖。皆言出家兒但提向上一事。但不知向上何事也。若以出生死為向上。此屬修證邊事。何以言向上。若以

本無生死為向上。此事不關迷悟真俗。有情無情咸皆具足。出家又何為哉。此事若不分曉。碌碌衣食。思之何益。此事又且置。即今出家兒。每每言為求出生死。又不知將何物出生死。若以身出生死。從古至今一切聖凡。誰能色身常住。若以心出生死。此能知能覺之心。是生死本。元無自性。何能出生死。若謂有常住真心。本無生死。既本無生死。何假修為。設雖本無生死。非修證莫能顯現。既本無生死。顯現何得。不顯現何失。既無得失。又求顯現何為。此事不明。出家何益。雖是語默動靜。人事往來。即如無主孤魂相似。自己本命元辰不知。杳杳冥冥。逐物流轉。業盡報終。命光遷謝。那時還是出生死耶。不是出生死耶。此又且置。即今日用間。今日早起。如是穿衣喫飯、放屎屙尿、迎賓待客。禮幾拜佛。誦幾行經。困來打幾個瞌睡。明日早起來。還是者些衣食茹退。還是者些賓客禮誦。有何新鮮。有何增益。試將禮誦為出生死耶。待賓客為出生死耶。以穿衣喫飯為出生死耶。以放屎屙尿為出生死耶。諦審日用。此數事外。畢竟以何行出生死。若此數事外別無一行可舉者。每日人前言向上。言出生死。即是無慚人。不唯欺人。實自欺了也。若謂別有念佛參話頭工夫以為超越者。究竟到頭。與未念佛、未參話頭者有何差別。試參看。病筆略語此。

8. 示罕鳴雷座主

古德云。「大音希聲。大器晚成。」蓋朝夕亂鳴。旦暮可成。皆小音小器也。漂海之舶。必假千工方成。一成皆任重致遠。雷霆之聲。未見常鳴。一鳴能驚人悚物。然海舶乃無常之物。必久成而後有大用。雷音亦生滅之法。音罕鳴而後則遍聞。其

螢火之光。秋蟲之響。豈足以較哉。試看三千大千世界。器之大者也。成住壞空。皆經二十小劫。又觀無上正等正覺。名之大者也。從因至果。皆滿三無數劫。是則速成。決非大器。大音亦不輕鳴實矣。世之九流小技以成名者。尚非一時一日之功。而況出世大道。無上真乘。豈能造次而成耶。自古禪律講諸大宗師。有得之難者。有得之易者。難乃易之因。易乃難之果。未有難而不至于易。未有易而不從難來。古人一時難易雖殊。其見真行重均也。近代出家兒。不務古人實德實見。徒販虛名。從禪者眉毛眼睫上都是禪。唯恐人不知是禪師。從講者眉目眼睫上都是講。唯恐人不知是講師。從律者眉毛眼睫上都是律。唯恐人不知是律師。求其實禪、實講、實律如古人者。未識其有幾。非謂全無。但希見希聞也。

罕鳴上座。金臺李氏子。十一歲從本京觀音庵和尚剃落。二十歲從慈慧玉庵大法師聽習經論。復參證於蘊璞座主。後從少林心月和尚入室。主講四五座。從席者若干。得法者亦眾。崇禎元年。杖履南詢。明年春。從南嶽過邵陵。訊病僧五臺庵中。盤桓久之。語默舉止。曾無一些滲漏。喜其為祇桓大樹。與天下人歇的陰涼。因勘問向上事。似曾未踏著。

病僧曰。公講盡一代藏教。帝釋雨華。此事未明。皆夢語耳。公肯於此事上用心。亦不甚難。如拔草木之根。惟恐其不用力。用力必得。如今參禪人。不向自己腳跟下追尋根蒂。返向冊子上他人人口角邊覓話頭。此等作用未免向外馳求之失。肯將參話頭工夫著力在自己身心上尋覓。更見著力。更見切實。大抵此事若明。不是新得。未明亦非久失。但在人極力承當。

便能頓超佛地。到此田地。看他人參話頭起疑情。不若弄影忘形耳。上座於此事透過。可謂是真法師。雷音一震。大地驚聞。獅吼一音。百獸腦裂。不即文字。不離文字。弘無礙之辯才。不立一法。不捨一法。施無邊之妙用。如是廣大自在、甚深三昧。本來具足。但能放下。一切圓備。所以古人云。「撒手懸巖處。分身萬象中。」上座可不勉歟。

9. 示自如定門人

子諱寂定。寂者理也。定者行也。證入寂常之理。安住不移。故曰寂定。寂之一字。子知之乎。試檢點看。內之根身。外之器界。若善若惡。若染若淨。若聖若凡。若空若有。何者是寂。即一切法既不是寂。離一切法是寂耶。若將一切法認以為寂。此是心對之境。非本然自性之寂也。楞嚴會上。如來與阿難指示寂常妙性。從淺至深。從微至妙。初借境顯見性寂。曰手有開合。見無舒卷。聖凡淨穢。依報皆境也。次借根顯見性寂。曰頭有動搖。見無所動。聖凡染淨。正報皆根也。是一切聖凡依正。客塵邊事。惟見性寂然。此雖示寂常。尚有根境對待。非寂也。又會五陰、六入、十二處、十八界。皆如來藏妙真如性。以顯事事法法皆一寂常妙性。此猶未也。方即水即波。即動即寂。未得愈動愈寂。愈寂愈動。一寂一切寂。一動一切動。又一動一切寂。一寂一切動。全寂而動。全動而寂。必至後圓會七大。清淨本然。周遍法界。離一切法。即一切相。離即離非。是即非即。方是究竟堅固大寂滅定。此是諸佛究竟受用處。究竟指示處。子造寂至此。即與諸佛同一法身。即與諸佛同一鼻孔。諸佛即子。入大涅槃。子即諸佛。轉大法輪。

無二無二分、無別無斷故。一切世間。天魔外道。凡夫小乘。以所知心莫能測度。用世語言皆不能入。子到此田地。豈不是一沒量大人哉。可以代佛大獅子吼也。病僧如是說寂。皆是依通境界。未出意識分齊。總是者邊事。與本來面目、自性寂常猶未相應在。如何得與本自寂常相應去。咦。烏道玄關恁麼去。那邊原不許人行。珍重。

10. 示德山住持靈宗禪人

向上一事。為世出世間之大根本也。違此根本。為凡夫。沉迷生死。枉受輪迴。順此根本。為聖人。超然解脫。得大自在。順此根本。如來有十種波羅蜜。第一為檀波羅蜜。乃至第十為智波羅蜜。每一種有三相。唯施金銀等外財。但曰施度。若施身命等內財。曰親近施度。若內外俱施。亦不住施相。曰真實施度。如金剛般若經云。「應不住色布施。應不住聲香味觸法布施。應無所住行於布施。其功德猶如虛空。不可思議。」又云「不應住色生心。不應住聲香味觸法生心。應無所住而生其心」。又云「離一切相。即名諸佛」。此皆真實檀波羅蜜明證也。

原夫吾人本有聖性。不立一塵。眾生不覺。妄見有山河大地。妄見有自他身心。有生有死。有淨有穢。有聖有凡。種種取捨。重重障礙。曾未覺知。性淨妙常。本無所有。如今欲復本無所有。先將山河大地、宮室財物一切俱捨。復將身心性命一切俱捨。生死煩惱俱捨。菩提涅槃俱捨。一切有為捨盡。一切無為亦捨。有亦捨。空亦捨。捨之又捨之。一味捨去。捨到無可捨處。脫體無依。靈光獨耀。那是本來面目。更有何法而

為障礙哉。

靈宗禪人。南京寧國人。年二十歲時來武陵。進德山禮祖塔。慨聖道場地殿宇荒涼。香火寥寥。遂下住腳。向僧寮中借一小室棲身。凡有行腳僧至。即控衣鉢之資。懇留供養。此即外財施。得檀波羅蜜。特持疏檀門。募化修造毘盧殿、大雄寶殿、山門廊廡。採木拽石。搬磚遞瓦。不惜身命。幾經危亡。此即內財施。得親近波羅蜜。殿宇山門鼎然一新。榮國主及士大夫推為本山住持禪人。儼然一無事頭陀。不居功。不矜長。即不住相施。得真實波羅蜜。是如來甚深檀波羅蜜。在靈宗禪人得之矣。

11. 示無味參子

音參來。吾語汝。汝亦在病僧法中多年。立名音參。汝自參究音之一字。是汝本來面目、不是汝本來面目。是假名、不是假名。向者裏參得明白。則不孤病僧與汝安名。亦不孤父母生成汝身。上不孤佛化。下不孤己靈。是謂有慚愧人。是謂有大自在受用的人。若向者裏參究不出。無有分曉。一切俱失。大可憐愍子。

汝試參看。一切音聲。不出地獄聲、餓鬼聲、畜生聲、修羅聲、人聲、天聲、聲聞聲、緣覺聲、菩薩聲、佛聲。此聖凡種種音聲。咸名因執受大種聲。風聲、雨聲、樹木聲、山石聲、泉眼聲、巖竇聲、溪澗聲、江河聲、海潮聲、猛火聲。此一切無情音聲。俱名因不執受大種聲。鐘聲、鼓聲、筊篥聲、琵琶聲、琴瑟聲、簫笛聲、鐃鈸聲、打撲聲、弓矢聲。此一切差別

音聲。俱名因俱執受大種聲。

如是三種差別音聲。攝盡世出世間一切音響。汝諦觀察微細。究竟此等音聲來自何方。未聲之前藏於何地。去向何所。聲消之時歸于何處。若參尋此聲來去之處不得。則知此聲來實無來。去實不去。當體寂然。循業發現。是知一切差別音聲本一音耳。但循染淨之緣。則有聖凡音聲。循有情之緣。則有有情音聲。循無情之緣。則有無情音聲。循象馬牛羊之形。則有象馬牛羊之聲。循雞犬昆蟲之形。則有雞犬昆蟲之聲。擊金石則有金石之聲。擊草木則有草木之聲。是則聲相雖有種種差別。聲性本無二致。十方法界唯一圓滿常住寂滅之音。循緣發現。根根塵塵。事事法法。而音之自性。清淨本然。周遍法界。未有去來彼此之相。是謂密音、圓音、清淨音也。子參音至此。參亦多矣。不惟參字多矣。即音之一字。亦不可立。離音之外。更加揩磨。看是何等面目。此中還有音參無音參。有聖凡無聖凡。豈不成一圓妙無礙大解脫人哉。到此。十方法界喚作色相亦得。喚作聲相亦得。一即一切。一切即一。盡未來際。受用不盡。子可不勉諸。可不勉諸。

12. 示覺岸航子

呼覺岸禪人曰。汝名海航。汝自知之乎。汝自指點。現前身心世界。何處是海。何名為航。現前行住坐臥。善不善事。動不動行。種種取捨。名為業海。又汝心中善惡無記。種種妄想。名煩惱海。不了現前幻化。迷悶自心。名無明海。此四種

海¹。俱不與本有聖性相應。俱名幻海苦海。又此四事。雖種種苦惱不同。而無涯無盡均也。故俱名為海。此四海漂沒一切眾生。從無始以來。生而復死。死而復生。頭出頭沒。無有了期。其中苦惱。就是如來廣長舌相難以盡宣。

欲超諸苦海。惟智能度。以般若智慧照此身心。當體全空。而生死煩惱、業與無明了不可得。身心世界。同一大寂滅海。大寂滅海者。即諸佛眾生、身心世界同一不生不滅、究竟堅固不動之體。無二無二分、無別無斷故。無有涯際。不可測量。故云大寂滅海。是則迷之。見有身心。即寂滅海成生死海。悟之。即生死海是寂滅海。迷悟迥別。身心曾無移異。

汝欲知生死海麼。即汝現前身心是。汝欲知寂滅海麼。亦汝現前身心是。欲從生死海入寂滅海。須駕智航。生死煩惱、業與無明。一切苦海。超然直渡。既歸大寂滅海。有無量無邊、無窮無盡、稱性不可思議功德妙寶。採取滿航。從寂滅海逆流而出入生死海中。普施一切。引導有情。同歸大寂滅海。名倒駕慈航。是則從生死入寂滅海。名智航。從寂滅入生死海。名慈航。慈智異名。總一全體大用。終日生死終日涅槃。終日涅槃終日生死。生死涅槃往還無礙。豈不是大解脫大自在耶。子到此真實受用田地。則不負汝之名。須知別有。不假梯航。一句作麼生道。咦。鳶飛戾天。魚躍于淵。珍重。

13. 示本一頤子

子名頤。汝知之耶。頤者。口旁也。口門上下二關之中。

¹ 前文但列三種，可能是刻版時漏刻一種。

因頤中虛。能吐納活潑。所以能養其生也。觀頤慎言語。則吐得其善。老氏曰。「善言無瑕謫。」又云。「美言可以市。」有云。「一言興邦。一言喪邦。」是知頤之所吐。關於身命家國安危所係。可不慎歟。又觀頤節飲食。則納得其善。老氏曰。「五味令人口爽。」首楞嚴經云。「食甘則生。食毒則死。」有云。「飲食過度。便成疾疹。」是知頤之所納。關於身命存亡。身命存亡亦關於家國興敗。而頤之所納。亦不可不慎。是頤之所吐。能護生。頤之所納。能養生。是頤乃有生之大本也。

蓋出家兒遵佛戒。清淨活命。遠離四口食。名正命食。此食總是段食。以形色為頤。能納形段之食。有觸食。以陰隱之氣觸物氣而生。此形氣之頤皆屬於色也。有思食、識食。頤在於心。此四種食。雖優劣不同。能食所食。俱屬有漏。

諸佛菩薩以智為頤。所食皆智。能養法身慧命。此頤外食有情無情、佛魔境界。皆化為智慧光明。首楞嚴經云「常光現前。根塵識心應念化成無上知覺」是也。又此頤內食清淨法性。以法界廣大無邊。而智頤亦廣大無邊。心地觀經云。「譬如飛鳥至金山。能使鳥身同彼色。」首楞嚴經云。「盡真如際。名遠行地。」此皆內食法界以養慧命。此頤能吞吐佛魔一切境界。圓覺經云。「有大陀羅尼門。名曰圓覺。流出一切清淨真如、菩提涅槃及波羅蜜。教授菩薩。」既能流出出世間法。亦能流出世間諸法。此皆吐一切法也。又云。「法界海慧。照了諸相。猶如虛空。」此皆吞一切法也。子具此頤。隨吞隨吐。隨吐隨吞。縱橫自在。雖佛魔無奈子何也。

此所吞吐俱屬無漏。須知更有一頤。不涉名相。昔龐公問

馬大師曰。如何是佛法大意。馬大師曰。待汝一口吸盡西江水。即向汝道。又寶誌公有書與思大禪師曰。可入廬垂手。上助佛化。下利有情。終日兀坐寒巖。目視雲霄。有何利益。思大師曰。十方諸佛、一切眾生。被我一口吞盡。有何佛道可成、眾生可度耶。子觀古人開如是大口。安頓在甚麼處。又看此口是子本來面目、不是子本來面目。子知此口在處麼。蚊子嘴尖。跳蚤嘴烏。

14. 示萬白顛子

音顛。粵西全州蔣氏子。幼辭父母。之道州投師披剃。以菑畚（音資奢，耕田種植）為生計。偶自嘆曰。日日惟身口是勞。與俗何異。何不從瓢衲更快活耶。同事喜其言。約同行腳。一日辭師。師不拒。遂束腰包杖笠。一行五七人。初至南嶽。遍參隱者。湘西諸道場地一一歷過。後至邵陽謁病僧。見其老成。安於廚房作碗頭事。大眾食後自方食。庵中成規。凡各寮執事都在飯堂受食。病僧每飯罷經行時。見子事眾畢方就飯堂。自己一人跏趺端坐。誦供養咒出生。然後方食。病僧私自歎曰。此人貌雖不揚。頗有信心。此時是眾食後。乃懈緩時。又事眾後乃勞倦時。而敬謹不失。此亦可取。期年。終始一如。乃命歸堂。晝夜禮誦不懈。骨力漸變。音聲宏大。身短骨羸。背厚胸寬。枕骨似活珠火燄兩翅。可為奇相也。病僧每私為子喜。在堂中未二載。首楞嚴經能背誦。安為副悅眾。堂中領眾。禮誦規矩。及庫中錢糧、出入數目。皆子一人任之。如是經十六七年。曾無異言。無一難色。凡新到歸堂。和合如水乳。去者亦無留戀。儼然一木偶人耳。凡有錯誤規矩處。頂石跪香。重

責重罰。經過多次。亦未見一辯言、作一苦色。病僧居邵陵二十年來。如子之死心。如子之久遠。指不能再屈也。但與之語論。蠢蠢然無一知見。每被呵責。亦歡喜領受。

一日。謂子曰。汝如是蠢。自無厭乎。子曰。智慧孰不愛耶。根器已定。自不奈何。病僧亦呵之曰。如是則眾生根器只作眾生耶。久之又安慰曰。子之蠢與子有大饒益。子知之乎。曰。不知。病僧曰。子依病夫住二十年。曾不妄想諸方參善知識去。隨喜名山道場去。亦不妄想習聽經論去。為人師範去。亦不妄想住巖穴提弔罐安隱去。鬧市中大路傍結人緣去。如是種種妄想。被子一條蠢鐵杠子當門攔住。一些動不得。始得心地泰然。二十年來。禮誦精勤。任勞常住。種種成就。皆蠢之力。此蠢鐵杠子攔住一切妄想。久久凝定。化為智慧光明。照天照地。得無師智、自然智、無礙智。那時方知此蠢是子助道因緣。是子大善知識。將此智慧并前蠢鐵杠子再加精進。融入薩般若海。直至此蠢本來面目。天不蓋、地不載。火不能燒、水不能浸。不知有佛、不知有祖。不知生死、不知涅槃。蠢至於此。更有何蠢而過於此蠢者哉。世語有云。「聰明是大作用。癡聾是大受用。」世之癡聾尚有受用。而蠢至於此。其受用又何如哉。有云。「青山白雲父。白雲青山兒。白雲終日依青山。」總不知此蠢之明證也。子勉之。

15. 示歸宗源戒子

歸宗新戒。諱照源。念病僧衰老。難於應酬。同覺岸上座卜地隆回結庵。為予休老之計。甲戌後八月。予之武陵禮鑒大

師塔。源公聞之。追至德山。欲迎歸隆回。病僧欲至澧荊謁諸勝跡。未果。公將辭歸。欲求一語為法中證信。拈香三請。病僧見其殷殷一念可喜。乃呼其名曰。

源子諦聽。今為汝說。汝但依自己名而究其實。即本參語句。便是出生死的徑路。不須別覓玄妙話頭。汝將照源二字時刻提撕。何者是照、何者是源。如日月燈水鏡珠之光。俱有照用。此皆色光。非真照也。源者。水之根本。如江河谿澗之流。皆有本源之處。水得其源。千流萬派悉皆得矣。水既有源。山林草木、人畜萬物、凡聖諸法莫不皆有根源。如得凡聖根源。而天地萬物無非己有。梵網經云。「此戒即是諸佛之本源。亦是一切眾生之本源。」首楞嚴經云。「凡聖同源。縛脫無二。」此源即天地萬物、諸佛眾生之大源頭也。子今用自己心光返照自己身心之本源在於何處。汝照自身源于父母。父母源于祖父母。祖之又祖、源之又源。源至劫初。祖于一人。則得一國一洲有情之本源。

初一人之身。或別界傳來。或當處地水火風和合化生。是身之源亦本于四大。內之根身本于四大。外之器界亦本于四大。是四大為根身器界之本源。四大本于空。空本于無明。無明有二分。一分無知覺。為虛空地水火風五大。一分有知覺。為識見二大是。無明為七大之本源。如是觀照。則得十方無情有情一切世界之本源。此但照得有漏之源。

無明無性。轉出無漏淨智。出生一切諸佛菩薩聖賢因果。是淨智因。無明轉成。若無無明。亦無淨智。是無明又為迷悟智識之源。如是照去。則得聖凡有漏無漏之源也。此源依無明

建立。無明無性。全是真心。是真心又為無明之源、凡聖之源也。此源依真空建立。首楞嚴經云。「性真常中。求于去來、迷悟生死。了不可得。」窮源至于聖凡迷悟不立之處。方是究竟源頭。得此源頭。便能出沒聖凡。逆順自若。豎去橫來。更有何法與子為障礙耶。豈不快哉。此得有為無為之源也。病僧如是說話。大似泥裏倒。泥裏起。須知別有乾淨一句。縱得乾淨去。未免知見邊事。如何得不落知見去。咦。石底冷音響不盡。猿鳥從來不解尋。子應慎之。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第二

（盛京錦州府錦縣王門夫人李氏發心喜刻顛愚和尚語錄第二卷。計字壹萬零六佰四十。該銀陸兩參錢肆分。意薦中憲大夫嘉興府知府先夫王公。號遵度。仗斯般若之因。早證菩提之果者。康熙十四年正月 日楞嚴藏經坊附板）

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第三

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

16. 示寬居用禪人

禪人諱用。字寬居。乃滇南黃氏子。少從父宦遊。寄於建業。見諸緇素高人聚會間莫不以塵外事為舌之先鋒。禪人父子兄弟從是深知有此事。恨其所聞不早也。次復游於集生余公之門。禪人益堅其信力。每自歎曰。諸佛清淨法身乃人人本有自性天真佛也。如何不如佛廣大受用。枉自曲曲。甘為生死煩惱所欺誑耶。決志出家。知父母不從。私于阿蘭若處自斷其髮。易從僧服。父母聞之。知其志不可回。探其心之所向。禪人曰。子久慕匡山憨山大師之名。自己從憨先師法派立名廣用。一心入匡山。事先師塔。以盡法屬之心也。父與弟從其志。同送至匡山法雲寺。設齋禮先師塔。於五乳峰前增一智慧幢也。父與弟別去。禪人禮誦精勤。入眾作息。了無俗習。公子富貴之態即久。從善知識爐鞴中鍛煉出來。亦少有如是之純素也。真為可尚。廣先師末後光明。知禪人有望。病僧為先師掃塔因緣。休夏山中。至四月八日。禪人同眾入壇。已圓菩薩大戒。

一日。禪人作禮曰。請和尚垂示一語。以為大事證明。病僧曰。若論此事。只貴直下承當。便能頓超佛祖之外。即今諸人日用。六根門頭。歷歷孤明。本無覆藏。那有遮蓋。只因不肯承當。故為物所轉。即迷己為物之過也。當時釋迦拈花。何等直捷。迦葉微笑。何等快便。後達磨至震旦。遇神光。問曰。請師安心。磨云。將心來。與汝安。豈不涉於語言。光云。覓

心了不可得。未免落於知解。較之釋迦拈花、迦葉微笑。豈不千里萬里去也。後至五宗。各為奇舉。其中有出格大人舉揚此事。間有超過釋迦老子者不少。但為一種鈍根阿師不奈何。教參話頭。什佰或可望其一二。如何近來諸方善知識不體取我覺皇教外別傳之旨。學人初入門來。不以本分事相待。就問做何等工夫。便教參話頭起疑情。個個都入鬼窟洞裏。東鑽西鑽。胡撞亂撞。迫得神識惡發。或現一虛廓境。天地俱空。或現一寂滅境。身心不有。或現一智慧境。能說偈頌。或現一神通境。有種種妙用。便以為悟道。便以為參學事畢。豈知內有魔所攝受耶。豈知為陰境所迷亂耶。其實參話頭乃古人一期方便。不可以為常習。常習則近俗。近俗則成執。成執則生迷。生迷則致倒。而魔王外道或伺其便。參學人不可不慎之。不可不慎之。禪人決不可為禪病時氣所侵。當體取佛意。但放下身心。便無片事可得。豈不是大解脫大自在。其廣大妙用。非思議可及也。禪人應勉之。

17. 示天衣曇子

音曇行者。乃湖南永陽王氏子。自天啟丙寅秋。至邵陽謁病僧五臺庵中。至丁卯四月八日薙髮。隨眾服役。往來精力向前。不生一毫倦色。一日辭病僧。欲往諸方行腳。立意十步一拜至南海。願親見觀音大士。病僧老病殘軀。雖無人給事飲食湯藥。亦不忍屈其高尚之心。但囑之曰。子此一行。似與病僧再見難期矣。如親見觀音大士。承菩薩手摩子頂。菩薩分青蓮華座與子坐。得無量神通、無量三昧。須知菩薩更有深密處在。如親到菩薩深密處。方知五臺庵中大士閣前錯過多時了也。

18. 示石印常上座

戒之一字。亦是引導眾生之名。但簡點內之身心、外之世界。聖凡因果皆是夢幻不實。戒之一字何處安立。若將世出世間種種名相不實之法一眼看破。便見自己本來面目。若真見得自家本來面目。就是戒之本體。就是諸佛諸祖大地眾生之本體。

此是自性清淨戒。本無名相。戒體二字亦是強名。公於此薦得。則知戒體備在己。不假外求。未受之先。不曾少一毫。既受之後。又豈能增一毫。是則盡十方世界。無始無終。渾然是一輪金剛戒體。無有縫罅。有何得失。有何持犯。

此之戒體。能主宰十方諸佛、諸大菩薩、世出世法。而諸佛菩薩雖是終日依倚。必竟不得其邊際。亦不能得其終始。做盡伎倆奈不他何。無可奈何。只得向第二門頭橫說豎說。末後拈花。皆是門外打之邊。總是屈氣不能伸耳。

公直向本有中行去。豈不是大解脫大自在。豈不是頓超佛祖之外。諸佛菩薩又奈得公何。諸人不肯向自己一念未生前捨身命。所以被諸佛諸祖蓋覆。不能超越諸佛諸祖之外。此是自己紆屈。非佛祖之咎也。

異日。公拈香請益曰。道常年七十有六。乞和尚有快捷工夫。指示一二。

病僧曰。求快捷。要見彌陀佛去。要往天堂去。要往地獄去。要了生脫死去。

公忽然如夢覺。曰。可慚可愧。

病僧曰。公欲求快捷。因甚麼又道可慚可愧。

公不語。

病僧曰。何不道一句看。

公曰。不唯道常道不得。就是諸佛諸祖何曾道得著。

病僧曰。若諸佛諸祖道不著。公又看諸佛諸祖道得是何物。

公曰。和尚惑亂人作麼。

病僧喜曰。只此道不著三字。便是公放捨身命處。善自保重。勉之勉之。

19. 示西意法子（即音源）

西意法子。諱法誦。楚雲陽人。初至邵陵。謁病僧於五臺庵中。知為法門良器。相與抵對。深有契入。復歸故里。唯道是事。乙亥秋。病僧為禮青原祖塔。經雲陽。子聞之。相迎至玉蓮庵。住旬日。俶裝行李。隨至青原禮祖塔。後以山中秋深漸涼。出山在西峰寺挂搭。子拈香請益曰。法誦自五臺親近和尚以來。至今有六七載。幸又得侍和尚左右。不可不謂之因緣也。願垂一語以作證明。病僧喜曰。子近來。吾語汝。子名法誦。汝自究竟法誦二字何在。先法後誦。法自何顯。先誦後法。誦依何生。又法不過教法、理法、因法、果法。又世間法、出世間法。總不出六塵邊際。誦屬音聲語句。究之咽喉唇齒心舌。都屬於根。究竟法誦二處皆根塵識心邊事。根塵無性。同於交蘆。識性虛妄。同於空華。根塵識三既無。法誦從何而有。子

著力究看。法誦二事還是實有實無。若無。世出世法皆成斷滅。若實有。又無可覓處。畢竟要實實指點出來。法是何物。誦自何生。要見法誦真實面目。則不負其美稱也。子即今以唇舌音聲。日誦楞嚴法華。乃至誦盡我釋迦老子一代藏教。亦是虛妄。如汝一舌能誦十方三世諸佛法藏。亦未是法誦本來面目。又如汝一人舌根動。十方三世諸佛、諸大菩薩、聲聞緣覺同汝一舌。盡未來際常如是誦。亦是虛妄邊事。又甚至盡法界中微塵國土諸佛菩薩、一切聖賢及諸天人、修羅、地獄、餓鬼、畜生同為一舌。常如是誦。亦未見法誦本體。又乃至十方世界、山河大地、草木叢林、一切聖凡、情與無情。各具無量舌根。同如是誦。盡未來際無有間斷。亦未是自己真實面目。

昔東印土國王請第二十七祖般若多羅尊者齋。眾僧皆誦經。唯尊者不誦。王問尊者何不誦經。尊者曰。出息不涉眾緣。入息不居陰界。常轉如是經。百千萬億卷。何止三卷五卷耶。其實般若多羅尊者如是轉經。亦只者邊轉。與那邊猶未相應在。昔有婆子。具白金千兩。遣使請趙州轉藏經。趙州下禪床遶一匝。向使者云。回去報婆知。老僧轉藏經已竟。使者回舉似婆。婆云。我請和尚為我轉全藏。祇轉得半藏。據婆子如是說話。超越東印土國王多矣。是法是誦、是真是妄。是全藏、是半藏。趙州顛他不過。

昔六祖大鑒禪師云。「心迷法華轉。心悟轉法華。」六祖此語亦是一時應病與藥。若論真實法輪。豈有迷悟、能轉所轉耶。

子看三尊古佛如是轉經、如是誦法。是常住法、是敗壞法。子若究取真實。即今行住坐臥、色香味觸都是法輪常轉。若未

到真實田地。任爾一口吞盡十方世界、不露一塵、不露一字。又能吐出十方世界有為無為一切法相。亦是者邊事。子應勉之勉之。

20. 示雲谷上座

丙子休夏。吉之萬安蘇谿郭子桂柏園中有雲谷開士。乃博山室中上首。往來其間。盤桓久之。一日出此卷。首題乃焦弱侯真蹟。法海津梁四字是人以供博山。雲谷公辭博山之仰山。欲為灑掃祖地。博山和尚即將此卷授公以為付法。復為發之。有四十二句。不落義解分別。但隨語到成句。真一字一點都是一個鐵圜圖。無絲毫縫罅。任之諸佛諸祖也無有下口處。真作家妙手格外津梁也。公欲病僧一語以為相遇信具。私謂博山既言之於前。超越遠矣。自亦不好隨之於後。只得入草藏身。別行一路。

蓋法海者。法是通稱。有世間法、出世間法。世間法有無量無邊。名為無明海、藏識海、煩惱海、業海、生死海、世界海、眾生海、人我海、幻海、苦海。此世間法海也。出世間有無窮無盡法門。名寂滅海、性海、心海、覺海、智海、涅槃海、功德海、莊嚴海、解脫海、願海。此出世間法海也。津梁者。亦有世間津梁、出世間津梁。眾生乘世間津梁。背寂滅海入生死海。諸佛乘出世間津梁。出生死海入寂滅海。此是世出世間法海津梁也。更有超越世出世間法海大津梁。亦要透過方有自在分。方能將一莖草作丈六金身用。將丈六金身作一莖草用。能拈弄得諸佛諸祖。不為諸佛諸祖之所拈弄。方是大解脫。不

然只在世出世法混來混去。終不脫法縛。都是法海中沒死漢。

如何是能超越世出世間大津梁。如有外道問佛。不問有言、不問無言。世尊默然良久。外道禮謝曰。世尊大慈大悲。開我迷雲。令我得入。此便是超越有無、迷悟、聖凡、世出世間大津梁也。

如有僧問馬大師。離四句、絕百非。請師直指某甲西來意。馬大師曰。我今日頭痛。不能為汝說。問取智藏去。此亦是直超世出世間佛祖知見大津梁也。

又如有僧問睦州。祖意教意。是同是別。州拍露柱云。青山自青山。白雲自白雲。又有僧問滄山。聞師有言。有句無句。如藤倚樹。忽然樹倒藤枯。句歸何處。滄山呵呵大笑。又如趙州有云。「有佛處不可住。無佛處急走過。」又如船子和尚有云。「藏身處。沒蹤跡。沒蹤跡處。莫藏身。」此皆是不涉有無、直超世出世間大津梁也。

且如現前不落佛祖行徑。直超世出世間大津梁一句作麼生道。咦。洛陽橋上花如錦。今古行人幾遇春。

21. 示石蓮際法子

雲陽棲雲山六通庵石蓮際禪人。莊重閒雅。超然不群。緇素之所推尚。壬申冬。造邵陵謁病僧。諮決心疑。曰。禪講律同別之旨。可得聞乎。病僧曰。禪人諱甚麼。曰。法際。曰。號甚麼。曰石蓮。曰。是同是別。禪人默領其旨。隨喜病僧說戒作法。生希有想。念欲受戒。為衣鉢未備。尋辭病僧而歸。

乙亥夏初。病僧為訪舊識。住錫攸之雨花庵中。禪人聞之。持衣鉢而至。同眾僧登壇。次第受三堂淨戒已完。將告歸。病僧曰。禪人求受戒。今戒何所在。曰。法際從今已去再違背和尚不得。病僧曰。要真實道來。曰。和尚當珍重。恐有識者笑之。病僧曰。何不平實商量。禪人曰。若戒體有所在。即有所不在。戒若可指。即屬染污。若不可指。即屬斷滅。從古至今。遍於法界。唯此一事。明明白白。現前受用。無窮無盡。何用言語反為障蔽。病僧曰。語言又是甚麼。禪人曰。法際頗知好惡。病僧曰。善自護持。

22. 示詡楷塵禪人朝南海并參諸方

昔馬祖大師遣一禪人之南嶽訊石頭遷大師。禪人見石頭。禮畢侍立次。石頭問曰。大德何來。禪人曰。從江西馬大師處來。石頭指一根木曰。馬師何似此一根木。禪人無語。回見馬祖。祖見來。便問。可見石頭否。禪人曰。見。祖曰。石頭有何言句。禪人曰。某甲侍立次。石頭指一根木問曰。馬師何似此一根木。某甲不會。祖曰。其木有幾許大。禪人以手比之有幾許長、有幾許麤。祖曰。爾與麼有力。禪人曰。和尚如何見得某甲有力。祖曰。爾從南嶽齋者一條大木來。豈不有力。禪人愧去。

不知諸方將馬師此語作麼生商量。還是賞伊還是罰伊。若是賞伊。自心能持受十方三世一切色。心持一木有何奇特。是不足賞也。若是罰伊。心包法界。豈一根木不許容之。是不足罰也。

細玩馬祖此語。大似譏誚禪人將一根木置在中心。不能超越自在。豈非迷己為物。為物所轉。故發此語。是則馬祖為人亦多從鑿削一邊去。若是有骨力的學人。自有轉變處。未必一皆依傍他人轍蹟。病僧為人。多從饒益邊一味增長去。

塵禪人發意禮普陀諸聖道場。并參知識。請病僧一語以為途中證具。病僧特示之曰。禪人切不可希求妙悟。不可妄效諸方搖唇鼓舌、橫棒橫喝。以為傳持祖道。此是沒量大人格外作用。非轍跡可學也。禪人此去。所經山水、所見人物。勿論城隍聚落、花木叢林。勿分染淨媿妍、賢愚善惡。一一分明。收入光明藏中。如到南海。南海之境著然心中。如到五臺。五臺之境儼然心裏。如遊遍中華國裏、天下名山一切勝地及諸物類。禪人之心量豈不包裹中華一國耶。如遊遍南洲。所有國土及國土中所有人物歷歷分明、朗然心中。禪人之心量豈不包裹一洲耶。如遊遍二洲三洲乃至遊遍一四天下。或遊遍一小千世界、一中千世界。乃至一大千世界。則禪人之心量周遍一佛刹也。乃至遊遍一世界種、諸世界種、一世界海、諸世界海。乃至遊遍十方世界三世劫海。盡虛空遍法界。無一世界不遊。無一劫海不遍。無一佛不禮敬。無一眾生不攝受。塵塵刹刹。圓融互入。則禪人之心量與虛空等、與法界等。其廣大圓融豈可思議哉。心等法界。法界即心。法界心中。何處得有世界國土、山水道場。何處得有諸佛諸祖、一切眾生。何處得有愚癡智慧、妙悟神通。何處得有生死涅槃、佛法知見。此法界量中既一無所有。豈不超越十方世界三世劫海。豈不超越諸佛諸祖玄妙知見。從畢竟無中能畢竟有。從畢竟有中能畢竟無。者邊那邊無

障無礙。十方世界總是一塵。一微塵中周遍十方世界。如是廣大解脫圓融自在。不用求妙求悟。不在多知多解。只從腳跟下步步行將去。行一處到一處。到一處遍一處。行遍法界。自然周遍法界。所知所見、所言所行。一一與法界等。不玄而自玄。不妙而自妙。是病僧教禪人。只是步步增長將去。增長到與法界等。便是大超越大自在。禪人應諦信之。

23. 示天隨宜子

音宜。字天隨。江西螺川蕭氏子。早年失父。有兄代館成其學。自髫年喜近三寶。不樂塵俗。雖有妻子。儼如旅亭偶聚。了無愛結陳習。初依本郡青原山本寂和尚受優婆塞戒。獨居淨室。供佛延僧。日夜香燈長明。朝夕禮誦不懈。雖是居家。全然出家標致。一日。離別舊處。由楚地到邵陽。謁病僧於五臺庵中。投病僧披剃後。之吳下遊歷諸方。有十餘載。於崇禎甲戌夏月歸來。自知悔過。病僧見其語默大越于前。乃授監院事。病僧臥疾邵陽二十餘載。不勝其倦。行腳之心時時搖動。見一時院事得人。內外可托。私賚一笠從舟下武陵。禮德山鑒大師塔。嗣過吉州禮青原思大師塔。乞食諸邑。以增人信心為念。丁丑春。入匡山為愍山先師掃塔。秋初。因水陸多寇亂。不便遊行。覓歸楚道。經海昏。登雲居山。樂觀祖庭勝概。為舊住持味白和尚與大檀越青嶼熊公堅留。為灑掃計。病僧見祖庭荒殘。十分狼藉。不勝太息。乃暫與其欲。

是年十一月十三日受事。明年八月中。此子以院事付託於人。與二三同戒訊病僧於雲居丈室。病僧念其院事疲勞、路途

困苦。種種慰之歡喜。知五臺院事非子不能支持。因促之速歸。子將行。袒右肩。胡跪合掌。白曰。弟子音宜初蒙和尚一子之慈。允為披剃。不覺宿障何深。違背和尚十餘年。伶俜諸方。全失法乳。及知歸省侍立和尚。和尚又為雲水相從。此是音宜自障。非和尚有意棄音宜也。音宜此來頂禮和尚。是為和尚壽賀。甲子重新。望和尚指示一語。則不虛和尚容音宜在法中受生一回。音宜亦不敢不承和尚之法脈也。病僧良久乃曰。子孤我處多矣。無一時無一事不是病僧指示處。豈有間乎。子既不能薦取。病僧亦不惜眉毛再為支離二三去。子名音宜。既受其名。須踐其實。不踐其實。徒美其名。有何益乎。世出世間大聖大賢。出現世間種種示教。不過曲順時宜。究竟至於向上一事。是知宜之一字。該盡世出世間聖賢妙道。子今但依此一字。用作通身手眼。便是無礙神通究竟解脫也。宜者。宜于理、宜于事、宜于處、宜于時、宜于佛祖不能到處。宜至于此。始有自在相應分。諸佛諸祖都是宜於一無所得。是宜之大安樂、大解脫、大堅固、大受用處也。事宜者。宜于可行、宜于可止。是行止盡善、不失其宜也。理宜者。宜於見性、宜于空相。是性相俱融、不失其宜也。又處事宜于達理。見性宜於應事。宜事即理。宜理即事。性相融通。事理無礙。是事理雙遮雙照之宜也。處宜者。或宜于僻、或宜于市、或宜于山、或宜于水、或宜于寬、或宜于狹。是闡闡山林得善、不失其宜也。時宜者。或宜于先、或宜于後、或宜于延、或宜于促、或宜于急、或宜于緩。是前際後際及時、不失其宜也。又卜處宜於知時。作時宜于量處。乖處則時不興。乖時則處不發。方世互生。時處不二。是時處同致之宜也。

又宜于時。究竟至于三世平等、本然一際也。宜于處。究竟至于十方圓明、法界無量也。宜于事。究竟至于超佛越祖、大機大用也。宜于理。究竟至于離名離相、無得無說也。宜到究竟田地。何事何理、何時何處。到此田地。宜之一字亦是強名。無名無宜。迴超法界。塞卻諸佛鼻孔。杜絕諸祖口門。有何身心。有何善惡。有何苦樂。有何生死。有何涅槃。有何菩提。有何煩惱。是則生亦宜。死亦宜。在天堂亦宜。在地獄亦宜。在諸佛位中、在眾生界裏亦宜。在戒定慧學、在貪嗔癡聚亦宜。大亦宜小亦宜。貴亦宜賤亦宜。魔王亦宜外道亦宜。山亦宜水亦宜。風亦宜火亦宜。荊棘林中亦宜。明月簾外亦宜。歌舞叢中亦宜。糞廁坑裏亦宜。得也宜失也宜。取也宜捨也宜。縱也宜橫也宜。上也宜下也宜。無往而不自得。無所而不得宜。豈不是頓超佛地乎。豈不是究竟堅固乎。出家兒宜乎恁麼去。宜乎極盡去。宜乎不染汚。宜乎不受囊藏。子宜勉之。子宜勉之。

24. 示闕止遂禪人

禪人生自瀛洲靜海。趙氏子。髫年禮五臺山龍泉寺本權耆宿求披剃。命名通明。即本權和尚之法孫也。久依覺悟法師習聽經論。受法乳之恩深。欲終身依止。更名全遂。禪人多技能。世智通利。於本分事未及究竟。發意行腳。朝禮天下名山。便道海昏。謁病僧於雲居丈室。病僧喜其北人。欲留伴老煙霞。尋命掌記室。將半載。

一日。辭病僧之峨嵋。以完朝山本願。病僧深慚。虛勞禪

人相伴多時。曾無一語有益參學。事不能強留之。將行。欲請一語以為相遇證明。病僧囑之曰。行腳一事。乃出家人本分事。其得力處多種不同。有於各處名山得見真善知識。發明大事者。有藉山水之廣大。開闊心地者。有即山水人物識取本來面目者。有見山水之靈能會取自心變化之妙、能圓融無礙、不墮枯寂者。悟入雖有多種不同。而所入本無異致。禪人此去到峨嵋。識得峨嵋真面目。方識得雲居插禾。莖莖皆是普賢妙色之身。莖莖皆是峨嵋大光明聚。若于此一莖了得。盡法界佛刹所有諸佛菩薩、一切眾生、世出世間染淨諸法、師長父母、諸有冤親一齊見得。非遠非近。無壞無雜。若于此一莖不了。不惟一步一拜到峨嵋峰頂。縱到四大名山、走遍四天下。乃至遍歷塵刹、歷事諸佛、蒙諸佛摩頂授記。恐於本分事猶未相應在。禪人此去。須親見峨嵋真面目。方信病僧不虛語。勉之勉之。

25. 示超宗翼子

世出世間有無罪福。諸佛眾生聖凡諸法俱不能到。故稱之曰向上。以顯世出世間、聖凡諸法皆生滅門中事也。古人傳佛心宗。不言心。不言性。而稱向上者。恐人逐於名言、墮於識見。故稱之曰向上。曰本分事。欲人頓超身心世界、聖凡名相之外。直際本來面目而已。

昔達磨大師為此事。自西域遠至震旦。入嵩山石室中。面壁九年。方得神光大師。授受明白。是知此事難傳。非器故耳。神光大師復傳僧燦大師。燦傳信。信傳忍。忍傳六祖鑒大師。鑒傳分兩派。一南嶽、一青原。二派復演為五宗。五家雖

是分門立號。開合不同。總不乖神光大師覓心了不可得之旨。再原之。乃釋迦老子末後拈花直示。不假言說、不落分別知解是也。

五宗不依契經指示。而別號三玄五位、君臣父子。曰向上。曰末後。用心何其密哉。奈何近代學人。不達古人用心。逐其方便。實其三玄。實其五位。各護門牆。互爭優劣。豈非將古人遠離名言知見之用心。返成名言知見之境耶。試觀覓心了不可得。如來末後拈花還容得許多分別否。學人不可不審此。

超宗法子。名音翼。在邵陽本地出家。年常入五臺庵親近病僧。從受戒。禮誦行持。事事不逾病僧規矩。緇輩中受戒者勝多。信心如翼比似。指不能再屈也。

自甲戌秋行乞諸方。翼曾步跡覓我於茶陵之東山。一晤即歸。己卯冬。復遠來訊我於雲居明月堂中。與上宇呂居士同儕。居士先歸。翼同堅冰雪之心。深結風寒之骨。明年將歸。請益一語為後日證明。病僧喜曰。子欲真實出死生。不在玄妙知見。不在善巧語言。但只放下身心。本無片事可得。菩提涅槃乃無處安立。將何為生死耶。放下身心。佛祖尚無處安立。又將何為眾生耶。如是放下去。不用思惟。不用解悟。不用勞筋苦骨修習。不用施工加行修證。本來圓成。曾無欠缺。一向為身心蒙蔽。不得受用。一旦放下身心。本來面目當處現前。何等廣大。何等清淨。何等光明。何等自在。盡十方世界是自己一個大解脫門。盡十方世界是自己一個大寂滅海。盡十方世界是自己一個大無盡藏。如是廣大境界。惟自信耳。切不可向教演宗乘名相中走作。始可謂之超宗。真語實語。

26. 示元白可闍黎

可子原楚南都梁鄧氏子。幼年同父篤志學佛。有禪人號覺樹者。為五臺庵作佛緣事。至武攸。與子因緣相契。策引同父入五臺庵。乞病僧披剃。病僧喜其來志真實。集眾證明。同父一時剃落。尋與著佛袈裟。頓入法流。未久。子與父私出院。去至益陽。父偶舉舊疾化去。子周父大事。復歸五臺庵。在病僧榻前侍立。期年。復命歸堂。同眾修圓通懺。誦楞嚴經。乃堂中逐年定課。越明年冬。結制修懺。得真實學人十五位。子居第二座。每參請次。知子有大樹之望。病僧平常無作家鉗錘。子與同志亦遁去。歷廬山。遍參隱者。嗣歷博山、三峰、金粟諸大法眼。咸別目視之。依止密雲和尚有年。復參雪嶠、罄山諸大知識。後深入天童堂奧。子離五臺庵十餘年。杳無消息。非子有忘舊時途次因緣。實病僧無教子之心也。

甲戌秋。病僧之武陵禮德山塔。次之青原。復入匡山。為憨老人掃塔。復禮雲居祖庭。為當事堅留。同作灑掃因緣。子聞之。覓我於明月湖上。一見頭顱方正。大非昔人也。知諸方善知識非徒以超佛越祖空談為向上。實有轉凡骨成聖胎手段。病僧有愧諸方遠矣。

子為天童同門兄弟邀去。住寶峰馬大師道場。間上雲居。求一語為將來證明。病僧曰。子渾身骨肉已屬諸方善知識攝受。所有知見皆從善知識棒頭口角發起。天童室中視子為己有。病僧豈肯妄加染污。每請每辭。子為天童入塔重事先出山。歸途訪舊知。止於江上。病僧為逸老之計。訪船子舊跡。泊舟於雲間。子得音。抱目疾而來。相見於葦蓬之下。

將歸。復拈香請曰。音可不才。未久侍和尚。罪固深矣。曾聞世書有言。才不才皆子也。和尚何獨棄音可於門外耶。

病僧念子目病。乃謂之曰。子歷諸方。佛法知見已逼塞虛空矣。病僧舉筆。無處加點。只得將錯就錯。為子之繞一上。古人有云。「金屑雖貴。落眼成塵。」此語三歲孩童都說得會得。若實其行。病僧實不能也。所以不敢在人前開大口說大話者此也。諸方善知識上堂。能呵佛罵祖。以眼中不見有佛祖也。佛祖尚不在眼。南嶽青原又豈在眼耶。此二大老尚不在眼。石頭、馬祖又豈在眼耶。臨濟、曹洞、雲門、法眼、滄山又豈在眼耶。若爾諸佛諸祖盡不在眼。而拈花面壁、揚眉豎目、棒喝機用、玄要賓主、君臣父子又豈在眼耶。佛法知見都不在眼。而山河大地、道場法具、衣鉢眷屬、付囑法嗣又豈在眼耶。則知諸方善知識。眼光照破大千法界。盡十方法界。光明獨耀。乃能開大口說大話。所以稱善知識。子但如諸方善知識。立在佛祖頭上。安命空劫已前。眼自光明廣大。以法界眼照空世出世法。更有何法而作知見障礙哉。豈不是大光明藏。豈不是大清淨眼。豈不是大解脫門。如是名字亦無所有。唯自受用。到此。子與諸方善知識同一眼光。圓照無二。子自珍重。病僧未免為剩語。

27. 示無盡學禪人

禪人諱真學。號無盡。北平人。因土性賦性二俱質直。無變無易。率常如此。禪人過南方隨喜諸名山諸祖庭。參禮諸善知識。不曾染一些佛法知見。只是一直。末後登雲居山。同病僧插田割禾、修園種蔬。事事不在人後。因修羅漢垣。安禪人

為西堂。取石拽石、抬石砌石。禪人獨能首眾。三五人不能舉之石。一人能舉之。風裏雨裏、泥裏雪裏。禪人未少難色。一十八人。未滿三年。幾經去就。獨禪人與三五同志。力如金剛。八風不能搖也。

問或問禪人曰。正砌牆舉石、身勞力倦時。還知有本分事麼。禪人曰。不知。曰。砌牆就是本分事。如何不知。禪人曰。只知砌牆要堅固。不知何為本分事。曰。是會了不知。是不會不知。禪人曰。會也不知。不會也不知。病僧笑曰。只此不知二字。不唯閻羅老子不奈爾何。釋迦老子亦不奈爾何。所以古人道。「打破大唐國。求個不會佛法的了不可得。」勿論世出世法、成聖成賢、超佛越祖。盡十方三世一切佛法知見、一味不知到底去。便是禪人大超越處。諸佛諸祖皆在下風。何以故。不見道。成佛成祖皆第二門頭事也。然則禪人還有同不知的道友也無。禪人曰。無。曰。爾砌牆的石頭。大則大不知。小則小不知。豈不是爾同條生同條死不知的道友耶。禪人亦曰。不知。曰。石頭即爾之不知。爾即石頭之溫飽。爾今離山三千里外。石頭隨爾來也未。禪人曰。不知。病僧笑曰。若知。卻不是石頭了。是則是。向後逢人莫錯舉好。珍重。

28. 示晦之明侍者

出家一事乃大丈夫行徑。非將相之所能為。有能遠離父母妻子親友深恩大義、剃除鬚髮、樂於輕清而為出家。此名字出家、非真出家也。此但遠離父母妻子親友、所居宅舍。名為出家。剃除鬚髮。相出家也。若真實出家。要除身心我法二執。

次除佛法有無知見。十方世界世出世間染淨諸法。種種玄妙。種種名相。掃除空空淨淨。一無所有。於無所有亦無所有。方是真出家。到此田地。則不被生死涅槃之所留礙。於無生死中示現生死。於無涅槃示現涅槃。所以生死涅槃往還無礙。菩提煩惱變現無方。小大融通。延促自在。所以乃大丈夫事。非將相之所能為。

晦之侍者。關中人。幼年為兵馬離亂。波流至江南。遇大將臺宋老居士。識為奇器。攜之行營坐帳有年矣。宋老居士多生從金剛種子中來。隨所住處。愛隨喜諸祖道場。參謁諸方知識。出鎮東粵。禮六祖大鑒大師塔。出入多在曹溪遊觀。遇憨山先師壽龕。自匡山返嶺表。歸入曹溪塔中。有好事者開龕一目。先師全身儼然如生。爪髮俱長。宋將臺親目其事。喜為唱導。將先師肉身以漆漆之。奉供塔殿之上。與六祖大師相比安置此。先師沒世二十餘年。重復出現於世。放此末後一段大光明。照耀千古。此亦奇特因緣也。

晦侍者因昔隨宋大將臺出入曹溪。亦親見親聞憨先師始末因緣。觸發多生般若種子。極欲出家。恨髮不自落。屢辭宋公入雲棲披剃。亦喜其雲棲名剎也。歸道經白門。是時病僧卜淨後城紫竹林。禪人來參。病僧問云。禪人從那裏來。云。雲棲。病僧云。雲棲是淨土法門。為甚麼到者裏。云。特來親近和尚。病僧云。侍寮少人。當隨列去。

嗣後遇戒期。禪人同眾受三壇大戒。起名音明。字晦之。戒期完。仍歸侍寮。

一日。同病僧種紫竹。病僧拈一枝示云。且喜禪人同種紫竹。還同般若種子得麼。禪人云。和尚得。某甲亦得。病僧便放下云。禪人又作麼生。禪人作禮。病僧便休去。

禪人至晚進方丈。復作禮呈偈云。般若種子志同師。今日猶成忤逆兒。固我慚顏無著處。俾名何幸到山池。病僧徵之云。作麼生是忤逆兒邊事。禪人進前一喝便行。病僧亦休去。

過旬日。禪人拈香求法語。以證明末後大事。病僧見禪人骨氣超群。當家種草。是以禪人出家始終因緣書之于卷。病僧晚年得此有力之子。可為終老之依託。因再囑之云。祖佛慧命。子當繼之。切莫辜負出家一段大事因緣。珍重。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第三

（盛京錦州府錦縣信官王世初仰承中憲大夫嘉興府知府先考王公號遵度遺願。喜刻顛愚和尚語錄第三卷。計字玖千六百十六個。該銀伍兩柒錢柒分。仗斯般若之因。早證菩提之果者。康熙十四年二月 日楞嚴藏經坊附板）

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第四

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

29. 示道生夏居士

淨戒弟子夏音本。新安人。客於湖南邵陵有年矣。其志好書好靜。在同道中。謙柔閒緩。端肅澹如。為人所重。予自五臺散席。孤露江南二十餘載。多居雲霧之巔。因積異疾。於甲寅春詣邵陵就醫。賴眾檀越結庵於雙清磯。後為調息病軀之計。戊午春。居士偕一二侶造予寢室。一見如故。稍談愈契。別去。孟夏。居士以書通。意乞諸佛淨戒。予謂居士般若根深。乃能觸發如是之速。遂許可。至後四月八日。來庵營齋集眾。於十方三寶座前。自言歸依佛法僧寶。受持五戒。如是三說。病僧為證明。從此相見益勤。相談益深。語益忘而理益明矣。

病僧自撰禮觀音文。以授居士。居士依法薰脩。雖在稠人眾會中。一無懈廢。予謂居士曰。若肯出家。當大弘宗教。承病僧願也。居士曰。弟子有老父老母在。若終父母之事。決從師矣。

庚申。居士接家音。父病篤。二子因痘俱病。目居士雖有歸事之行。其心澹泊如常。禮誦不輟。諸人所難。予歎服。居士勝我遠矣。此等定力不是一生一劫而來。乃能堅固若此。居士將行。拈香請益曰。弟子此一回。老父病愈。事養期年方來。若父見棄。有意廬墓三載。大師可許否。病僧摩頂謂曰。居士真吾弟子。所言皆予未遂心願。居士行之。即病僧行也。乃為

發宣此行。若論佛祖。無別奇特。即此一孝心便是。但擴而充之。深而遠之。即與諸佛諸祖把手共行。經云。「釋迦牟尼佛成無上覺。初結菩薩波羅提木叉。孝順父母師僧三寶。孝順至道之法。孝名為戒。亦名制止。」是知諸佛無量法門。不出一戒藏。一切戒法。不出一孝行而已。是知菩薩萬行。以孝為本。即釋迦老子說法四十九年。不過發揮此孝差別之相。乃至末後拈花亦此一事。西天東土禪講諸師。雄談闊論、拈椎豎拂。皆此一事。總之世出世間。聖賢妙行、世諦語言。盡虛空界。無芥子許非孝道也。孝。順也。順根本而行。故稱為孝。世人以父母為根本。是以順父母者曰孝。世人只見父母是根本。不知天地是大根本。是大父母。如水中魚。小魚祇認大魚是父母。不知水是大父母。設無水。大魚小魚俱無建立。是知水是魚之大父母。天地為萬物之大父母。世間聖賢悟此。乃體天地之心。仁覆一切。乃至鱗甲羽毛、蜎飛蠕動、草木之屬。不妄毀傷。咸生愛護。此孝望凡常可為大矣。猶未也。天地是生生之機。生生以無生為本。是以界外聖賢修空趣寂以順無生。此孝較前似深一步。猶未也。趣無生尚有背向。猶有住相。不知無生以無住為根本。是以諸佛菩薩隨順無住妙心。終日生死。終日涅槃。終日涅槃。終日生死。者邊那邊。無障無礙。方名究竟覺。究竟覺即孝之究竟處。是名大孝。廣大孝。最大孝。無上孝。無住孝。無餘孝。圓覺經云。「有無俱遣。是則名為淨覺隨順。」即隨順淨覺。隨順即孝順也。是知成佛。但滿其孝心。豈別有奇特玄妙哉。居士此一行一步要踏著此一孝字。亦要步步莫踏著此一孝字。若踏著時。行也為斯。住也為斯。坐也為斯。臥也為斯。視聽言動莫不為斯。如是行去。咳唾掉臂皆無違也。

此事孝也。若不踏著時。行也無為。住也無為。坐也無為。臥也無為。視聽言動俱合無為。如是行去。繁興鼓躍皆無為也。此理孝也。古人云「終日穿衣。不曾掛著一絲縷。終日喫飯。不曾嚙著一粒米。終日行。不曾踏著國王地。終日動。不曾觸著太虛空」是也。若理事兼行。可謂孝之極圓。居士如是行去。雖與病僧遙隔千里。常在目前。居士作禮。喜曰。今日在大師前。方知一字法門。書海墨而不盡。今日自信可稱音本。真是道生。病僧曰。善自護持。

30. 示都護稚隆李公

都護李稚隆公。湖之蘄陽世家。父兄伯叔皆冠蓋文武。森然名族也。公初為中丞府參軍。次推都護。備兵都梁。都梁雞肋之地。不足以當長才。每寄興於詩酒之間。因有都梁游草。而司院及諸當道無不改觀推重。

公間禮司院。道經邵陽。會予五臺庵中。談次偶曰。余貪癡猶可。唯嗔疾難遣。每為忿怒所苦。禪師何以指示。

病僧曰。果無貪癡。嗔從何生。公默契其旨。復為演之曰。心無善惡。善惡從緣耳。法無善惡。善惡從心耳。如貪嗔癡本不善法。聖賢以無我心用之。則成功德林。戒定慧本善法。凡夫以有我心用之。則成煩惱藪。是則諸法無性。緣會而生。識得緣生無性。則知諸法本空。諸法既空。而貪嗔癡何由生耶。原其貪嗔癡皆一我愛也。因不明諸法無性無我。妄認為實。故生我愛。因愛我故而生貪著。因貪著故。或有人損我欺我。則生嗔恨。是則嗔恨由貪著我故。豈有不貪著而有嗔耶。是嗔從

貪生實矣。貪從我生亦實矣。而我因不如實知諸法無性故耳。書曰。「毋意、毋必、毋固、毋我。」總一我字。有體聖言。以功力降伏我心。若不如實知無我處。我根終是難拔。是故世之學舌尖筆尖。每言毋固毋我。及觸事當情。我心熾然猶在。是不如實知無我之過也。抑人與物。不出身心兩法。身有形礙可觀。食息取捨。有實作用。如何得撲滅而謂無我耶。心有知覺可驗。視聽言思。有實受用。如何得寂絕而謂無我耶。試為密照觀察。即如實知也。且人身雖有形礙。可觀食息取捨。總不出堅溼煖動四相。髮毛爪齒、皮肉筋骨、髓腦垢色是堅相。屬地大。唾涕膿血、津液涎沫、痰淚精氣、大小便利是溼相。屬水大。煖觸之相屬火大。動轉之相屬風大。人之一身。檢點將來。不過此四種物。將地大為我耶。水大為我耶。若地大是我。豈有智人認著髮毛爪齒等物為我耶。若髮毛爪齒等物非我。隨人欺凌也好。委曲也好。詬罵也好。苦觸也好。何必貪愛而生嗔耶。若水大是我。豈有智人認著唾涕膿血等物為我耶。如唾涕膿血等物非我。亦可隨人欺凌亦得。委曲亦得。詬罵亦得。苦觸亦得。亦何須貪愛而生嗔耶。火大風大亦如是觀。而四大非我實矣。人所欺凌委曲。乃欺凌委曲四大。非欺凌委曲我也。然四大非我易明。而人多有計心為我。最是難破。以能視聽言思。能生死往來。有實主宰故。此亦不如實知心亦無自性。試為研之。此心因四大和合。妄成六根。六根四大。中外合和。妄有緣氣於中積聚。思量計度。假名為心。若離四大六根。此心畢竟無體。將何為我耶。又則此心有四數。曰受想行識。欲將孰為我耶。若都是我。則成四我。豈有一身而有四我。若此四心非我。隨人欺凌亦好。委曲亦好。詬罵亦好。苦觸亦好。

亦何須貪著而生嗔惱耶。設有欺凌委曲。乃欺凌委曲受想行識。非欺凌委曲我也。如斯檢點。若身若心俱非是我。不應身心外別有一物私為我也。是則身心非我實矣。聖言毋固毋我亦是率性之言。人肯率性而行。則貪嗔癡皆成功德聚。又則此身四大合和曰生。四大散離曰滅。生則先從風生。滅則亦從風滅。此身先因父母欲念欲行而有。首楞嚴經云。「觀身動止。觀心動念。皆是妄緣風力所轉。」是則父母最初欲念。及淫躬摩蕩皆屬風大。摩蕩既久。淫躬發煖。屬火大。是因風大相摩而生火大。淫躬既煖。相蒸而生津液。屬水大。是因火蒸而生水也。津液既交。結以成胎。屬地大。是因水火結成土也。是知此身生起。先因心動有風。因風有火。因火有水。因水火相結有地大。又滅則亦先從風滅。如人能視聽言思、食息往來。皆風力所轉。奄忽氣絕神逝。不能視聽往來。是風大息矣。初殞之人。雖無風力動轉。身猶煖。火大尚在。殞久之身冰冷。火大亦息。如瓶中貯火。開口透氣。火竟不息。覆口無風。火即隨滅。是則身之風大既息。火亦隨息。所以久殞之人。身無煖氣。風火相持相蒸。能生津液。風火既息。津血不生。故殞久之軀。化為膿汁乾枯。唯白骨在。此時水大亦息。白骨屬地大。白骨久之又久。化為灰塵。散盡歸于虛空。到此時。打破虛空。尋前所愛之身。畢竟不可得。而此身生從風生。滅從風滅。是此四大幻生幻滅詳矣。如何于此腥臭四大之上妄生我愛。起貪嗔癡而自纏縛。又則此心原是六塵緣影。色來分別色。聲來分別聲。如鏡現相。青來現青。黃來現黃。若離六塵。則此分別心畢竟無有。如何將此分別生滅去來之心妄執為我。起貪嗔癡而自迷顛。若人時時檢點身心。密照觀察。明知無我。則貪嗔癡不待功力降伏除

遣而自不生。

或曰。若身心畢竟無我。則業報輪轉、聖賢脩證皆成烏有。謂聖賢脩證、業報輪轉則不無。皆無性無我故也。若有性有我。凡則決定凡。聖則決定聖。又豈容脩證哉。又若有性有我。此則決定此。彼則決定彼。又豈容輪轉哉。因斯無性無我。故有業報輪轉、聖賢脩證。是則世出世法皆是因緣合和幻有。更有真我一著。唯人自悟始得。無容言矣。

31. 示五峰梁居士

湖南武攸紫陽五峰梁老居士。忽悟生緣有盡。欲作來福。入五臺飯僧。從予受優婆塞戒。法名音範。受戒訖。一日白予曰。老朽七旬。明知念佛成佛。但妄想不能遣。被他擾亂。不奈其何。求師指示。

予曰。居士年已七旬。還有好衣服不曾穿著麼。曰。弟子七十年來。本地麤布衣服已穿足了。

予曰。居士還想好絲綿絹帛穿麼。曰。弟子田舍人家。豈妄想于此。

予曰。居士還有好飲食不曾嘗著麼。曰。若論本地麤茶澹飯。七十年來皆已喫足。不過只是者箇滋味。若貴人之食。天人之供。非弟子所望。

予曰。居士還想買田地、起房屋麼。曰。弟子田地可以供朝夕。房室可以蔽風雨。縱無田地房屋。七十歲人亦不復作意于此。

予曰。居士還有恩不曾報麼。還有冤不曾報麼。曰。弟子曾未有冤。縱有。今為佛弟子。只有解。又豈肯結耶。世間小恩頗酬一二。佛祖父母大恩。非一生一世可能酬盡。隨分做去。亦不敢強作。

予曰。居士還有子孫之念未盡麼。曰。今幸有二子數孫侍前。頗知承順。不可謂之無子孫。若是子孫後事。隨他各人自己帶來、自己受用。天地鬼神尚不能與奪。弟子又豈能與之耶。子孫後事。亦不敢妄慮。

予曰。老居士還有長壽之想麼。曰。福壽亦是前緣。非一時妄想可致。若一時可想得。諸人皆可想得。古今皆有不老不死的人。從古至今。有幾人常住。若論仙壽夭壽。亦非一時可想得。弟子今則年迫七十。往前縱多活幾日。只有老景、衰景、苦景。決無三十二歲強壯之樂境。又壽固當愛。能作為有益事、能修行、能報恩可矣。而今頹齡之人。只是喫飯穿衣而已。今日如是衣、如是飯、如是大小便利、如是男女奉事。明日亦不過如是衣、如是飯、如是大小便利、如是男女奉事。有何新鮮、有何增益。依弟子拙見。人至七十歲壽可知足。往前再有不得受。若無亦不敢妄求。

予曰。居士七十年來。衣也穿足。飯也喫足。子孫足。童僕足。田地足。房屋足。福足壽足。禮懺誦經。冤親平等。事事都足。謂妄想不能遣。還妄想個甚麼。曰。不知不覺便亂想去也。

予曰。此是無計散亂。非善惡妄想。吾今與汝指示一大妄

想。則一切妄想都遠走高飛去。若論居士事事都足。只是一件妄想不曾足。只不曾見阿彌陀佛。如今只是要見阿彌陀佛。茶裏飯裏只想見阿彌陀佛。行住坐臥。念念相續。只是者一個妄想。如鐵囫圇相似。無斯須縫罅。一切妄想如何得入。若一切妄想不能擾亂。當下便是解脫身。後決定往生安養。面見彌陀。悟明心地。既悟明心地。百千三昧、無量法門。了然當下。豈非頓登佛地。

居士唯唯領旨。晝夜只是一句阿彌陀佛。無有間斷。與二子朝夕課誦。無少懈廢。二子善能承事孝敬。如手足之應心。和合無礙。可謂難其父難其子。誠德星聚于一門。金剛種子自一會而來。不然。何父子上下同志同心、同見同行若此。在昔維摩詰、龐公蘊。雖示居塵勞而超然劫外。彼出正法、象法時。不足為難。若居士父子出於今時。末法之末運。魔強法弱。而能全家和合。遊心世外。實為甚難希有。若在名邑大邦。佛法興揚之地。亦不足為難。出此偏方僻地。曾不知三寶為何物之處。而能挺然獨立。諦信無疑。不為患難逆境之所移異。更為甚難希有。此非一佛二佛三四五佛而種善根。曾於無量百千佛所種諸善根。乃有今日之信根信力。如居士生平善行。筆不能盡描。將來所作。亦不能先述。但臚計目前一二以鳴其後云耳。

32. 示若訥舒公工夫切要

向上一事本無迷悟。豈容修證。既不容修證。何處得工夫來。凡說工夫。都是第二門頭事。雖是第二門頭事。免不得做一番始得。做到那工夫不到處、知見不行處。方見得本無迷悟

修證。而不礙修證工夫。其修證工夫總為消磨無始以來妄想習氣。又妄想習氣雖多。總不出我愛為根。若大丈夫將無量無邊妄想習氣揉成一箇我愛。以金剛王劍一揮直斷。是謂頓登佛地。古人謂「撒手懸巖處、分身萬象中」是也。倘未能頓斷。便漸漸消除。如是愛根。深隱微細。潛伏藏識。游戲諸根。無少間斷。若不諦審諦觀、細微覺照。一坐之間。被他牽的天堂地獄走幾旋復。猶不覺知。可不慎哉。如斯我愛。雖是游戲諸根。最切要處有三。身語意是也。如是三處。我愛出入最多。向此三處把定。不要他行。或伏或斷。諸根自然清淨。首楞嚴經云。「一根既返源。六根成解脫。」一根歸源。六根尚爾解脫。此以三處伏斷。諸根豈不清淨。肯向此三處做手腳。是為切要。

凡身妙行。行止安詳。先人後己。勿矜倨。勿掉舉。凡語妙行。言辭柔軟。悅可眾心。不違諍。不譏謗。凡意妙行。舉心動念。平等一照。弗憎愛。弗彼此。若于此三處隄防。使我愛不行。而修身、齊家、治國、平天下。事事圓備。超凡入聖。亦不越此。是謂出世大功德。出世大名稱。世之功名。誰與語焉。離此別求功名、別求工夫、別求玄妙、別求解脫。予不知也。若于我愛不除。縱得玄妙工夫。深禪大定。智慧神通。皆為魔業。若于我愛不除。人前不須說道理。說道理何為。人前亦不須談佛。談佛何為。不唯不須談。亦不必信佛敬佛。既不從佛所行。信敬何為。此是老實說話。肯虛心一照。未始不無小益。若依此做工夫。又不必待林下時。即從今日始。即從今日立地成佛。若待林下時纔做工夫。即屬休憩枯槁之行。若是向上人行履。決然不待。人都為一待字。擔閣了一生去也。信

之信之。

33. 示屏伯王公

若論此事。不揀在家出家。貴在極力承當。便能立地成佛。屏伯王公年二十一歲。穎悟不群。內外博涉。蔬食已久。身心益壯。是知從清淨慧根中來。勝性乃爾、精純若此。

崇禎元年二月十九日。公造本庵。受佛淨戒。病僧為證明。特曰。戒之本體。未受之前不曾失一毫。既受之後未嘗得一毫。其授受得失之跡。皆隨妄想分別耳。公之根性猛利。當究戒之本體。然本體既明。行跡無往而不隨順矣。行跡者。迷悟染淨、聖凡因果、得失去來、是非憎愛是也。本體者。本無明昧清濁、善惡業報、持犯取捨、有無起滅是也。若不識戒之本體。縱使戒行十成清淨。坐寶蓮華游十方界。成等正覺轉大法輪。皆生滅門中事。焉能頓超生滅。但看生從何來。滅向何去。看得生無來處。即生本無生。看得滅無去處。即滅本無滅。生滅既空。何處得有賢愚貴賤、長短高下、差別等相。若於此處放捨身命。是謂頓超生死。是謂頓登佛地。是謂隨順覺性。是謂金剛戒體。而苦樂榮枯、毀譽起止又豈能間奪哉。若然者。便能出沒自在。逆順逢源。觸處無礙。方是持戒到家。真實受用。大解脫田地。

爰公之尊大人六來長者。與病僧有方外之好。凡書問往來。唯以此事提撕。見諦高明。機辨精銳。六來長者曾受教于塘南王公。塘南王公與五臺陸公密契斯道。皆法門正眼。陸公深入達觀大師之室。則知公今日信佛、冥心向上。實道脈有宗。可謂源遠而流長也。

34. 示菩薩戒弟子公茂謝居士

楚南古潭湘中。昔時佛法興揚之地。南承衡嶽。東接道吾、石霜。西連大滄、芙蓉、雪峰、龍牙。北近德山、龍潭、藥山、夾嶺。觀當時諸大老往來上下湘地。乃咽喉之所。其興揚光景。不言可神會矣。

病僧甲戌秋循方乞食。謁諸祖道場。過湘中度歲。于李公園中。率同志者六人乞佛淨戒。病僧為證明。公茂謝居士更有超然處。是知湘中之地。佛法靈氣尚在。

公一日請益曰。諸佛向上一事。可得聞乎。病僧曰。若論向上一事。諸佛諸祖亦無可奈何。因無可奈何。所以諸佛諸祖退身一步。向第二門頭拈花豎拳。言向上、言本來面目。皆無可奈何之舉。總與那邊不相應也。圓覺經云。「應當遠離一切幻化虛妄境界。由堅執持遠離心故。心如幻者。亦復遠離。離遠離幻。亦復遠離。得無所離。即除諸幻。」首楞嚴經云。「菩提心生。生滅心滅。此但生滅。滅生俱盡。無功用道。若有自然。如是則明自然心生。生滅心滅。此亦生滅。」又云。「本然非然。和合非合。合然俱離。離合俱非。此句方名無戲論法。」祖師云。「與麼也不得。不與麼也不得。與麼不與麼亦不得。」大抵諸佛諸祖只是一味鏟削去。令人妄想滅盡。而本有自現。病僧不然。只教人增妄想。妄想增到極圓。亦與本體不相違背。居士可信否。

公曰。請和尚指示。病僧曰。居士即今在甚麼處。公曰。不知。曰。觸公頭覺痛麼。公曰。覺。曰。觸公足及左手右手

覺痛麼。曰。覺。曰。正覺痛時。還護惜否。公曰。護惜。曰。離身一寸。還覺痛麼、護惜麼。公曰。尚不覺痛。護惜甚麼。

曰。則知公妄想只遍一身、只護惜一身而已。公欲頓超佛地。無別奇特。只將一身妄想充而廣之。廣之又廣。至於周遍法界。則與諸佛同體平等。

初將自身妄想、護惜自身之念、護惜父母妻子。與護惜自身同。又護惜奴僕、象馬、牛羊、雞犬、貓豕。乃至室中蛇蝎、蚰蜒、蚊蚋、蚤蝨、螻蟻等物。一一護惜。又護惜宮室、飲食、衣服、書劍等物。是一身之妄想。能周遍一家。是為一家之長也。

又將此妄想護惜鄰友親眷。周於一方一境。乃至四鄉。此妄想周遍一邑。即為一邑之長也。又復周於一郡一邦一國。即一郡一邦一國之長也。又復周於鄰國、諸國、一小洲、諸小洲。乃至周於一南贍部洲。即一洲之長。乃鐵輪王也。又復周二部洲、三部洲、四部洲。此妄想既周一四天下。即金輪王。為四天下之長也。乃至周鄰四天下。或十或百、或千或萬。乃至周遍百億四天下。上至非非想處。下至阿鼻大地獄。若此三千大千世界同一個妄想。苦樂均等。即三千大千世界之長。乃一世界之佛也。若周相鄰三千大千世界。或十世界、百世界、千世界、萬世界。乃至恒河沙數世界。乃至周遍一世界幢。或十世界幢、百世界幢。乃至不可說世界幢。是則盡一世界海同是一個妄想。此一世界海中所有世界、所有諸佛、所有眾生。一一莊嚴、一一供養、一一度脫。是一身之妄想廣之至於一世界海也。又將此周遍一世界海之妄想周於鄰世界海。或十或百、或

千或萬。至於恒河沙數世界海。或百千萬億恒河沙數世界海。至於一佛刹微塵數世界海。乃至百千萬億佛刹微塵數世界海。廣之至於盡虛空遍法界一切世界海。同一妄想。周遍護念。如護惜現前一身。等無有異。是將一身妄想等遍法界。其廣大何如哉。若果以一身妄想廣至法界。返觀現前一身。若有若無。何生何滅。何彼何此。何苦何樂。何染何淨。何聖何凡。即一日萬生萬死又何為慮哉。豈不是大解脫、大自在。豈不是頓登佛地。亦能超佛越祖去也。或曰。縱使一身妄想等遍法界。或可頓同諸佛。何能超佛越祖。曰。此妄想既等遍法界。此一真法界中豈有佛祖名位耶。是頓能超佛越祖非虛語也。又則諸佛諸祖一味鏟削去。病僧一味增長去。即將妄想作等法界智。如捏土成金。取水是酪。手段迥與諸佛諸祖不同。此亦有超佛越祖標格。居士應諦信之、力行之可也。

35. 示淨戒弟子覺華林公

若論此事。無別奇特。只是放下身心。便能頓超佛地。今時學道。種種取捨。要求妙悟。要求辨才。要求出生死。要求大自在。乃至要求超佛越祖。皆是取捨之心、我見未忘也。若無我見。則種種馳求當下停寢。豈不是大解脫人哉。古云。「苟無煩惱等病。法身當處現前。」是為明證。是則種種取捨煩惱起於我見。我見本於身心。故身心放下。萬事畢矣。若放身心不下。當行時看是何物行。坐時看是何物坐。住時看是何物住。臥時看是何物臥。行住坐臥莫放絲毫縫罅。時時照管。自有看破時節。到那看破時。諸佛將光明相好之身、廣大智慧之心放在面前。亦無愛樂。何以故。從門外入者。不是家珍。自能於

無身中現種種身。於無心中現種種智。盡未來際。變現無窮。從此諸佛諸祖尚不能瞞頂。而世間諸法又豈能障礙哉。豈不是頓超佛地。是妙法門。宜盡心焉。

36. 示熙明周居士

邵陵周子。號熙明。宿植德本。具大根器。幼年性多自嗜。聞人說佛。不言信。不言不信。但默之而已。病僧居邵陵十餘年。未曾一識公面。一日。同若訥公至庵。聚首深談。而信心愈堅。供養日密。相見日新。是知佛性轉變。在因緣時節。非人力所能強也。宅內修香水樓。上供阿彌陀佛莊嚴佛像。務肖佛是求。

公一日來庵中。痛為發之曰。聞公造佛欲求滿月像、無異於佛。是否。曰。是。但匠人不如意。無如之何。病僧曰。佛化身有三十二相、八十種好。他受用身有佛刹微塵數光明相好。佛自受用身光明相好等遍法界。唯佛與佛乃能知之。縱地上菩薩不能知其少分。況地前菩薩。乃至緣覺、聲聞、人天智慧可能知之耶。上至菩薩、下至聲聞、緣覺、人天所有智慧。盡未來際求佛受用身光明相好。不能知其少分。況自受用身可得知之耶。是以菩薩乃至三乘人天智慧。欲以色相肖佛。皆未能得。況世間一凡品之匠。何能以色相而肖佛耶。故欲色相肖佛。不如求心肖佛為得矣。心肖佛者。先觀佛無無明。自應莫生煩惱。觀佛無嗔恨。自應常生慈悲。心本是佛體。而又同佛慈悲喜捨之用。體用肖佛。非佛而何疑哉。豈不是頓登佛地。豈不是成佛妙門耶。

公肯其說。復為探之曰。公今所造佛。是心佛、不是心佛。公曰。造雖因心。但色是外相。豈可認作真佛。

曰。如何是真佛。曰。心是真佛。曰。何者是心。曰。慈悲喜捨豈不是心。曰。心則是心。未必就是真佛。若論如來遍法界智慧色相。皆屬外相。皆心之用。非心之體。若得自心本體。即是如來清淨法身。何內何外、何真何假、何心何色之分別耶。古人云。「識得心。大地無寸土。」拈來一草一葉、一塵一縷。皆具如來全體。豈可於差別一相一好中求佛肖耶。

又謂曰。公欲成佛否。公曰。不欲成佛。修行何為。曰。公已成大佛一尊。何欲再成。公不語。曰。公視現前土木金石、紙素白氈是自心否。公亦不語。曰。公必欲肉身知心成佛方是自己成佛耶。公猛省曰。某從今已去。廣造金佛銀佛、泥佛木佛、紙佛絹佛。即是自己分身無量。即是常住法身。再不分別誰真誰假、誰內誰外。病僧曰。豈非籠侗如如耶。公曰。和尚再惑亂某甲不得。曰。公已到穩當田地。善自護持。

37. 示念心袁居士淨土語

諸佛與眾生共一法性。同是覺知。無二無別。眾生即佛。佛即眾生。平等故也。第眾生之覺。覺知有身心有生死。有人我有憎愛。而生種種惱亂業報。生死苦惱無有窮盡。故名眾生。諸佛同此覺知。能覺身心如幻如夢。本無所有。非生非滅。無我無人。遠離憎愛。無有煩惱。故名為佛。

是佛與眾生覺性本同。但有煩惱名眾生。無煩惱名佛。故異耳。諸佛因覺身心本空。澄湛寂淨。而生種種光明相好。智

慧神通。依報正報稱滿法界。受用無盡。眾生因覺身心實有。念生死、念衣食、念名利、念欲色、念睡眠。被此諸念染污自心。猶沙土濁於清水。汨昏未能澄湛映物。擾亂自心。猶隙中塵。飛揚不定。失空澄寂。覆蔽自心。猶鏡上痕。障蔽光明。不得顯現。故狹劣愚昧。沉溺苦海。無有出期。是以諸佛愍念眾生。雖有自性廣大。法財不會受用。因所念狹劣。故能念之心不能超越。故示之以諸念佛淨土法門。使所念殊勝。則能念之心自然清淨光明。超越世出世間去也。或教念佛名號。或教念佛光明相好。或教念佛智慧慈悲。是藉諸佛慧力光明。洗滌自己浮想雜念。諸念既盡。自己常光自然現前。與佛淨樂無二。又念佛光明相好。將自念入佛光明相好之中。藉佛勝妙印我諸念。亦成光明相好。與佛無異。依報正報一切平等。究竟常住。此二念佛。實成佛妙訣也。或教念佛清淨法身。即是自己本性。觀自性真空。非生非滅。不染不淨。不增不減。寂照含融。周遍法界。此中寂而常照。名法性身。照而常寂。名法性土。身土一如。湛然常住。此亦念佛成佛。出生死最上一路。此諸念佛妙行。唯持佛名號一行最簡最要。一句阿彌陀佛。時時念去。不著有、不著空。自然圓妙。又仗彌陀願力攝持自心。念佛為因。彌陀願力為緣。決定往生極樂。面見彌陀。此實念佛成佛無上妙圓法行。居士應勉之應勉之。

38. 示止甫蔡居士淨土語

蓋淨土者。乃所依之境清淨。能生人智慧光明。超出輪迴生死。究竟常樂故也。一切眾生一念未生。者段光明清淨本然。周遍法界。是寂光真淨土。縱現出山河大地、人畜鳥獸。未嘗

不清淨。眾生不了六塵境界本自心光。妄生分別憎愛取捨。於輪迴中自取生滅。故名穢土。是淨穢之名。但因眾生之念有分別無分別耳。眾生妄起分別。即淨土名穢土。眾生一念不生、前後際斷。即穢土名淨土。是淨穢但轉其名而性無移異也。若是大丈夫漢。一眼看破聖凡境界。當體全空。盡十方界是一寂光真境。其樂又何如哉。其或未能。但念阿彌陀佛。淨諸雜念。諸念若淨。往生極樂。花開見佛。自然發明無生法忍。此二淨土皆出生死之要門。居士應信之。

39. 示真復譚居士（法名音瀚）

古潭州南雲。乃江右與楚中兩地咽喉之處。唐宋佛法勝時。南嶽青原兩宗衲子往來。必經此處。知當時不論緇素。信此道者。必半叢於市。自宋末至明初以來。法道漸微。南雲之地亦隨之闕寂。雖有古道場地。亦皆湮沒無聞。自世宗年間。法運復起。至於神宗時又大興。禪講律皆得其人。長者宰官互相酬唱。一時內外諸大老光彌海宇。至於長汀幽谷、處子小兒。皆知有佛法。此道不可不謂之復興也。南雲乃有真復譚居士。諸上善人常聚一處。唯佛是從。故攸城環遶。梵宇盛多。僧行安和。皆諸上善人道力之所持也。真復居士初訪病僧於五臺庵中。十餘年來。書問不絕。知居士堅持準提咒。大有定力。寒暑憎愛之境不能間入。在世諦中有如是自在。實為希有。病僧楞嚴經解稿成書。托居士成刻。居士歡喜應諾。期年梓訖。亦一廣大法施。

病僧甲戌秋訪諸聖跡。初之德山龍牙諸處。欲問路青原。

先訪居士於古攸。休夏雨花庵中。地僻園深。松長竹密。鳥語花香。流風疏月。與居士曉夜對坐。心跡頓超。曾未有佛法世法差互之見。如是三月有餘。儼若須臾。臨別方言欲得一語。為一夏相對信具。行時筆硯收什。但應諾而已。病僧別後先至青原禮祖塔。次之西峰禪寺歇息。偶檢居士來書。云唯殫精盡神於密也。一切人、一切物皆一切己。正密中廣大實用。只此一二語。則知居士已向百尺竿頭進步。已向懸崖撒手。古人云。「懸崖纔撒手。萬象自分身。」又云。「百尺竿頭重進步。十方世界現全身。」須是命根斷時。方見得一切人、一切物皆是自己。

病僧喜為發之曰。若論密之一字。亦是強名。本無言說。本無名字。本無心識。故強名曰密。今從方便言說。略為顯發。有密語。即諸佛總持咒語。及諸祖機語。在妙悟於意外。不可思議分解故也。有密意。即諸佛諸祖神機妙用。或語或默。而歸趨難解故也。不唯向上一事在於密傳。即世間法。非密不成。故曰。天機不密。四時何行。地機不密。萬物何生。人機不密。萬事何成。書云。「使由之。不使知之。」此世間成聖成賢之密意也。有密因。亦名正因、佛性。此眾生諸佛共有大根本。佛外無眾生。眾生外無諸佛。心佛眾生。三無差別。故曰密因。亦名密印。諸佛唯以密因印一切眾生本來是佛。無二無二分、無別無斷故。故稱密印。亦名密藏。即三如來藏。微妙圓融。不可思議。故稱密藏。亦名密身。華嚴經云。「唯一堅密身。一切塵中現。無名亦無相。普現於諸國。」更有多名。不復備舉。總之密語密意。皆本此秘密妙因、實相妙法也。使無此向上密事。而密語密意皆虛作矣。居士今日透得諸佛密意。語默動靜

無非密處。一切諸佛乃自己已成之佛。歡喜禮敬供養。不必更要作佛。一切地獄等苦。乃是自己斷不盡底妄想。急要救拔。不可坐視沉溺。乃至現前蚊蚋蚤蟲、螻蟻等物。皆是自身瘡癬疥癩。必要醫得全體輕清。方是大安隱、大自在、大解脫。如有一物不自在。即自身血氣不和。地藏菩薩云。「眾生度盡方證菩提。地獄未空誓不成佛。」此亦密證一心無餘之實驗。居士從今已去。只以一密字廣作佛事。受用不盡。如是密意。豈有是非憎愛間之耶。豈有物我彼此隔之耶。豈不圓妙、豈不廣大、豈不解脫、豈不殊勝、豈非頓登佛地、豈非頓超佛祖之外。居士直恁麼去。不唯天魔外道不能擾。即諸佛諸祖不奈爾何。善自護持。善自護持。

40. 示內白陳居士（法名音潛）

若論此事。不在多知多能。只要直下承當。如何承當。承當我心即是諸佛果體。諸佛既以密證我心而為果體。我心即是菩提涅槃也。既是我心即菩提涅槃。豈非我心即佛耶。心既是佛心。身從心轉。身亦佛身也。身心皆佛。非佛而何。居士如是承當。身心全然是佛。豈非頓登佛地哉。古人云。「不改舊時人。只改舊時行履處。」居士既知身心全然是佛。只為一向錯行了路頭。走向眾生隊裏。名為眾生。如今仍舊是此身心。只轉回來。向諸佛隊裏行去。豈可復名眾生哉。現前眼即佛眼。常觀佛相好光明。觀一切大乘經典。諦觀三界。有是無常、是苦、是空、是無我、種種不淨。無可愛樂。現前耳是佛耳。嘗聞佛法音聲。遠離淫亂、人我鬥爭、是非之聲。鼻是佛鼻。嘗聞出世清淨功德妙香。遠離世間男女身分欲愛之香。舌是佛舌。讚

歎三寶。發揚人善。遠離兩舌、惡口、妄言、綺語、無益之談。身是佛身。常親近禮敬供養三寶。孝養父母。覆護一切。遠離諸天諸僊、邪魔外道、異類鬼神、殺盜邪淫、種種惡行。意是佛意。常念佛慈悲喜捨、智慧光明。遠離貪嗔嫉忿、疑惑惡見、種種妄想。現前眼耳鼻舌身意既遠離眾生舊習。則永脫生死輪迴之苦。而眾生類不能收也。眼常觀佛。耳常聞佛。鼻常嗅佛。舌常讚佛。身常禮佛。意常念佛。是身心與佛常相聚會。行住坐臥。須臾不相遠離。實頓入佛類。若身若心。無絲毫許為眾生處。內之六根全然是佛。外之六塵亦全是佛。是則根境一如。彼此一致。日用周旋。事事法法。廣及十方。遍滿法界。唯一佛體。施諸佛用。別無片事可得。豈非廣大解脫者哉。更有超佛越祖向上一事。應當薦取。古人云。「男兒自有衝天志。不向如來行處行。」居士可不勉諸。可不勉諸。

41. 示闍孺尹居士

若論本分一事。只貴直下承當。不在工夫妙悟。縱使悟得十成。行得十成。證得十成。到頭只成得個應化佛耳。於本分事全沒交涉。如今諸方善知識。教學人參話頭、求妙悟。總為人信不及。承當不下。不奈何。生出許多計較。要人參。要人悟。如有信得及承當去。用參何為。用悟何為。楞嚴經云。「性真常中。求於去來、迷悟、生死。了不可得。」于今學人多分為一悟字埋沒一生。全無出頭日子。縱悟到佛祖頭上。若不吐卻。終為智障。既有悟。必有所悟理。是為理障。所以雲門大師云。法身有兩種病。般若亦有兩種病。此病多因一悟字為咎。

居士直下承當。自心即是諸佛果體。諸佛諸祖既以我心為極果。是諸佛諸祖皆吾心之影響耳。十方國土、三世劫海、情與無情。亦吾心之影響耳。影無實體。響無實性。豈不諸佛諸祖、十方國土、三世劫海、情與無情。都盧是自己妙心。是自己光明。是本來面目。更有何法覆蓋不明而別求開示、求參悟耶。知此。喚自己面目為佛、為祖、為世界、為眾生亦得。喚佛祖、依正世界、眾生為自己本來面目亦得。所以道。「心佛及眾生。是三無差別。」放捨身命。便無片事可得。將手自摸。自頭是佛頭。足是佛足。手是佛手。身是佛身。眼耳口鼻。渾身上下無非佛也。外之山河大地、情與無情。亦無非佛也。古人云。「若人欲識真空理。心內真如還遍外。情與無情共一體。處處全同真法界。」居士知此。豈不身心世界全是一個面目。現佛也好。現眾生也好。現天堂也好。現地獄也好。現羅刹也好。現菩薩也好。總是者個面目。分開也是自己。不分開也是自己。豈不是大解脫。豈不是大自在。豈不是頓超佛祖之外。何處得有佛法知見、玄妙窠窟而為障礙哉。

42. 示上宇呂居士（法名音習）

上宇呂居士。邵陽東鄉巨族。父子勤儉興家。惟知有身家為上。餘則視為閒事耳。病僧甲寅春入邵陽。丙辰年結庵於雙清磯。後以調理殘喘為計。合郡士夫賢善以五臺庵新成。規矩頗嚴肅。居士夫婦入庵同受五戒。同起法名。居士名音習。道伴名音翕。父亦領五戒法。名音璿。予臥疾濱江二十載。居士常年惟禮佛持經。隨喜功德。訪問師友為事。愛樂佛法。楞嚴經十卷能背持。此居士之精進可知矣。甲戌予持鉢諸方。恨不

能隨其行。每欲尋跡就我一晤。為母老不敢私行為難耳。予丁丑冬謬膺雲居灑掃之役。己卯冬。居士安慰母懷。遠問雲居。一見道容。大非昔日可比。知其胸中深有契入。在山同眾飲食。同眾作息。同眾入壇受菩薩戒。恐母在家垂念。再三告歸。將行。拈香請益。病僧曰。我在邵陽。居士往來庵中。已盤桓十餘載。今又覓我於二千里外。見病僧有何長處。而能忘遠近疲勞、為我殷勤一至於此。居士曰。大師深處。弟子何能知之。但見大師淺處。與尋常僧俗迥然不同。故願常親近。不喜遠離。曰。居士見病僧淺處。可現前指出。為汝證明。曰。每見大師身不私安。有所作為。人皆樂從。語不私發。有所言說。人皆樂聞。意不私欲。有所思念。人皆樂合。每見大師三處清淨。與人不同。故生愛樂。常欲親近。曰。居士愛樂親近。可欲學病僧乎。曰。不欲學。親近何益。曰。病僧身口意。學佛之身口意。居士欲學病僧。即學佛也。若學佛即佛。豈容他說乎。如世百工。學磚師即磚師。學木師即木師。學醫即醫。學巫即巫。學賢即賢。學聖即聖。學佛即佛。豈可名他乎。蓋人一念未生前。者段光明。佛與眾生。無二無別。此是人人本來面目。亦名自性天真佛。是則人人本來是佛。但以所行、所言、所念與眾生同。故名眾生。若所行、所言、所念不與眾生同。豈可復名眾生乎。但身學佛身。口學佛口。意學佛意。身口意全然是佛。眉眼耳鼻、髮毛爪指、皮肉筋骨。渾身內外。無鍼鋒許不是佛。無鍼鋒許不是大光明藏。無鍼鋒許不是自己本來面目。但能學佛。一切具足。何須更待指示。居士即今還願作佛耶。願作眾生耶。曰。蒙大師如是指示。佛不願為。豈為眾生耶。曰。何因不願為佛。曰。若見有佛可為。與眾生知見何別。曰。

不為佛。不為眾生。畢竟為個甚麼。曰。弟子到此稍知好惡。曰。如何是知好惡底事。曰。從今已去。遇佛即佛。遇眾生即眾生。但不生揀擇耳。曰。即此不揀擇便是。居士決定信處。應善護念。

43. 示伯賢王居士（法名音蓉）

諸佛諸祖。種種言教機用。總是念佛一事。但有理事頓漸不同。究竟只是念佛成佛至矣。又則佛本是一。唯念有差別。因念有理事頓漸不同。致所見佛有法身報身化身不一。是佛無差別。差別在念耳。此念大開二種。

一理念。即念佛法身。亦有二種。一離名字念。但念一念未生。本無生佛之名。亦無罪福之相。但有佛見法見。即屬染污。失於正念。所以當時釋迦拈花、迦葉微笑。不立言說。恐落名相。諸祖相傳。唯此一清淨正念。所以祖師門下。凡見人起心動念。非棒即喝。如不棒喝。即向異類中行去。總是善護念清淨自性天真佛也。亦善護念一切眾生。使其一念不生。即如如佛。是古人棒喝機用。乃念佛之妙行。非別有奇特。此是離名字念。二亦念佛法身。亦不以佛念、不以法念。不以有念、不以無念。此與前念似同。此但見有法身可念。前念法身亦不立。更有超越此二種。俱為理念。念佛清淨法身也。

二事念。其要有三。一口念。常持佛名號、贊佛功德。二身念。常頂禮恭敬、供養親近。三意念。有二。一念佛福究竟。報身有無量無邊相好光明。二念佛慧究竟。智身有無量無邊慈悲喜捨、解脫神通。此三念五行皆事念。念佛報化二身、福慧

二嚴。是則佛祖言教種種不同。總不出此念佛二字盡矣。

又事念中五行。唯持名一行最簡最要。不用觀性觀相。不用求解求悟。但持名號。將無量劫來妄想習氣都化為智慧光明。持此佛名時。念念是法身現前。念念是光明相好。念念是慈悲解脫。豈不是三身圓現、五眼圓明。唯此南無阿彌陀佛六字盡矣。何用別求玄妙、反為知見之累耶。居士宜勉之。

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第四

(盛京錦州府錦縣信官王世初仰承中憲大夫嘉興府知府先考王公號遵度遺願。喜刻顓愚和尚語錄第四卷。計字壹萬貳千三百四十七個。該銀柒兩四錢一分。仗斯般若之因。早證菩提之果者。康熙十三年十二月 日楞嚴藏經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第五

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

書問

1. 答思履王公

承佳命書法語。謹按禪關策進²錄二條不知可否。來書云病在道理、話頭作解。於生死分中全不相干。此真法語。是今古參禪人通病。非病過人不能知此。非到家人不能言此病。僧每謂此事不難。古今人難者。只是我心不死耳。我心若死。有何難易。有何取捨。有何憎愛。有何迷悟。一切人都是說得行不得。若說得到行得到。佛祖即我。我即佛祖。何須別求妙悟玄理。何必言難了又難。如今人舉目觀日月。與古人一般見。此見豈非釋迦當時睹明星之見、孔子當時觀川之見耶。今人靜耳聞鐘鼓。與古人一般聽。此聞豈非釋迦當時聞梵音之聞、孔子當時聞齊韶之聞耶。今人舉手持捉。與古人一般用。此手豈非釋迦當時拈花之手、孔子當時援琴之手耶。今人運足行道。與古人一般行。此足豈非釋迦當時昇天宮之足、孔子當時登泰山之足耶。若說今人視聽言動不是古人視聽言動。何故釋迦也在此太虛空中。孔子也在此太虛空中。諸人皆在此太虛空中。共一太虛。如何今人不是古人。虛空尚不可二。真性豈可二耶。所以說諸人不是釋迦孔子則不得也。若說是。又不肯承當。設有狂夫。自言我是釋迦、我是孔子。及乎到是非憎愛關頭。不

² 禪關策進是書名，蓮池大師所輯，參禪者讀之最受警策。

唯過不得。一毫捨不得、一毫放不下。是知此道人人具足。個個現成。只要肯行、肯承當、肯放得下。便無他矣。是知執事言道理為病。是知言也。聊復來意。

又

來論為浮名所誤等語。知執事為未明此事者發之。病僧亦就未明者試言之。蓋經世出世法。通屬名字。然名不誤人。人自誤其名耳。使世無君臣父子、夫婦朋友之名。則倫理仁義之道廢。而天地日月亦無由知。名於世豈可須臾離哉。出世法曰真如、曰佛性。亦假其名勸誘人心。使人依名尋義以盡心焉。設無名字。則世出世法俱無建立。若到名不立處。實超越世出世間。為聖凡不二之地。此地雖尊貴無名。亦由名而入。亦不外其名別有一地為無名。即名就是無名。雖是無名。不妨千名萬名。此方是大人境界、無礙行徑。又如周孔黃老。千古已上人也。至今垂名不朽。是先世聖賢以名導後世作聖賢。為正世之性情。又如威音智勝。塵劫已前佛也。至今名稱普聞。亦是過去諸佛以名接人作佛。為出世之津梁也。是知先聖先覺非名無以垂化。後聖後覺非名何以導心。此名能成立世出世法。能軌人成聖成賢。是名不誤人也。人錯亂其名、壞世出世法、致于地獄三途者。是人誤其名也。今人多分以名為誤者。總是好名之心不真。裝點造作。用心支持。唯恐失之。見得為累為苦。別自偷安放閒。為灑為樂。此是俗名俗利。甚至有不足言者也。

果真好其名。依名踐實。稟明於心。得失不能劫其懷。死生無以二其念。好名至此。即是聖賢。又何疑哉。其實名利即聖賢事業。但人不知小大。故為誤。世間名利。誰過於堯舜禹

湯、周孔黃老。名溢六合。利被四夷。此諸聖賢。還是名利誤耶。還是不貪名利耶。諦觀此諸聖賢。是真踐名者也。

又出世間名利無過於佛。名周法界。利滿性海。盡未來際。受用不盡。天上天下、世出世間。再無有超過佛之名利。最廣最大、最久最遠。此亦是真踐名實處也。人多分圖小名利。不知圖大名利。小名利者。名利一身一國、一鄉一家。大名利者。名利被於天下。成天下人之名。成天下人之利。以天下之名利即一己之名利。何其大耶。使盡法界馳一名。盡法界成一利。而言思所不能及。又何其廣大耶。只因愛小失大。私於一身。則有彼此鬥爭、貪求苦惱。是人自誤。何況誤中更有誤耶。若圖大名利。則與聖與賢、若佛若祖同其途轍、共其受用。如此真名真利。豈可以偽名偽利雷同、一併棄耶。此等真名真利實棄不得。愈棄愈光。愈棄愈大。至於祖師門下。萬里無片雲。青天也喫棒。更見廣大殊勝。如是名利可不盡心焉。

因來論為導諸人假言浮名之苦。意在要人知此真名真利一著在。病僧代執事發之。不知可執事意否。如不可。幸擲水火中。儻有一二可者。願奉法供養。

2. 答孝則車公

道理流行。顯晦有時。山水與人物。發動有時。人之精神著於詩文。出沒亦有時也。曾讀譚子詩歸序。云素所得名之詩。或有不能例次者。亦必其人之精神至今日而當止。間有收無名之篇。若今日始新出于紙。亦必古人之精神至今日而當一出。此非人之精神著于詩文而隱顯有時耶。建于功業者亦然。吾攷

梵網經上卷。從古來經歷多少智人。未有得其句者。今有織山從而釋之。新安黃山從古來未開。今有普門頭陀開之。文章山水。千古之下以待其人。豈非文章山水之精靈得無因人所顯耶。洪覺範禪師所著僧寶智證等傳。及石門文字禪諸書。至我朝世宗年間埋沒。多不聞其名者。達觀禪師一出。策杖寰海。遍搜尋之。一一皆得。隨得隨梓。海內遍傳。若今日始出入。謂達觀大師乃覺範後身。重來翻騰故書。觀其所行。若實然。今足下曾夢為傅大士後身。今又為船子偈釋。使非傅大士後身。決是船子後身重來。翻騰自己千百年無人所知之公案。非彼即此。信無疑矣。船子當時赤窮擔板。一生樂于山水。末後只得夾山一人。其精神亦埋沒多載。而今方露。是人之氣運與精神相等也。

船子四偈古來無人發揮者。因船子印夾山云「釣盡煙波、金鱗始遇」之句閣誤了。只說船子意在求人。所以不曾在宗旨上照管。今睹足下之釋。始猶為疑。偶憶船子有歌云。「有一魚兮偉莫裁。混虛包納甚奇哉。能變化。吐風雷。下線何曾釣得來。」正合「夜靜水寒魚不餌」之句。恍然開悟。合爪讚歎希有。千載奇遇也。

衡素未精文字。於佳稿未免有隔礙。觀前二釋最精肯。無容擬議。後二釋尚未悟釋中幽旨。據鄙見。「本是釣魚船上客。偶除鬚髮著袈裟」。正是「藏身處。沒蹤跡」。「佛祖位中留不住。夜深依舊宿蘆花」。正是「沒蹤跡處莫藏身」。此是船子綱宗。又「本是釣魚船上客」。是「三十年前山是山、水是水」。「偶除鬚髮著袈裟」。是「三十年中山不是山、水不是水」。「佛祖位中

留不住。夜深依舊宿蘆花」。是「三十年後山依舊是山、水依舊是水」。足下大悟徹。後四字見得極的當。又「一波纔動萬波隨」之句。總收上來「藏身處沒蹤跡。沒蹤跡處莫藏身」。一動一切動。一有一切有。一空一切空。空有融通、事理無礙。通屬者邊事。總不與那邊相干。所以云「夜靜水寒魚不餌。滿船空載月明歸」。有僧問一禪師。是非不到處。還有句也無。師云。一片白雲不露醜。天童拈云。盡力推爺向裏頭。亦同此旨。不知高明可其說否。原稿壁上。希照入。

3. 答吾鏡居士

讀來論。取捨未忘。愛憎猶存。不能當處解脫。又云日坐擾中。高明可自檢點。擾是何物。人若不擾。豈不成無用如如耶。若不能解脫。又看是誰纏縛。又諦審所愛是何物。所憎是何物。古云。「撲落非他物。縱橫不是塵。山河及大地。全露法王身。」是則所愛無別物。所憎無別物。何必于憎愛中妄有憂慮。再推研能取是誰。能捨是誰。古云。「妄想從來本自真。除時更起一重塵。言思動靜憑渠力。仔細看來無別人。」是則取也是本來、捨也是本來。又何于取捨間妄自懊悔。古云。「任從一夜風吹去。只在蘆花淺水邊。」又六祖大師云。「惠能無伎倆。不斷百思想。對境心數起。菩提作麼長。」老居士依六祖大師如是會去。豈不當下解脫。有何取捨淨穢為疑礙耶。今人言不能解脫。只是成佛之心不歇。求神通妙用心不歇。求寂靜心不歇。所以云不能解脫。此是自己追求、自己纏縛。若無成佛妄想、神通寂靜妄想。何處不解脫、何處不自在。又云不能味無味之味。更恨齒牙不利。不能大張口而全吞之。老居士大似全身香氣又

道不曾偷香。有僧問曹山。清銳孤貧。乞師拯濟。曹山曰。銳闍黎近前來。銳近前。曹山曰。泉州白家三盞酒。喫了猶道未沾唇。老居士喫了蓮蒂。全身蓮花香。又道不曾全吞。如是說話。想恐病僧索蓮蒂之價。病僧不索蓮蒂之價。老居士亦不必作瞞心語耳。

4. 答六長劉公

睹來言夙習根深。心花隱隱。想是假設通書之常套。不然何作是說。若說心花隱隱。衡不知其所隱。不知天覆著地埋著。若天地不能蓋覆。萬物又豈能遮藏天地。萬物既不能掩蔽。又何為隱耶。豈不知仲尼有言。「二三子以予為隱乎。吾無隱乎爾。」病僧曾有詩曰。「明明大覺心。土木與瓦石。」若爾。明暗色空、飛空走陸、言思動靜、一切妄想。又非大覺心耶。既爾。盡法界囹圄是個大覺心。不知隱向何處。又不知為何物所隱。若謂不隱於處、不為物隱。目為隱隱。既爾。而山河大地、明暗色空又是何物耶。是知足下言心花隱隱實為套語。今人處處不能了然者。總是不肯安心。種種馳求。或求禪定。或求妙悟。或求解脫。或求超佛越祖。由此馳求心不歇。致令心不安。不得現量受用自心境界。妄見彼此。故有謂難得悟、難得解脫。由此轉生疑難。徒自迷悶。若是心地一安。便是大解脫門。無處不自在。有何迷悟、有何縛解、有何隱顯。是知言此皆心不自安。知足下已躋超然。此言特為探竿耳。衡不揣迷昧直言。一為謹復。

5. 與飛孺王公

五臺聚首數次。語默中、偈句中。知足下般若根深。向上一事信得真切。八風不能移也。大抵此事不是厭鬧求靜、捨忙偷閒。要在鬧靜忙閒中討個主宰。於此窺得主宰。便是自性天真佛。即是大解脫。於鬧靜忙閒中。如游園觀。出入自在。隨苦隨樂。皆是自分中受用。豈容取捨哉。此時足下同令叔蒞任。正是自驗自力、自信自得時節。平日所見所言。要在此時見主宰、見力量。只在閒時靜時纔做工夫。總然做得。亦無用處。所見所言亦無用處。道果無用耶。道果無用。學道何為。道果有用。不在此時用。更待何時用耶。所以病僧言此時足下正好著力。

令叔言將樂多古道場。田連阡陌。被前當事者充作餉費。此時此事最多聞之。不勝太息。倘可為者。足下全令叔商議。如能復作僧田。則見護法之力。此時邊事甚急。餉為重務。萬一不便。姑從後可也。謹復。

6. 答貞復譚公

讀手書知足下繩一勝行。堅持咒心此最妙一行。大抵顯教雖云生慧。慧明而定自成。如定不成即屬狂慧。密教雖云生定。定成而慧自發。此持佛心印。非凡外小乘之癡定也。狂慧不定或有。而持咒之定未有不發慧者。是知修行還重持誦為上。縱有掉舉昏沉。不必除遣。當觀掉舉昏沉是何物、自何來。都是自己光明覺體。只是一心持咒。咒力極成。如是掉舉昏沉。應念化成無上知覺。到此。方的信無明妄想都不是別人。

震旦人多重顯教。不免有沉溺知見之誤。西域人多重密教。而身心解脫堅固者勝多。是知密不兼顯定成而慧自發、顯不兼密而能破障得定者鮮矣。首楞嚴經云。「汝等有學。未盡輪迴。發心至誠取阿羅漢。不持此咒而坐道場。令其身心遠諸魔事。無有是處。」此佛語可為證明。

足下堅此一心。持誦不輟。若身若心。刺成一究竟堅固妙定。真窮惑盡。離障解脫。自利利人。從始及終。一切佛事究竟無餘。不知足下可允其說否。法音回。專此問候。并復來意。餘法音能口悉。不備。

7. 答白蛟劉居士

向上一事。元不屬文字不屬無文字、離文字不離文字。皆因分別生起。盡屬法塵邊事。與本分事俱無交涉。試著量目前所見。將何法為文字。既無文字。又依何法說個離文字道理。豈非離與不離皆門外之邊。究竟諸佛諸祖無有一定之法。如人不達語言三昧。如來以文字導之。說出一大藏教。非如來必定教人從文字入。乃為不知文字者一期方便耳。如人泥於文字見解。如來以離文字導之。故有拈花等事。非如來必定要人離文字悟入。乃為泥文字者一期方便耳。是則離與不離皆一期方便。豈有實法耶。又則足下所見所到。已是百尺竿頭。雖是極則處。尚有極則事在。終是命根未斷。須是竿頭再進一步。始是四稜蹋地。那時隨宜施設。說離文字、說不離文字。無可不可。方知今日之所說尚欠自在。又且此方教體在於音聞。不論離文字、不離文字之旨。皆藉音聲發明。亦有不假音聞者。乃異方便耳。

又經云。「多聞生實智。」是聞慧乃入道之要徑。般若經云。「若謂如來有所說法。即為謗佛。」是則佛說法四十九年。曾無一字示人。知此。則向上一事豈可執定一見而得乎。又云。方病魔來時。便拼一死。無懼怕心。無繫戀心。此便是足下得力處。真實受用處。若無此等力量、此等受用。則平日所言所解、所行所到。皆無用之戲具耳。幸有此點真實處。可以接引後昆。老病逼人。精神微弱。聊復來意。

8. 答紫蘿劉居士

別後三接慈旨。知足下道義彌深。誨我更密。自慚草野疏慵。廢疾自棄。何當慈注若此。前者書至。知室中歸途之物盡屬偷兒所有。正古人所謂到來家當盡。免作室中愚。此正足下大有所得處。石蓮公至。復承手教問答等語。益見偷兒等事為足下大得處不虛。最喜混喫粥飯一番、有甚所得。此二語真超邁古今。掃盡佛祖知見。此真足下自受用境界。衡望涯莫及。此一混字。在諸人分上為病。在足下分上返為妙劑。佛祖知見如湯消冰。了無痕跡。此二語可以風聞諸方。以消佛祖癡狂等病。但似多下了一番註腳。在足下再多說千語萬語亦不妨。恐他人依語生解去。則孤前二語之妙處。擬足下所言一段光景。大似杲禪師謂有時將丈六金身作一莖草用。有時將一莖草作丈六金身用。蓋草與金身本間。而作金身草用。乃杲禪師自己神通妙用。在草與金身。本無移異。今足下於無病處說病。於無藥處說藥。亦足下自己如幻三昧。在病僧亦無所有。何物為藥耶。何物為籠耶。今足下自有藥應病除受用。衡不謂虛。但是足下自見自得。非病僧所與也。昔文殊問疾於毘耶。維摩云。

「善來。仁者。不來相而來。不見相而見。」今足下就病僧晤對一番。不知足下之夢。夢之邵陵。不知病僧之夢。夢接足下。病僧此語。亦是夢中說夢。不免為不夢者一笑。楞嚴一註。亦是病僧不揣固陋妄作。今稿稍成。已蒙貞復譚公許刻。但所許尚未及成。攸邑相近雲陽。後果成事。足下亦易知之。石蓮公歸。肅此復候。

9. 答寶慶熊太守

衡乃寒巖枯木。何因得叨大檀越春光遠攝、膏雨遙滋。雖枯槁難勝春力。而枝條未免重榮。此大檀越造化無私。德澤普洽。雖一殘病之軀。亦不忍棄於至化之外。前嘉召兩下。慈注萬全。敢不匍匐歸趨。無奈腐草殘軀又被船水風寒所苦。舊疾復舉。大難轉移。萬冀大慈寬宥。稍稍痊愈。即努力速歸。知大檀越以六合為身心。五臺一片地。信不視為他物。惟啟大檀越作一究竟堅固護持。以為一方植福之地。此菴香火常在。即大檀越光明永遠無盡。光明圓照無盡。即大檀越法身常住無盡。法身普遍無盡。在病僧自信非虛語。不知大檀越以為何如。肅此復謝。

10. 答湘潭生因李公

衡素為拙守。實法門腐物。不足言也。乞食湘中。得慈光護念。與諸上善人聚會一處。同種佛緣。皆足下與令婿唱導助化之力。衡實為木偶人耳。何其有也。奉手教多日。因老朽多病及事冗雜。故未及修答。遲緩之罪。實不能免。

別時聞貴園中建祈嗣法筵。不知此時可有先兆否。衡所過之地。遇諸檀越言及求子一事。有速得者。非聖性不靈乃求心緩急、感報之遲早故耳。想足下以胤嗣為大事。病僧特為舉之。以安足下懇禱之心也。湘中佛法。全在足下主持。幸勿以倦聞之。讀足下新刻觀音像戒殺文。合掌讚歎。真大慈悲。真善說法。從來說法。要知時、要投機。如不應時投機。皆成戲論。此時刀兵之時。諭以刀兵起於殺心。此應時之語也。此刀兵時。人皆怖死。喻以戒殺即免刀兵之難。此投機之言也。此真普門應身說法。以無畏力福被眾生。非普門示現。即普門囑付而來。不然。何能於此苦惱之際能大施、頓令眾生離怖畏苦惱、得安樂解脫若此之妙耶。此一言能轉殺心成慈心。息干戈成太平盛世。點鐵神丹。破敵先鋒。不足為喻。真可以傳諸方行後世。為慈心三昧一種大光明幢也。欽服欽服。肅此奉候。不宣。

11. 答公茂謝公

觀衡每慚根器不猛。空在法門四十餘年。一無所得。只成得一殘病之僧。何因乞食湘中。得遇足下。慈心護念、種種成就。密晤神契。誠非筆舌可述。別後每憶佛祖宗教大法。要大根器人方能擔荷。衡所經過諸郡。能放下身心、承當此事如足下者。未及再見也。於末世中能如是行履、超越名跡。非大雄大力、大忍大勇。何能臻此。是知足下非從一佛二佛三四五佛而種善根。必從多劫多生多佛法中深種般若善根。乃有如是金剛骨力。其根器廣大可知也。末世佛法重任。全賴足下荷擔。此事非細。須勇猛中更加勇猛可也。如有一念懈倦之心。法門失望。祝祝。

尊大人抵家父子相聚。此人間第一樂事。就是第一義諦。就是無上大涅槃。不可外此父子別覓佛法。亦不可因父子樂境昧卻此事。世人不得佛法受用者。不過為歡戚憎愛走作故耳。如此兩關若作得主。即憎愛歡戚就是諸佛受用。而諸佛解脫不離君臣父子夫婦之間。可謂世法佛法原是一片。若父子歡喜中無佛法。則佛法即有彼此分段。佛法若有彼此分段。不得周遍常住。佛法既不周遍常住。真如妙性涅槃皆屬斷滅。真如妙性若有斷滅。則生機萬化皆有歇時。理可成乎。如觀生理無有歇時。則知有不生不滅者存焉。如知有不生不滅者存。則知諸佛法身、諸佛受用無處不遍、無時不存。而歡戚憎愛豈非諸佛大解脫處乎。病僧言此。望足下日對尊顏。即是三十二相、八十種好。父子相對。即是法王法臣。相視不可隨尋常父子之態。徒有盡孝之名而無盡孝之實。豈不有孤父子之遇、自性之靈乎。足下為眾生。當從父子間透露此事。是為根本法輪。

又尊大人未及面識。不敢通名奉候。儻便時幸致之。又讀石翁手札。則知此老深從般若種子中來。乃有如是高見。乃有如是真心。若能成就人善行。讚歎人善行。言念人善行。言即佛口。念即佛心。非佛而何。是知石翁即縉紳中古佛也。可欽可慕。恨在湘中時未得一晤為歎。暫此復候。餘俟再宣。

12. 答覺華林公

湘中一聚。亦多生奇緣也。衡此一循乞諸方。知己如足下者。指不多屈。每想公園中朝夕對坐。語默無間。此段光景明明現前。無絲毫障隔。知足下自得受用處。諸人不能奪。而世

間父子君臣之樂。想無逾於此。及見足下為周姓者作報恩疏。言言透理。句句宗心。文法清暢。語辭無礙。足下有超世之才。大為法門依止。此深心所望。後真復公回。接手教。謬承過譽。自覺慚愧殊甚。

細玩心經註。辭簡義豐。旨精理極。無可指其非者。但辭似文字之氣未淨。義似諸家之所共知。欠有如他方異寶、偶然一見、其新得之喜、自然令人舉身受益、心繹口誦、傳聞無盡者。著述至此。則不虛用一番精神。病僧凡有一言半句。雖以人鄙。不能警覺於人。但自信有古今人所未發處。乃敢啟筆。非徒變毛易色以衒人也。所以承命為作首序。此時未敢即草。恐有礙大事。足下將此等見解都擲之一邊。單單究竟自己本來面目。栖心教海。不可逐時弊狂禪。以口頭語作向上事。慎之慎之。

衡自至攸。種種皆逆緣。此時動轉為難。唯貞復公時與密對。稍慰癡懷。別無可解也。行時上下未定。荊州禮佛之念未了。不知因緣如何。如此念得遂。必因星沙往來。與足下面晤有期。肅此復候。餘不多及。

13. 答我尚王居士（法名音凌）

來云願現宰官身。以安社稷、護持三寶。此亦病僧切心所仰望者。足下識取自心。無不是自己。能捨己以安社稷。捨己以新民。捨己以護三寶。而天地萬物世出世法無不是自己。其廣大受用又何如哉。如能即宰官身作此廣大佛事。不唯病僧歡喜。即十方諸佛無不歡喜。諸佛菩薩、一切善神無不加被密佑。

所願自然從心也。祝祝。

14. 答吉卿王居士（法名音徹）

病僧曾與足下說過。從今已去。只是一句彌陀佛。日夜常轉。便是出生死徑路。不必東問西問、左疑右疑。如所問常住真心、本來面目、真我。分別得是一又如何。分別得不是一又如何。任汝分別得十分明白。總是生滅知見。不出妄想習氣。又云要我打破疑團。何不收取去。不應打破。若不要疑團。即應丟在洋溝裏。用打破作麼。又云望我開示心印咒力。既知喚作心印咒力。即是不思議法門。解說不得。若可解說開示。亦是生滅知見。又何能破得心習。妙在不可解說。死人偷心。使知見不生。自然轉得顛倒習氣。渾成光明智體。豈容解說而作知見耶。是則足下所問皆不切當。不如一切皆付之。不知更妙。只是一句阿彌陀佛。日夜轉去。自有通天徹地時節。到那時節。方是真知見、真智慧。如今所問所見。皆不濟事。祝祝。

15. 答安城叔監鄒孝廉

衡實法門庸鄙。不知何因得承足下護念。初意計西峰或可住旬日。以了未了之緣。不委至府舊疾復舉。日舉日深。自覺殘廢之軀。祇宜遠擲深山窮谷之中。豈有妄膺眾中瞻仰。暫買一舟。隨流上下。以便沒蹤跡處好藏身耳。石者公道念過於精勤。恐富貴之身一時難于苦行。望足下著意為解之。既信心本是佛。世出世法無非佛事。但將一孝字。便是成佛妙行。便是成佛究竟法門。不可向外別求玄妙。諸佛無量光明相好、無量解脫神通。都從孝道中來。外孝道而別求修行。所作皆為魔業。

勸石者公形跡朝夕不可離父母。心念須臾不可離父母。朝夕頂禮。出入如命。日日要知父母著何等衣。用何等食。會何等人。行何等事。若一日一事不知父母起止。即心與父母有間也。若時時事事心與父母無間不謂之孝道、不謂之修行、不謂之佛事、不謂之佛心。病僧自招妄語罪過。要如是綿密此一孝字。方知念佛、方知往生、方知圓通法門、方知放生微旨。不然皆為妄作也。望足下依此語自利利人。決不虛賺。細玩扇頭大作。知將來大為圓通之主。為明哲之正法眼也。幸致意諸公。各人安心自攝。以現前父子為至樂。以佛法為究竟歸宿之所。不必以病僧別有奇特。祝祝。

16. 與綠蘿劉公

前枉足下迎暑冒炎覓我於柏桂之間。對坐語默超然形表。此非多劫有緣何能良聚。又且足下一室。父子兄弟同為圓通法屬。此種勝因信不輕易。擬私乘一葉至貴方。期與足下密談數日。深為究竟此事。亦不虛今生得此嘉會。不意中途又為羈留未果。至今此念熠熠未息。

每憶足下高明閒曠、端慎自潔。真為載道之資。應保持覆護。莫為世欲間雜。如其純潔精真。自能發生清淨妙慧。超越世出世間。圓明無礙。乃與向上一事方有相應。到此田地。方信一草一葉。皆是自己珍鄉。一動一靜。無非真常快樂。自信十方佛祖、大地眾生。與我同一鼻孔出氣。了無絲毫隔礙。方知天地同根、萬物一體非虛語也。足下究心於此。則不虛同為圓通眷屬也。

17. 與仲初劉公

前奉手諭。以披閱拙刻為避夏三昧。知足下精心此道。必大有深入處。近日信佛者多。而得佛受用者實少。多分為馳騁知見。增長我愛。愈學愈背。愈行愈遠。所以現前不能如佛受用也。知足下識見超拔。骨力堅強。決不效尋常口頭禪道。定要親見諸佛諸祖本來面目。即是自己本來面目。須是自信得及。自見得明。親得受用。親覺自心現量聖趣。始解穩坐。不唯魔王外道不能惑亂。甚至諸佛諸祖亦不能搖動。方有自在分。放開也從我。把住也從我。天堂也是我。地獄也是我。世出世間無片事間雜其中。豈非無障礙一大解脫人哉。到恁麼地。無一物不是自己光明。無一處不是自己本源心地。其縱橫變化、廣大受用豈不超越。是以足下必從毘盧頂顛上行去。病僧妄為饒舌以為知己一證耳。經云。「自未得度、先度人者。菩薩發心。自覺已圓、能覺他者。如來應世。」足下若為勇猛丈夫。不從父母行徑行去。只是放下身心。莫慮自己明與不明。悟與不悟。只是一味興揚三寶。接引後昆。不論冤親。都勸入法門。同歸觀音大士。傳持佛祖慧命。相續不斷。盡於未來。無窮無盡。此即是頓超頓證圓妙法門。足下有心此道。應把手共行也。此祝。

18. 答浩若周公

捧讀慈諭。云時時怖畏。時時警策。如入鑊湯。不遠三步。便有些子受用。只此數語便是足下大得力處。大痛割³處。大精

³ 同扎，用刀等刺。

進處。大發悟處。大安隱處。大饒益處。何用別求玄妙勝義。何用別求道理入處。何用別求嘉話露布。病僧每見士大夫於世路中彷彿。穿鑿古人幾句無滋味語、轉語、別語。以為悟道因緣。其實不知返為障道因緣深矣。何如足下所云時時怖畏、時時警策乃實落受用也。又云欲病僧下一轉語傳示同人。足下用意甚美。但莫在此時。似⁴再與足下晤對時。心光發露。同是家裏人。說家裏話。自然有風味。不欲傳而傳聞自遠。此時說來。恐無利益。唯足下自意亮之。

病僧九月間作痢甚苦。精神衰弱。至今尚未復元。見筆硯如生冤家。不敢近之。叔監石者諸公皆不能修書奉候。如會時幸為我一一致之。不盡。謹復。

19. 答石者朱公

自容大德來。奉手教所示。浮漚泡影之想。固未易也。只此二語便是妙諦深入。何待參究。信是堂奧中轉身。決不落門外蹊徑。又云見解從茲起。而種種煩惱亦從斯集。試自檢點煩惱住在何地。見解又住在何地。如覓煩惱見解之處不得。則知二處既無住處。煩惱亦可喚作見解。見解亦可喚作煩惱。煩惱喚作見解。無煩惱可得。見解喚作煩惱。無見解可得。二處既了不可得。有何見解可欣。有何煩惱可厭。終日煩惱終日菩提。終日菩提終日煩惱。豈不是圓通自在。豈不是無礙大解脫哉。何有見解煩惱二慮乎。

又云領不住相之旨。似覺淨土亦為色相聲音之求。六祖所

⁴ 應是俟，等待，等到。

云西方人念佛更求何土。此等佛祖名言。皆與第一義諦不相違背。金剛經云。「不住色布施。不住聲香味觸法布施。」雖不住相。亦要修習布施、持戒、種種善法。非獨淪於空也。如知不廢修諸淨法。即知有佛可念、有淨土可修也。豈別音聲色相之外為不住相耶。言不住相者。達音聲色相當體全空。既達聲色體空。則見聲色實相。既了聲色實相。而能聲能色。聲色本無二致。金剛經云。「如來於法不說斷滅相。」可知矣。經中意謂不可以音聲色相求者。為破住相之執耳。

祖佛言教。都不可作實法會。六祖云西方人念佛更求何國。非無淨土可生。但要人先發明本有真淨土。為相土之本源。如達真淨土。十方世界為我一心。而東西南北有何礙乎。是則六祖之言正欲人了淨土唯心。正欲人知淨土可求。正是指示人知西方之根本。非斷絕人生淨土也。六祖又云「性在身心存。性去身心壞」。性既有去。必有方所。既有方所可去而淨土不去。何所去耶。設謂所去不擇淨穢。穢既不擇而又偏擇淨土不生耶。是知六祖傳佛心印。為人天正眼。決不墮斷滅見。知此。方信如來所言空者。即是日用穿衣喫飯及與君臣父子也。如來所言有者。即是夢幻泡影、本體寂然也。雖是本無一法。而君是君、臣是臣、父是父、子是子。不可差互。雖是君君臣臣、父父子子。而全是第一義諦。是真圓通。是真無礙。方見如來圓滿總持廣大法門也。

來論欲集普門各經類成一彙。欲病僧先為序。序則病僧決不辭。此舉是病僧二十年前未了公案。今足下成之。即遂病僧之願。得有藏經之處。病僧與足下同為商訂。更遂鄙私。成日

作序未為晚也。不知足下意地何如。舟中搖蕩。未能罄吐癡懷。
暫復來意。餘容再布。不一。

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第五

（盛京錦州府錦縣信士王世祐、王世禱。信女如善。仰承中憲
大夫嘉興府知府王章號遵度遺願。喜刻顓愚和尚語錄第五卷。計字
玖千三百三十個。該銀伍兩陸錢。仗斯般若之因。早證菩提之果者。
康熙十四年二月 日楞嚴藏經坊附板）

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第六

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

20. 答建業旻昭陳公

恭惟足下。跡示塵寰。心超法界。受靈山之付囑。為末世之梯航。護法忘形。唯佛是命。接引有方。普攝久參初學。自在無畏。善伏外道諸魔。不唯白下（地名）之大光明幢。實乃諸方之真正法眼。欽服欽服。德音久慕。聞名已益生前。書貺遙頒。感惠實出意外。殊愧人不稱物。深知教不擇愚。敢不拜登。何能鳴謝。既又提誨京都法道因緣易就。自知鄙陋。師門作料全無。寧敢取辱大方。誤傷明鑒。但願見光儀。一念妄為。癡想多時。不識此生可遂此志否。

今為愍先師掃塔因緣。復入匡廬休夏制止。先師圓寂十有餘年。法屬供奉亦如生日。惟是山林深僻。車馬難通。知識無聞。護法者少。即本山松篁。每被樵牧所損。維揚田土。忽為棍徒強侵。善世法門。畏干公署。一事如不能保。百物俱可為憂。敢乞足下廣護法心。垂大悲手。千里飛光。匡山與冶城非遠。一體同觀。已臨與未到不殊。諒足下不倦大慈。力為密護。不唯周全此日。誠賴堅固常年。若高郵庄租恒如。即五乳香火綿遠。設五乳香火綿遠。即足下光明常住。是五乳一片地。即足下性分法身也。肅此謹啟。

21. 答侍御旋觀王公

來諭謂閱台宗又為單參話頭人下一頂鍼。此頂門一鍼。實

台宗之骨髓也。台宗實頂門一鍼之經絡也。精台宗而護痛頂門一鍼。則經絡不活。必成狼藉之物。唯重頂門一鍼而不精台宗教旨。則骨髓乾枯。亦為灰壤之變。必須頂門一鍼以通諸經。亦要清理諸經以宗頂門一鍼。骨肉俱活。方為有用大人。亦非台宗外別有頂門一鍼。亦非頂門外別有台宗。如透得台宗。自有頂門一鍼。如透得頂門一鍼。經絡自然開通。不可作兩事疑難。如永嘉大師唯精台宗。後見六祖大師。振錫一下。卓然而立。祖曰。大德自何方而來。生大我慢。師曰。生死事大。無常迅速。祖曰。何不體取無生、了無速乎。師曰。體即無生。了本無速。祖曰。如是如是。于時大眾無不愕然。師方具威儀參禮。須臾告辭。祖曰。返太速乎。師曰。本自非動。豈有速耶。祖曰。誰知非動。師曰。仁者自生分別。祖曰。汝甚得無生之意。師曰。無生豈有意耶。祖曰。無意誰當分別。師曰。分別亦非意。祖嘆曰。善哉善哉。少留一宿。此永嘉大師是精台宗而能透露台宗。與六祖相見。活潑若此。如二大師相見語句。是台宗耶、頂門一鍼耶。知此。則頂門鍼乃台宗之頂門鍼也。若台宗不下頂門一鍼。皆成戲論之法。又離頂門一鍼。不唯台宗。一切教相俱無建立。執事欲究台宗。須以頂門一鍼為之先鋒可也。鄙見若此。不知高明以為何如。衡為雲居祖庭灑掃。素未涉因緣。所事艱難。得執事慈念、助一帚之力。感激無量。肅此謹復。

22. 復夢覺洪居士

病僧初出邵陽、客武陵時。曾枉手札密念。嗣後萍梗無定。音問杳隔。竟不聞芳躅所止何勝。深察反省。皆自違耳。殘廢

之軀。已付流水。雖謬膺雲居灑掃之役。不過了其餘念而已。黃山幽僻之囑。知慈念之切。乃有殷殷之喻若此。豈不感荷。

來論皈心始末。注意楞嚴。詳而且備。大抵菩提妙慧。借境方生。無論色香味觸。皆通本有。都是入道之門。豈唯觀教一事而已。總之在人肯起疑、肯體究。無不是入道因緣。若不起疑、不體究。只是尋行數墨。不唯今生不得透露。盡未來際恐亦不能超越。今足下剖析諸疑。正是足下著力處。自有轉身親切時節。是學道人極妙好消息。此時不必速求決破。若此時決破。只成得些知見學問。返塞卻悟門。足下如今分根分塵、分性分相、分動分靜。總之未證聞性圓明。如親證聞性圓明。則無如是隔礙。古人云。「識得心。大地無寸土。」豈有聞性意識差別分擾哉。足下莫放捨。時時體究。要到瓦解冰消、群疑頓盡。那時方信病僧之言不誑也。餘不贅。

23. 答舒茂才

病僧持鉢螺川。挂錫西峰寺。每坐長松之下。辱孝則劉公見訪。語次間。劉公曰。做工夫切要可得聞乎。病僧直曰。真實做工夫。無別奇特。只一捨字。便能超佛越祖。一切究竟。劉公慄然曰。承教將此身變一個豬與人喫了。亦是好事。病僧私嘆此公穎悟超邁若此。嗣後安福諸公偶聚於西峰。劉公亦在座。側有賀孝廉與劉公詰論性理。劉公曰。我與你如是辯論。總是捨不得。若如老師所教。一切捨去。則無許多爭論。賀公默然。即此則知劉公深服病僧此一捨字。

舊日與足下樹底竹間、榻前窗下、清夜白晝高談細語。未

嘗不以此字拈掇。足下何不從善、猶存種種知見耶。超格之士。道德仁義尚不能束縛。豈可以貧賤富貴、得失憂樂而自纏繞耶。據來論。憂樂兩種交戰而業繫為崇數語。乃古孤臣義士之懷。非有道之懷也。總之未能盡力一捨。若能盡力一捨。則諸佛尚不奈爾何。況世間憂喜苦樂、逆順冤親而可奪哉。又則捨樂不得。為憂所侵。捨超越不得。為沉溺所苦。捨快意不得。為冤氣所屈。捨吉祥不得。為諸崇所欺。此理勢之必然。足下高明。豈不曉此。又來意是套語。非足下以待病僧也。若實然。亦非足下相知于病僧也。請高明自為分處。明月湖邊。碧溪橋上。聚笑有日。暫不多及。

24. 答孝則劉殿元

衡八月廿二日放舟至建昌。為風阻。九月初二日方進山。自出青原至雲居。延遲四十餘日。一路清平。皆執事護念之力。法門固是執事身心。青原更為執事切意。比來不知其中安頓有人否。如不得人。觀衡之過。似不能免執事傲暑至省城者。急於親事也。而能神閒于方外。往復江干累次。不覺其倦。此諸人之難能也。欽慕何極。李匡翁久響⁵高風。未及面識。執事如有所見。幸勿吝。衡當來相待左右。俟歸府而後還山。恐為執事累。故不敢作此舉。衡一到山中。真空山也。海昏上下。年止半熟。荒歉之音。實不忍聞。不知明春是何光景。知執事是有生之依怙。當何以策耶。衡既在至化之內。瞻望殊深。肅候。不一。

⁵ 各語錄中亦常寫作久向，猶言久已聽聞，或嚮往已久。

25. 與郭首龍居士

舊冬曙宗公至山。聞足下尚在調息。衡深慮之。知有青原大功在。龍天必為加被。是可恃也。今聞道體大安。精神倍常。青原諸功一時頓起。是則龍天不負足下而足下亦不負龍天。此一大事因緣實千載一時。一時千載。可欽可慕。昔有梵志為活一女子命。自毀姪戒。反增數十劫淨行。今足下為青原勝事。縱傷戒德。亦可仗也。青原之責。使衡通身是口不能為言。唯聽數說而已。衡未入青原光景。衡已入青原光景。較之得失。諒足下盡知盡見。衡既入青原。較青原未入時。其什物已失其半。使衡再入青原而青原豈不唯一空地耶。衡與青原之地有緣無緣可知矣。即此當以衡為青原拒而反為青原招。不知足下以何見而然也。讀手諭。情盡理至。令人可欽可仰。亦可憐惻。但衡非其人。亦無如之何也。聊復不盡。

26. 答安于劉公

聞足下已獲麟郎。不勝之喜。良可嘉賀。青原祖庭乃貴郡中雄鎮。住持非細事務。在得人而後可。衡前為謁尊大人。被賢父子錯扯入青原。住僅半載。青原什物二分已去其一。此過將誰歸歟。至今負愧不已。足下寧不眼見耳聞乎。如衡再入青原。青原豈不成一空地耶。足下欲衡入青原。實欲青原損、不欲青原益也。古人量才補職。良有實據。足下高明。豈待衡多語。亦非衡有意不為青原益。實人與地不相稱使然耳。

27. 與元公黃居士

響慕道風。獲益深矣。吾祖師門下久闕明眼護持。幸有執事與集生余公同心此道。復為今日大法旗鼓。是知此時宗風聲宣宇宙。皆執事與余翁之力也。衡自慚鈍根。不能為人天眼目。濫廁宗庭。聊全祖父之志。實為高明所恥也。幸藉雲居祖席之靈。得瞻光霽。可謂不致當面錯過。幸甚。幸甚。別時承面許雲居休夏。今歲將更矣。不聞消息何如。特專小師走候。不知大徹悟人還有妄語否。幸的然示之。感激不淺。

28. 答介子黃居士

復辱慈函。深荷法旨。扇頭俚語。借周金剛乃敢塵瀆慧目。紙上圖書。因劉孝則胡為冒獻寶几。田歌真田夫之口嘴。何堪聲並大作家。山茗止山人之蒿湯。豈揚味同古人案。謬承譽意。實增汗顏。衡久墮青獅窟裏。失乳小兒。妄稱紫竹林中。末願癡子。一無所取。百不堪為。既蒙玉指飛光攝受。欣然歸趨嫌遲。重煩金心布符招提。恨矣親炙不早。但獲請益。諸唯主盟。舟居適意。未敢效船子之求入。水宿私安。聊復訪中峰之避世。清儀未接。鄙陋先陳。江上清風普被。破我積生沉寂夢。歡喜何如。天邊明月無私。任他諸方棒喝機。讚歎而已。謹復。

29. 答伊少劉居士

融公來奉手教。語意超然。全無世諦知解。向上一事。大有透露消息。真青年中白眉也。非從般若光中再來。鮮能臻此。欽服。衡在法門四十餘年。深山曠野。幽壑孤峰。歷盡辛勤。

至今老病交逼。尚在焦殘無用之地。曷如足下一入門來。如逢舊有。語言行事。超越世間。了無絲毫凝滯。實有愧於足下多矣。憶昔同舟出蘇溪。夜話津津。知足下不以病僧見棄。曾面訂投老之盟。又知足下覆庇病僧。用意深矣。病僧緣薄。不能日近日密。實自欠耳。去春抵匡山五乳。了憨山先師掃塔一案。秋入雲居。又為灑掃之忙。不知何期再得良晤。暢我鄙私。是為底念。

30. 與安于劉公

兩奉手教。讀之如登妙高峰。層層高上。步步轉妙。其光景倍勝。令人歡喜暢悅。不覺自忘。是知足下用心綿密猛力。若直恁麼行去。諸佛諸祖極口稱讚不及。況龍天神鬼、博地凡夫可得而思議哉。來諭謂初誦殊驚河漢。久久思惟。方知人人具有此妙用。非獨菩薩為然。乃至知井可飲。不求水於江河。知燈可炊。不覓火于鄰戶數語。大知是足下自信自覺境界。不是從冊子口角邊學來言語。若是學來。不得親切若此。是知足下真有如是見。乃有如是言。能有如是言。必有如是行。此即是足下大進益、大受用、大自在處也。金剛經云。「若有人聞說是法。不驚不怖不畏。當知是人甚為希有。」足下從驚疑到於不驚疑田地。是為自肯。此事要自肯方親。是佛先為足下印證也。大抵此事不是實有個心定與不定。當審此分擾分靜、分羈分解、分障礙分自在之心果是何物、是有是無。又審此紛擾寂靜果是何物、是有是無。向者裏看得明明白白。身心尚不可得。將何物避紛趨靜。自在不可得。將何物為障礙。到此。心境一如。分別自息耳。古云。「一心不生。萬法無咎。」是為明證。近日

學道人多尚虛玄。不肯在日用中操履。是為大病。足下既知此事。必力行此事。力行此事就在日用中。左右逢源。不違本有。唯一孝字盡矣。保此一孝行。可以承順父母。超越身心。貫古今。通天地。達物我。定聖凡。總不外此一事。至于超佛越祖。棒喝交馳。不過此事而已。豈別有奇特玄妙者哉。山空境寂。雪冷風寒。乃僧輩家常過活。亦承念及。感荷不宣。

31. 答季納熊公

來諭身雖居家。心常依戀山中。此正是足下大解脫處。亦可謂居塵不染於塵。其實聖賢游於世間。飲食衣服。視聽行止。不異於人。但心中圓照一點。不與人同。一切聖賢超越自在。解脫受用。全在心光獨露。不在形跡耳。足下既在叢叢紛擾中而心遊於深山物表。非超越自在而何。如果誠然。病僧後塵望之不及遠矣。舊火主事即足下超越自在之事。護法著力之處。必要善周密。令彼獲大安樂。乃見足下同體之慈。如以同體觀之。非他人之事。乃自己之事。不須待彼言。不須待彼求。足下聞之。即勇于前。善為調理安息。令彼不知不覺而受其澤。豈不見足下之大善巧耶。祝祝。病僧在山。承賢父子慈光密照足矣。實出意外之慶幸。雖貴邑人鮮有入山門者。乃病僧素常偏淺之過。非貴邑人不樂善也。堂中東單已成。頗不俗。大眾安穩其上。皆足下殊勝莊嚴自性佛事。西單月內可就。此時得足下至山。事事更美。如有事羈。不妨遲遲。但可行即行。是望。

32. 答熊青嶼給諫

捧讀來諭。理事雙彰。語義俱密。欲曉衡不宜。此一妄動在衡。何當執事殷殷一念至此。無乃為雲居祖庭久虛其席。欲衡灑掃。以待來哲。又似求硃不得。暫借赤土以應其事。此執事為雲居求人切實若此。為國為家為身。無以二之。欽服欽服。衡雖沉冥。豈不感悟。所示圓通妙旨。聖智境界。古人所謂十世古今。始終不離于當念。十方剎海。自他不隔於毫端。非證此不能說此。是知執事深入此種三昧。乃能說行俱到。真縉紳中古佛也。第圓融不礙行布。行布不礙圓融。理事融通。性相不二。方能超越世出世間思議之表。所以云。「眾生有誠靡不周。而恒處此菩提座。」

昔釋迦如來在母腹中轉大法輪。微塵數眾圍遶。既出胎成道之後。復還本國。為父昇棺。又昇天宮為母說法。有時鹿苑。有時鷲峰。有時善法堂。有時光明殿。未曾廢往來彼此之跡。其開合世界為一界。乃諸佛之本事。遍入塵刹而無礙。亦諸佛之神通。本無二致。但行布相法中有是有非。有當行不當行。有當止不當止。執事責衡不善行止。不唯衡額手謝過。即諸方聞之亦合爪稱讚。是執事語行饒益於人多矣。衡此一行實為大錯。但錯於先。只得將錯就錯。錯此一遭。後來言行自知改轍。伏乞執事布施歡喜可也。

又示薦先一事。乃衡生平本事。住邵陽二十年。唯以此事上弘佛化。下導有情。猶望執事廣此一行。以為雲居護法。甚善甚美。此謝。

33. 答寶慶諸大檀越

觀衡庸鄙草芥。尚不能喻其微。何應諸大長者垂光遠攝。惶悚無地。邵陽乃衡之恩地。輕背恩地。實一罪也。屢承諸大長者慈召。未即歸赴。今又蒙諸大長者同伸玉指。飛光接引。益增其罪。是諸大長者之慈念日隆。觀衡之罪愆日墜。良可憐愍。大抵漂流之子。非不思返。倚門之父。非不望歸。但落魄之業力未盡。無可奈何。觀衡之歸念日馳而歸緣多障。自亦不知其然也。去春入匡山。了憨先師掃塔因緣。秋出五乳。決意歸楚。又為隴州劉門伯仲相迎之緣。蹭蹬至雲居。又為熊青翁父子錯為舉揚。為雲居灑掃祖庭。熊翁父子初心此道。不得不委曲隨順。因此有負劉門伯仲之諾。罪不容言。又暫不及赴諸大長者之命。愆何能懺。進退循還。微密覺照。邵陽乃再造之域。知諸大長者乃父母之慈。決不我棄。雲居灑掃事竣。即歸來面領呵責。決不敢辭。惟鑒不宣。

34. 答德安鄭茂才

佛誕飯僧一事。良時良會。最勝福田。不唯親飽法供。即見聞隨喜。皆下菩提種子。自有開花結果之時。此一大事因緣皆從足下發起。是足下為諸有緣之大導師也。大光明幢也。雖飯僧一事行。即成佛之正因。此因此果。非世智辯聰思議可及。足下高明。自成深信。凡俗人以百千萬億七寶布施。不及有智人施一粒米之功德。是則物無大小。大小從心耳。金剛般若經云。「若三千大千世界中。所有諸須彌山王。如是等七寶聚。有人持用布施。若人以此般若波羅蜜經乃至四句偈等。受持讀誦。

為他人說。如前功德。百分不及一。百千萬億分。乃至算數譬喻所不能及。」昔釋迦如來因中以五莖蓮花供燃燈佛。即蒙授菩提記。是為明證。足下如肯信見聞隨喜果報不可思議。亦應信自家福德壽命不可思議。亦應信自家法身慧命究竟堅固不可思議也。衡所見如此。欽仰如此。不知高明以為何如。

35. 與金豈凡觀察

南浦之遇。奇遇也。知執事必不虛我。此遇是遇。非無待也。本分一事。執事已喜作用。衡未能窺其少分。唯翹首稱讚而已。雲居祖庭。執事決不視為分外事。第不識護念妙用作何顯現。引領望之。佳稿珍玩數四。未能深入。依衡廉纖之見。湊成剩語。自愧瓦礫。何當以玷珠林。恐違大命。呈上冀批削。弗用可也。

36. 上五乳本師憨老人書

去冬今春曾附問。不知達否。文林來。承老人廣長舌音。遠覆身心。慶慰無量。得知老人安心五乳。地幽人勝。續焰騰輝。至于透網金鱗。近來又不知幾許矣。衡自知今生法緣淺薄。病障纏身。不能與祖父增光。弘揚大法。願行不齊。羞慚無地。又不能效古人三登投子。九上洞山。常赴老人之傍。領取大機大用。有負法恩多矣。每念至此。自覺惶惶。退步有分。又聞空印大師示寂。衡之胸背如刺如灰。恨病體不能親手扶龕。返成不孝。特於六月中做一報恩道場。聊遮世人眼目。於本懷中實不能酬其一點。謹字奉聞。伏惟加庇可耳。小菴工將一半。自料力不能支。偏方路僻。智者罕至。恐法道壅滯難通。倘得

老人新成法寶一開導之。則小菴光明永遠。曲鄉異域無不興崇。想老人法愛甚深。必垂於此。夏居士乃新安人。稍有信具。但衡在病晦中。不能啟發開悟。今遣來謁老人。萬惟慈悲接引。使彼於佛法海中愈得信心堅固。便此頂附問候。惟冀慈照。不宣。

又

己未秋。夏居士至。蒙老人開示法語手卷一通。衡頂禮開讀。于甚深觀門更加一信。益夏居士決志蓮品。永不退轉。此誠老人一手捏人成佛去也。衡承老人惠以法華。楞嚴。肇論三解。因病心虛弱。未得精研。略讀一遍。私意古來註解都是從毛至皮。從肉至骨。老人所註直向骨髓中會通。迥與諸家別一手眼。而血脈深極。非淺識者所測。再擬覺範大師所註。引證會合。老人所註。骨脈會通。雖則二老玄旨不同。其深遠難到均也。望老人慈悲加庇。令衡血氣充實。精神猛健。于老人甚深三昧中得一毛端許相應。更見般若上亦有大機大用。會合宗乘。絕無絲毫痕跡可間矣。又荷老人曹溪往來之囑。此極妙最善一行。但衡非昔可比。孤身動轉為難。又時節似不能勉行。此雖老人錯愛過獎。衡亦直心擔任。然而今生不能。即來世亦不敢負老人所囑。

有新安陳居士號東華者。夫婦長齋。與夏居士相友。同發信心。參謁老人。乞老人方便提接。最後開示。於般若田中增一慧種。知老人必不捨此利樂有情之念。湛公居南岳。修復天臺。因緣勝好。法道將行。此真老人分炬寶照也。老人有此公。誠青原之有石頭。南嶽之有馬祖。衡每為老人喜之。所恨不能

趨侍以罄道懷也。有拙刻儀式二種呈上老人許可。魚鴈行忙。燈下草草。伏惟慈宥。

37. 答澄芳大師

衡昔於獅子窟中。常聞兄之名德十分高厚。往來窟中。語論超群。衡雖當時侍聆其側。尚在愚昧之間。未得深領微妙。後隨空印大師入京。過遊上剎。承兄周旋管待。衡亦隨眾飲食。未敢接談。想兄未及識衡。其實兄之光儀在衡之心目間懸已久矣。及吾兄法道大暢南北。聲馳轟轟在耳。每遙空觀想。合掌讚歎。第不得一面相傾為恨耳。去歲托坦然持香禮塔。又未通名問訊。反承指光遠照。及惠帽襪。感愧何極。憇老人前歲冬返嶺南。去歲冬月已入寂于曹溪矣。前輩諸大老寥落已盡。法門空寂無依。想兄亦有痛惜之懷。特附片言奉報。又思支那律教自宣師之後似乏其人。今幸吾兄主之。是知佛法久遠住持。自今日再逢運也。未來有情得正發心。獲清淨眼。頓證金剛戒體。皆吾兄開化之力。非文殊應身、慈氏再來。豈能荷此大任乎。欽服欽服。衡臥疾十三載。今尚未起北地之行。想今生不能舉矣。偶因從聞上座北歸。謹此通名奉候。餘不贅言。

38. 答見玄大師

衡昔在山。以自處凡夫地。日與聖賢交參而不識聖賢也。及被業風所鼓。飄泊江海將三十年。回思五臺。不啻天淵之隔。憶昔山中巖居穴處。草衣木食。現實王剎。據獅子座。營役往來。皆文殊十萬之儔。衡愧無緣再遭。悵何如也。今觀吾兄久處清涼。名聞遠播。衡徒倚偏方。望空懷想而已。昔承印大師

慈愛。遣月舟遠來相接。彼時病重。未及同歸。自月舟回後。山中音問杳絕。竟不知山中諸大師某某在山。亦不知棲賢社中主人某某。去歲托坦然持香供塔。未敢通名奉候。極承吾兄雅愛。周旋其事。又承瑤華遠布。病室生光。感激難喻。因從聞上座北歸。附此問候。

39. 答雲居味白叟

雲居始末。座下肝膈。衡已盡知。但衡乃殘病之軀。以閒放為樂。本無住意。昨登上刹。因見座下為祖庭一片真心。謂大眾少于精進。自己年邁。難於支持。承面誨衡。以委其事。衡亦為祖庭恐致寥寥。謂座下與合山大眾肯歡喜各歸退居。衡捨了幾支病骨。先為打掃。以待大手眼知識。方堪任其事。量力自實不能也。如合山大眾有一人不願歸退居。不樂從其事。衡決不敢輕諾此事。全在座下與令高足善為調停可也。古人云。歡喜名為道場。我輩為佛弟子。舉止豈可令人生惱耶。昨會熊青翁。云待他再到山中料理看如何。座下調理之方卻同青翁商議。衡唯聽青翁擔當。衡又別為請教。可借兩三間房以結冬為事亦可。總在座下高明裁度。是復。

40. 答樂愚和尚

前接手教宗門證量并餘新刻。又蒙以喜偈為衡狗齒滿甲之誦。種種皆是奇珍勝舉。知兄為我誨我深且至矣。又知吾兄應世之壽已登七十三矣。較之台山大師又踰二載。將來福壽不可稱量。是知吾兄獨深禪源。不為浮波幻影之所移異。故得如是

金剛正受、究竟堅固不動耳。衡之鄙劣⁶。兄盡知之。偶被諸人所惑。妄膺雲居灑掃之役。實不自量耳。如何得吾兄慈愍。一至明月湖邊。碧谿橋上。優游對坐。為我舒其懷。展其促。不惟衡受其益。即吾兄亦不無其樂也。衡雖不足為吾兄所憐。豈不念祖庭之重乎。今特遣人奉接。惟望撥冗光臨。暫此肅復。

41. 與雲居明月堂法璽印西堂

兩接手書。知子篤信此事。真載道之良器。向上宗乘。惟子是賴。常住事方公既已承當。大眾有依。祖庭有主。一大慶快事。子亦當為我大發歡喜也。即今上下寇亂甚急。士民惶惶。有身無處可安。當此時。惟深山中破衲蒙頭。庶無慮耳。子萬一不可下山。日夜以從上諸祖公案為依止。須臾不可離也。或出或入。總一楞嚴大定。盡法界了無纖毫隔礙。唯一圓通自在三昧。是子與諸祖眉毛廝結之處也。此時病僧尚居舟中。俟楚道一通。即過湖南。以了舊日因緣。而後浪跡可以自適也。雲居一念。在於夢想未少間耳。不知將來因緣何如。此時未敢期也。惟祖庭是重。子當珍攝。謹囑。

又

聞子于水邊林下保養聖胎。亦自有住山新得之妙。雖人間天上勝妙供養。無如法樂為上。子不可不自知其超越也。亦不可不知明月堂因緣為子有也。亦不可不護惜也。子當究竟堅固此山。甚勿被境風搖動。病僧殘廢之軀。遇此大難之時。孤蹤無可為寄。幾不欲留。俟業盡乃爾。曹溪憨山先師一脈至我後

⁶ 同鮮，少。

而未得其人。子既擔荷此事。當自努力向前。病僧當來亦為子擔荷其後。此病僧之底意也。爾晦公隱慈等歸山。幸同方公清照。或常住。或明月堂。隨彼所欲而安置之。可為山中伴侶也。祝祝。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第六

(遼東錦州松山所見任浙江湖州府總巡廳信官余三瀛發心捐貲喜刻顛愚和尚語錄第六卷。計字七千六百二十三。該銀四兩五錢七分五厘。敬為慈母張氏夫人名下。性天朗耀。慧炬圓明。仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十月 日楞嚴寺藏經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第七

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

經序

1. 刻千佛名經序

世界以音聲為體。道德以名言為用。而綱常倫理非名言無以立矣。名言于世大矣哉。是以古聖先賢垂名萬世千載之下。俗流常品仰名尋德。以革凡習。則知聖賢非名無以垂化。凡愚非名無以導心。而成聖成賢不可不知名言為重矣。乃至出世妙法。諸佛菩薩亦以名言為常住。法身名字不朽即廣長舌常轉法輪也。原其三劫三千佛。因聞五十三佛名而發菩提心。俱成正覺。而三千諸佛亦以洪名展轉開悟眾生。佛佛道同。名於世亦一也。有罪障之輩。經微塵劫不聞佛名字。而菩提種子何由生焉。悲夫。我輩何幸。得遇釋迦法中。感我覺皇宣說諸佛名字。凡一歷耳根。永為道種。況復稱揚讚嘆。唱和禮拜。各自淨信。成佛無疑矣。病僧自建五臺以來。每率清眾日課千佛名經。兼修諸品懺法。有俞居士。宿植德本。感悟佛恩。刻千佛名經。一報佛恩。一化群品。一自為佛種。此居士刻經之本意。予因言此。使傍觀出家兒日日翹勤五體。和聲禮拜。知非虛勞也。

2. 心經標言序

如來稱曰空王。法門稱曰空門。是則萬德慈尊。以空為體。一切教法。以空為宗。所以五時設化。般若居中。破前顯後。照有滌空。莫不由斯力耳。然則般若為諸部之樞機。是經乃般

若之領要。悟斯經者。不過數十言。微塵刹海。無量法門。全體窺矣。如其用力微而克功遠。惟般若波羅蜜多心經歟。絕學居士自言一生在般若心經得力。及見心經標言。分經析義。如檢自家屋裏珍奇。纖無疑滯。其辭匹鏡花水月。其義奪杲日晴空。性相全彰。宗教圓備。豈非剖一微塵見大千經卷者哉。惜未見其人。但從其子頗聞居士一二進止。其子凝之。穎悟超拔。可克父業。庚申秋馳書及壙記標言。求予一言。乃就梓。茲見居士脫體受用。全在般若光中。焚香合爪讚歎。真世諦中法眼再來人也。是為序。

3. 金剛般若經四依解序

原夫如來為一大事因緣出現于世。開示悟入佛之知見。故佛知見者。即阿耨多羅三藐三菩提是也。如來一代藏教。唯此一事。但隨眾生心量所見不同。故有五時設化之別。初演大華嚴。正示菩提自相。主伴融通。依正無礙。一即一切。一切即一。總之是無上菩提不思議境相也。當時二乘人在會。如聾若啞。其凡夫可知。如來不得已。將此不思議菩提分示少許。以就下劣根器。三乘人同見丈六金身。說阿含等教。二乘人始得信入。依之出分斷生死。證有餘涅槃。名人空般若。是少分菩提。即自覺也。

以二乘根器狹劣。得少為足。自任是二乘耽涅槃、怖生死。不能進修無上菩提。故如來說方等大乘等教。彈偏斥小。贊大褒圓。激勵二乘。發大乘之心。此示半分菩提。亦能自他俱覺也。二乘凡夫見佛彈斥。乃愧小忻大。厭偏慕圓。雖欲發大乘

心。而執實有大乘小乘法相。不能發清淨菩提心。故佛復說般若空教。破前大小乘法相之執。令離相發最上乘清淨菩提心。此示滿分菩提。空有俱空。即究竟覺也。既發菩提心。當發菩提果。故佛說法華等教。與之授記作佛。吐佛四十九年冤氣。方露本懷。但教化菩薩。諸有所作。常為一事。又云。「若有聞法者。無一不成佛。」可謂傾心吐露。然眾生既發菩提心。佛與授菩提記。如來出世能事畢矣。故繼之以涅槃。是知如來出世。五時設化。原始要終。總一阿耨多羅三藐三菩提之大事也。般若當第四時。如來談般若。有四處十六會。此金剛般若於四處在第二處。於十六會當第九會。

此經傳至震旦。凡經六譯。今本即什師弘始四年長安草堂寺譯者。此經自古迄今。論疏不下千有餘家。西域古今不知有幾。所見有四人。支那疏記雖多。止見三人。今有曹谿決疑、蘊璞筏喻。海內並譽。參於古人。亦互有所長也。古今疏記多以二論為主。據二論於經文多難銷會。若十八住為的。天親不宜分二十七疑。二十七疑如準。無著何判為一十八住。二大士既難為準。餘者可知。是則但隨各人所見。成就各人一段金剛智。皆與實相不相違背。如世間文字。愈做愈奇。愈出愈有。非以一美能絕其後。亦非一得盡廢其前。以理無盡。智亦無盡也。

觀衡於古人論疏多未曉然。無礙智不及古人故也。因注心本文。一日閱寶集經云。「菩提者。無色無相。不可言說。心亦無色無相。不可顯示。眾生亦爾。」又云。「菩提者。非過去未來現在。心及眾生。亦非過去未來現在。」豁然知此經文雖重沓。

不出心佛眾生。此三法無差別。是名菩提心也。

經中又云。「若有諸眾生善根廣大。超諸眾生。如須彌山王出過一切。是初發心。為施波羅蜜因。」又知此經重重言內外財施及法施。是菩提心初相也。又閱心地觀經。有十種波羅蜜。每一種有三相。如布施外財。但名施波羅蜜。布施身命內財。名親近波羅蜜。為求法者說四句偈。一無所得。名真實波羅蜜。則知此經重重以內外財施較量說經功德。是以二種波羅蜜較顯真實波羅蜜。是知菩提以無所得為自相也。

知此端倪。觀此經文字條然次序。略為科釋。復參證諸家論疏。有符節相合者亦取焉。前後疏通。倫次分明。如一氣之談。輒敢命筆分注經文之下。名曰四依解。未全依古人故也。其解始終唯發明阿耨多羅三藐三菩提心一義而已。觀衡識見不如古人。實霄壤懸隔。經如日光。古人如明目人。見日光全分。衡眚（音省，眼睛生翳）人。不能如古人所見。但隨自見所見得日光少分。盡自己見量而已。非不欲見古人見處。但眚自障耳。即所見自相分境界托日光生起。不從他人見分生起。今之科分唯依經文生起。得與不得。過歸於己。不敢污古人也。若論佛知見。唯佛與佛乃能究盡。經中有摸象喻。凡以有思惟心入佛知見。如瞽人摸象。古今疏論既如摸象。衡以眚自任。亦不愧也。儻不以眚為恥。同觀佛日。雖未見全分。已勝不觀者也。若高明如古人者。亦不敢強焉。

四依者。一依法不依人。未全依古人節判故。二依義不依語。唯探經義。不工文字故。三依智不依識。唯依菩提心。不馳騁知見故。四依了義。不依不了義。唯依清淨實相。不分別

有無枝葉故。斯解見雖微昧。志在弘通。縱未符佛意法意。計過不甚多焉。

4. 首楞嚴經四依解序

夫首楞嚴者。乃人人日用能見能聞、能覺能知之自性也。蓋此性即是常住真心。一真法界。聖凡不二。物我同源。如是廣大圓明妙性而眾生用之。能見能聞、能覺能知而不識知廣大圓明。實自狹自小、自私自昧。可謂日用而不知也。圓覺序云。「終日圓覺而未嘗圓覺者。凡夫也。」斯之謂歟。

原此見聞知覺常住真心。照而常寂。名為奢摩他。而世出世間一切諸法皆非。即空如來藏。又此常住真心。寂而常照。名為三摩提。而世出世間一切諸法皆即。即不空如來藏。又此常住真心。寂照不二。名為禪那。而世出世間一切諸法。離即離非。是即非即。即空不空如來藏。是則三藏本乎一心。三觀原無二體。究竟常住。無壞無雜。故名首楞嚴。苟能于此見聞覺知薦得常住真心、性淨明體。而首楞嚴大定備在我而不在於經也。若然者。心外無法。法外無心。舉心則念念真詮。觀經則字字本性。豈容心法能所對待之分哉。

孰能達此。又不唯一經之文義不屬於他。盛矣。盡眼之所見。耳之所聞。鼻之所嗅。舌之所嘗。身之所覺。意之所知。盡於虛空、遍於法界。塵塵剝剝。事事法法。亦不出此見聞覺知六湛圓明之外。是則十方世界乃吾見聞覺知之性量。十方諸佛乃吾見聞覺知之心光。諸佛於眾生心中轉大法輪。眾生於諸佛光中聞第一義。斯則一為無量。無量為一。小中現大。大中

現小。不動道場。遍十方界。身含十方無盡虛空。於一毛端現寶王刹。坐微塵裏轉大法輪。如是妙用。眾生日用。個個圓成。豈唯諸佛獨能哉。若爾廣大性量。廣大真用。即此日用見聞覺知。而不知不覺。不能廣大真實受用。孰之過歟。

經云。「汝復欲知無始無明。使汝輪轉生死結根。唯汝六根。更非他物。汝復欲知無上菩提。令汝速證安樂解脫、寂淨妙常。亦汝六根。更非他物。」知此。離吾見聞覺知。別無片事可得。豈非十方世界囹圄圖圖是一輪見聞覺知妙真如性耶。

第眾生日用不知。勞我覺皇出現於世。將錯就錯。從迷指迷。將此見聞覺知分作五時名教。總欲生住異滅復歸一性圓常。因當機有淺深。故乘時有先後。至於斯經也。開三乘之區宇。統五教之宏綱。權實並融。性相俱徹。初標常住真心。分別為二種根本。後明二決定義。究竟歸常住真心。其究妄也。即處即體以推心。心本非心。若同若別以分見。見亦非見。其究真也。無內無外以示圓。圓自何圓。不動不變以顯常。常如所常。或舉拳。或垂手。滿盤托放阿難目前。或交光。或灌頂。親手撥在大眾口裏。或剖剝於物象。或直指於見精。非因緣。非自然。非和合。非不和合。掃除戲論而妄想自空。曰清淨。曰本然。曰周遍。曰不動搖。但不分別而實相全露。

發揮三種藏性。細釋深妙疑惑。以應妙奢摩他之請。詳明二決定義。繼選耳根圓通。以滿最初方便之酬。復示壇儀法行。以為末世攝心。重宣秘密伽陀。以作當來護念。見聞之真宅既悟。莊嚴之妙門已知。借路還家。由因達果。立三漸次。滅二倒因。番十二類生日用不知之沉習。成十二聖位稱性圓明之妙

覺。當機舉果求因。問答事訖。世尊依因示果。修證義周。隨請真詮之名。便示了義之目。

阿難末問七趨情想之昇降。如來自說五陰迷悟之淺深。總是日用不知。未全道力。是知一經所示所說大意。不出當機所恨所請二關。精研所恨。未全道力之致。使盡日用不知之愚。發明所請。得成菩提之因。便克自性圓明之妙。全經之旨。旨盡于斯。要其如來種種方便。費盡多少婆心。不過指示人人日用。見聞覺知。就是如來成佛真體。如能極盡擔當。不唯當下與諸佛把手共行。便能高跳毘盧頂額上去也。可不快哉。可不快哉。

是經自唐譯已還。千有餘載。傳疏相繼二十餘家。犁文搜義。曲盡幽微。究妄研真。了無滯礙。大觀諸疏。似乎白日之下。弗藉別燈。細閱本經。實矣太虛之中。不勞施點。何乃自見未圓。不能如龍游空。超超於文義之外。鈍根不猛。偏好猶蟲蛀木。曲曲于字句之中。茲不揣沉冥。妄作分釋。自知不免聚笑於大方之口。且圖取快於偏陋之心。知我罪我。我心一如。是我非我。各有高見。衡不敢強知焉。開章分門。不越古式。節文發義。唯依本經。故以四依名之。

5. 刻圓通懺序

十方法界。世出世間。根塵染淨。一切諸法。皆是本有光明妙相。別無一法間雜其中。所以事事法法。皆可以透露向上一事。都可以為教體。但隨差別因緣。不無優劣遲速。於根塵中。推之勝妙。莫過於音聲圓通。無過於聞性。是知耳根一門。

不獨我娑婆世界為上。即十方世界亦稱第一也。蓋我娑婆世界釋迦文佛以音聲為教體。觀音大士以聞根為方便。正合此方之教。堪導此方之機。是知諸經教中皆稱讚觀音大士善得圓通法門。西天東土樹教弘宗。一切聖賢莫不宗此一門。莫不宗于觀音大士。

衡根性下劣。不能超越自在。因歸依觀音大士。崇此一門。撰集禮觀音儀一卷。勸緇白同入聞薰聞修金剛三昧。楚南諸郡從化者盛。

乙亥秋。禮青原祖庭。過螺川。挂錫西峰蘭若。有任之郭居士。宿慧深契。一見此卷。如逢家寶。歡喜踴躍。即欲梓行遍布。謹潔身心。自己書寫。更為條理次第。每一願後繪其行像。以便作觀。梓成屬余序。感居士之誠。慧行雅合。又喜同為圓通法侶。因拈筆祝曰。願修此懺者。各人莫孤自己本有聖性。莫孤觀音大士圓通無礙之慈悲。莫孤各人師長父母生育提攜。莫孤檀越流通護法之深恩。必期親見觀音大士本來面目。深入真實圓通乃爾。

6. 刺血書華嚴經跋

吉州廬陵爾念彭居士。法名音澈。老實明白。志學信佛。居貧不厭。禮誦精勤。又善楷書。淡食刺血。書華嚴大經及法華金剛諸大乘經典。書成。莊嚴精緻。送諸蘭若供養。此一妙行。在出家輩行之似不甚難。不難而難之不知出家所事何事。在居士處俗諦中。不以家室為累。身心唯佛是事。行此難行法施。是比之深山苦行頭陀無愧。豈泛常塵品所能為哉。此一行

在出家輩行之實希有。況在俗諦中之。更為希有。又在末季俗諦中之。是更甚為希有也。

法華經云。「若有聞法者。無一不成佛。」如是大乘圓妙法門。一字入耳、一句染神。皆為菩提種子。決定成佛。況能目觀口誦。手捧心持。刺血書寫。豈不成佛耶。又觀此一行是佛事耶。非佛事耶。若是佛事。本是佛心。心事皆佛。體用一致。非佛而何疑哉。

有謂書經用紫粉青墨豈不清淨。何用血書。血是腥物。一點染人衣服。尚生厭惡。何以書出世清淨佛法耶。曰。此一勝行出載聖經。是佛明言。是菩薩妙行。華嚴行願品云。「剝皮為紙。析骨為筆。刺血為墨。書寫經卷。積如須彌。充滿法界⁷。」此為證量也。又此勝行。乃菩薩稱法性所作不思義妙行。非有身心、有我見者所能為也。又以皮骨血汁書經者。非以皮骨血汁為美。乃美佛法為重而身可輕也。紙帛金墨為外財。皮肉骨血為內財。捨外財易。捨內財難。若不為此難捨能捨。何以見忘身為法耶。若以法性觀之。有情無情。有漏無漏。聖凡平等。誰染誰淨。誰增誰減。誰生誰滅。是生滅染淨增減。皆屬妄想計度。若謂血點於衣生惡心。而墨汁點於白衣又豈不惡耶。審此惡心既同。則血墨之染淨亦均。豈可謂墨淨而血染哉。

又試看血入墨汁。則不見染。墨入血中。則見染。是又血淨而墨染矣。又金汁果淨。入眼不應生障。血汁果染。入目不應生光。是又血淨而金垢矣。然金墨血汁豈實有染淨哉。是染

⁷ 經文原無“充滿法界”四字。

淨皆人自心分別耳。若無分別。法法皆如。誰非佛體。誰非自性。若紙素。若白氈。若樺皮。若貝葉。若毫筆。若指爪。若草木。若金石。若皮骨。若血肉。上至諸天日月。下及山河大地中之人物萬事。同一清淨法身。共一光明寶藏。從古至今。觀閱不盡。講演不盡。思解不盡。書寫不盡。是真經卷。是真文字。是真法門。是真秘藏。書經至此。筆筆是般若生光。點點是如來示跡。縱橫自在。無非佛事。是謂真佛也。復為之贊。贊曰。

佛子安住俗諦中。能為頭陀希有事。

刺血書寫諸法寶。身心舉止皆佛事。

末世能為此深心。一切佛恩皆報足。

知恩報恩得佛心。心既如佛即佛子。

佛子即為佛攝受。現前當來必成佛。

我今稽首極稱讚。功德甚深不思議。

字字不錯亦不亂。點點無名亦無相。

7. 血墨合書妙法蓮華經跋

丁丑春。余自吉州復匡山。進法雲寺為愍先師掃塔。即休夏山中。適四月八日。本山清眾同乞毘尼。有庫主靜修公亦從其次。修公素性質直。樸厚精勤。在五乳主庫有年。始終不二。盆器米麵鹽醋之屬。出納有量。毫未輕忽。即本職之餘。見有當為而未為之事。無不勇猛於前。未有避忌彼此之私。自領戒

之後。倍加勝行。刺血合墨。書法華等經。細窺公之操履。於十二時中。無頃刻之暇。不生倦色。非多生定願大力所持。何能臻此。

病僧是秋辭先師塔登雲居。為灑掃祖庭因緣所留。至歲暮。公持所書法華經至歐峰頂上。請病僧一語證明於後。病僧乃謂之曰。即本經有六種法師。書寫是其一也。又六種中。求自他俱利而書寫一行。獨為其最。以有卷軸文字之相。能令受持讀誦、解說供養諸行之所發起故也。抑所書經卷流傳世間。即大地清淨眼目。即將來大光明幢。即諸佛法身常住。即慧命相續不斷。實則超越諸行遠矣。至於刺血為墨。剝皮為紙。析骨為筆。書寫經卷。積如須彌。盈滿法界。此又稱如來藏不思議妙行。是超越中之大超越、遠之更遠之矣。公於不思議微妙法行已示少分。此亦隨世所知之心量耳。或謂書經用香墨豈不清嘉。何以血汗為重耶。曰。如世古今。有割股救親。親病即愈。股豈投症之藥耶。股是悅親之味耶。無乃重親輕身故耳。因捨身報親。所以能動天地、感鬼神、起親痾。勸諸人。古今稱為至孝。豈可以諸味之美、諸藥之靈而較優劣哉。

此刺血書經一行。出諸聖典。乃不思議大人境界。非以血光為美。特為重法忘軀。唯法無餘。以究竟清淨法身圓滿一真法界。豈可以血墨染淨難易世諦之見而為分別哉。唯稱讚尊重不及。是為知識。復以偈讚之。偈曰。

佛子實住真實地。所行無事不真實。

有身無身不分別。難行能行不思議。

是血是墨書此經。一點一畫全體示。

塵塵剎剎一毫端。劫劫生生唯本際。

諸佛法身離彼此。常住世間作饒益。

佛子能行諸佛行。真實是佛何疑惑。

8. 禮板的達像跋

天竺國梵儀大僧入諸夏。肇自迦葉摩騰、竺法蘭二師。始至洛陽。正漢明帝永平間。嗣有曇柯迦羅之于魏。佛馱跋陀羅之于晉。等比不可枚舉。自漢至明初。梵儀大僧。往往至震旦者。皆眾中尊。僧寶之龍象也。歷朝聖主咸以師禮接之。其來總為一佛法大事。第各有宗。尚因各有所宗。亦各有授受名分。名分既彰。互有旗鼓。互有隆替。總之佛法一脈。綿綿不絕。而梵師至此。各付所得。付得其傳。或返本國。或示寂此土。其所傳之人。多是此土。唯元世祖供尾麻刺室利。梵儀相繼七世。儼七佛繼化。六世皆天竺人。第七世是震旦人。所習皆天竺儀範。名曰疑牙納囉釋彌。此云智光。此人彼名以表七世皆密宗也。第六世名板的達薩訶拶室利⁸。即今南都西天寺、北京真覺寺、五臺山圓照寺舍利塔是也。

此板的達大師為兩朝人主所尊重。初為元順帝遣官迎至京都。安于西山法雲寺。即今真覺寺。順帝親從受戒。禮接甚隆。大師不負初志。辭歸五臺山。住善法寺。即今圓照寺也。大師日夜惟文殊是其密證。國朝初。太祖高皇帝詔授善世禪師。賜

⁸ 一作板的達薩訶咱釋哩。

銀章開戒度生。利益深廣。倍於前五世多矣。至于七世智光大國師。名稱夷夏。德被天人。其光明饒益。又超于前六代遠矣。是則元有天下。梵師相繼。與國終始。則元世諸君皆賢王。焉知非諸大國師陰有所資助、妙有所修致耶。至於國朝禮儀樂品優於前代勝多。亦我太祖高皇帝興隆三寶、睿算密等⁹不可思議之弘庇。是歷朝崇奉三寶義意深矣。

衡初出家。依五臺圓照寺惠仁和尚剃落。禮塔。長輩告曰。此是板的達善世禪師之塔。共有三處。南都、北京及此是也。

甲申。衡舟泊白門城下。有禪客自西天寺來者。言寺有板的達舍利塔。衡躍然而喜。知是法派鼻祖也。秋日策杖。叩於塔前。見塔磚頽落。無力一灑掃。惟有太息而已。詢知有佛牙得瞻禮。又詢知有手卷。擬是名公手蹟。主者持至。則故紙數張。即印字前後失次不成讀。因囑幼仁張公訂明次序。莊嚴成卷。以永鑑來哲。知歷朝崇三寶之隆、密化輔政之益不虛云爾。

9. 華嚴經綱要序

華嚴大經者。乃毘盧遮那佛稱法界量顯現自性因果本妙莊嚴究竟圓頓總持法門也。文豐義富。事渺宗玄。要而收之。不出四法界而已。蓋四法界者。一理法界。此界也。以真性法中本無生佛名言。豈有自他影像。世出世法。染淨因緣。當體全空。究竟清淨。不可思議。是謂理法界也。二事法界。斯界也。即理法界。至虛而靈。淨極而妙。不動本然。循業發現。頓變相見二分。幻開迷悟兩途。情與非情。聖凡依正。熾然同異。

⁹ 疑是籌字。

究竟所有。不可思議。是謂事法界也。三理事無礙法界。是界也。即理外無事。事外無理。理不拒事。縛脫歷然。事不拒理。生滅寂爾。波濤萬殊而全彰水體。水性一味而遍示波瀾。空有並施。性相不二。不可思議。是謂理事無礙法界也。四事事無礙法界。茲界也。合上三界。圓入一真。理事既不相違。彼此自是無礙。以事入理。理無盡而事事無盡。以理收事。理無殊而事事無殊。舉一念而三世圓明。吹一毛而十方炳現。正中有依。一毛孔中有無量無邊世界。依中有正。一微塵裏有無窮無盡如來。一多互融。延促自在。不可思議。是謂事事無礙法界也。

是則世出世間色心諸法。不出此四種法界。又此四界唯是一心。離心之外無法可言。此心亦是強名。不可言議、不可思議。即一真大法界也。如來證此法界性。示此法界相。廣此法界量。放此法界光。攝此法界機。彰此法界會。盡此法界理。演此法界經。是經一名而有三部。品偈既廣。卷數勝多。人間難於秘藏。龍宮久為密護。像法住世。龍樹大師博盡世間琅函。因搜海中寶藏。逢斯妙典無上真乘。慨大法不聞。何以見自心現量。圓宗未會。豈能開法性光明。注神淵記。得下部之始終。竭力宣揚。廣上根之知見。初流布於于闐。次傳演於支那。自經出興。無論餘國。但此方禪教師將緇素明賢。發無礙辨才。得無師智慧。雄機大用。豎論橫談。生死涅槃。自在無畏。立在毘盧頂上。超於威音劫前。從古至今。算數莫計。豈非皆從此經法化而出耶。或在諸餘經典。及師友因緣。一念相應。得見自性。亦須從此經印證。方能弘自性圓通。所以古人云。「無

不出乎此法界。無不還歸此法界。」斯之謂歟。今古從此經得大受用、得大自在。不可不知此經之所出耶。不可不知龍樹大師之所與也。

是經疏論。代有當家。唯清涼大師獨超越諸作。體法界觀。開合此經。實文殊之應身。乃毘盧之遍照。以六相十玄發其幽旨。以五周四分收其全文。分章剔義。若朗月之照晴空。逐句揭宗。猶海印之現乾象。義無不備。事無不周。是疏鈔與經可謂君臣道合也。疏鈔一出。自唐至明。代不虛講。至於我朝神宗年次。亦講未歇時。

奈何二十年來。不聞有處論及疏義、究此玄宗。人與物俱為滅消。身與心並之虛弱。事推容易。道懼艱難。無論黑白。皆為時氣所奪也。即僧輩中為座主者。或經或論。多不肯深求。或句或文。唯從輕快。以為簡易。以為分明。反以古人疏論為迂談。率以時尚口語為切妙。是以比來法席。皆貴指點本文。講解漸於虛浮。疏鈔將同湮沒。使如來一字法門。書海墨而不盡。破塵經卷。包法界以無餘。全若無聞。沉復得意。法運至此。良可惜哉。

蓋古人疏論。皆依智宣流。或總大意條陳。或從細文曲別。或正釋。或旁通。或合明。或助顯。或指證。或懸分。圓轉入微。開合不一。嗟乎。今之學者。多識心淺近。因視古之疏論。謂智境支離。又則此時。狹劣慢習日滋日深。輕淺狂見時染時厚。即於本經多望涯而返。豈獨古疏厭繁不尋。復有弄機緣作究竟宗乘。鄙藏教為糟粕文字。每掉頭弗顧。掩耳不聞。何乃逐末忘本。認派迷源。顛倒至斯。何因啟悟。邪風狂扇。一期

難回。

我憨山先師。乘法界大願。示生此際。痛惜時蔽。注意大經。遊心古疏。提綱挈要。斷義分文。不三年而全經大旨首尾昭然。即一座而疏有未發。復為補出。收群詮于指掌。窺法界于毫端。一性圓明。百無覆蓋。俾學者或因綱要以博疏鈔。又因疏以入經。因經以見性。使狹劣之習漸近而漸遠。廣大之境愈入而愈深。此綱要之所以而作也。是清涼大師為本經之勳臣。我憨山先師又為疏鈔之導師也。

正提挈閣筆之日。適曹溪堅請之時。義不能辭。行為彼應。因此經疏源流未敘。綱要起止無題。不時先師示寂曹溪。此種公案遂成缺典。幸得益公法屬竭力募刻。新安劄劂氏梓工方完。惜益公又卒勞累。斯亦未及請序大方。丁丑春。衡為先師掃塔因緣。特之匡山法雲蘭若。得此新刻。如獲舊藏。法法現前。受用不盡。由是罄此微言。用以鳴後云爾。

10. 刻方冊藏經目錄序

吾本源自性廣大圓滿。湛然常住。究竟無盡。而發現一切諸佛菩薩、緣覺聲聞、人天諸有、世出世法。亦無有盡。所以諸佛菩薩有說不盡的法輪。度不盡的眾生。嚴不盡的佛土。蓋吾自性無盡。故諸發用亦無有盡。且比觀過去莊嚴劫千佛有說不盡的法門。度不盡的眾生。有賢劫千佛繼之。賢劫千佛有說不盡的法藏。度不盡的眾生。有星宿劫千佛繼之。如我釋迦文佛有說不盡的法輪。作不盡的佛事。有迦葉繼之以別傳。阿難繼之以結集。諸菩薩繼之以論疏。又阿難尊者有傳不盡之法藏。

作不盡之佛事。繼之地湧之眾。流通於天上人間、諸洲諸國。總一正法眼藏。涅槃妙心。有得之而為顯。有得之而為密。有得之而為性。有得之而為相。有得之而為禪。有得之而為律。於吾正法眼藏、涅槃妙心。一無所有。其流通之普。亦無遐邇前後之次。我支那國。自漢明帝遣蔡愔等迎摩騰、竺法蘭二梵師持佛經像而至此土。始見三寶之相。普聞三寶之名。嗣之法顯諸師。嗣之玄奘諸師。皆此土高賢之天竺求教者。有梵師自西域持梵筴入支那者。或一人持一經一律一論而至者。或一人持多經多律多論而至者。或多人持一經一律一論而至者。或多人持多經多律多論而至者。所至之時不等。所持之法不一。至於達磨。不持一字而至。然前後諸師持來法藏。雖廣略大小顯密性相、有文字無文字種種不同。而於本有一事。無增無減、無欠無餘。圓圖一大光明藏。自漢至唐。所來法藏。較之天竺未來者。百千萬億分中。我支那國中未及一分耳。抑支那弘法諸師。於經律論、顯密性相等教各有所宗。亦各有師資授受。代不乏人。又此土一代藏教。名目、部類、卷帙。分劑有序。歷來諸師編次目錄。各有所見。有取來時朝代先後為次。有取廣略大小部類為次。有取經律論疏為次。有取說時先後為次。

神廟初年。有紫柏老人。見南北二藏板印造艱難。遠方更難於持行流布。立意轉梵莢為方冊。印造流布。二俱輕便。與二三子確議無疑。勸諸大心檀越。捐身命之財。鑄堅固之板。初發手於五臺山妙德菴。已刻就數百卷。顧冰雪積歲。恐侵及板。移於杭之徑山。山在江南。極於溫暖。山不為峻。易於上下。剗劑供給。事事得便。乃紫柏老人一大快事。

此一大事。始興於神廟八九年間。至三十一年。紫柏老人為弘法。歷難卒於燕都門下。諸大弟子扶龕南還。塔於徑山。與大慧老人塔相與呼應。意在此老生死以方冊藏板為身心。

自紫柏老人去後。四方刻資歸聚亦微。因就施者之方任力刻之。於是四方有道力者隨討未刻名目。同式就梓。自癸卯歲至壬午歲。將四十年。梓未虛日。其事猶未竟已。刻者不及歸山。未刻者懈不速完。

突有利根上座。乃貴竹赤水人也。穎悟卓然。妙有大人標致。慨紫柏老人未盡因緣。為佛祖慧命所係。不覺泣淚流涕。矯首歎曰。大丈夫出世一番。不作大丈夫事。則不如魚鳥矣。況可名人乎。天地萬物。毛羽草木。皆吾通身骨肉。豈屬他乎哉。過去乃吾之過去。未來乃吾之未來。現在乃吾之現在。紫柏老人未盡之願。乃吾未盡之願。自己未盡之事。自不勇猛於前。又誰待焉。奮力精進。堅誓曰。此身不竟此事。願此身碎為微塵耳。

立此堅誓已。策杖遍討徑山、嘉興、吳江、金壇諸處。已刻成者。某某經律論。某某傳疏。記錄名目、卷帙板數。一一查明。未刻者。亦如是查清。名目板數多少。記於指掌心目之間。先之雲間。商之徐李黃諸大檀越。欣然就事。已刻者十之八九。未刻者十之一二耳。不期半載可完。利上座欣聞新主登元。大興善事。上疏請旨。催四方已刻之板同歸徑山。復請御製序。以光方冊藏經之首。此實脩延國祚、密助王化一首善也。

嗟哉。紫柏老人為此一事。海內奔馳三十載。未目竟其事。

將非因緣時節有待今日耶。老人未盡之事有八。四方之板未歸徑山。一也。板未完、未製方冊藏首序。二也。貯板之方構造未廣。三也。因板未完。板頭錢未總則定數。四也。板頭錢、預修貯板之室未得良策。多有冒用。五也。目錄依五時之次。其正譯重譯、華梵傳述未盡其詳。六也。搜括古今名集遺漏未全。七也。因板未完。勸者、施者、鳩工者未勒名於石以昭千古。八也。是紫柏老人所有當盡未盡之謀。而利上座一一能盡之。是紫柏老人與利上座可謂首尾一貫也。首尾之體本一。首尾之用不二。說利上座是紫柏老人再來可也。說與紫柏老人同是地湧之儔、來盡佛法未盡因緣亦可也。此段因緣決非偶爾。紫柏老人諸有未盡而盡于利上座矣。利上座將來垂後。亦有未盡因緣。信來哲亦能為利上座一一盡之矣。盡之又盡之。未盡復未盡。盡未來際。此段光明無有窮盡。是則亙古亙今、徹天徹地。惟此一無盡大事因緣也。

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第七

(遼東錦州松山所見任浙江湖州府總巡廳信官余三瀛發心捐貲喜刻顓愚和尚語錄第七卷。計字九千五百三十三。該銀五兩七錢一分九厘。敬為慈母張氏夫人名下。性天朗耀。慧炬圓明。仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十月 日楞嚴寺經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第八

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

書序

1. 同聞思修發菩提心錄序

原夫一心。變而為萬法。萬法無性。全是一心。即萬法而會一心。其唯首楞嚴經歟。初心必假於方便。方便雖多。易成為要。而圓通易悟初心。其唯耳根一門歟。蓋聖性圓該法界。法界咸一聖性。是則根根塵塵。事事法法。無非入性之方便。但眾生從無始來薰染種性。不無利鈍差別。致令所依方便亦有親疏難易。親於性而不疏。易於入而不難。故特耳根一門為最勝方便。然耳門之勝者。因圓與性親。因通與性親。因常與性親。因與性親故。易悟而易入。況此方教體在音與聞。捨聞無音。捨音無教。是則合音聞而為教體。即音聞而歸聖性。隨此方教體之設。故經云「此方真教體。清淨在音聞。欲取三摩地。實以聞中入」是也。

歷觀西天東土。大聖大賢、若顯若密。無不從此一門而出。藏有修證儀文最多。足為明鑒。慨其法久自疲。用而不覺。人日誦觀音經。日稱觀音名。日被觀音福祐。而不知所歸因。不知所歸故。日誦日忘。時進時退而懈慢。不能精進以克其功。此非佛法不驗。人自惰耳。書云。「人能弘道。道不能弘人。」大抵聖賢弘道。在善誘於人。凡世法出世法久自成疲。善新者能起之。詩云。「周雖舊邦。其命惟新。」此新難言也。乃新其

舊有。非別剗為新也。如禪疲。以律新之。律乃舊有之律。如律疲。以禪新之。禪非始有之禪。譬夫鹽梅乃舊有之味。在善調者加減互換。以悅人之口而愛嘗肯飽也。而禪講律原是一法。亦在善誘者隨宜互換。以新人之心。使其銳志而克功。觀音一門。自明教大慧知禮之後。疲之久矣。若亡也。就其所亡而起之。豈非新歟。所以新之一字難言也。淨土一門。幸雲栖大師起之。觀音一門為此方切體之教。何未見人拈掇耶。

衡根器下劣。眾中糠粃。但髫年嬉戲。愛供養觀世音菩薩。十二歲持齋後。凡遇恐懼事。不覺不知念觀世音菩薩。彼時不知其然。後日追思。不從人教而自能者。誠宿緣所使。既有宿緣而又下劣者。信是多生罪業感集。此生乃爾。十四歲出家。十九歲上五臺山依師子窟空印大師習聽經論。二十二過南方。初住天台。但讀楞嚴經。從前未經大師決擇。所有疑礙都在此經中破之。又詳此經勝妙。重在耳門圓通。從聞思修入三摩地。矧今末世。識心精巧。好於義路。此經從精研究竟而入於堅固。正合此時之機也。況且人身從開闢以來。傳至今日。欲氣淫習深之愈深、厚之愈厚。而生死中唯此一根難拔。此經以淫習輕重而辨昇沉。雖諸業並遣。其要在破淫習。亦正對此時之弊也。又且從古至今。名言習氣積蓄深重。多尚鬥諍。馳騁狂見。此經以返聞聞自性為要行。亦正破此時之謬也。又則醫方萬品。對症為良。海寶千般。如意為勝。生於此方、出於此時。舍是經而求正知見。舍是門而求易悟入。衡不知其所從也。雖諸方教體不同。根根塵塵各作方便。亦讓耳門為勝。經云「由我觀聽圓明。故觀音名遍十方界」是也。

衡因臥疾邵陵五臺菴中。自述禮觀音儀一卷。率眾薰修冬夏二期。得真實行者十五人。同依觀世音菩薩發菩提心。從今已去。盡未來際。弘傳此經。稱揚此門。同列菩提心錄。陸續有同發此心者。同登此錄。並集經論諸家修證儀軌類。成一家教義。以各宗各志。庶幾日益日新。克功克果。普願法界有情同入如幻聞薰聞修金剛三昧云耳。

2. 生生篇序

肇法師有言。「天地同根。萬物一體。」又云。「會萬物而為自己者。其唯聖人乎。」蓋聖人無他。唯知己而已矣。人之殺生害命。爾死我活。起惑造業。生死茫茫。皆不知己之過也。若夫視一切生命皆吾支體。豈甘自食乎。觀一切草木咸我毛髮。豈忍輕傷乎。所以古聖先賢謹鈞弋、改網祝¹⁰。共饑渴、同憂樂。用之以時。節之以禮。皆達物唯己之旨。但曲順時宜。未能極盡。如云捨身餒虎、割肉噉鷹方是徹底。為人窮滿心量耳。書云。「一日克己復禮。天下歸仁。」斯之謂與。或曰。既然萬物唯己。若殺若食。皆干自己。而喫他還他、負命償命、因果報應何其謬耶。曰。若達物唯己、痛癢關心。豈肆誅噉哉。第迷己為物。為物所轉。故有相殺相食、酬償報應等事。此乃以迷積迷、因妄習妄故耳。良可悲夫。果視物為己。殺活自善。逆順皆仁。深可思之。思履王公神資穎悟。處世超然。曾見公成佛銘。曰證本源慈。登成佛地。知公于此事有透脫處。今讀生生篇。亦喜吾知不謬矣。命予一言列篇首。雖自知不文。亦難違高意。乃據實見說此。

¹⁰ 見商湯網開一面之典故。

3. 翼醫通考補序

原夫造物者。生生之主也。醫乃生生之輔也。而醫得非造物之神用乎。蓋醫與造物體用相並。醫之道豈可輕易言哉。試觀醫脈。祖於神農軒轅。此聖皇也。老子曰。「道大。天大。地大。王亦大。」而王稱天地之大者。輔天地之生氣故也。昔神黃二聖分五穀、嘗藥草。是知所輔無他。唯調護養育其生。離斯何為大焉。故主民者稱曰粟王、謙曰不穀者此也。范文正公有言。「不為良相。當為良醫。」此言以位不及相而為醫。非智不及相而為醫。何也。相。名位也。非時不臻。醫。道途也。無往不可。是知醫與相未敢易擬。然世間之道以生理為先。所以書云。「先修其身。次齊其家。後治其國。」使身不寧。何以論家國中外古今事乎。是以有國有家者不可不謹身。謹身之要。內修心行。外修藥石。矧其傷生者。多以心不正。陷身於死地。或王法刀兵、風火水難。或虎狼毒藥、惡疾惡癘。此心之招也。藥石無以療矣。聖門綱常倫理。乃醫心之良方。安生之大本。造物之神用。密化之深機。而學究之流。曉曉仁義。而不知所以為仁義者。可為識者慨也。推其致病者。多以藥食不調而殞其命。五穀性平。可以常食滋榮。衛療饑虛。亦不可過食。過則致疾。蔬果之類。其性有寒有熱。有風有滯。不可常食。食則先量其體宜不宜耳。其身之生也。本於陰陽五行。五行均則安。不均則疾。疾發而五穀不能調者。必求明醫授以方藥。藥者。約也。以少物而有多力。如一星之火能燒萬頃之荒、一粒之丹能變大地之土是也。藥雖多品。亦不出五行。其身五行。有增有損。其藥五行。有補有泄。使其五行均而百骸調。身寧

智出。而後可以論家國聖賢事業。所以至道以脩身為張本。古人有云。醫與儒一事。而謬為兩途者。此也。又則萬物有生必有滅。常理也。是以古聖先賢皆同烏有。但有生者。不可棄此諉于時。而不殷殷於生物。而醫者施仁、施智、施藥、施方。不緣病者賢愚、貴賤。但以廣生生一念為主。而病者慎疾、慎養、慎醫、慎敬。不擇醫之新舊、尊卑。但以良明是從。而醫者良、病者慎。間有未愈者。是為定業。非醫病之咎。而人子受身於父母。覆庇於天地。而天地父母愛其生而未欲其死。若自不善調攝。不從醫藥。輕身於黃壤之中。是有悖天地父母之心。孝慈何在。生理何在。是知病不從良醫。醫不施良心。俱為造物之賊也。

圖南喻先生。祖迪豫章醫館。楚之邵陵。當道縉紳、士民、城野請無暇日。其診脈與藥。安危言於先。活人之命、祛疾之悖。不可勝舉。好博古書。精考醫源。集翼醫通考。備收古今儒醫名公。敘論啟引。其核究脈理藥性。醫旨病穴。曲折細致。詳且盡矣。治無不備。弊無不遺。間有隱而未發者。公出而補之。名曰翼醫通考補。覽此書者。明者進。庸者懼。貧者濟。富者慎。同歸一生域。此集諸論。咸曰。醫在心術。有曰。醫在妙悟。此心乃仁慈也。此悟乃明智也。皆造物之用。而未及體。若以體言之。則天地萬物同一心體。彼病我之病。彼醫我之醫。豈有彼我勝負、急緩之見哉。如人一身。頭足尊卑雖殊。痛癢必均於摩觸。一體故也。豈有療頭而不療足哉。其耳目口鼻、肝腸皮骨皆然。其耳目口鼻有盲聾喎斜、不能醫者。亦以溫清調護。未有截而棄之。何也。好與不好皆體也。今之醫者。

視貴賤皆我頭足。藥無不仁。矚賢愚皆我皮骨。醫無不普。縱有庸醫。皆自耳目不明。可從容誨之。儻不受誨。亦方便與之。未使其絕生計也。或有病者愚吝。亦自皮骨不和。亦等醫之。未肯坐視其危亡也。若夫廣其仁。周其藥。安乎命分。全乎造物。使天地萬物渾一生理。可與太上同遊矣。而醫豈可不明心者哉。余居南嶽。喫烏藥中毒而氣血殆盡。因詣邵陵就醫。見喻公得療。三年之中。稍有感冒微恙。受公之藥。楮筆未能盡劃。公之仁與我多矣。公一日持此集以誨余。俟禪坐之暇。讀未三復。乃見公肝膽包乎太虛。一段生氣。洋洋溢溢。渺無涯際。是知用心在岐伯上求可也。醫與造物並求可也。是為剩語。

4. 中庸說白序

是書乃孔氏心法。此心也。先天地而無始。後天地而無終。若斯豈有古今隆替哉。其隆替之端在乎人耳。羲皇之上無有文字。雖不見授受之跡。而心傳密會。信必有之。自堯舜乃有典型。其傳受之語明著其中。有見而知之者。有聞而知之者。傳至周孔。其道大行。然道與世事。有盛必衰。孔孟而後。其道幾喪。秦漢以降。六藝並行。人莫識其本末。於中雖代有其人。不免為餘氣所雜。僅微微一絲潛注而未絕。似乎亡矣。至于大宋。程朱諸夫子正脈復起。程朱之起者。乃因佛法之勝激勵其心也。程朱排佛。可是知佛恩乎。

有僧問趙州。云何是道。州云。平常心是道。似合此書之旨。且何處是平常心。即夫婦之心。平常心也。兄弟之心。平常心也。父子之心。平常心也。朋友之心。平常心也。君臣之

心。平常心也。至于天覆地載。暑往寒來。皆平常心也。雖然如是。要在即今夫婦君臣間指點出平常心來。又卻難矣。欲知平常心。到不如鶩鴛白牯卻有些子。如此說話。但識趙州字。未知趙州義。欲得趙州義。自知不止欠三十年飯未喫在。是謂說白。

5. 律儀常軌序

書云。「操之則存。舍之則亡。」律儀常軌者。乃尋常日用操持行法。使不致於亡失也。祖師門下賓主問答。意在時時提撕。使不昧卻。一機不來。即同死人。如來教人行住坐臥。取捨視聽之間。持誦偈咒。亦在時時有人。在行者如法。從旦竟夜。次第行去。管教水牯牛欲犯他家苗稼。無斯須空罅。無記散亂不待驅而自遠。定慧圓明。無少間亡。菩提由是期焉。

6. 擬古長詩述志序

衡出自貧里。少讀書。及為僧。又懶學。空在法門三十多載。一無所得。自南來。亦二十餘年。多在深山孤頂以掩其拙。庚戌登祝融。藏跡於石廬峰下。以終殘喘為計。不意根器鄙陋。山靈為妒。頓遭異癘。不啻百死一生。僅游游一絲未盡耳。山中艱于醫藥。幸為舊知己接至雲陽調理。以業未盡。其疾痊而復返。但言多受風。四肢如泥。因此禁言。甲寅春又為駐鶴坊主人接來邵陵。有仁人君子。以孤病僧為愍。頻來顧盼。有問不能言。輒以筆代舌。人皆謂余能書。因神弱不及多言。凡答止以四句停筆。人皆謂余能詩。余實不知詩書。而詩書之名乃人誤唱耳。從是有索書幅者。有索書扇者。自以孤病無倚。不

得已而應之。祇是不免識者笑也。頃孝則車公以詩歸遺余。凡瞌睡之餘。借一寄目。其中幽旨未知。且不求知。但見長詩一首有三百五十多句。不覺驚訝。不知詩可以能長耶。以一向未見詩故耳。詩歸掀完。其詩有二句、三句、四句、五句、六句、七句、八句乃至有三五十句。甚至有二三百句者。雖古律有分。而詩名均也。是知詩文得到妙處。俱無短長矣。

嘗聞論詩者以談道理為偈。不談道理為詩。所以選詩者多不選僧詩。以偏道理故也。余雖不知詩。聞此說。恐非達者之論。且詩偈之分不知出何人之言。偈句也詩。離句何以言之。是則詩偈無別。但道理別耳。又道理乃性情之所遊也。詩果拒道理。而性情何由出耶。是知詩偈不以道理為別。以辭之風雅為別耳。詩若徒以清淡藻雅為重。而為詩者何益哉。仲尼云。「春秋作。詩道衰矣。」又何言歟。書云。「見山思高。見水思明。」此詩之正訓也。知此。詩不在詞藻而在志審矣。若論志。佛可無志耶。而世出世間有超過佛志者耶。又似離佛語都不足言詩也。佛經諸有頌句都不論。只華嚴淨行一品。凡所見聞。皆誦四句。此真詩之奧府。正見聞、正性情、正動止。莫尚于斯矣。但譯人未揀工拙。世之學者尚于詞藻。致使佛甚深詩道置而不誦。不惟不誦。而反嘔耳。斯言有異於眾。乃是不知之言。諒眾不我罪。又詩不清則不貴。古今禪講詩集盛多。如寒山子。不可備舉。縱詞未精細。而意豈不清耶。而選詩者多不上選。豈選者不知性情耶。大都僧詩乃僧之性情。世之學者乃世之性情。僧之性情與世之性情差別遠矣。且淺說如寒山詩中談諸好殺生者。而世之學者幾能戒葷茹耶。於戲。無怪乎僧之

不中選。不中吟詠。有以哉。僧詩亦有一二入選者。乃僧詩中屈節就世語耳。余病思無以遣。擬古長詩以述志。或謂余言過長於古。過俗于古。大淺輕。大陋鄙。是斷語。是偈句。余總承受。但余不在詞而在志耳。

7. 貝葉記序

佛法遍世法中。世法不別佛法外。佛法迷。紛然世法。識世法。渾然佛法。是佛法、世法無角¹¹二地。由其一照耳。又佛法作世法。將世法作佛法。適莫皆從。此亦在其善用耳。大慧杲禪師云。「老僧有時將丈六金身作一莖草用。有時將一莖草作文六金身用。」斯乃善用者也。使非顛倒豪傑、得大自在。胡能臻此。然法不二立。人豈二耶。僧何其僧。俗何其俗。形跡雖殊。中未嘗離。僧不達本有。僧何以僧。俗如明本無。俗何以俗。是僧俗不關跡。在本之明昧耳。又僧藉俗稱俗。依僧呼無可不可。此亦在放心於形表者也。

邵陵孝則車公。年未立。而才名四馳。性嗜奇。奇書、奇詩、奇文、奇義。咸出人耳目。言思不及之地。有時僧稱。有時俗稱。有時居士。有時尊者。此誠就裏廓然。乃爾變現。無朕若此。於子史士事之暇間。披佛典一目。如逢故物。心入口出。竟與古宿鬥雄。茲有心經頌、船子偈注、天主教辯、八識頌釋。并諸神辯。辭精理詣。秀潔絕倫。令人耳目一新。隔礙豁通。大似此一知見在古該有。在今不可闕也。合為一帙。目曰「貝葉紀」。遞余一覽。若睹異域殊珍。得所未有。愈玩愈奇。

¹¹ 乖角，衝突，相悖。

手眼忘倦。歎曰。此非佛法世法捏成一片。何遊戲其中。幻出幻入。縱橫自在。神解若此。是知佛智慧無地不在。若爾。居士何以名公。俗僧何以名公。則公可以名居士。可以名俗僧也。領益幽旨。無因作酬。擬湊拙言。欲向珠林標一瓦礫。知珠林非瓦礫能穢。冀瓦礫藉珠林光生耳。釋觀衡和南謹識。

8. 禮佛發願儀序

作佛作祖。禮為初門。成聖成賢。禮實要徑。是則禮乃世間法之樞機。出世法之根本也。蓋禮者。下也。下己身心。禮敬一切也。爰諸有情不解物我一如。妄執彼此。自恃自高。自尊自大。輕忽聖賢。疏慢長上。凌傲一切。積習不覺。滋貪嗔癡。結不善業。長淪惡趣。苦受難論。皆自恃自高、自尊自大、慢習之所招也。諸佛菩薩愍此迷妄。或示為世間聖人。或現為出世大覺。或教之以名分常道。別於尊卑。不越倫次。而禮而敬。自有節也。或覺之以佛性真源。泯於聖凡。不揀形跡。而禮而敬。自無礙也。要之下己敬人。敬人敬己。禮有差別。敬心一也。至於合和不二之心。親近原一之性。優游於華嚴世界。安住於寂滅道場。回觀自恃自高。自尊自大。豈不枉自區區耶。又觀祛恃祛高、祛尊祛大。豈非禮自謙謙耶。則知人欲橫流。非禮法不能斷絕。我慢凌高。非禮敬胡能折伏。是則禮實摧慢幢之利斧。杜欲流之堅堤也。而世出世法。舍此何以建立哉。大鑿禪師¹²云。「禮本折慢幢。頭奚不至地。有我罪即生。忘¹³功福無比。」此禮關於聖凡。翻掌覆掌之速若此。抑且世間學問必

¹² 即六祖大師，唐憲宗皇帝諡大師曰大鑿禪師。

¹³ 一作亡。

明於先達。不禮何以問明。書云。「敏而好學。不恥下問。」下禮也。世外真宗。須請益於智者。非禮何以請益。經云。「常請法師三時說法。日日三時禮拜。不生嗔心。患惱之心。為法滅身。請法不懈。」滅身不懈。禮也。心地觀經四種修學門。親近知識為第一。普賢菩薩十種行願。禮敬諸佛為標首。將非三千威儀、八萬細行。禮實要之。百千三昧、無量法門。禮誠初也。

又且末世眾生業習深厚。魔境羸強。若不親近知識。禮敬諸佛。哀求加被。自能出生死、證菩提者鮮矣。若爾。末世修學欲求諸聖攝持。應嘗¹⁴精心銳志。奮力肯切。至誠頂禮。而後信有所感。諸佛菩薩非欲苦眾生以禮敬。但要眾生禮敬至而慢習不生。慢習不生。則彼我情忘。彼我情忘。則萬物一體。萬物一體。即如如佛也。肇公云。「會萬物而為己者。其唯聖人乎。」是則諸佛菩薩教諸有情禮敬者。意以禮敬正眾生心成佛也。若然者。但內除慢習。則已何暇禮敬外求耶。曰。第一義中豈有內外耶。在迷妄中。積劫慢習。所結惡業能作障礙。必假聖力冥資。方能除滅。舊習不作。現習方不生耳。又禮敬是慢習對症之藥。不禮即慢。如除慢習。須禮敬一切也。老氏曰。「禮者。忠信之薄而亂之首。」斯言特為虛諂者置之。究禮之源。不至於浮流。孔子曰。「一日克己復禮。天下歸仁。」斯禮豈為忠信之薄而亂之首耶。昔黃檗禪師禮佛。童光帝（唐宣宗）問曰。不作佛求。不作法求。不作僧求。禮拜甚麼。黃檗曰。雖不作佛求。不作法求。不作僧求。常作如是禮。又有僧禮一老宿。老宿曰。莫禮老朽。僧曰。禮非老朽。老宿曰。他不受禮。僧曰。

¹⁴ 通常字，或云應是當字，非也。此書多處嘗常通用。

他亦不曾禮。若人具此識見。終日禮而終日未禮。終日未禮而終日禮。舉手低頭孰非不動智光。投地伏軀無非圓明妙性。塵塵作禮。剎剎寂然。時時寂然。處處融會。自他不二。能所歷然。法性無盡而禮敬無盡。禮敬無盡而智慧光明一切無盡。實為究竟真常、不思議解脫法門也。有心於道。舍此吾不知所從焉。因將禮佛入觀、發願軌則章分於後。以俟同志。茲語此。

9. 王介公閉戶吟序

王介公之吳越。未幾年餘。得詩二百多篇。其兩地嘉山水奇觀妙響。收拾殆盡。攜來歸菴園中。園與主相逢仍舊。而人與境別有一新。何也。介公未出門時。圖書古史羅列盈軒。天下古今絕境勝概。雖集聚目前。其中受用不過比量而已。今則以一詩府貯來。吳越江楚。雲濤月嶠。張布園中。時與相對。然菴園非展小而為大。吳越未縮大而為小。妙入融會。受用境界。大似現量親得也。余是以擬介公耳之所接。目之所到。鼻之所納。舌之所吐。身之轉側。意之取與。雖有¹⁵園內。而閒曠、懸邈、回薄¹⁶。超越菴園之外遠矣。非筆舌能示。是故園主仍舊。而人境別有一新。可知也。茲乃介公自住自受用處。共之者鮮矣。猶恐俗事間之。因斯閉戶以書經。藉經以淨心。心淨境現。境寂心融。意在密護自得之妙。此介公閉戶之底旨也。繼鳴之於詩。曰閉戶吟。屬余序。余久閣筆硯。但就戶內芳跡。括之一二以復之。然公之詩文深致。及戶外遠舉。余又何能知焉。是為擬語。

¹⁵ 疑是在字。

¹⁶ 迴旋盤繞。

10. 法喜志序

是冊揀歷朝名位賢哲、飽於法味者。織之成帙。為來期之明證也。蓋佛法自漢始達震旦。使震旦無載道之器。何以流通至今日乎。其識道之器有在家出家。而出家且置。即在家名哲才士。有一不嗜於此。何以見巨海一滴、味具百川者哉。有云。獅子乳唯玻璃盞能貯。餘物貯之即碎。然載道實難其人。昔法華會上。地中湧出六萬恒河沙數菩薩。同如來前。自誓於佛滅後。恒在此界流布大法。自佛法入此。此中緇素高流荷擔大法者。不其人乎又孰能哉。抑且佛末後以法藏付囑國王大臣。將非後世異見稠密。借斯名勢方能破之耶。是則通諸家之異執。斷末世之沉惑。此帙又是一大利器也。今之才子有未見佛書者。視之為異物。非前哲開導。起信無由。是知此帙為來哲之明證實矣。蓋自漢晉至於宋元。耽此法味者甚眾。今但揀光明勝大、昭千古耳目者列之。咸法喜所資。死而不亡者。壽也。教中有法喜禪悅二食。食之能養法身、資慧命。究竟無盡。是諸明哲已飽法喜者也。今同載此。名身不朽。知慧命亦無盡。此帙即法喜也。能持過去慧命。能資現在慧命。能生未來慧命。真法喜歟。真法喜歟。

11. 題穢跡金剛像卷序

如來垂教。有顯有密。密者。密其所顯。顯者。顯其所密。名雖差別。理實一致。故曰顯密圓通。所以為顯密者。特隨眾生心、應所知量故耳。若諸有情好多聞性。即示之以顯教。使其因文尋義。緣義達理。即理見性。即性發明。照空諸有。得

大寂淨。即此便是因顯以致密。即先慧而後定也。如有眾生好為持誦。即示之以密教。令其一字而含多義。得大總持。轉散心入定位。定光發明。照了諸相。猶如虛空。世出世法。了然無礙。此即因密致顯。亦即先定而後慧也。

蓋密教中穢跡金剛神咒。持者易獲感應。有持三日即見金剛神像者。有持一七而見瑞相者。有持三七而獲益者。乃至持七七者。至於持百日。或一年。或三年。或三五十年而獲感應者。其咒是一。而感應有遲速不同者。此亦緣眾生宿習有淺深。現心有勤怠。故有遲速不同耳。

又持咒要發明自心。心若開明。諸佛眾生。山河國土。有情無情。大小諸相。天堂地獄。善惡諸緣。皆吾心之影像。全無實體。畢竟空寂。古人云「識得心。大地無寸土」是也。如此了明自心。一切善惡境界皆不能動。以能達物唯心。唯心無物故耳。豈有自己又憎愛驚恐自己耶。若未明自心。起希求心持咒。或見佛菩薩種種善相則歡喜。或見金剛鬼神種種惡相則驚恐。因此二心。或顛迷其神。或惑亂其見。或致身以病。或因病以致死。此何以故。以未能達境唯心。見境從外來。有彼此能所之相。故有種種罣礙、恐怖顛倒。以致斷佛慧命。永失道種。是持咒求福而返遭此大損者。未先明自心故也。是以凡持咒者。必先尋明師。發悟自心。一切所作皆是寂常妙性。本有神通。豈持咒影像而又視之為他物哉。以心持咒。咒即是心。以咒印心。心即是咒。心咒異名。本無二體。如是持咒。方能自利利人。盡未來際。受用不盡。

慢亭劉居士。穢跡金剛所使流通諸佛秘密妙心。不然何以

持咒方三日。感穢跡金剛夢中授與此像。覺而描於紙上。與夢所見冥契無二。非先得佛心、持咒根深。何以致此。因書此。以聞有志於密教者。先要發明諸佛妙心為上。

12. 蓮社箴規序

念佛法門統攝十方。三世一切諸佛出世說法究竟極旨也。古云。「諸佛出興。唯為一事。千經所演。無有餘乘。」無餘乘者。唯一佛乘。一佛乘者。教人念佛成佛故也。唯一事者。即一大事。一大事者。即念佛成佛一大事也。是則諸佛諸祖雖有種種因緣譬喻、言辭方便演說諸法。究竟惟此念佛成佛一事而已。

蓋眾生本有佛性。即諸佛果體。以諸佛果體照一切眾生。人人本來是佛。不假修證。菩提煩惱同一清淨。此自性天真佛也。以眾生自性照一切諸佛。佛佛與眾生同體。無二無別。天堂地獄同一法界。此本然法性土也。又則寂而常照。生佛歷然。照而常寂。生佛齊溜。此無念之念。是名正念。此念實相法身佛也。

次則想相念佛。或念佛福相。或念佛智相。俱為淨念。如念佛福相。或念一光。或念種種光。或念無量光。或念一相。或念種種相。或念無量相。或念一好。或念種種好。或念無量好。或念佛種種香雲。種種衣雲。種種蓋雲。種種幔雲。種種幢雲。種種座雲。種種音樂雲。種種花雲。種種燈雲。種種寶雲。或念佛身壽。或念佛眷屬。或念佛國界寬廣。或念佛樓閣莊嚴。此皆念佛福相也。

若念佛智相。或念佛四無量心。或念佛四無礙智。或念佛五眼。或念佛六通。乃至或念佛種種三昧。種種解脫。種種智慧。種種善巧。種種無畏。種種攝持。種種大願。種種清淨。種種護念。種種道力。或念佛根本智。或念佛後得智。此皆念佛智相也。

如上念佛福智二相。皆念佛果相。既念佛果相。如是莊嚴。定有妙因。如依果尋因。念佛因相。或念佛施行。或念佛戒行。乃至或念佛忍行、進行、定行、慧行、方便行、願行、力行、智行。又或念佛因中禮敬、稱讚、供養、懺悔、隨喜、請佛住世、請轉法輪、隨學、恆順、回向。此皆念佛因相也。

如上念佛。或念因相。或念果相。或念依相。或念正相。或念福相。或念智相。皆是想相念佛。如心想佛光明相好。全身毛孔皆佛光明相好。如心想佛智慧神通。全身毛孔皆佛智慧神通。如是一想一念。念念靡間。盡於未來。無變無異。即頓登佛地。究竟解脫。此如來轉凡成聖最妙方便也。

次則觀相念佛。或不能想念佛廣大福智。但觀一相。或以紙素白氈繪一佛相。或以旃檀寶石雕一佛相。或以金銀銅錫鑄一佛相。設於香案。時時瞻禮。趺坐注觀。觀久成習。行住坐臥。習氣不散。佛相宛然。雜想不起。佛念相繼。念念既不背於佛體。事事又豈違於佛用。念唯佛念。事唯佛事。豈不身心全然一佛耶。現前身心既全是佛身。後身心又豈轉為別物哉。是觀相念佛。能見佛成佛。此亦決然之理。淨土妙因也。

如上三種念佛。觀相是念佛住持之相。想相是念佛別報之

相。實相是念佛法身之相。此三種念佛雖則有相無相不同。通屬於相。

次則持名念佛。即念佛名號。上三相總歸於一名。一名具彰三相之妙。是持名一行。乃如來方便中最勝方便。要行中極妙要行。是則十方諸佛百千方便、無量法門。唯此一行更為超越。

又上來四種念佛。雖是有相無相不同。總不出名相之境。更有向上一著。方是究竟一念。直念未生前不立名言。豈有念相。是則我釋迦如來末後拈花。諸祖相承。亦唯此一事。此是離念之念。即究竟念佛。此中雖不立名相。佛亦強名為正法眼藏。涅槃妙心。既可強名法眼妙心。亦可強名念佛成佛。達磨初來。喚作「直指人心、見性成佛」是也。此無名之名。名之至矣。是則諸佛諸祖藏教所詮、教外別傳。總不出此念佛成佛四字。盡矣至矣。無容擬議矣。

匡山黃崖寺梅公講主。深窮教海。直達心源。攝無量三昧。唯念佛一門。超念佛勝行。於持名一行。念佛佛現。自利利人。廣釋迦之化門。入彌陀之願海。遠紹東林蓮漏。近踵雲栖芳猷。本末祖源不昧。復建社於匡廬祖山。古今深淺非同。故擇幽於黃崖深處。若緇若素。共結不退淨侶。若遠若近。同臻極樂珍鄉。十方法界盡入斯門。三世劫海唯此一念。無生而生。生超上品。不去而去。去若剎那。分身塵刹。歷事諸佛。饒益有情。願窮劫海。常轉法輪。莊嚴淨土。此梅公建社之本懷。誠諸佛說法之宗趣。乃述蓮社箴規。列為十則。曲盡淨因。深詳妙果。性相俱備。理事全彰。真千古之龜鑑。屬予一言以為蓮品之證。

衡自知不文。但聊為稱讚功德。其往生玄旨、淨土幽微。自有高明發之。

13. 傘居閉門語自序

向上一事。不外宗通說通。亦不涉宗通說通。而宗說般般。皆光影門頭事。通者。達也。借此宗說。達彼向上一事而已。經云。「諸有所作。常為一事。」斯則佛祖言教機緣。總為助發通達此事之具耳。即此事中。欲求宗通說通。了不可得。豈容作實法會耶。

抑且教有教之正宗。宗有宗之嫡脈。若是宗教嫡子親孫。說行俱到。逆順逢源。而骨脈自清。靈苗迥別。如其是依草附木野鬼閒神。何怕其裝點十成。終非聖種。而明眼人前難逃秦鑑。

蓋教之微細。未易具述。宗之源流。略為舉示。印土祖於迦葉。震旦尊於達磨。六傳而下。兩岐發脈。五派分門。雖祖姓是同。未免門戶各異。果乃源流不雜。盛至千門萬戶。而祖骨猶存。自古宗匠皆有上堂入室。普說小參。種種機用。派演雖殊。禘祭有常。究竟不外此一大事因緣也。然作家宗師。權柄在手。抑揚自在。而初機晚學智識未圓。見善知識掃文字、遣言說。便作實法會去。見實有文字可遣、實有禪道可參。視藏教為生冤家。拈機緣作本分事。遇人點破則已。若直恁麼去。天魔外道或伺其便。深為知法者懼。

衡沉沒濱江將二十載。唯病為事。衲子肯相依倚者。但教讀誦首楞嚴經。頂禮觀音聖號。冀發耳根圓通。究竟金剛三昧。

現前縱未能發悟。亦作將來遠因。即經以明宗。不離經而求妙。唯恐混雜異種。迷失正宗。故密護若此。如其聖胎成就。骨氣堅強。自能行於非道。通達佛道。又豈容宗說之分哉。衲子有禮誦不發悟者。或教揣摩經旨。或教參究菩薩。或接之以問答。或示之以偈句。不過一期接引。使生通達之機也。有從事者集之盈帙。無非病榻衰喘之聲。豈敢濫同諸方上堂普說、門庭施設之舉。因以「閉門語」名之。

14. 題漢末時侯留犢¹⁷圖卷序

官一字難言。有外似染而中若遺者。有外似潔而中實執者。此非腦後玄睛。孰能洞其幽秘。觀漢末時侯留犢卷。隱然惻愴。不忍何為全一己之清名。析他人之母子。仁乎。不仁乎。時侯當時何不棄車贖犢、全彼母子之情。悠悠穆穆。同樂歸途。萬物安於同胞。天地合乎一體。較其一己之清又何如哉。衡管見如此。不知時侯當時所見何如。衡率言如此。不知古今商議何如。然則此一行在於世間。似亦不可少。不然何以警多染之俗行耶。時侯借留犢之淨行。發今古之染心。此亦聖賢善教之深心也。此一故事。旨在有我無我之間。不在留犢不留犢耳。觀此卷者知之。

又

官一字難言。有爵祿之官。有功能之官。有禮法之官。有

¹⁷ 東漢建安年間（196-219），時苗任壽春（今安徽壽縣）縣令，為官清廉，到任時只以一母牛拉車而至。在任一年多，母牛產下小牛，時苗去職時，只帶走原來的一車一牛，不肯帶走在當地出生的小牛，民眾不忍見他離去，前來夾道相送。時侯留犢圖卷所繪，即民眾送行的情景。

仁義之官。有道德之官。爵祿、功能、禮法、名利之官也。仁義、道德、性理之官也。有名利、性理所不能至者。無任之官也。

嗟乎。今之居官。名利多有。未即真至。而況性理之於無任乎。何也。今之求名利者。私於一身。因私一身。求之不得。多涉奇險。縱得利多。未正。縱得名多。未真。世之名利不可厭。唯可厭者。不真至也。若果能真至。名利乃本有之勝用。豈容厭乎。若視一身與眾身均一幻相。等觀眾身與一身同一空性。若爾。則一身之名利乃眾身之名利。眾身之名利乃一身之名利。至此。則心地廓然。奇險自平。不干利。利盈六合。不干名。名傳終古。終古之名。遍六合之大名。六合之利。窮終古之大利。此之名利。較前私一身之名利。誰大誰小。誰遠誰近。人多為小名小利而失大名大利。是為有智人乎。無智人乎。所以謂官於名利多有未真至也。世人謂官多好名利。道人謂官多不肯真好名利。名利既鮮有真至性理。無任尚在遙遠。豈易言哉。閱徐公時侯留犢卷。因言此侯高明。識時侯何為官。亦識徐公何為官也。

15. 黃庭內景玉經序

仙經岐派甚眾。斯內經是其正傳。統之。無外乎存想固形、欲延長生耳。而世之習仙者亦甚眾。延壽至千歲萬歲。乃至形神俱超者。未見一二。何也。蓋其壽至千歲萬歲。定非俗品。況其形神俱超乎。既非俗品。而俗人耳目又豈能接乎。是知壽至千萬歲者。自能遠邁深山海島之間。無怪乎罕見。設有形神

俱超者。自能幻幻諸狀。時在耳邊眼角。亦難其識。又則長壽之基。本於人德。仙經特助緣耳。若內無長生久視之德。徒務方術。欲延其齡。不啻刻人糞為栴檀形。欲求香氣。無有是處。如世之小藝。同門者三五人。有乘藝而榮身者。有恃藝而亡家者。其藝是一。得失關人之宿因。知此。有習仙而不得者。當病人德不具。勿病仙術之不妙。如竺墳¹⁸中云。「若不斷殺盜淫。妄修禪定者。縱得神通、諸三摩地。皆落魔道¹⁹。」亦可為證。

蠢寰陳居士丰姿雅靜。澹泊無欲。不家室。不骨董。飄然一身。游寄諸名公書館中。儼然一仙品。即不假仙術。必階仙級。居士於世藝一無所好。但隨人之所好而好之。即老氏曰。「聖人無常心。以百姓心為心。」實之。又選內經諸般秘說。集成帙。意余序。然仙術實非余所尚。但尚居士乃仙中真品。故拙言於首。

16. 授戒科儀序

震旦律學自澄照大師後。似乏其人。雖歷有授受之跡。而無授受之實。致使如來自性清淨心地法門如弊垢衣。無人肯著。或別目禪道以為向上。豈知如來末後拈花。本示蓮花臺藏世界盧舍那佛所傳金剛光明寶戒。外此豈別有向上耶。而義學之流多不達此。執名取相。妄為禪律之分。互相抑揚。不知如來諸有所作皆為一事。若見禪律而二之。是未知禪律者也。豈不大辜佛化耶。抑且近代衣鉢阿師。將如來授戒作法。傳為流俗應教科儀。不免為識者掩口而笑。從是智者益疏。頑者益陋。佛

¹⁸ 即佛經。

¹⁹ 此語系概說，詳見楞嚴經四種清淨明誨。

法住持妙道將若亡也。

衡自知根器下劣。不能主持此道。亦不忍坐視狼藉。乃遍討瓦官高座嘉猷。細閱經律諸教垂範。參合對證。然語句作法前後差別。互有詳略。其歸敬懺悔發願之意無不大同。因不揣沉冥。別為編次。依正就詳。刪繁補闕。遂成三堂授受法式。使後學臨壇自見淺深之序。受持各別小大之行。蓋授受分明而威儀具足。即威儀以正行。行正以誠心。心誠而道眼明。道眼明而實相露。實相既露。盡十方界是一輪金剛寶戒。是則經行坐臥。全法身之妙體。鉢盂錫杖。標本有之常光。師資之道既真。主賓相見有禮。古今了然。當下自他未隔毫端。豈非即穢土成淨土。即凡軀入聖軀者哉。三堂法式之編。旨本於此。是編成于戊午年間。屢欲刊行未就。甲戌秋。衡循方乞食至湘中。遇李謝諸君子。宿慧深遠。一見有契。請病僧為菩薩戒證明。盤桓久之。語及授戒作法。因出此本示之。諸君子一目。歡喜就梓。復命一語以信諸後云云。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第八

(遼東錦州松山所見任浙江湖州府總巡廳信官余三瀛發心捐貲喜刻顛愚和尚語錄第八卷。共計字一萬九百廿九。該銀六兩五錢五分五厘。敬為慈母張氏夫人名下。性天朗耀。慧炬圓明。仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十月 日楞嚴寺經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第九

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

17. 自知錄序

是書源流始於功過格。增減相續。易成此集。蓋功過格與白豆黑豆之驗。衡聞之舊矣。大要是去惡就善。革凡入聖。微密妙行之公據也。每欲效之。惟身心羸獷有間。致使染淨交雜。不能純淨無漏。深愧相去古人遠矣。且功過格者。有欲檢束身心。頓臻妙淨。先置一空書格於案頭。每時每日、每月每年。凡舉一善念、行一善事。隨以筆記之。動一惡念、作一惡行。亦隨以筆記之。竟夜達旦。從朝至暮。自閱一日十二時中。多少善多少惡。如善多惡少則喜。若善少惡多則悔。假若純惡無善。自知是凡夫。是惡人。是沉淪。是愚癡。乃至是畜生。是餓鬼。是地獄。不應與善人賢人一切大人同坐、同行、同飲食、同衣服。況敢開大口說大話而無忌憚耶。如此純善無惡。自信是聖流。是善人。是超越。是智慧。乃至是羅漢。是菩薩。是真佛。恒應於惡人、愚人。一切含識。能勸。能導。能攝受。能安隱。自能入非道、達佛道而無違礙也。然則人性、物性、天性、佛性。唯一性也。第因念欲形氣有精粗。善惡不一致。有聖凡優劣不等。試觀善人惡人均一性也。而損益自別。智人愚人均一性也。而明昧各異。天堂與地獄均一性也。而苦樂懸殊。諸佛與眾生均一性也。而覺迷迴隔。諦思聖凡性既一也。何不為聖。為賢。為善。為智。為天堂。為羅漢。為菩薩。為佛。為解脫。為自在。為超越。而甘自為凡。為俗。為惡。為

癡。為地獄。為餓鬼。為畜生。為纏縛。為障礙。為墮落。枉自屈屈。孰之過歟。自棄耶。人棄耶。天棄耶。地棄耶。覺察至此。不思希聖希賢而仍從愚從惡。未之有也。古人立功過格乃聖賢行徑。非真實做功夫莫能識之。不惟不識。反笑為卑劣事耳。黑豆白豆之驗。亦同其揆。雲棲大師悅此格。增補易名自知錄。謂人孰不欲為聖賢。惟不自知不自覺。故荏苒成俗。乃至流入惡藪。皆無知之過也。如能自考身心。擇精取妙。純白無雜。豈非是有知、良知、能知、正知者耶。此在自信自得方能親切。因以自知名之。

吉之隴州安于劉公伯仲。乘般若慧根。兆形此際。身心舉止、視聽言思。純善無偽。慎獨無間。見義勇為。全無身世之慮。為人為己。不見彼此之跡。而賢善可為至矣。復梓此格。仍依雲棲大師之名。衡三過目。不能釋手。見此刻即見安于公之身心也。亦見一切有生之性命也。是安于公之身心。無二無二分。無別無斷故。十方法界同一真淨。世出世間共一圓通。究竟真常。廣大無礙。豈可視為事行、行行、小行者哉。外此別覓玄妙、雄談闊論、大悟大徹、大機大用以為超格者。諸方別有善知識為之發揚。非衡所知也。是真實語。

18. 閒閒菴集序

近來新發禪書遍滿區宇。無乃彷彿前人相似之舉。語意未出古宿窠臼。即拈古、頌古、轉語、代語之名。惟智者能超之。實難其言也。讀豈凡居士閒閒菴集。大有超格手眼。遠諸沾滯。言言獨露本真。字字不墮世數。非大有超邁古今實到之妙。何

能有此。豈尋常宗教學步阿師可同日而語耶。此中題詠疏記諸作。皆自住三昧。幽微深密。縱其雷霆未能破之。究竟堅固。獨見於此。昔嘗晤居士畏之非大人再來。何奇貌若此。是時居士任長沙副憲。別後聞出巡南雲茶陵等處。與諸戎長鬥射。無有先其左者。遇虎射虎。遇寇射寇。百發百中。如甕中捉兔。全不費些毫計力。因此三湘清泰數載。有生者咸被其力。

衡出荆楚。浪跡江右。期八九載。傳聞居士出處多端。有云官高何位。有云出家何山。有云掩關修禪。有云探奇山水。聞之不一。信亦未決。每懷之而不釋。茲為雲居灑掃因緣未就。持鉢吉州。道經章門。與舊識歎時世不寧。延及海昏。上下多寇擾。賴有金憲臺捉獲巨盜多少名。乃驚探之。莫是昔年據長沙之金居士耶。舊識遽曰。就是此老。衡喜不自禁。敢通名求晤。一見目光射人。無畏自在。大不與昔日同觀。其舉止妙用。神出鬼沒。天眼龍睛。求其蹤跡了不可得。今時緇素學人。欲知觀音大士八萬四千首眼與臂。欲知竿頭進步。欲知威音那畔。曰全體大用。曰本無所有。曰禪。曰教。曰向上。曰生前。直向居士箭頭上著眼可也。如不能向箭頭上著眼。可向居士箭譜中游目。此閒閒菴集。即居士箭譜也。若看破箭譜。即見得居士箭鋒。若見得箭鋒。庶識得居士全體大用中一少分耳。舟中將別。居士惠此集。意索一語為證。衡憑己之所見所知錄此。若居士透露佛祖之外、智識不到之地。猶俟超方大知識能發之。

19. 匡山蓮華峰志略序

本來大體寂照不二。發為相用。亦變相見二分。相分屬寂。

即染淨差別、種種依報。見分屬照。即聖凡差別、種種正報。是則依正之分。雖聖凡優劣、精麤靈昧、小大之不同。總不出有情無情之境量。原其寂照不二之大體故也。從來有云「地靈人傑、人傑地靈」。亦本此義。匡山紀事云。「匡山奇秀甲於天下。蓮峰奇秀甲於匡廬。」此語可謂匡山知己別為蓮峰之知己。是則蓮峰乃匡山諸峰中第一峰。不惟本質獨秀而名稱普聞。超越諸峰遠矣。所以超越諸峰者。因本質靈而出人傑。因人名聖而地名尊。此天下古今不二之常道也。此峰宋有祥庵主卓錫斯處。是此峰之知己。濂溪周公與祥庵主密於此事。互相酬唱。是周公又為祥公知己。人與人互為知己。山與人亦互為知己。是山與人、賓與主互俱難得也。而蓮峰之面目獨耀於天下者此也。祥公之識見非淺學可測。因兩句語。識洞山聰公為雲門兒孫。展具遙禮。只此一事。則知祥公獨拔諸方。本蓮峰獨秀諸峰也。

我明世宗年間。有大安禪師。久依中南古巖尊宿。古巖化後。負靈骨遍歷諸方。末上蓮華峰頂。喜其高遠幽曠。遂下住腳。先建古巖尊宿塔。縛茆於傍。三年後方事苦屋。佛殿禪堂、廚庫諸寮、山門廊廡新壯。一時四方學人歸趣如雲。來往問道。檀越有汪南溟、萬淺源諸公荷擔大事。有荊國樊山王為伽藍主者。彼時興揚佛法。大振真風。蓮峰亦可謂西江第一席也。

思宗年來。有融公捨座主。遠繼二大師芳猷。座主先從五乳憨山先師披剃。亦嘗參黃檗念禪師。為憨先師室中密契。與貫之畢居士諸上善人結石門社。深究禪源。慕祥菴主之遺風。獨登蓮峰。直造幽境。追古比今。大生隱意。乃於二大師入定

處結廬獨處。自謂活埋。舊識聞之。苦為勸喻。下山再為商略不遲。公堅志不移。三經寒暑。實乃死而復生。枯而再榮。諸方聞者見者無不獲益。有學人慕其風。欲同飲啜、苦難栖泊。不得已稍從結搆。從是有忍先懺主、秋雨淨舟二座主相訪。因訂向上盟建大悲壇修大悲懺。蓮峰法道復為一新懺法。饒益甚廣。

融公著有蓮峰記。振古社序。一菴法傳。二隱者傳。峰上諸作甚多。少存稿。為他事因緣。偶飛錫建業。說法金陵寺。法範清古。蓮峰因年荒兵火之亂。人多四散。漸見荒涼。古江州萬工部遇菴公。有先塋在蓮峰之下。因掃塋。仰濂溪周先生高風。尋幽探古。高望蓮峰。恨不得一蹴而至。捫蘿攀條。躡霞爬磴。直上蓮峰極頂。伸腰張目。長江大流。乾坤開闢。山河大地。恍與身心無二。不覺輕快自亡也。歎曰。夫子昔日登東山小魯。登泰山小天下。吾今日親見吾夫子面目。合而為一。從此再不疑誰為佛、誰為孔也。蓮峰聖地。益人如是之速。慶快不已。遍探此峰之奇絕。遍討此山之文墨。集之盈帙。目為蓮峰志略。附高僧傳願文與融公諸作。合刻為一。舟下留都。親迎融公歸峰上。別為莊嚴。重新佛法。是萬公又為融公知己。如大安之有樊山。祥公之有濂溪。有主必有賓。有人必有境。而人境賓主互相待而互相與。其因緣時節。妙有不可思議之湊合。非心力可及也。余讀此集。則知山與人。賓與主。今與古。彼與此。惟知己而已矣。亦惟一己而已矣。贅語。

20. 三堂傳戒儀序

原夫律宗。乃諸佛出世說法究竟一真總持心地法門也。初盧舍那佛於蓮華臺藏世界座上。以此心地法門告千華上佛。千華上佛轉告千百億釋迦。千百億釋迦持此心地法門。各歸南閻浮提菩提樹下。示成正覺。始初說法。終至涅槃。諸有所作。不出蓮華臺藏世界盧舍那佛所告心地法門品中一毛頭許耳。乃至釋迦老子末後拈花。全體揭示。亦不出心地法門一毛頭許耳。千百億釋迦各各如是。是則過去現在未來諸佛出世說法無別法可說。唯此心地法門而已。過去未來現在一切菩薩修學亦無別法可修可學。亦唯修此心地法門而已。是則律宗實諸佛門法藏之總相審矣。至於如來因事制律。有大乘小乘、在家出家。開遮不同。抑有安居結界、羯磨布薩、結罪出過及傳戒儀範。衣鉢名相、種種差別。皆律宗住持法相也。修律未善其宗者。惟知事相作為而不知所以。事相作為者。是執事而迷本也。誰之過歟。

震旦戒宗。本於高座瓦官²⁰。相傳至大唐澄照大師。可謂律學之大成也。其傳戒科儀或增或減。展轉不一。法久自弊。傳至宋元及我明初。有南北戒壇。其科範雖漸次俗。而綱領猶正。南壇寢息久矣。北壇世宗年間尚大開法施。末年為當事奏之亦禁矣。從此諸方或三人五人、十人百人聚為一眾。開壇傳戒。善則善矣。多有未見戒之全法。未免有增減之訛。甚至三堂交互不清。識者無不哂之。

²⁰ 此二皆古寺名。

觀衡不忤下劣。緣于竹林大師教衣鉢作法。其本自北戒壇傳來。更參于諸方科式。如清濁水。貯于淨器。俟水清去。泥依清水。分立三壇作法。其中有通有別。通則通于啟請。歸依懺悔發願等式。雖小異皆大同也。別則別其沙彌、比丘、菩薩發心。行相開遮、精麤差別不等也。繁者刪之。少者補之。刪者刪于過俗。補者補于佛語。未敢以己見妄點其中。唯拈香緣啟等語出鄙意。此屬外科。無害正旨也。三堂儀則訂成。復白十方諸佛。拈鬮印可。乃敢就梓。初梓于中湘。次刻于邵陽。因時勢壅塞。白門吳越多未見。爾晦上座、眾中知識捐衣鉢之資。再刻于留都棲賢菴。以便傳戒。省于臨時去取之勞。此緝多就時。稍繁。來哲如欲再訂。只宜減不宜繁。恐違佛制。緣舉刻之。誠綜其大端。冠諸首。用知此刻所自來云爾。

21. 永嘉禪師證道歌註頌重刊序

有云「諸佛出興。唯為一事」。此一事者。乃一念未生前。無迷、無悟、無修、無證。無有身心世界。亦無諸佛眾生。究竟本無所有。向上一事也。是則黃面老子示寂人世。始之處胎降生。終之示疾入滅。其中種種動止。放光入定。降伏魔外。應供人天。一說多說。塵說刹說。乃至舉拳垂手。掩室拈花。總此一事。蓋此方教體。在音與聞。如以音聲語言宣示。此事為正傳。如言說之外。別以放光動地。舉拳垂手。掩室拈花。或密語。或良久發明此事。為別傳。正別之傳不同。所傳之事一耳。所以阿難尊者問迦葉尊者。世尊金襴外別傳。所傳何事。迦葉尊者呼阿難。阿難應諾。迦葉尊者曰。倒卻門前刹干著。阿難尊者有省。觀二尊者問答。而別傳之旨可知。試觀諸經論

何處不先標本有。又觀諸祖相傳何人不終藉言說。而初學座主、黃口禪流。妄以宗說分優劣者。徒增戲論之失。又則正中有別。別中有正。如是妙密。在於主持佛法者觀機逗教、善於發用耳。爰真覺大師初習台宗教觀。深入法界。游戲性海。如獅子王。縱橫無畏。末上曹溪見六祖大師。唯印可而已。非別有指示。此是教中沒量大人。知此。則知教之所以教也。真覺大師歌詠此事以發悟後學。名證道歌。古今稱為甚深法施。絕妙聲句。所以從古至今。偏方僻域。咸珍誦於口角。

元至元年間。有法慧宏德禪師從而著語註述。復為之頌。精肯曉了。義路本位。圓明無礙。上智下愚。各從其游獵。是此一拈弄。實為初學大開一方便門。從元至元至於今日。三百餘年。此作全不聞于世。偶愚谷姚居士得之於書齋。閱而喜之。如獲至寶。欲梓行以廣於世。屬余序。余展玩三次。亦喜透露幾微。平實穩當。觀姚居士丰姿飄揚。器度閒淡。莊重和雅。與此註頌氣味相合。擬法慧禪師乃愚谷公之前身。今特來翻騰自己舊時公案。不然何此書已沉沒三百餘年。不曾遇著一個知己。何因何緣獨今日撞著姚居士。如涉大川拾得一如意寶。豈不奇哉。豈不是宿因所使。昔紫柏老人海內周旋三十餘年。撈尋洪覺範禪師文集。盡覺範大師所有諸作。紫柏老人盡得而梓之。一一能新人耳目。紫柏老人未梓之前。世已絕聞若亡矣。人謂紫柏老人是覺範大師後身。今來撈尋自己遺書。此語可證。此書堙沒多年。今日重復炳耀。亦是此書之精神當於此時發現。一切因緣時節。各有待焉。駢語。

22. 諸祖道影跋

真源絕朕。藉心色以達其宗。智境無依。因真空而顯其相。又則心非境不生。境非心不有。聖凡心境。染淨因果。皆真空之影像也。復有將紙墨圖寫聖賢之形。山水之形。萬物之形。乃至圖寫地獄餓鬼等形。此乃影上而復影也。影而復影。影影無窮。影影無窮。彰吾真源之妙用。是則藉影以觀形。即相以見性。形影非離。性相不二。其中幻化微妙。豈可得而思議者哉。世之傳寫聖賢之形者。以啟人希慕之心。傳寫山水萬物之形者。以見變化之妙。乃至傳寫地獄餓鬼等形者。以生人怖畏之想。怖苦以畏惡。希聖而慕善。要之修身正心。革凡入聖。莫不從斯影像以達真源。及至真源。回觀聖凡境界。一無所有。是則頓超佛祖之外。亦從影像之妙而發起也。此卷繪諸善知識道影。即自心之光明。應善保之。

23. 燕貽孫居士書華嚴經跋

甲申春。從舟訪船子性空道場。住雲間月餘。有老僧云住貝多菴。持華嚴經首尾二卷。云是西番國王跪書此經八十一卷。進貢宋天子。願十方國土通為一家。此番王書經之底意也。董玄宰、陳眉公、李姓者咸有跋。老僧欲衡贊一語。細觀前三公辭義書法。曲盡幽致。可謂三傑矣。再言不過膚餘耳。是觀書者之精神堅密。故所書之經堅固常住若此。此經自宋時入我國。歷年久遠。經過幾番世界之變而能獨存。若紙若墨。若手筆新成。此非精神感通、龍神呵護。何以有此。此真世間瑞品。又宋朝有五顯書。七斗書。金粟等書。藏經約六七藏。今未聞有

一全者。獨全此經者。其呵護豈不別有奇因緣耶。

是年休夏留都清涼寺。自恣後。有孫居士托僧持華嚴經首尾二卷。云是居士先大人燕貽先生手書。此經八十一卷。卷卷皆有人跋。唯餘第二十一卷未跋。欲衡填之。想諸卷之跋。已盡跋之深妙。特祝之。此經字字光明。字字堅固。與虛空等。與法界等²¹。饒益未來。無窮無盡。較之番王之願十方國土通為一家。共超越廣大悠遠。霄壤未足況其高下。是祝。

²¹ 此「等」字原無，缺則不合文義句法，恐是原書漏刻，而第三卷及附卷皆有，故補之。

贈序

1. 贈若訥舒公序

天地之氣。以陰陽會合、交互錯縱。有消長屈伸不一。故所生萬物。有貧富貴賤不同也。人之習氣。以根境對待。因依薰染。有忻厭去取無停。故所結種性。有染淨善惡之無盡也。天地無私。降修短之區。修短之由。在人善惡之習所招。乘善習。遇長遇伸。所產故尊大。乘惡習。遇消遇屈。所產故微賤。亦有善習遇屈。屈亦成伸。惡習遇伸。伸亦成屈。是則天地之氣。從人業習所轉。人多外推天地之氣。內忘所結之習。故以死生富貴諉于天命。不知天命由於自造。然天地之氣與人之習。均吾心之妄動也。首楞嚴經云。「觀界安立。觀世動時。觀身動止。觀心動念。皆是妄緣風力所轉。」又云。「覺明空昧。相待成搖。故有風輪執持世界。」是知由吾心一念不覺。晦昧為空。虛極而搖。故成風大。老氏原此空為虛無。推此風為元氣。故曰「虛無大道生元氣。元氣生兩儀。兩儀生萬物」是也。孟子稱曰浩然之氣。均一風力。然風氣運動之性。有動必有靜。因動靜故成陰陽。陰陽錯縱。會成萬物。是知天地萬物渾一浩然之氣。但人自形自拘、自私自卑。溺心于聲色貨利之源。故不能超天地陰陽之外。為天地陰陽使。不能使天地陰陽也。唯至人達境從心。唯心無境。故能變化陰陽、範圍天地。左右逢源。逆順自若。而天地陰陽豈能拘拘耶。古今有負才能。有負忠烈。有負利達。有負清尚。有負雄辯。有負靜默。皆所秉之氣正。猶在知出知藏。蓄之養之。所培之根深。所發之幹大。故能成名成家。全浩然歸大道。乃至有超於無上正覺者也。爰所秉之

氣從于心發。還從心養。乃能變化無窮。成其大用。又所秉所負。氣也。知出知藏。志也。氣使然則凡。智使然則聖。故君子必養志化氣。必不率氣奪志。

不二舒居士。年十七歲。負英才。持懸辯。視千古如掌中。談諸方如目下。胸襟浩然。意氣超拔。核人之過。不計人之惡。受人之駁。不昧人之善。可謂口有陽秋之鑑。心無是非之跡。此一段氣。即莊孟之所發也。李太白蘇長公之所遇也。想居士識見超然。而出藏蓄養必不在諸賢哲之下。余有超天地之志。而無包天地之氣。因見居士秉此大氣。可欽可慕。可敬可愛。而居士亦敬我愛我。重我信我。而不知所以敬我信我也。

一日。居士向余取字。余謂居士尊諱。曰。心忠。大抵忠直多致辯。老氏曰「大辯若訥」。可字若訥。居士亦喜其所字。然若訥似訥而非訥。聖賢用心多是內明外暗。所以老氏曰。「人皆察察。我獨昏昏。人皆昭昭。我獨悶悶。」又云。「多言數窮。不如守中。」又則言偏義圓。一涉語言。不無滲漏。慙先師有云。「縱使雄談。何如杜口。」昔維摩丈室。三十二大菩薩談不二法門。唯文殊以言遣言。得入甚深不二法門。至於維摩。以無言遣言。始是末後一句。把住牢關。又且多言失照于人。此雖辯而失其辯。滅言能持照於己。此雖不辯而得其辯。又經云。「但有言說。都無實義。」試看所談之人。盡是陽燄空花。所論之事。誠為龜毛兔角。將何為是非得失哉。是故古人齊物我、忘是非者此也。亦不可坐此無言為妙。但可言而言、可默而默。乃能圓轉活潑、不滯偏枯。

居士同念來李公之武攸。會諸上善人。有所感發。歸來自

言。從今奉佛淨戒。決志不退。因曰。居士是大根器。當持大戒。菩薩有護自心戒。有護他心戒。護自心戒者。常防自心。離諸過失。護他心者。凡語言行事。不令他人生惱失念。既持菩薩戒。即入菩薩位。古德云「善言無瑕謫、善行無轍跡」是也。若乃至於無礙辯才、超方手眼。橫說豎說、一說多說。廓然自在。一言為天下法。一行為萬世師。則上所言皆剩語耳。

2. 贈本來譚居士序

本來居士原荊南人。客於永陽多年。舉家奉佛。專心淨業。居士雖處家而圓轉細致。慈覆一切。乃至雞犬。視以同仁。卓卓然有出家之標致。邵郡車季公禪喜居士。年二十三歲。秉金剛丰骨。庚申秋杪游嶽博山水。物色諸方文苑豪傑、縉門英俊。因過永陽。為郡伯林公所重。一時聲震永陽。而幽人才士推排競訪。禪喜居士不先言。不諍論。但於人所談論喫緊處輕輕一語。使人毛骨灑然。傾心歎服。咸額手而謝。吐舌而歸。本來居士聞風趣訪。聽其音聲、觀其相貌。雖出水蓮花、走盤珠璣未得況其超逸。私意吾女齋素清修。不願與塵俗偶。此郎不事。何為事也。歸之內言。舉家忻悅。乃倩親友說之。禪喜居士聞此女信佛。以慈心就之。即開筵集客。以成女志。禪喜居士探奇事訖。偕女旋家。女之聰性慈柔。令長幼內外無不矢志敬順。此真一段奇因緣。本來因送女至邵陵。訪予五臺蘭若。

詢之。曾禮寶月頭陀門下。起法名興善。不飾服。不甘味。語默動止。可欽可仰。因書數語以結淨緣。謂曰。天地有根。萬物有本。而人人自有一段光明。為諸緣封鎖。不得顯現受用。

隨風逐浪。漂流生死。可謂演若迷頭。誠自狂妄。居士法號本來。試檢現前那箇是自己本來面目。內之眼耳鼻舌、肢體髮膚。外之天地日月、山河國土。非本來也。審之言思動靜、迷悟取捨。推之鵲噪鴉鳴、風搖塵起。非本來也。乃至禪定解脫。神通妙用。無礙辯才。大自在力。秘密境界。亦是有為邊事。任是菩提涅槃。真如佛性。無垢淨識。大圓鏡智。空如來藏。亦是名相邊事。至此。佛也不可得。法也不可得。心也不可得。空也不可得。以何為本來面目耶。即此不可得。便是水窮山盡處。脫體無依處。雖然。於本來面目猶隔一重。所以古人云。「莫道無心云是道。無心猶隔一重關。」昔洞山有僧問。師常教人行鳥道。未審如何行鳥道。師曰。不逢一人。曰。如何行。師曰。直須足下無私去。曰。如行鳥道莫便是本來面目否。師曰。闍黎因甚顛倒。曰。甚處是學人顛倒。師曰。若不顛倒。因甚麼卻認奴作郎。曰。如何是本來面目。師曰。不行鳥道。試看古人下語。宛轉回互。不觸尊顏。學道至此。祇得回轉面目。摸索自己鼻孔。方知原來不是別人。即現前虛空大地、草芥人畜、染淨因緣、聚散起止、一塵一縷。亦不是別人。所以古人云。「虛空及大地。全露法王身。」始是到家受用時節。

若謂諸方念佛因緣如何。即此行去。是真念佛。是第一義諦念佛。是不思議念佛。於無淨土處示現淨土。於無往來中示現往來。於無佛處念佛。佛是本來之佛。於無念中起念。念是本來之念。以本來之念。念本來之佛。如水投水。似空合空。彌陀是自己。自己是彌陀。塵塵淨土。念念彌陀。十方法界打成一片。便能於一毛端現寶王刹。坐微塵裏轉大法輪。念佛至

此。乃不昧本來面目。是究竟田地。所以古人云。「行住坐臥之中。一句彌陀莫斷。須信因深果深。直教不念自念。若能念念不空。管取念成一片。當念認得念人。彌陀與我同現。」今日念佛。須是認得念人。方可語本來一事。居士可肯之。則不枉水月相逢、心源一會也。

3. 酬海藏上師舍利序

海藏上師。于闐國人也。因聖天子差人之于闐國請候法王作大道場。上師隨法王過我震旦國十餘年矣。我國所有名山、聖道場地、豐邑大邦。一一遊到。天啟元年殘臘。同娑南上師之粵東。道經邵州。會予五臺菴中。一見如舊契。屈留度歲。每夜談之次。多論西國風土及沙門行業。因論于闐國持咒精行。蔓延至舍利子。上師曰。人一生口吧吧持咒。未見其脩行。只待身後一把火。有舍利、無舍利。方見其修行何如耳。是知西域修行多重持誦。復以舍利為修行之實驗。每見梵師多重假鉢囉碗及舍利者。為重修行故也。我國人多以狂見自高。不以舍利為重。所以持咒之行不精持誦。既不精而修行亦以懈廢。是以修行有讓于西國多矣。上師惠予一舍利子。如粟米顆大。帶赤色。因問。予曾見永明壽禪師舍利。亦如粟米顆大。純白色。上師曰。赤是堅固。白是舍利。亦有師云。佛為舍利。高僧為堅固。又教中云。梵語舍利。華言堅固。詳此則知以華梵之音別聖凡赤白之優劣。而聖凡優劣雖不同。其骨分均也。其舍利優劣不同。亦見聖凡修行有等。佛之舍利優於光明變化、能往來者。以佛之色身全體金剛。佛在世時。渾身毛孔皆能放光。天上人間。倏往倏來。小中現大。大中現小。不動道場。涉入

世間。不壞世界。能遍十方。故遺身舍利亦能放光現瑞。飛行自在。變化無方。舍利即佛之分身。而能靈通者。理固然也。

菩薩之舍利。想次佛之舍利。羅漢之舍利又次菩薩之舍利。後之高僧舍利又次羅漢之舍利。高僧中有解脫者。有禪定者。有持誦者。其舍利亦多種不同。是知修行有淺深。而色身亦有精麤。因色身有精麤。而遺身舍利有優劣不等。亦理固然也。是則舍利為修行之驗者。理亦昭然。

昔南泉遺僧送布襪與一菴主。菴主曰。自有娘生襪。不受。僧回舉似南泉。泉曰。再去問他。娘未生時。穿個甚麼。僧如命復至菴主。問娘未生時穿個甚麼。菴主無語。僧回。舉似南泉。泉曰。死如如也。他日菴主歸西。燒三斗三升舍利。有人舉似南泉。泉曰。任他燒八斛四斗。不如當時答得老僧一轉語。看他古人何等見處。八斛四斗舍利。不如一轉語為妙。夫南泉非不重舍利。自有一顆真舍利在。恐人昧卻。故此挑剔耳。然此舍利無古無今。非內非外。生天生地。能聖能凡。其色也非青黃赤白可擬。其妙也非見聞覺知可識。三世諸佛不知其源底。大悲千手難摩其邊際。爍迦羅眼窺覷不得。多口阿師咀嚼不得。猶如金剛床（應作幢）子。推不向前。拽不向後。是真金剛。是真堅固。是真舍利。南泉有此舍利。故開如是大口。此顆舍利。自南泉拈弄出來。相傳到今。落在病僧手內。蒙上師惠我舍利。無可為答。將此顆舍利呈似上師。帶去西國。有時拈弄出來。使知大唐國中仁義不少也。

4. 贈孝則車公序

原夫天地古今奇人奇物及諸奇事。皆吾本性不思議之妙用也。由性妙故。所發所變一切諸法。無論巨細知頑。無一物不通於神用。無一事不具於靈妙。但人心羸浮。未能覺察。故日用而不知。然天地日月。古今聖賢。具大體大用者且勿論。試觀蟻之為物。至微者也。行不見其跡。語不聞其聲。而能遠征不迷其途。號令能統其眾。知晴知雨。知出知藏。作事有始終。行徑知退讓。其細致有人所不及之處。其所作事不若人之大者。以蟻之身分微。故不能大作。非智識之不足。又如蜂之為物。亦細品。採百花而為蜜。不損花之色香。空行無標跡。往來亦不錯落。此亦人未能之。

此二物。物之最細微者。所作所事有智識未能及者。非妙而何。至於無情之物。如草木金石之類。最頑者也。各具性用。有甘有毒。能殺能活。至有能通於精靈者。人之智識亦有所不能至處。此亦非妙而何。大概有情之聖凡大小雖殊。眼等六根一也。無情之染淨巨細雖別。色等六塵一也。根之妙用。人或易見。如變幻等色。變調等聲。變作等香。變異等味。變化等觸。變通等法。皆有心力不能致之。其理致妙處又何如哉。是則根塵等法一一天真。一一靈妙。妙到極處曰甚妙。妙之更妙曰玄妙。妙之非常曰奇妙。妙之不可及曰深妙。妙之無上曰最妙。如是妙處難於言顯。唯至人以神會可也。古今奇才奇事何能備舉。多知事奇才奇而不知所以奇。有即事奇才奇而會吾之本性奇者。非至人而何。經云。「聖性無不通。順逆皆方便。」斯之謂歟。又即性妙而妙至天地萬物、身界一如、古今一致。

又非至聖而何。有云「十世古今。始終不離於當念。十方剎海。自他不隔於毫端」。斯之謂歟。

孝則車公。古今奇才也。識見超拔。文法高奇。奇書奇詩。無往而不超倫。入妙而能達乎妙之本源。又能廣諸眾妙。公年三十有二。十年前見船子和尚偈。如睹舊物。義意開朗。本有自現。因有船子偈解。續有心經贊、八識略註。凡諸有筆墨間。未嘗不以向上一事為宗本。如公可謂即奇以見性。即性以致奇。病僧與公相與二十年。未敢識公為何人也。曾聞公有夢兆。為傅大士後身。益增其疑。公雖自具奇品。曾不以奇凌人。亦不以奇傲物。理不自見。事不自是。功不自伐。能不自矜。處眾平。與僧密。樂人之長。不形人之短。又善誘人之短就己之長。不截人之長同己之短。此性分之本然。非作意也。有才無行者。能友其才不友其行。有行無才者。能友其行不友其才。是則不失其友。亦不誤其友。是則雖與海內諸名公友而自有才行之取。友中有不友處。不友中有友處。自有超拔之妙。迥不與世之聲利者同轍也。公嘗過友人書齋。閱病僧所書卷。彼卷皆病僧應機之語。誠不足當高明賞鑑。公雖高名博達。而又不以拙鄙彈棄。猶讚之又欲之。即此擬公不欲病僧之才識。而憐病僧之樸蠢。欲一二字伴於案頭。以見病僧樸蠢之真。病僧亦不敢以樸蠢自鄙。即將樸蠢獻於高明。冀高明鑑方外之實處。以見二十年之相與。唯此不二之蠢念。若夫公高奇深妙處。自有大方明眼宗師為公發揚之。予何能言之。予何能言之。

5. 贈幼潛王公序

原夫大塊形於萬物。竟古而不墜者。善藏故也。古德云。「有物先天地。無形本寂寥。能為萬象主。不逐四時凋。」無形本寂寥。即善藏也。由善藏故能主、能不息耳。詩云。「上天之載。無聲無臭。」此亦藏義。書云。「至誠如神。」此明由藏而後有大用。是則克明德於天下者。皆從止善安定中來。大抵世出世法。不論知頑小大。未有不由靜而動、隱而現。老氏云「重為輕根、靜為躁君」是也。又云。「俗人昭昭。我獨昏昏。俗人察察。我獨悶悶。」此聖人體大塊之藏用。善守其誠。可謂率性之道也。又則龍德由潛。故能神變莫測。潛之道甚深秘密。心識豈可及哉。試看世間無情草木之屬。潛根深者發幹大。潛根淺者發幹小。又則樹蟲入繭而後蛾。草蟲見人寂然而後生。此昆蟲草木微纖之物。尚能先根本而後枝幹。知隱藏而後生活。況出世之至德妙道也哉。古之聖賢有藏跡者。處於深山幽谷。遠避人世。有藏心者。灰心泯智。如愚若鹵。有藏視聽者。收視返聽。隔絕見聞。有藏言動者。若訥若拙。兀然杜口。如是藏者。雖有深有淺、有權有實。至於成德於身、流光於世者。均也。雖然。總不若藏德至矣。如普門自在三昧。現種種身。隱顯莫測。或示為人王宰官、長者居士。或現為童男童女、淫女寡婦、奸偷屠販。與人同事。稱讚真乘。令諸有情同歸第一義諦而後已。若然者。去住無礙。逆順自如。無私欲于人而善利于人。能順大塊之無私。天地萬物皆備于己。可與聖性同體並用、究竟而無息矣。

幼潛王公。諱乾。字幼潛。以乾之九六高而危。九一潛而

全。因字之幼潛。此以字善而善其行止也。如以字潛。潛其行止。亦能潛其視聽。視聽潛則潛其身心。既身心潛亦能潛其道德。既潛道德則潛妙性。妙性無潛無所不潛。無所不潛則無所不備。無所不備則無所不發現也。是則出世大雄、廣大神通、無量三昧皆從一潛字流出。又則性覺妙明。由潛而照。本覺明妙。照而常潛。潛之道豈可輕易得哉。潛之義深遠。一期不能盡言。略語此。

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第九

(遼東錦州松山所見任浙江湖州府總巡廳信官余三瀛發心捐貲喜刻顓愚和尚語錄第九卷。計字九千九百五十二。該銀伍兩玖錢柒分。敬為慈母張氏夫人名下。性天朗耀。慧炬圓明。仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十一月 日楞嚴寺經坊附板)

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

募疏

1. 募造檀香佛疏

娑南上師。原西域天竺國人。過我支那國有年矣。在京師光日庵住。閒遊五臺山。多在羅睺寺度夏。羅睺寺亦梵僧寺也。娑南上師三奉欽差送藏經之于闐國。往來備歷艱險。善全其事。又通諸國鄉語。精於梵書。可謂有能之士。因南詢訪余五臺庵中。病僧離五臺二十餘年。罕見梵相。一見如舊契。喜留度歲。夜談之次。娑南上師曰。某意之粵東造檀香佛。乞師一疏何如。病僧曰。上師之國金像銀像最多。今在京師五臺栴檀像亦不少。何復造像。上師曰。某非因無像而造像。亦非待像而歸依。既為佛子。當報佛恩。豈可虛受人天供養、徒為山水之行。必隨方應化。令人發心。續佛慧命。方為佛子。然世人非相不能攝心。非勸難以發意。今之造像者。乃借像以勸發心。因發心而成佛種。某化人造佛。意在化人成佛也。法華經云。「若人為佛故。建立諸形像。刻雕成眾相。皆已成佛道。乃至童子戲。若草木及筆。或以指爪甲。而畫作佛像。漸漸積功德。皆已成佛道。」是可為證。

病僧合爪讚曰。是真菩薩。是真阿羅漢。是真報佛恩。蓋諸佛法身充遍一切虛空大地。土木金石無非佛身。華嚴經云「唯一堅密身。一切塵中現。無名亦無相。普現于諸國」是也。若

夫造金像即金身佛。若造銀像即銀身佛。若造栴檀像即栴檀身佛。若塑泥像即泥身佛。即此金銀土木與肉身佛智身佛等無差別。若捨此金銀土木、別求能動止能說法為真佛者。是以音聲色相求佛。不免落于邪道。但不以色相見佛。無相不是佛相。但不以音聲求佛。無聲不是佛聲。斯乃真見如來。會此造佛。即此金銀土木是真法身。是真佛。當可以真心禮敬尊重、讚嘆供養。即此真心便是佛心。既是佛心。非佛而何疑哉。是以勸者造者皆佛也。

2. 募化藏經疏

釋迦如來從三阿僧祇劫修集阿耨多羅三藐三菩提法。無量無邊。自受蓮花臺藏世界千華上佛所囑。下閻浮提示成正覺。以廣長舌普告人天。經四十九年。所說法藏未幾。一毛頭許耳。然如來說法。一即一切。一切即一。雖一毛頭許法門。義備無量無邊。皆不出此也。四十九年所說法藏。備在西域、龍宮、天上。而我支那國中所來法藏。止有五千四十八卷。千萬億恒沙分中未及一分。是亦毛頭許中之一毛頭許耳。佛法初入我支那國。始興於秦晉。漸于蜀楚。弘于吳越。然後遍流天下。從古至今。隆替多端。久不可考。至我明時。佛法甚衰。而偏方僻域不知三寶為何物者有之。世宗皇帝御世以來。法運略起。高僧間出。禪有達觀大師、憨山先師。教有雪浪大師、空印大師。律有蓮池大師、無盡大師。自此數大老力弘宣暢之後。而禪講律法席遍于諸方。可謂佛日重輝。大地唯楚南與黔粵猶寥寥焉。近十年以來。地脈稍轉。人才踵出。科名勝前。高僧亦隨至。

有講師融公。乃雪浪大師嫡脈。遊講席二十餘年。後受具于古心和尚。因三昧和尚開律堂於東林遠公道場有年矣。法運南行。龍天所使。三昧和尚忽有歸隱南嶽之志。遂同之衡山。而講師融公因訪守明上座及敬中、淨虛二新戒而來邵郡。四眾見其律儀清尚。識見超然。議請主其講席。雖處寶華王座。至於湯果不給、蔬飯粗糲而恬然自在。縱有內外乖違。亦歡喜調順。此非具大忍力、大精進力不能有此。摩訶迦葉所問經云。「比丘入城邑聚落。不為名聞利養。但為教化眾生。讚揚佛法。」觀講師融公甘此澹薄。始終法席。可謂親承佛囑。是真法師也。法席將罷。深慨聽眾雖有。其得旨者少。皆佛法薰習之緣淺耳。因留心此地。作一佛法因緣。念諸方都有藏經。獨此地未有。乃從未有者建立。勸受法弟子三十人同心普化。請大藏經供養此地、為光明幢。使見者、聞者、隨喜讚歎者、搜閱受持者。漸薰漸習、漸染漸深。同下菩提種子。同抽菩提芽、長菩提苗、成菩提樹、開菩提花、結菩提果也。此非乘宿願而來。何能有此勝舉。因求病僧為疏。某自知不文。見其利生願重。弘法心切。聊書此語以通高賢。更希嘉題、同成勝事云爾。

3. 募齋僧疏

修幻上座乃病僧舊識也。今欲之滇南為齋僧佛事。余曰。趙州有言。「至道無難。惟嫌揀擇²²。」經云。「飯一千須陀洹。不如飯一斯陀含。」乃至「飯十方諸佛。不如飯一無心道人。」此還是揀擇、不揀擇。若辨得出。許上座齋僧有分。即可於無陰陽地上。無影樹下。支無底鍋。炊無米飯。煮無羹羹。接納

²² 此語出三祖信心銘，早于趙州，故應為筆誤。

十方。一任千足萬足。個個皆是三頭六臂。巨口剛牙。吞吐佛魔。縱橫自在。若於此辨不出。須臾接人一粒米。令他施主昇都史陀天。受百千萬億劫如意快樂。然後仗此因緣成等正覺。只怕猶有算帳者在。上座微笑而已矣。過三日。遺此卷不辭而往。余尋書此語追贈之。

4. 募茶疏

盧仝七碗。千載共仰嘉名。趙老一盃。萬古常沾法味。入口者雙睛電掣。濡唇者兩腋風生。昏沉魔聞風落膽。誰敢交鋒。疲倦鬼望影失魂。豈能共戰。鳳髓初生。滋潤高山雲霧。鵲舌纔吐。宜藏深谷陰林。天生瑞草。清香不讓幽蘭。地長靈根。奇味休言甘露。消食如妙劑。醒酒似神丹。如斯珍品。堪以供佛供法供僧。若此清奇。可以修福修慧修壽。化無所化。功行周乎法界。捨無所捨。福德遍乎虛空。拈來一葉。生前覺樹抽條。飲到三杯。劫外曇花現瑞。木侍者殷勤催化。石童子仔細烹煎。施受勿分。緇白莫論。萬般皆光明心地。一等是清淨道場。

5. 古攸報恩寺募藏經疏

南雲之地。青原、南嶽往來之咽喉。自古佛法流通之處。擬當時雲堂巨剎。必星布鄉城。代異人非。湮沒失考。茲報恩寺亦古寺也。荒廢多年。有皮公。乃篤厚之士。從病僧受優婆塞戒。發心修復此寺。約同去六、興化二公。建造觀音大士閣。請大藏經。同食息其間。頂禮圓通大士。博覽大藏靈文。共發耳根圓通。同遊菩提智海。請病僧一語為募疏。乃為囑曰。三

公之舉。乃菩提妙行。先堅固其心。自利利人。一切具足。蓋佛性人人本有。緣所習所染下劣。故名眾生。眾生假名。佛性真也。如其日對觀音妙像。所習所染。勝妙廣大何如。日游法藏智海。所薰所入。光明智慧何如。

又一切佛相。菩提之光也。一切法藏。菩提之智也。能助能施之福。菩提之行也。能修能悟之心。菩提之性也。是則三公此舉。無論募者施者、修者悟者、見者聞者。同一菩提心。同一菩提願。同一菩提智。同一菩提行。同成菩提道。見聞隨喜。宜各歡喜。踴躍圓成此菩提妙道、自性莊嚴也。如肯信性分之所當為者。應爭前不可後之。

6. 匡山五乳寺募米疏

諸佛出世。本為一大事因緣。善知識傳持。亦唯佛心印而已。蓋佛性人人本有。非善知識無因發明。若不遇真善知識。為天魔外道所惑。雖本有佛性。即轉成種種異類。誰之過歟。是師友不可不慎也。而三界中不可不知歸向三寶。於三寶中不可不知親近真善知識。是為出世正因緣也。愍山先師密乘佛囑。示生末法。真人天正眼。真大善知識。大扶宗教。於神宗年間。中興曹溪。疏通諸祖道脈。不十年內。而諸方上堂說法者、行腳山居、真實參悟者不可數計。誰知愍山先師之力耶。曹溪未整頓之前。此道絕聞若亡也。而曹溪法源一開。諸祖道場法脈貫通。禪道乃有今日之復興。天下不論緇素。深得此道受用者。誰之與耶。是則真善知識住世。或出或處。語默動靜。皆非己有。總為一切有情受用。但受用者知之鮮矣。

匡山五乳寺乃愍先師衣鉢塔之處。其法屬奉塔精修。多不下山。少涉外緣。其常住未免淡薄。大眾亦多甘苦。有先師五世法孫慈彥。慮常住空虛。恐大眾清苦難堪。自忘身心之勞。為眾募緣。以為善知識護塔供奉勝行。普叩十方緇素高賢。有見過者。有聞名者。或未見未聞從今日始知者。同發向上心。念善知識饒益世間心。於自己受用中。分減一升一斛。於善知識功德海中。廣積無量無邊。同結菩提之因。共證菩提之果。行無虛設。語不妄傳。請高明諦信。爭先施之。

7. 募米疏

如來住世。曾持鉢於天上人間。諸祖開山。亦投疏於高人達士。一麥一麻。共下菩提種子。一粥一飯。咸資般若真光。法輪未轉。食輪先轉。食輪即是法輪。未修佛道。先修人道。佛道不離人道。菩薩子喫飯來。個個那非者個。阿闍黎洗鉢去。頭頭總是一頭。舉匙處。粒粒入口先知。簸米時。顆顆著眼莫錯。舟運肩挑。大開無窮寶藏。車裝背負。同歸常住珍鄉。斫松吹火。飯熟香遍十方。敷坐同堂。味足飽餐一切。人人獲真實功德。事事具滿足神通。法身周遍。無壞無雜。慧命圓成。同修同證。欲佛乘早就。宜法號先登。

8. 德山乾明寺募藏經疏

德山舊稱枉山。為崇善卷之隱德而名善德山。人從略。但呼德山。自無相律師開為蘭若。次郡主雪公請見性鑒大師²³補其

²³ 即德山宣鑒禪師，謚見性禪師。

居。大弘禪道。有雪峰、岳頭諸大老從其門。雪峰後。出雲門、法眼二宗。而慧燈已爭明矣。此德山之名遍聞宇宙。德山源于龍潭。龍潭祖于天皇。天皇宗于石頭。頭始青原。原發于曹溪。可謂源遠而流長也。茲山自無相律師經始。至無聞聰禪師。相傳百代。皆以自性而為莊嚴。是穢土中一淨土也。此山雖已經百代住持。今稱德山。皆知惟鑒大師之名。又百代之後。凡住持者。非大解脫。即聞見高遠。非聞見高遠。即行德精嚴。決無常品。亦見山之靈氣猶存。

近聞有性天和尚。久住此山。金飾佛像。而靈宗開士接踵而至。開士南京寧國府人。年二十歲入此山。今六十有二。重修大雄寶殿。剏造毘盧精舍。補砌垣牆山門。整頓僧行規矩。鐘鼓梵唄清聞遠近。儼然德山主人常住於世。開士有功於此山。較之百代之間虛其左亦不多數。蓋天下祖席甚多。如此山綿遠者亦未多見。是知開士非鑒大師化現而來。即鑒大師所使護持此山。以為人天出世眼目。不然何能住此山中四十餘年。只知有聖地可嚴。不知有身心之累耶。第山中所應作者。咸已作成。昔宋米顛題寶藏二字。虛其名未見藏之所在。昔我憨山先師同副憲馮公遊此。見米蹟可珍。慨祖地而缺法藏。欲補所有而未有。乃建寶藏閣於法堂之上。嗣圖藏經未果。二哲人已為先覺。開士惜二大老之願未成。寶藏閣又為虛設。抑尋米蹟之所留、藏閣之所廢。難得其始末。但耳傳藏經為蠹食狼藉。前人收入佛臟中矣。藏閣舊基竟失所考。開士欲克其成。以填二大老之願。并壯祖骨之靈。又恐年老力微、難以成就。蘊之久矣。

甲戌冬。觀衡特來禮鑒大師塔。居開士右丈室。每夜談次。

唯以藏經一事為語中骨脈。但以老為慮。因而勸之曰。身有老少。性無童耄。汝我為佛弟子。但以性為主。豈可以幻身為慮耶。大抵放下身心。便能頓超佛地。有何生死、有何老少。豈不是大解脫。豈不是大變化。而生死老少豈不是自性神通妙用耶。

開士聞其說。歡喜踴躍。曰。某甲方見真性。方悟大道。再不與老少去來作障礙。從今已去。以莊嚴佛土為本分受用。先以藏經一事竟成。願以盡法界為無盡佛事。

衡喜其垂老而明自心境界。自愧拙守殘病。不能為開士一助其成。揀鉢籠中。只得舊衲一件。以助其端。普告檀門有久信佛法者。知祖地非自心外。不待勸而應前。有未入佛法者。見善亦應隨喜。各捐一滴世財。共成大海法藏。有益事、無益事。高見自明。有漏因、無漏因。達人自鑒。衡不敢多語。聊就浮淺蹤跡說此。其餘山水源流、禪教同別幽旨。又候高明發揮。

9. 山西大同府白衣庵募造佛疏

世出世間惟佛乃究竟大事也。夫造佛。作佛。學佛。成佛。禮佛。敬佛。贊佛。念佛。總一佛心也。金佛。銀佛。銅佛。鐵佛。土佛。木佛。應佛。報佛。總一佛身也。身似有相。實無所相。心似有知。實無所知。無知即真知。無相即真相。蓋真相不異真知。真知不異真相。能所一如。身心皆等也。

禪人性寶。原山西大同府人。依本地白衣庵披剃。幼從師之南海。遍參諸方知識。回錫中途。為舊識相議晉地多銅像泥

像佛。而檀香像不多見。既然行腳一番。游歷大方。豈可空手而歸。應造幾尊香像佛。迎歸本地供養。一不虛行腳一番草鞋錢。二令本地諸上善人得瞻仰希有相好。豈不是自利利人、無上妙行耶。禪人之師踴躍身心。募檀香一佰觔。收於舊識檀越。願造西方三聖、護法二尊。將欲開木。其師偶為風寒不調而逝。禪人追慕師恩。無可為報。又念師志未遂其成。因遍叩檀門。同興佛事。助銀助米。不論多少。佛因佛果。速期圓成。禪人成師志以報師恩。檀越發佛心而成佛果。勸者施者。等一佛道。心也相也。無二菩提。如欲速圓佛果。願請早注佛名。真語實語。

10. 長干大報恩寺三藏殿募田疏

田之為物。乃有生之大本。諸有形神生命無不賴之。蓋世出世法依報正報互相安立。依報為正報依託。正報乃依報主持。是正非依則不能生育。依非正則不能顯揚。又則依正親疏之色為所緣之相分。依正攝持之識為能緣之見分。若於所緣色香味觸不起分別。不生憎愛。其所緣境即一真法界。妙真如性即三諦一如。乃大寂滅田也。其能緣識名正遍知。即煩惱成菩提。即三觀一智。實大般若命也。若於所緣色香味觸分別取捨。耽著留礙。其所緣境即差別分相。浮塵幻化。即生死海也。其能緣識名顛倒想。即清淨智化為煩惱賊也。然色香味觸之境本寂是一。而正倒在人分別不分別。故有聖凡迷悟之殊耳。如遇倒想時不病人而病於境。是所病亦不真也。

諸方叢林之有田。有因田能廣作佛事。接引眾生。護持道

場。究竟常住。因此發明自性。成就慧身。登無上覺者不可以數知也。此田之利益又何如哉。有因田以生貪著。取捨不公。至于惡罵捶打、干犯王法。致有破和合眾、壞滅招提。往往有之。此田之害亦又何如哉。蓋田亦一也。成壞在人而不在田。如不病人而病田之有無。此亦所見未至也。

佛初制比丘日中一食。樹下一宿。凡夫比丘多不能活。佛隨開二食於辰午二時。是佛自制。佛仍自開。無乃隨順眾生。保持身命。能增長菩提。非獨貪生為事。亦見法無定法明矣。佛在世時尚不可定。至於末法。又豈以定法為常法耶。震旦諸道場開山置田。未必不是釋迦化身。未必不是堅固之護念。第法久自弊。弊在人而不在法也。

金陵諸大刹皆有供給莊田。獨三藏殿向以藏經板頭錢資其眾需。比末世道儉薄。此一方便尚不足供日月。況期年乎。主人皆符。亦少年中白眉也。舉念募田。攝持大眾。以護裝大師之塔。良哉斯舉。因發揚其意。以廣其知識。成就如願。當名慧命田可也。

11. 北京栴檀庵募造栴檀像佛疏

栴檀像佛者。乃釋迦佛像。用栴檀造成。故稱栴檀像佛。非異釋迦別佛之號也。蓋因如來昇忉利天為母說法。數月未還。時人間久不獲瞻仰。優填王闍思亦切。召三十二匠。用栴檀香修佛之像。以慰懸慕。匠用精工。多次不成。目犍連尊者以神力攝三十二匠。昇忉利天諦觀佛光相。往返三次。像乃始就。觀之仰之。儼然釋迦佛在目。如來住世、滅後。所造金銀珍寶

等像甚多。惟此居首。此像亦可謂佛之分身。亦可謂佛之長子也。及佛還復人間時。合國王大臣、長者居士等遙空迎佛。此像先往空中迎佛。佛為摩頂。記曰。吾滅後。汝當代吾行化諸國。佛滅後。此像始自西域行化。漸至龜茲。東至涼州。次至長安。次至江左。次至淮南。次至江南。北至汴京。至宋高宗紹興元年辛亥。金國太宗迎至燕京。建水陸道場。安奉憫忠寺。次迎奉積慶閣中。次迎還燕宮內殿。大元丁丑歲三月。會內殿火。尚書石抹公迎於聖安寺。至我朝嘉靖十七年。因寺回祿。表闡於內。奉迎於鷲峰寺。至今一百六年。自優填王造像始成之歲。至今二千六百餘載。得瞻仰禮敬、發菩提心、登無上覺者。恒河沙之恒河沙未足較其數之多少。佛最後色身住世不過七十餘年。其像垂化以來二千六百餘載。將來行化未知底止。如來說法四十餘年。其年有限。所說三藏十二部。其言詮亦有盡。此像法身不說之說。其義無量。不論根之大小。觀之仰之。仁者見之謂之仁。智者見之謂之智。其饒益普被恒遍。亦不可以思議得也。

有云「報化非真佛。亦非說法者」。此像乃佛自性法身也。如能觀察如來法身。報化二身亦不外此。如見一佛法身。即見諸佛法身。有云。「十方三世佛。同證一法身。」可證既能禮敬諸佛法身。諸佛報身化身亦得矣。此像既是諸佛法身。亦是一切眾生法身。是瞻仰禮敬此像。即禮敬瞻仰人人自性法身也。若視此像為目前之境。心外之相。不惟昧卻自性法身。亦昧卻諸佛法身。亦不見十方世界面目。亦不見三世劫海面目。是則瞻仰此像者。幸勿當面錯過。則不孤此栴檀像佛行化之深慈也。

有禪人慮此像能從西域行化至我國。亦或從我國轉化餘國。設有此。豈不我國頓失瞻仰。欲請欲迎。恐不及再至。故預依此像別造一像。務求二像無二像。少栴檀像對佛之像。不二於佛。再像對此像之像。不二於此像。是再像亦像佛之像也。庶當來見聞隨喜、瞻仰禮敬。即親見釋迦老子真面目。其功德饒益不敢預為宣明。如有心作佛成佛者。不可不勇於前而速其成也。再像一成。即自性法身光明遍滿。亦可謂海印發光。若謂此像是假。相是外相。又不知何為真也。身是真耶。心是真耶。菩提涅槃是真耶。如身心菩提涅槃不可言真。則一切處俱非真也。若一切處無真可指。則無不真也。若然者。像耶、形耶。假耶、真耶。總不可名言。豈容以真假內外分別戲論哉。又則所造之佛。無揀金石土木。皆自性之法身。能造之人。乃金石土木之手眼妙慧。又則造佛成佛、禮佛敬佛。實則佛造佛成、佛敬佛禮也。有外此像佛、別修別證以為自佛真佛者。佛則佛矣。恐未極全佛也。若不以心境自他二其佛。即為十方諸佛歡喜讚歎。

12. 募三衣疏

居塵幻質。全憑四事資生。出世威儀。須藉三衣具足。佛佛授受。祖祖傳持。以有相之衣。表無相之法。以離俗之眾。遠居俗之身。形跡既不混同。心光自然超越。此如來制出世法服之本致也。此衣持之者。高出人天。服之者。迴別魔外。龍眾一縷尊崇。能免金翅鳥王之難。獵人片時假藉。不為金毛獅子之傷。黃梅密付。付無所付。就中未有纖毫。曹溪中止。止無所止。即今何曾欠缺。七斤方成。十虛頓沒。一絲不掛。萬

象齊彰。性相融通。自它俱利。出家者雲鶴自適。超方者衣食隨緣。一絲一縷。須植福於檀那。一線一鍼。不求安于私己。欲受諸佛淨戒。先乞三品法衣。大發普遍慈悲。稱為踴躍喜捨。轉有生之寶藏。廣無上之福田。施者受者。功德無殊。勸之造之。解脫不二。總之清淨本然。相續諸佛慧命。大概周遍法界。圓成本有法身。

13. 寶集林募揀骨普度引

有云「菩提所緣。緣苦眾生。若無眾生。則無菩提可得」。是菩薩以眾生為性命審矣。然眾生之苦通乎三界。四禪以上唯行苦。三禪以下。至六欲天通壞苦。人道壞苦、苦苦兼之。三途中多苦苦。地獄中為苦苦之極處。非非想天為行苦之最清處。又則行苦通乎三界。壞苦通下二界。苦苦通人道並四惡趣。總之三界有情皆苦眾生也。緣此苦眾生興起大悲。悲智圓明。登無上覺。是則諸佛菩薩以眾生為最勝福田。能生諸佛菩薩慧命也。蓋人道受生。本是苦苦。眾生癡迷。認苦為樂。一期所求稱意。頓忘有身之累。及刀兵疾疫饑饉到來。方知為苦。此亦苦苦中之壞苦也。連年以來。刀兵、疾疫、饑饉聚於一時。眾生十分已去其半。髑髏與瓦礫交雜。枯骨並草苴狼藉。貂錦之身腐為蟻壤。金玉之軀戲於犬口。行客難於措足。達人何忍舒觀。如斯慘境最動悲傷。緣此苦因。大興愍念。大觀盡是自家本體。密照那非多劫親緣。此則正是菩薩性命中之性命。最勝痛惜。

茲有禪人幻愚。乘菩薩願。廣菩提心。觀此不忍觀之苦境。

悲此不勝悲之業因。普告十方諸大檀越欣增長菩提心者。同垂接引。共運慈航。雖未普遍諸方。暫及耳目所到。上至安慶。下至鎮江。沿江兩岸。闊之里許。不分新舊、齒豁齠齔。均拾細揀。運歸一處。以火荼毘。使本骨神識無執愛之迷。他物幽靈絕依附之想。所依既失。自覓生方。共為啟建水陸普濟大道場四十九晝夜。一切白骨皆化為大寂滅場。諸有幽魂同登入普光明殿。又則活骨易於通達。死骨難於開發。此一方便乃拔苦之末後方便。此一妙行實度生之最勝妙行。活骨佛視死骨佛為自己性命。死骨佛恃活骨佛實自己神通。死骨活骨共一法身。有漏無漏同登正覺。四通八達。還歸清淨故鄉。南往北來。仍蹈風光舊路。度生至此。十二類生無有遺餘。是謂究竟無上菩提。是謂清淨法界。是謂莊嚴淨土。自他無礙大解脫。語不虛馳。信當踴躍。

機緣

1

僧問。久聞和尚常教人讀楞嚴經。是否。師云。是。進云。如何是大佛頂。師即低頭示之。進云。與麼則聖凡平等、因果一如去也。師云。汝未知大佛頂在。進云。師意如何。師云。無汝見處。進云。既無見處。低頭何為。師云。若有見處。低頭何為。

2

僧問。如何是大佛頂。師即舉一足示之。進云。和尚莫欺學人好。師云。豈敢欺汝。僧復理前問。師又以足示之。進云。不會。師云。向後逢人切忌錯舉。

3

僧問。和尚一生教人究首楞嚴。如何是首楞嚴。師云。殺人見血。斬草除根。進云。與麼則一切究竟去也。師云。切忌隨語生解。復以偈示曰。大道元無相。言說本是空。為君顛倒想。聊作耳邊風。

4

僧問。如何是楞嚴意旨。師云。天不蓋。地不載。進云。便是究竟堅固否。師云。汝力大過天地。僧擬進語。師云。蓋覆了也。

5

僧問。何為佛子住持。師云。近山莫費柴。近河莫費水。

6

僧問。如何是佛子住持。師云。鄰舍高打牆。親戚遠來香。
進云。只如向上還有事也無。師云。多栽松柏少栽花。半種青
篁半種茶。進云。請師別道。師云。博求不如約守。

7

僧問。何為常住真心。師云。鼠糞尖。羊糞圓。進云。何
為妄想。師云。桃花紅。李花白。

8

僧問。甚麼人能用常住真心。師云。驚鷺白牯。進云。甚
麼人能用妄想。師云。諸佛菩薩。進云。為甚麼諸佛菩薩卻不
如驚鷺白牯。師云。爭怪得他。

9

僧問。如何是七處徵心的旨。師云。鞭牛歸欄。進云。歸
後如何。師云。行步平正。其疾如風。進云。既然如此。用歸
作麼。師云。汝與麼好撞牆頭。進云。如何見得。師云。不唯
牆頭。一晝也過不得。進云。恁麼則某甲無問、和尚無答也。
師云。又是一頭。

10

僧問。如何是返聞聞自性。師云。用返作麼。進云。畢竟如何是返聞聞自性。師擊桌云。聞麼。進云。聞。師云。是返是順。僧茫然。師云。病僧罪過。

11

僧問。如何是返聞聞自性。師云。手執金剛杵。擊碎珊瑚枝。進云。意旨如何。師云。誰將秦時鏡。照破野狐精。

12

僧問。返聞聞自性。意旨如何。師云。螳螂推糞。螻蛄尋腥。進云。不會。師云。說個不會的道理來。僧擬答。師搖手。僧有省。

13

僧問。楞嚴經中五種陰魔。如想陰魔云男女二根即是菩提涅槃真處。如是穢言。因什麼也有人信受。師云。地穢多生草。水清返無魚。僧無語。師把住云。汝作麼生。速道。速道。僧云。和尚真善知識。能於非道通達佛道。師拓開云。子般若根深。乃能悟入。善自護持。

14

僧問。如何是清淨法身。師云。赤肉團。如何是圓滿報身。師云。六根具足。如何是千百億化身。師云。四儀無礙。進云。

究竟如何。師云。衣食具足。逆順隨緣。進云。恁麼則佛法即在目前。師云。汝試指點著。進云。不會。師云。莫妄語好。

15

郡伯六來王公一日坐間。言及吉州道學。諸公一座有謂天性無乎不在。有謂既天性無乎不在。如人生背癱。潰爛不堪。此時天性又在甚麼處。一座無語。眾問師。師云。背瘡還覺痛麼。王公云。自然覺痛。師云。天性何在。公默肯。少選王公又問。不覺痛時如何。師云。是誰不覺痛。諸公大悅。

16

玄印上座自金粟來。閱師語錄。坐間云。觀和尚長篇短篇。只具活人劍。無有殺人刀。師微笑而已。又問。和尚引圓覺經云「是則名為淨覺隨順」。何不引「唯除頓覺人。并法不隨順」。師亦微笑而已。一日。舒運使同上座茶話。詰論不已。上座向師云。我二人相打。和尚何不一解圍。師亦微笑而已。過後侍者問云。每見玄印上座問和尚。因甚麼只是笑而不答。師云。子曾讀過世書麼。者云。也曾讀過。師云。中庸曰「不怒而民威于鈇鉞」。子作麼生會。者云。和尚元來殺人不用刀。師笑云。低聲。

17

僧問。諸方善知識棒喝交馳。和尚為什麼不用。師云。我不是善知識。進云。和尚又作麼生。師展兩手。僧擬議。師云。糠裏無油。棒之何益。

18

僧問。請師直指某甲西來意。師云。曾問幾人來。進云。即今問和尚。師云。我實不知。唯病為事。僧罔措。

19

僧問。金粟慣用棒。博山非之。都是善知識。為什麼舉措不一。師云。汝莫謗他好。進云。豈敢謗。師云。金粟博山響。僧無語。

20

給諫空空張居士訪師坐次。問云。如何是應無所住而生其心。師指香爐云。此是福窩裏的。

21

僧問。如何是毘盧師。師云。毘盧不如。進云。何以不如。師云。若如怎敢為師。進云。究竟如何。師云。汝試親近看。

22

僧問。觀音菩薩即今在什麼處。師云。佯咳嗽作麼。進云。不會。師云。有麝自然香。何必當風立。

23

僧問。觀音大士即今在什麼處。師云。汝名什麼。進云。道足。師喚云。道足。僧應諾。師云。在什麼處。僧有省。

24

僧問。觀音菩薩即今在什麼處。師云。菩薩且置。上座即今在什麼處。進云。現今親覲和尚。師云。病僧不受親覲。進云。某甲何曾親覲。師云。你那裏學得者虛頭來。進云。和尚入海也洗不清。師云。為甚如此。進云。好事不出門。惡事傳千里。師云。到也有些氣息。

25

僧問。觀音大士即今在什麼處。師云。你瞞我不得。進云。和尚還見某甲否。師曰。你瞞我不得。進云。某甲卻不會和尚意。師云。我瞞你不得。進云。積年老賊。師云。我瞞你不得。

26

僧問。久聞和尚常教人參觀音大士即今在什麼處。是否。師云。上座從那邊來。進云。金粟。師云。金粟和尚萬福。進云。仗庇。師云。病僧無緣。未嘗一面。進云。和尚為什麼不答某甲話。師云。上座適來問甚麼。進云。大士在什麼處。師云。強將帳下。豈有弱兵。

27

僧問。和尚是誰家兒孫。師云。臨濟。進云。臨濟兒孫多是棒喝交馳。速如雷電。硬似剛鐵。和尚為什麼綿軟如泥。師云。好兒不住爺屋。

28

僧問。摩尼珠。人不識。如來藏裏親收得。如何是藏。師云。子親到五臺。進云。到後如何。師云。取之無窮。用之不竭。進云。如何是珠。師云。子親見顛愚。進云。見後如何。師云。供養也好。毀罵也好。進云。謝和尚慈悲。從後再不敢向人前討衣食。師云。你得何境界。進云。清風明月。萬古常聞。師云。也須親證始得。僧便作禮。師云。露也。

29

侍郎朱玉居士來參。問云。聞說西方黃金為地。若然。此間土到西方。必貴過於金。師云。長者曾到西方否。進云。不曾到。師云。也要到過一番。方好說貴賤。居士默然。移時又問。聞師勸人念佛。何不勸人尋真我。師云。佛非真我耶。進云。既是真我。無處不是。何必尚往西方。師云。既然無處不是。何不一往西方。進云。不是不往。在此亦是。師云。在彼又非耶。進云。雖彼此俱是。我只願在此。師云。好個真我。久坐成勞。

30

僧問。如何是宗。師云。摩騰初來。進云。如何是教。師云。達磨後去。進云。來去意旨如何。師云。病僧今日失利。進云。和尚為什麼自作退屈。師云。對驢彈琴。

31

浮漚上座一日辭師云。音鑄事和尚三年。有舊行腳。賜一件以為後日信具。師云。病僧只有一頂破樺皮帽子。不嫌收取去。鑄云。就請樺皮帽看。師即舉一足示之。鑄便禮謝。師復印以偈曰。「禪人覓我舊行腳。只有一頂樺皮帽。舉足眾前親付汝。若陰若雨莫忘卻。」

32

僧問。求淨土與修圓通是同是別。師指香爐云。是圓通。是淨土。進云。和尚也會作野狐精伎倆。師云。明眼衲子。進云。和尚莫活埋人好。師云。伶俐不可使盡。進云。和尚也要自重始得。師云。病僧罪過。

33

僧來參。作禮拜勢。師將回禮。僧便高聲一喝。師即就位而坐。僧又喝。師掩耳視之。僧拂袖而去。師向侍者云。幾乎嚇倒病僧。

34

法璽禪人來參。纔作禮。師便問。病僧曾在洪都為汝開關事。即今還記得麼。進云。怎敢忘卻。師云。汝試舉看。進云。西山紅雨靜。南浦白雲多。師云。猶有窠臼在。進云。昨離修水。今到雲居。師云。還見個什麼。進云。親見和尚。師云。要見病僧真面目始得。璽便震聲一喝。師笑云。又是諸方蝦蟆

氣息。

35

僧問。婆子燒菴。且道具甚麼手段。師云。諸供養中法供養為最。進云。未審菴主過在什麼處。師云。明鎗易躲。暗箭難防。

36

僧問。趙州自謂勘破婆子。未審什麼處是他勘破的意。師云。也是老不知羞。進云。請和尚為某甲說破。師云。恐你到罵病僧。

37

僧問云。生時不知來處猶可。死不知去處大好愁人。師云。上座即今在什麼處。進云。某甲即今在和尚面前。師云。病僧又在什麼處。進云。和尚即今在某甲面前。師云。是一處。是兩處。僧有省。

38

僧問。一口氣不來。未審向什麼處去。師云。鏡面明。鏡背暗。進云。某甲不會。師云。潮水還歸海。僧擬議。師云。參去。

39

僧問。一口氣不來。不知向什麼處去。師云。春到百花香。

黃鶯啼柳上。僧有省。

40

僧問。今請和尚的確示某甲安身立命處。師起座笑云。生一床。死一筐。進云。究竟如何。師云。草自青。土自黃。進云。與麼則山河大地全露法王身去也。師云。迷在作麼。

41

僧問。和尚百年後向什麼處去。師云。憑上座送我到什麼處去。進云。某甲豈能送得和尚。師云。汝既送不得我。我豈指示得汝。進云。某甲送得和尚。師云。你還送到什麼處去。進云。不是天堂。便是地獄。師云。勞子太殺殷勤。

42

方融監院呈偈入方丈。有甕裏不走鶯之句。師閱過。徵云。汝喚什麼作甕裏鶯。融咄。師云。此莫是住山得的麼。融云。從來不欠少。師云。觀音大士即今在什麼處。融云。家家門前雪滿堆。師云。雪消後如何。融云。水到渠成。師云。也不辜汝喫清粥澹飯。

43

法璽禪人一日入方丈。作禮云。謝師究竟。師云。得何消息便與麼道。璽云。從今不受和尚欺瞞。師云。一切淆訛且置。你道觀音大士即今在什麼處。璽便直前打師一掌。師即把住云。不要手忙腳亂。清楚道將一句來。璽云。者老漢猶嫌少在。師

云。者是古人用過的。更須別道。璽便托開云。不與老漢說夢。師大悅。

44

雲谷座主一日同師在蘇溪柏桂園中傘下坐次。主云。和尚號傘居。傘把卻在某甲手裏。師笑云。拿得好。次日同坐。又問云。和尚愛傘居。因什麼傘把又在某甲手裏。師云。公卻過於殷勤。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十

(遼東錦州松山所見任浙江湖州府總巡廳信官余三瀛發心捐貲喜刻顛愚和尚語錄第十卷。計字一萬一百九十七。該銀六兩一錢八分。敬為慈母張氏夫人名下。性天朗耀。慧炬圓明。仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十一月 日楞嚴寺藏經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十一

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

佛祖真贊

1. 釋迦老子雪山像（二首）

者老漢著甚來由。

把形骸枯槁。如縛如網。

視富貴如棄唾。處饑寒若安享。

人只見的枯寂中枯寂。誰知道有妄想外妄想。

者般做處。難於心識。豈可言象。

又

古木寒崖。怪石異草。

住此何為。密意難曉。

直待天雨四花來。廣長舌相方明了。

方明了。滿目溪山誰知寶。

2. 釋迦拈花像

本師牟尼尊。能為希有事。

五濁惡世中。說諸難信法。

普令諸眾生。同入第一義。
稱讚與誹謗。等授菩提記。
是知無上覺。等遍不思議。
無限曲腸吐不盡。末後拈花全體示。

3. 栴檀像

稽首釋迦文。本師大和尚。
悲心何無窮。遺此栴檀像。
經劫不泥洹。常住光明藏。
天上與人間。遊行無遮障。
世間眾生無盡時。我佛身壽數無量。
法門應說已盡說。於今閉口有真況。
大地有情何沉冥。活佛住此不歸向。
若見若聞早來參。恐去別方空思想。
我今睹見不思議。世世生生常供養。

4. 阿彌陀佛像

堂堂金色身。特為眾生有。
眾生無盡時。此相亦不朽。

不捨慈悲心。常垂接引手。

就卑自降尊。憐兒不覺醜。

謾謂西方九品蓮。卻輸南嶽一張口。

5. 吳中石像

維衛迦葉佛二尊。願力法身常住世。

法身非色亦非心。能色能心圓無滯。

二佛之身依法性。情與無情不思議。

謂是金石水不沉。謂是色相火不崇。

謂是心想無計度。謂是枯槁知所至。

知此佛身不可名。是假是真合不昧。

若謂此佛不說法。默中之說聲遍地。

若謂此佛無見聞。五眼圓明等遍視。

若謂此佛無呼吸。寒來暑往息同鼻。

若謂此佛不周旋。浮波泛海神無比。

能識此佛即生佛。識者與佛原不二。

佛心即是我之心。我事即是佛之事。

我外求佛佛不真。佛外求我我未是。

我身佛身無差別。能禮所禮何同異。

二佛住此不計年。多少見聞登佛位。

6. 新昌大佛像

巍巍蒼岩石。堂堂金色相。

即像石不有。即石像何況。

石與像不二。無遮亦無障。

孰於一塵中。大開光明藏。

法界本無際。虛空豈有量。

一塵一切塵。一相一切相。

能造與所造。莫分真與妄。

一塵既如此。塵塵亦復然。

唯一堅密身。處處任因緣。

現大不可外。現小不可鑽。

自性功德聚。本有妙莊嚴。

我今親瞻禮。豈非作者前。

鑿石合非合。古今遷不遷。

見者與聞者。誰聖復誰凡。

願同今古人。常作如是觀。

7. 三教老人圖

佛之一字。吾不喜聞。

更駢二指。何啻腥葷。

試看名相未生前。三人面目自何分。

欲識三人真面目。誰家無有好兒孫。

8. 觀音大士像（二十四首²⁴）

石筍孤高。淨瓶光潔。雲輕如綿。衣白如雪。

中立不倚。正視無說。一言不說。萬事能訣。

一默萬全。萬無一折。能柔能慈。能剛能烈。

密意深遠。智趣玄絕。取之不盡。用之不竭。

欲識普門真三昧。珠輪常轉不勞舌。

臨濟一條白棒。佛祖打之不錯。

想是觀音大士。一棒不曾躲過。

若躲過。圓通卻成兩破。

²⁴ 含 8、9、10。

9. 送子觀音大士

真實圓通。隨處出現。

法界眾生。如一子看。

有求之者。無不如願。

是故十方塵刹中。稱名供養無數算。

紫石如雲。綠竹若柳。

大士安之。了無所有。

塵塵出現。時時無間。

總為眾生。大施方便。

手中嬰兒將與誰。求者圓映不可算。

世間生死。纏縛恩愛。

送子與人。慈悲何在。

現前為滿眾生願。到底還他末後債。

10. 觀音大士一首（三目像）

自證圓通常真實。隨緣所現皆無礙。

能現無量首眼臂。八萬四千猶大概。
或慈或威難思議。或一或多無雜壞。
真俗融通稱普門。法界同一觀自在。
一首不異百萬首。三目究竟只一目。
誰知三一性元空。示現特為眾生故。
眾生有感無即有。眾生若迷有還無。
有無本於眾生心。菩薩面目無差殊。
能於無相現眾相。為令眾生心向上。
何為現首不現身。留與眾生作奇想。

又（十六首）

劫海度生。水底撈月。
刹塵現身。紅爐點雪。
千條方便。畫蛇添足。
無量神通。破空出血。
用盡多少慈悲。
到頭只落得箇秤錘原是塊鐵。
原是塊鐵。不是斯人難以說。

子胡狗子最惡。佛祖到來一口。
大士如何躲過。圓通本無所有。
無所有。獅子虎狼。同垂一隻大悲手。

眼底霹靂。耳邊閃電。
大士圓通。一切齊現。
清淨寂然。事事周遍。
癡為眾生。用盡方便。
究竟到頭何所有。諸佛眾生總一片。

真觀清淨觀。驢頭不安馬頭安。
悲觀及慈觀。水面不看火面看。
智慧還同煩惱聚。廣大未若微塵寬。
此是圓通真三昧。分之不破聚不團。

寒實燄發。熱乃冰凍。

眼中谷響。岸頭腰痛。

積雪黑如墨。虛空如影動。

識得普門真自在。丈六金身作草弄。

又

龜毛拖地三千丈。兔角撐天九萬高。

南天摘北斗。劫火弄波濤。

借問圓通何處是。珊瑚寸寸是蓬蒿。

狼胎未出。虎腹先脹。

打破虛空。潑撒鹽醬。

馬尾卻在牛頭安。牛角崢嶸馬頭上。

真實圓通。慈悲奴相。

耳裏青紅。眼中鈴鐸。

北俱盧洲打睡。南瞻部洲持鉢。

毛端法界無邊際。十方不滿一掌撮。

東寺撞鐘。西寺鼓響。

王婆搔頭。趙婆背癢。

相逢借問家鄉路。泥鯁尾在蒼龍背上。

昨日田中扯草。今朝案上書字。

識得大悲千手眼。只是顛愚一指是。

一二三四五。金木水火土。

幻海茫茫無盡時。菩薩尋聲常救苦。

常救苦。張公騎驢。李公過渡。

菩薩之身。眾生為命。

若無眾生。菩薩無性。

剎塵無盡身無盡。癡心特為眾生病。

現首未現身。無心卻有口。

塵說剎說說不盡。

心空境空。法何所有。

百千方便為眾生。萬億形藏不覺醜。

眉間一目空劫前。頂上神光吞宇宙。

風前吹簫。月下垂鉤。

自是象游獅舞。不同鼠竊狗偷。

不舍事事法法。遍現物物頭頭。

忙到街前刺腦。閒殺雲外打麈。

飯飽弄箸。醉後狂謳。

從來妙德難思議。張家月照李家樓。

水靈不在深。山名不在高。

圓通自在力。殺人不用刀。

銅鐘出自大冶。瓦鼎妙有神陶。

農氏粳稷。黃帝巾袍。

都是家常茶飯。勿謂門外糠糟。

聞藏具足無盡。取用妙在吾曹。

向上原無把鼻。個中不容訂商。
我師忒煞慈悲。與人獨露真常。
信手拈來是藥。隨身到處皆香。
有出有沒。無數無央。
出入本無門戶。往來不隔垣牆。
如有心識。當自審詳。
早見紫竹林中主。半夜不疑出太陽。

11. 黃介子畫三十二應總像（二首）

三十二應。善於龜毛頭尖現妙相。
三十二讚。巧於虛空面上點浮漚。
狹路相逢難回互。不是冤家不聚頭。
大士介公手。介公大士口。
現身與說法。一身分兩肘。
大士胡為癡。顛倒無妍醜。
渾身骨與肉。都為眾生有。
啞之食之。東走西走。

喚之不顧。心膈欲嘔。

瞻此知此。急為回首。

莫負吾師。俞任袁柳。

刀山劍樹。短戟長戈。

盡是圓通妙境。無非慈悲本科。

圓融處處隨順。分別物物淆訛。

有感速應。無畏堪託。

偶爾皓首翁翁。忽然白髮婆婆。

千般手眼。萬種撫摩。

只願眾生得自在。就中難語和非和。

12. 準提大士像（二首）

一身能現種種身。數臂原來只一臂。

就裏本未有形相。示現特為眾生類。

眾生所求願不一。大士手臂不可計。

豈止十六與十四。

無形而形。形無定形。

無相而相。相無定相。

大士許多手臂。與我本來一樣。

如識自家面目。何止千名萬狀。

終日禮敬皈依。不可分別真妄。

13. 地藏大士像

以法界為家。以眾生為命。

立願先地獄解脫。堅誓以涅槃究竟。

此是我師。妙覺明性。

14. 出海羅漢像

顛顛顛顛。古古怪怪。脛似枯枝。頭如土塊。

頂笠腰包。鉢盂錫杖。打夥成群。隨流逐浪。

左右相顧。前後相襲。如雲而飛。似鶴而立。

所騎何物。鼠睛豬嘴。龍不像龍。鯉不像鯉。

既會說法。無有神通。返勞灑鬼。送出龍宮。

者般魔黨。自了之漢。若遇黃檗。一棒趕散。

15. 李龍眠居士白描五百羅漢像

奇哉斯卷。實為罕稀。紙墨變幻。妙入幽微。
雲水互躡。松石雜依。五百閑漢。善超是非。
浮波凌空。步雲倚樹。岩竇花間。大似兒聚。
漂海逐群。各乘其物。千古百怪。顯示神足。
片雲不大。眾聚不小。起落如翼。都為自了。
遠堂念佛。音聲浩浩。耳聽寂然。眼開方曉。
鉢中湧光。光中化佛。頂門塔尖。多佛一佛。
盆口鼓腹。笑眼如醉。老老大大。為兒所戲。
聽講坐禪。書經閱卷。得意忘疲。不知日晚。
討布下裁。吹火燒斗。嚙線穿鍼。添新補舊。
捧水澆頭。蕩刀削髮。三日一剃。是真快活。
獅子何多。騎大弄小。雖是神通。威儀欠少。
騎龍跨虎。羊鹿相參。象駕牛車。誰是指南。
倒臥橫眠。搔背爬癢。只好山中。隨爾偃仰。
蟒口安然。指出水火。做盡伎倆。難以瞞我。
精鬼何癡。徒勞費力。揚錫不起。著甚死急。

小大含融。一多無礙。剖開一塵。圓周法界。
毫端現刹。須彌納芥。帝網玲瓏。出沒自在。
觀此三昧。不可思議。放之萬全。卷之一密。

16. 渡海羅漢像

諸君似相識。一時想不來。不是在南嶽。便是在天臺。
而今何所往。到此又一遇。雖不是同流。因緣喜相聚。
既是有神通。履水應如地。何更假他物。弄巧成兒戲。
相狎海中鷗。接翼雲中鶴。往返幾回旋。何處是歸托。
奉勸參學人。莫逐羊鹿隊。穩駕白牛車。游行無所畏。
煩惱與菩提。無處分疆界。生死即涅槃。是名真自在。

17. 過海羅漢像

者般閒漢。來自何處。
此岸既捨。彼岸何住。
渡其中流。威儀不具。
露脛袒腹。兒童相聚。
依律擯之。各鞭牛去。

18. 寶掌和尚像（三首）

身小如鳥。遍遊諸國。

眼光如電。觸事無惑。

破太虛而不寬。入微塵而不逼。

難以測量其跡。豈可思議其德。

體本無位用。不能職刹塵。

無處不安居。漫言皮履來西域。

其狀如孤鶴。生來愛行腳。

身心都潑撒。有無齊拋卻。

冷眼看世間。無繩枉自縛。

善惡總不思量。動止有何束約。

問答不用機關。立敵本無韜略。

百事平常。一味自若。

但能用處有為。拈來病亦是藥。

蹤跡到處任縱橫。千古清標光爍爍。

水底頑石。林裏屈荊。
不為人愛。到處無情。
不為世用。到處安生。
壽為千歲。非自固形。
形而不有。大造同庚。
千歲百歲。夢語空聲。
我師分上。何壞何成。
本來面目無逢處。
水自焦然火自冰。
有生無生不須爭。

19. 達磨初祖像（三首）

真源不動。誰自西來。
空界無法。何為直指。
梁王殿上。假云不識。
熊耳山前。佯裝大死。
自從神光喪命後。殃及兒孫毒未已。
毒未已。棒喝縱橫。癡狂成市。

自來還自去。往返為何故。
直指涅槃心。此心孰不具。
諸佛與眾生。何曾分兩處。
本來無得失。豈可語迷悟。
謾將皮髓誑兒孫。自有傍人舉公據。

太虛露骨。平空迸血。
眼似流星。面如生鐵。
東走西走。狂心未歇。
得髓得皮。惑人是孽。
藏頭露尾。敗壞難說。
面壁生塵。弄巧還拙。
飛天自是神龍。轉身²⁵依然跛鱉。
上下原無增減。長短何勞續截。
回首看來無所有。不如閉口深藏舌。

²⁵ 年譜作渠。

20. 寶誌公大師像

無生示生。生緣自異。

無用而用。用亦非常。

度蟒而瞋心頓化。噉鴿而生命無傷。

修習空花佛事。莊嚴水月道場。

集懺語傳慧燈。即文字為津梁。

21. 曹溪六祖像

菩提非樹。明鏡非臺。

黃梅夜半。親付衣來。

鬚髮混俗。獵隊活埋。

風幡忽動寶林地。吹作優曇花五開。

自是眾中春米熟。方知不負擔頭柴。

22. 碧峰經大師像

本是山中苦行頭陀。何為卻作將軍行狀。

原乘圓通願力而來。乃爾威慈自在無障。

掌肅殺之權。白氣衝霄。

全生活之機。紅光如絳。

任爾髮鬣纍垂。輸我本來模樣。

23. 紫柏大師像

其貌神威。其胸空淨。

中立不倚。異行能正。

本無佛祖蹤跡。那有人天性命。

處生死如遊戲。臨杖刃若禪定。

雷轟宇宙。風濤觀聽。

真大雄氏之剛骨。啟宗門之正令。

24. 雲棲大師像

大剛能柔。大辯若謙。

曲順時宜。密化深潛。

發東林未發之當發。淨土大成。

立百丈未立之應立。規範精嚴。

天魔外道。壞法無因。

雄機大用。靡敢指拈。

稽首我師。

真彌陀之應世。人天之仰瞻。

佛法住持。久遠可占。

25. 本師憨山國師像

憨山和尚。大煞無狀。

慣拋金剛圈。單打生鐵棒。

初在東海鼓風作浪。後在嶺南吞煙吐瘴。

剗人眼睛。食人五臟。

但遭其手。渾身俱喪。

多少癡人。被你惑誑。

我今識破你了。是者等不作法的阿師。

到處逢人舉一上。

又

面圓如月。心毒似蝎。

目青似蓮。骨硬如鐵。

青州渴飲滄溟。紫府飽餐冰雪。

轟耳雷霆。渾身障熱。

眼前無物。肘後有訣。

曾經九死一生。已過七穿八裂。

捏人至髓。殺人見血。
涉危而安。隨流能截。
驗盡龍蛇。證明龜鱉。
自是慈悲惹怨。那知弄巧成拙。
本非切切。卻作屑屑。
五花再敷。一脈永徹。
大鵬翅羽摩空。師子懸巖返蹶²⁶。
松下蒲團亦尋常。箇中消息難分說。

26. 空印大師像

閒開人天眼。不鼓是非唇。
法界一毫端。知師無二身。
我今萬里外。邈寫大師真。
紙即金剛骨。墨是血肉津。
形影既不離。遠近亦當神。
縱爾不相似。料想非別人。

²⁶ 同轍，跡也。

27. 天童密雲和尚像（二首）

頭平若掌。髮上如吹。

例觀諸祖道影。靡敢彼此高低。

異人果有異相。大德必有大奇。

道德識見。予何能知。

但見形儀色相。傾心服之。

真人天之大師。

久嚮天童名。今睹天童面。

晴空轟霹靂。白日掣閃電。

捉住毘盧敲髓出。嚇得須彌渾身戰。

一條鐵棒太無情。佛祖爺娘不許見。

不許見。馬角牛鬚。無處不現。

28. 三昧和尚像

久嚮嘉名。

今幸得遇。

果是人天軌範。

大好法身常住。

自贊（八十二首）

1. 河南福府李舍人請

清涼廬阜。南岳天台。

敲冰煮雪。面垢頭灰。

百骸潑散。一味癡猷²⁷。

幾向巉岩失足。奈何死後甦回。

多載人間不剝削。疏慵猶似出山來。

2. 齊安林伯滋音夔請

我是爾形。爾是吾相。

紙肉雖殊。性無兩樣。

我今衰老。難以遠行。

爾可代我。傳佛向上。

不用搖唇鼓舌。不用豎拂舉棒。

不用合掌低頭。不用機關伎倆。

無心之外更無心。一切人天合供養。

²⁷ 同呆，古音艾，陽平。

3. 中湘謝孺玉孝廉音萱請

三十年前有心作佛。三十年後無心合道。

再三十年後。卻將破油靴。當作毘盧帽。

4. 謝惟高音蘭請

今遇顛愚和尚。不知如何相向。

口雖不言。心自明亮。

不好成佛作祖。只是隨緣放曠。

極不歡喜的是那臨濟小廝兒。

把我扭捏作三玄三要。四喝八棒。

分的我零零碎碎。飄飄蕩蕩。

此冤此苦。

至今不曾逢著個知音。告訴一上。

5. 劉省吾音萬請

江風清。山月明。

春柳活。秋雲輕。

即此便是顛愚和尚鼻子耳朵。眉毛眼睛。

咦。

外面隨人胡道亂道。

就裏一點。筆舌難生。

6. 中湘姜思安音萃請

一見我師。無限歡喜。

問不答言。拜不回禮。

瞻仰久之。元來是一張故紙。

正好包裹十方世界。三世諸佛。

歷代祖師。盡在於此。

者個便是顛愚和尚全體。

7. 李成甫音艾請

今日見你。也是者個模樣。

明日見你。也是者個模樣。

外面一味癡憨。內裏十分倔強。

我今把千百觔擔子放在你肩上。

好去傳持諸佛正法眼藏。

8. 武攸梁五峰音範請

朝不禮佛。暮不誦經。

禪理未透。律行未精。

何以消人信施。驢胎馬腹橫生。

9. 朱鳳起音蒼請

稽首顛愚病阿師。佛子云何是住持。

也要擔漿灌紫芋。也要掘土種白芝。

有時攜籃摘豆蔬。有時荷杈夾竹籬。

即此便是常寂光。清淨法輪更莫疑。

10. 程乾初音荔請

者個阿師。

不會書又要書。不會詩又要詩。

不知是自不知醜。不知是人強而為之。

咦。

我雖不知書。點點觸破太虛。

我雖不知詩。字字不落悟迷。

11. 中湘林本初音藿請

未形先贊。言成虛誑。

先贊未形。質本全妄。

言象互泯。了無遮障。

直須與麼皈依。方見顛愚和尚。

12. 吉水婁豹玄音浚請

諸方不讓佛祖。爾何獨怕狐兔。

把你個沒用的阿師。只好與人家調羹補褲。

咦。

若是懸羊頭。賣狗肉。我實不如諸方。

若論假小心。真大膽。無如顛愚故步。

13. 安城鄒叔監孝廉音潔請

頭髮鬢鬆。眉鬚交結。

滿面灰塵。渾身冰雪。

若有視聽。全無氣血。

一味平常。百無言說。

忽然出向畫堂前。

太古淳風。崑崙皎月。

14. 音弼請

千尋冰雪凍不碎的枯骨。

萬丈懸崖墮不爛的死屍。

得何幻術。猶能視聽覺知。

漫將知見當神通。看取虛空夜生兒。

15. 音頤請

本是山中鋤頭漢。假饒筆硯不相宜。

想向紫竹林中過。帶來鸚鵡遶松枝。

16. 王伯賢音蓉請

今日也畫一像。明日也畫一像。

不知那個象顛愚和尚。

欲要真象顛愚和尚。

直教世界不能容。虛空無遮障。

17. 古攸譚真復音瀚請

吾為爾依。爾乃吾借。

我有動靜。爾無取舍。

真則俱真。假則俱假。

誰之本來面目。就是之乎者也。

又（十四首）

青峰孤頂。縹緲白雲。

百鳥不來迷路。是非到此無門。

又

鬚髮連環。伽黎毘毘。

山裏好煨牛糞火。人前不得作癡愁。

又

千里清風。萬里閒雲。

毛端吞於巨海。須彌入於微塵。

漫向紙上窺一斑。大千世界是全身。

又

顛愚和尚。我向汝告訴一上。

如今諸方善知識。棒喝交馳。五位齊唱。

一人誘眾人。相傳無遮障。

只恐有風吹到你面前。也要你抵當。

若被他拆挫下去。大不好看相。

咦。

我只一味不采。勝他千伎萬倆。

又

疥狗泥豬。通身都是光明聚。

紙畫木雕。無不是佛知見地。

誰知三世諸佛。天下衲僧。盡在者裡。

個個長嘯短氣。

又

眉重眼癡。鬚濃額小。

只好在巖阿裡藏身。卻來市塵中潦倒。

漫潦倒。通身泥水如何掃。

又

不知是誰。偶爾相違。

大似顛愚病阿師。從來不解為生受。

兩眼虛開無所見。鼻孔雙垂無所嗅。

蚤語虱語。聲貫山河。驢糞馬糞。光通宇宙。

一味平常。曾無休咎。

任人卷去舒來。自己胸中。一無所有。

又

婆子已燒菴。爾還坐不起。
好漢打落牙。只可嚙在腹裏。
我今把你者個無肚腸阿師。孰不知道你。

又

山河大地。日月星辰。
人畜鳥獸。佛魔鬼神。
通是顛愚一頂舊袈裟。從古至今敝復新。
有時卷。有時伸。不用袖。不用衿。
著來可體不沾塵。
是誰手段妙裁綴。其中線路難追尋。
咦。
鴛鴦繡出憑君看。不把金鍼度與人。

又

外面如綿。其中若鐵。
外面裝點假慈悲。就裡惡毒如蛇蝎。
如蛇蝎。不敢沾著。沾著即性命絕。

又

者個阿師。所事無一可賢。
不律而律。律於無生之先。
不教而教。教於空劫已前。
不禪而禪。禪於威音那邊。
似爾這個不合時的阿師。
只好打殺餒了狗子。那堪名貌與人傳。

又

者個也說描得像。
那個也說描得像。
任你描得顛愚十分像。
也只描得顛愚之皮膚。
終不能描得顛愚之心肝五臟。

又

面貌如慈。心行實惡。
服人不假聲色。殺人不動干戈。
相逢直使命根絕。不問如何與若何。

又

生不知來。死不知去。

滿口譚禪。曾無慚懼。

閻羅老子。鐵面無情。

任你鐵嘴。難於分訴。

難分訴。豎死橫生。與人同聚。

18. 半身像贊

者丹青。真個巧。

描得顛愚何太老。

半隱半露知回互。不現腳跟只現腦。

縱示全身亦者邊。那邊從來沒處討。

沒可討處絕蹤跡。佛祖相傳知所賣。

今贊你相超方去。莫要行玄莫落草。

任他展去與收來。口挂壁上一切掃。

19. 行像贊

草鞋倒繫。柳栗橫擔。

穿雲刺霧。渡水登山。

古人途路不肯住。誰信到家也是閒。

又（十首）

處處與爾相逢。明明本無彼此。

請師常住世間。令人頭面頂禮。

直將本色眉毛。遍布菩提種子。

又

者阿師。何所尚。一見令人無我相。

不解誇會誇能。不知分真分妄。

任從喜怒交加。只是虛閒謙讓。

誰信顛愚真個愚。魔王都作佛供養。

又

鬚鬢已皓。眉目已老。

不解偷安求靜。每自鋤畚²⁸刈草。

勞勞筋骨為誰忙。就裏風光知者少。

又

語柔骨剛。志大膽小。

²⁸ 音余，開墾二年之田地。

外面似癡癡憨憨。內裏實明明了了。

行不擇跡。居不擇陋。

至理不用機關。大道本無情竇。

欲問宗風嗣阿誰。顛愚不墮威音後。

又

少小未敬師長。老大乏人侍立。

到處一個蒲團。見人嘴噓都地。

莫論當來受用。且觀現前蹤跡。

欲問就中事若何。從來不許通消息。

又

眾生日用忙不徹。佛祖分中更覺忙。

顛愚覓得無忙處。火燒眉毛丈二長。

欲問無忙端的意。

寒來暑往。秋收冬藏。

又

癩殘對客不揮涕。佛印為人自燒豬。

未識顛愚何伎倆。東西南北總無居。

閒來兀坐。興到喜書。

乍看與人相似。就裡與世全殊。

又

水底頑石。山上孤松。

千崖積雪。萬壑疏鐘。

清韻從來知者少。羚羊無處覓孤蹤。

又

頂露鬚濃。眉粗眼小。

一味癡憨。萬般不曉。

本來無可安排。去處隨緣潦倒。

何以不招無間業。佛法不言便是寶。

又

靜中有動。質處成文。

拭身凝雪。應世行雲。

內實了了。外若昏昏。

此是我師安閒法。明月清風不與論。

20. 九嶷戒子請

我住邵陵二十載。時時觀慕九嶷山。
今遣爾像先至彼。直入深處隔人間。
待我杖鉢隨後至。與爾結茆共爾閒。

21. 李愛軒銀師請

爐鎚在手。火候在心。
佛魔無二。罪福同臨。
誰知個中消息。偷心一點難侵。
莫分是銅是鐵。拈來入火皆金。

22. 五臺庵典座請

為仰臨濟。雪峰石霜。
都從灶火邊識取。盡向鍋頭上發揚。
欲知諸老今何在。五臺庵是選佛場。

23. 古攸劉朴先請

者鬚子。何太癡。
不在巖穴裏深臥。卻來紙壁上支持。
不問禮。不吟詩。

客來相對兩莖眉。就裏一點最為妙。

熱鬧也如斯。冷淡也如斯。

24. 古攸諸戒子請

鬚鬚環面。我師之道相。

上觀下衡。我師之名字。

行年今方五十七。披剃原於一十四。

生原霸州趙氏子。出家五臺圓照寺。

沙彌知師。先此五事。

25. 古攸陳斗衡居士請

者阿師。拙到老。

不唯世事不通。就是佛法未曉。

何以消人信施。先須自守家寶。

家寶不用外尋。六根門頭了了。

嘆。

休把是非來辨我。佛祖知見一切掃。

26. 古攸劉漢水音潢請

我師說法。無有覆藏。

山河大地。同一寂常。

本無言說。何有文章。

看破世間閒學解。著衣喫飯自堂堂。

又（九首）

者老子。大無端。

不居城市不居山。

扁舟善入龍魚國。白鷺青鷗共往還。

碧浪拍天自坦坦。黑風翻海自閒閒。

從來不解安身處。那分天上與人間。

又

顛愚舌頭長。江海日月光。

顛愚舌頭廣。鱗甲羽毛語不誑。

車有車策。船有船長。

漁有漁仙。樵有樵黨。

士農各有師。工商多奇想。

塵說剎說無間說。我師兀坐非絕響。

又

月上孤峰。風來朗水。

欲識顛愚和尚。只是者箇臉嘴。

又

趙州八十歲被人貶斥。住處也不知。

顛愚五十歲自好疏慵。有住也懶住。

今昔名貌不同。彼此窮骨一具。

遇舟居舟。遇樹棲樹。

不愛與佛祖同儔。只好與魚鳥同聚。

又

一相一贊。晴空閃電。

一贊一相。燄爐騰浪。

贊贊不已。空華能結子。

相相無窮。夜半太陽紅。

此是顛愚真面目。

相看本來無遮護。眉毛鼻孔常如故。

又

眉重眼小。甘州枸杞紅如棗。

灰頭土面。鎮州蘿蔔大如斗。

口不言。黃蘗如蜜甜。

鼻似笑。露柱作虎叫。

相逢莫問此阿誰。觀音文殊一孔竅。

又

鬢已白。癡骨猶不肯活埋。

面已老。狂心念念猶未了。

自己茫茫無所歸。與人叨叨說三寶。

說得天花亂墜。也是夢想顛倒。

咦。

白雲深處是非無。一任雷轟與電掃。

鏡像水月。空華陽燄。

此是顛愚和尚本來之面。

只可瞻依。不可思算。

南北東西。隨處出現。

又

佛頂雲。蘇溪月。

輕輕萬古常閒。明明一片光潔。

此是顛愚無住身。只可瞻仰。難以交結。

又

一像傳眾像。相傳無數量。

傳至十方遍剎塵。面目看來都一樣。

此個阿師自何來。云是五臺庵裏顛愚老和尚。

27. 兵憲金豈凡居士請

有箇頭陀。鬚髮婆娑。衲破不補。渾身灰土。

是病非病。戒慧而定。欺誑百端。一味瞞官。

閒去閒來。嶂疊波洄。不棒不喝。狠過蛇蝎。

者是阿誰。顛愚和尚。像也不像。半觔八兩。

者老和尚。大沒酌量。

不論是凡是聖。不管是老是壯。

狹路相逢。都要扭作鼻孔向上。

鼻孔向上。呼吸如雷。群魔膽喪。

又

者老子。沒氣息。

不好為佛為祖。不好能知能識。

萬事隨緣。一味從直。

欲問西來大意。水在長江。月在天際。

28. 素而郭居士請

者阿師。無背向。

內外本自一如。貴賤曾未兩樣。

只好守株待兔。不會掘坑捕象。

一向癡癡憨憨。未及喝喝棒棒。

欲問佛法大意。棗子從來不用鹽醬。

29. 蘇門郭茂才請

者老子。沒彼此。

問柴炭。酬鹽米。

不知如何作此舉止。

咦。

慣將北斗面南看。日午三更睡未起。

又（二首）

蒲團一個。曲松一株。

十分幽僻。萬境皆虛。

道人住此一塵中。圓明無欠亦無餘。

者個即是真正顛愚。

又

不解空手行拳。卻執拂子以為莊嚴。其實狼藉返墮。

不解鬧處刺頭。卻來寒崖自喜禪坐。無乃枯寂太過。

本來面目。不受囊藏。向上把鼻。豈容差錯。

試看水月圓復缺。方識長空成亦破。

30. 法璽印西堂請

者拙漢。無思算。

失便宜。惹人怨。

不教人參禪悟道。但教人種田博飯。

渾身熱病不知休。逢人猶說事未辦。

似者等不知生死的老骨頭。只可遠離不可伴。

你莫錯認了者個老骨頭。就裏也有些不好判斷。

若判斷。卻許印西堂。正眼窺一半。

陽燄空花。鏡像水月。

無因可取。有口難說。

我今贊之。太虛釘橛。

眉目可觀。頂門迸血。

31. 季納熊公請

俗不冠巾。僧不剃削。

禪未通透。教未剔挑。

本無所得。虛逞孤標。

現前不踏真實處。當來岐路還自招。

咦。

顛愚面目無向背。不受描摸。不受刻雕。

此老是誰。大似顛愚和尚。

一向不好莊嚴。如何卻著赤絳。

少時多不努力。老大反學強壯。

不知是首尾顛倒。不知是住持榜樣。

似柔不柔。似強不強。

百事未能。一無可像。

卻有些無處安排。不如且挂在石灰壁上。

32. 直心李公請

者阿師。無表裏。

衣鉢到處人皆喜。不解管待不解禮。

只是心中無彼此。貴賤一目同尊卑。

有情無情親骨肉。信之近之如父子。

又（四首）

顛愚本無像。是相像顛愚。

顛愚一切相。法法悉皆如。

又

色相本空。相復何相。

依假不依真。全真卻成妄。

火裏栽青蓮。空中著白棒。

那吒忽從天上來。撞著個沒面孔的阿師。

疑是顛愚和尚。

顛愚和尚任爾描摸。一點未曾增上。

者老子。甚癡憨。

世事全迷。佛法未參。

見人不分賓主。開口不落二三。

不知有何所恃。不肯與人爭談。

不爭談。是指南。

喜鵲鳴高枝。溪聲響澗底。

崖花向日開。山色青無比。

欲識顛愚真面目。不在彼兮不在此。

無彼此。只可相看。不可比擬。

33. 別駕青陽李公請

慈能勇。柔能剛。

我師得之。為世津梁。

虛己應物。不擇炎涼。

為人如己。甘苦同嘗。

三根普攝。一道平常。

行住坐臥。有色有光。

視聽覺知。無覆無藏。

如是贊仰。未免迷狂。

知師不受知見力。那分天性與文章。

34. 弟子性願請

者老擔板。全無照管。

少年住深山。徒賣虛名。

老來住城隍。不勝疏懶。

欲問佛法密意。睡欲蚤眠起欲晚。

35. 音溥馬居士請

我師密意。諸法不二。

好禮與之並禮。作事與之並事。

眉目同張。耳鼻同致。

猶有一點。從來祖佛難覓。

但有言說。都無實義。

36. 南京王奉吾居士請

者老模糊。人前只是嘴盧都。

疾人亦有疾福。扶人自有人扶。

侍者何處蹉懶。居士常應吸呼。

欲問居士姓名。此是南京城裏王奉吾。

37. 舟泊白門鬼臉城眾居士請

此個鬍子是誰。云是顛愚老倔強。

少年多在深山裡守株待兔。

老來卻到城市中依盲摸象。

如斯顛倒無可為。

況不能於有佛時稱尊。而於無僧處顯出。

王和尚。好不自知慚愧。還敢受人供養。

鬼臉城畔暫泊舟。幸借鬼臉為君障。

咦。

任爾七穿八鑿。顛愚只是者個模樣。

過日猶嫌。豈可度量。

38. 讓字劉公問道圖請

鬚子一對。僧俗兩樣。

一是讓字先生。一是顛愚和尚。

無問而問。平地起堆。不答而答。無風起浪。

本來面目自平常。大道不著於言象。

但不分別仁義禮智。何處不是毘盧華藏。

彼此相看。孰非向上。

題像

1. 題明翁蔡居士六秩²⁹初度行樂圖

古木枯兀。英石瑞草。

獨坐其中。超然物表。

琴鶴不隨。猿鳥不到。

境寂心閒。幽微自照。

欲問個中消息。從來知者實少。

佛祖尚不奈何。況其人天權小。

本無覆蓋。不假尋討。

如斯受用是阿誰。白門居士蔡明老。

2. 題集生余老居士像

久響余翁名。未識余翁像。

聞名是居士。睹像是和尚。

僧俗本一人。個中無二況。

深入博山室。聊訪天童棒。

歸臥光明臺。一切都掃蕩。

²⁹ 通秩，十年。

如何憐兒不覺醜。遺此圖畫反遮障。

嘆。

只要眼底無金屑。空華元是光明藏。

3. 題雲池馬老居士像

馬郎兄弟七人。俱是出塵伴侶。

歸心威音那畔。與世和合水乳。

大喜阿翁何幸。生此超越兒女。

不讓龐老遺風。更有出格妙趣。

直下要識此翁。千載常依覺樹。

真銘

禮觀音大士銘（四首）

一室清燈。半窗明月。境寂心如。了然超越。
靜極光生。明極相顯。於一塵中。法輪常轉。
塵塵佛土。佛佛道同。因緣方便。各有其宗。
此方教體。在音與聞。菩提速證。惟妙耳門。
我今歸依。觀音大士。願從聞修。入三摩地。
大士慈悲。法界一子。我今哀求。豈不愍此。
願我身心。與性合同。如水投水。似空合空。
大士即我。我即大士。自在神通。不可思議。
一即一切。一切即一。禮一名號。諸佛同詣。
我一塵中。作此勝行。十方微塵。一一相映。
我一念中。修妙方便。三世劫海。無異無變。
如是作禮。帝網玲瓏。法界有情。共一圓通。

空性無邊。微塵無盡。一塵一空。蟻窠相印。
我一塵中。而坐道場。寂照含融。虛徹十方。

水月身心。鏡華相好。誰信虛空。能起能倒。
淨几爐香。疏窗小榻。獨自跏趺。不勝其雅。
鐘鳴鼓響。杵震砧聲。但不分別。了然不生。
悅意笙簧。驚人霹靂。耳根發勞。無可指的。
外境寂寂。內心如如。一法不有。圓同太虛。
十方洞照。一切唯心。真聞妙響。是觀世音。

我聞菩薩。獲妙耳門。圓通殊勝。諸聖同尊。
是故十方。微塵剎海。觀音之名。無時不在。
名與行周。身因土遍。微塵剎海。無處不現。
有形無形。有想無想。凡聖齊臨。本無遮障。
或順或逆。能慈能威。個中主人。不知是誰。
我今頂禮。惟垂加被。願如菩薩。入不思議。
能禮所禮。水月空華。天堂地獄。原是一家。
出沒自由。大施方便。鼓躍繁興。不離當念。
一念不生。萬法不有。法界如如。是名真受。

我今皈依。圓通大士。願從聞根。入不思議。
我與菩薩。同一法性。一聖一凡。大士實病。
菩薩與我。法體同然。一迷一悟。我實為慚。
我今勇猛。直超劫外。聖義不為。凡從何界。
聲不至耳。耳不循聲。根境不立。萬法齊平。
耳門既淨。六戶俱寂。無處可覓。佛魔蹤跡。
從畢竟無。示畢竟有。法鏡圓明。影像不朽。
閻浮清泰。地獄天堂。一性融通。誰分短長。
往來起滅。朱紫玄黃。縱橫取舍。唯心之光。
妙慧清淨。無生度生。法界無量。觀聽圓明。
塵刹劫海。出沒無礙。是知我師。真觀自在。

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十一

(遼東錦州松山所見任浙江湖州府總巡廳信官余三瀛發心捐貲
喜刻顓愚和尚語錄第十一卷。計字九千八百五十九。該銀五兩九錢
二分五厘。敬為慈母張氏夫人名下。性天朗耀。慧炬圓明。仗般若
而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十一月 日楞
嚴寺藏經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十二

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

佛事

1. 曹溪憨山老人訃音至懸真燒香

師至像前。久視云。

人天師表。氣宇軒昂。脫珍御服。著弊垢衣。坐微塵裏。轉大法輪。觀三界若浮漚。視一身如贅物。踏翻教海窠臼。打破諸祖羅籠。不順時流。惟憑自得。受天子之赤絳。大振牢山。復曹溪之道場。中興祖席。始得源頭疏通。家風撥轉。豈期霜花布地。木葉飄空。一天星斗雲彌。大地山河隳裂。幸有法恩廣大。慈澤淵深。致令狐狼野干。水鷺泥鳅。一齊皆得離生死。證涅槃去也。既然如是。且道還有不落生死涅槃的麼。遂插香。顧眾云。

自古長安無異路。

爐煙端的透曹溪。

展具大拜。

2. 五臺山空印大師訃音至設奠為文哭之

文曰。

釋迦掩室。達磨面壁。其聲若雷。誰云文字。

五家法將。二說宗師。各有鍼線。綿密可知。
禪源似絕。教海如竭。三百年來。法門凋折。
性不識性。相不知相。野干狐鳴。稱為絕唱。
人天有因。法運復轉。是生吾師。照千古眼。
迴脫廉纖。孤光獨耀。屈為時宜。分別曲調。
慧宗大鑒。辯伏賢首。決擇性相。妙不犯手。
馬鳴龍樹。無著天親。各善宗途。互不相鄰。
總會吾師。如海納川。渾然無隙。百味俱全。
惜我罪根。不為法器。才見慈嚴。返成狂癡。
業風一鼓。萬里飄流。二十餘年。向外馳求。
忽聞悲嘯。如觸風刀。何能隨從。瞻仰眉毫。
臥疾毘耶。遊神華藏。誰死誰生。何真何妄。
形跡雖隔。心光不昧。色相空虛。昭然嘗會。

3. 為月舟和尚起龕

南山北山。一口兩肩。

東走西走。兩肩一口。

恭惟新圓寂月舟和尚。骨硬金剛。心堅蒺藜。一身赤歷歷。
經過多少風霜。兩眼光爍爍。看破若干世事。掛纓絡。飲醍醐。

視之如空華水月。破砂鍋。爛瓦罐。聚之若閨閣珍奇。外面一味邈邈。裏面十分乾淨。帽破不補。衣破翻穿。自知以為最伶俐。傍人以為大癡大顛。住世七十餘年。坐臘五十餘夏。世緣既盡。幻質將拋。示老病於一朝。登蓮臺於九品。大眾。欲知月舟和尚安身立命處麼。良久云。

春末夏初萬境幽。子規血淚滿山流。

蓮胞上品花開後。還駕閻浮明月舟。

4. 為無方和尚起龕

二十年前海上游。不風流處自風流。

于今兩腳稍停去。不作驢兮便作牛。

恭惟新圓寂無方和尚。示生東魯。入寂湖南。一生脫灑。萬不相干。肩頭上藥葫蘆。哄喫了千家茶飯。掌握中藤拄杖。穿破了萬里山河。婆婆娑娑。如三家村裏老虔婆。哆哆和和。若一尺車中赤嬰子。肚飽便足。囊空不愁。去住隨緣。死生無慮。談笑忽爾脫然。容貌久如瞌睡。大眾。還見無方和尚真面目麼。良久云。

雲散水流盡。寂然天地空。

春來秋復去。萬紫與千紅。

傳

曹溪中興憨山先師傳

師諱德清。字澄印。別號憨山。建業全椒蔡氏子。父諱彥高。母洪氏。師誕于嘉靖丙午十月十二日。母解懷。白衣重包而出。去衣洗濯。湯水異香。卯角時。隔溪從師習魯誥（按：此指儒學）。心戀母。時渡溪趨母。母嚴。捉師總角。擲于溪。曰。小子不讀書。不淹死何為。幸叔伯急為救之。師從此戀母之心澹如冷如。居恒不樂俗。父母每為推卜。咸曰。此子非塵中物。留于俗室多不吉。父母曰。養子不吉。何不送之出家。年十二歲。送長干大報恩寺。從西林和尚為沙彌。

時無極大師主席三藏殿。及門弟子雪浪師長師一歲。師間過三藏殿。與雪浪師身年資性頗類。二師密契深至。心跡靡間。儼如一人。無極大師亦等視之。師年十九禮棲霞雲谷大師。咨決心要。是年冬。本寺請無極大師講華嚴玄談。師即從受具戒。一日在舍利塔前叩一梵師。梵師曰。此小師後日大轉法輪。口如仰月。即佛口也。

一日。又在本院廊下遇一異人。謂師曰。公可惜許。公可惜許。師曰。何謂。客曰。公若在吾儒。能大扶樹名教。堯眉八彩。公眉五彩。有三教之任。吾海內求人三十餘年。今日獨見公一人。已為僧。無如之何。吾從此不復與人見也。別後師著意尋訪。竟不知何往。

嗣又遇一山人。深愛師清致可尚。請師諱。刻一圖章。曰清郎印。送師曰。存之。可為後日證。師喜。佩與身俱。

雲谷大師凡應請。師常侍側。雖與雪浪師友密。別有超異。心期同志行腳住山。

無極大師主天界寺法席。師與雪浪師亦預焉。師每登廁。見廁地光潔如鏡。入夜燈明如晝。知有智人司之。用意伺盼。竟未識其人。一日大眾晚課。師私窺之。見一黃腫頭陀執火入廁。揩燈盞添油。師前拉住曰。師真妙人也。我數伺師。一見不得。今始遂意。詢號曰妙峰。字曰福登。為山陰王南海進香。北人初到南方。受濕生瘡。因討此行單為調息計。何似師大智慧。能聽經。後日代佛揚化。我輩是笨工人。行得是笨工事。何辱用意若此。師笑曰。願師慈悲勿棄。訂為生死友。同住山。同行腳。妙師曰。師有此志。行腳我荷草鞋。住山願拾薪汲水給事焉。尋妙師瘡愈。辭師北歸。師送於江干。再四囑住山行腳事。揮手而別。

師竣天界講期。一切捐棄。唯弊衲一肩。辭西林、無極、雲谷三大師。三大師知其志不可留。咸歡喜讚歎好去。雲谷大師復曰。佛法重擔在爾肩頭上。甚勿忽之。師唯禮謝而已。師渡江。經全椒別母。母亦歡喜。謂子北行。何不早也。師年二十有七。

師北入燕都。意訪妙師。間游諸講肆。以俟之時。學人輩知師是南方學者。博於外學。咸請講老莊諸子等書。師亦隨請隨應之。未幾。妙師奉山陰王命入京請大藏經。亦注意覓師。一日妙師聞某處到一南方學者。人品秀拔。神悟孤朗。與諸學人論內外典籍。問辯無礙。宿學後進無不推重之。妙師躍然。信決是師。直趨所指之處。一入門。師遙見。此豈非昔年與友

之黃腫頭陀耶。向前扯住。相視笑曰。還認得麼。妙師曰。不認得不至此。師曰。我到京特為訪師。妙師曰。我福登來京亦無別。第一為尋師。第二為山陰王請藏經。候經成。同師至蒲州安置。即同上五臺山住靜。兼述山陰王企慕之誠。師以藏經事大。候之。

時有大居士南溟汪先生在朝。聞師名。請一會。師至。汪公喜不自禁。如見天上人也。謂師曰。五宗衰弱。獅脈垂絕。非師莫能起之。師當痛念佛祖慧命。眾生本有。極盡擔荷去。諸佛諸祖智慧德相自然萃于師身。師曰。不知如何擔荷去。公曰。莫作此語。此時不要師用心用力支持。只要師放捨身命住山去。冰雪堆裏深埋去。大死一番去。死後發活。然後出頭。管取包天裹地。耀古輝今。那時自信沒量大人。不讓佛祖。師曰。住山是為僧本事。初在南方與一真實衲子號妙峰結友同去住山。此師即今為山陰王造藏。俟畢同去住山。究竟本事。公大喜。請妙師相會。亦以此事叮囑公于藏經密用力。欲速起。時邀師私館對坐竟夕。盤桓此事久之。

藏經未起。師即別汪公、妙師。參遍融大師。師禮拜。乞和尚指示。遍唯直視之而已。隨過西城柳巷。參笑巖寶祖。祖一見便問曰。禪人從那裏來。師曰。南方來。祖曰。還記得來時路麼。師曰。一過便休。祖曰。子甚來處清楚。宜當珍重。師作禮。祖遂以記菑之語囑付居山。以待龍天推出。師即唯唯辭退。遂遊五臺一載。未獲安逸之所。復返京都。之盤山。

師登山頂時。見石巖內一隱者。灰頭土面。師作禮。絕不照應。問亦不語。師知非常人。亦同默坐。少頃隱者燒茶。唯

取一甌自飲。師亦取一甌自酌自飲。茶完。隱者還茶具舊處。端坐如故。師亦如之。又少選。隱者炊飯。飯熟移在面前。唯取一碗一箸自食。師亦取一碗一箸同食。飯罷。亦端坐如故。師亦如之。夜中隱者出巖外經行。師亦隨之。第東西各步。

明日。師知茶時烹茶。飯時煮飯。隱者同師飲啜。入夜經行亦爾。如是一七。隱者方問曰。仁者何來。師曰。南方來。隱者曰。來此何為。師曰。特訪隱者。隱者曰。隱者面目如此。別無奇特。師曰。進門早已看破了也。隱者笑曰。我住此巖三十餘年。今日始遇一箇同風。留師同住。師亦忘返。

師一夜經行。忽然頂門響一聲。轟如乍雷。山河大地、身心世界豁然頓空。其空境非尋常目前空可喻。如是空定。有五寸香許。漸覺有身心。漸覺腳下踏實。開眼漸見山河大地。一切境相。還復如故。身心輕快。受用亦無可喻。舉足如風輕。歸巖中。隱者問曰。今夜經行何其久耶。師具告所得境相。隱者曰。此色陰境耳。非是本有。我住此巖三十餘載。除陰雨風雪。夜夜經行此境。但不著。則不被他昧卻本有。師深肯其說。即禮謝。而同住月餘。

妙師藏經起。已上船。向汪公詢師。汪公即遣使登盤山覓師。問至巖中。見師。述主人妙師相候之意。師聞之。拜辭隱者回京。妙師汪公迎師。笑曰。回何遲耶。師具陳山上因緣。公曰。如是則吾師住山已竟。師曰。猶是途路邊境界耳。公與妙師相視大笑。公餞送二師登舟。曰。佛法大事全在二師擔荷去。師曰。老居士也不得推他。

揚帆風疾。從河南轉進山西。至蒲州。山陰王聞藏經將至。率諸宗侯。幡蓋、音樂、香花迎經進府。妙師告王曰。向所說澄印師今亦來矣。王聞大喜。先請相見。後方安置藏經。延師府內住。時刻坐對。究探楞嚴宗旨。王托妙師請師講楞嚴經。師雨淚苦辭。曰。我為住山來。不為講經來。即欲遁去。王知志不可奪。下拜堅留三兩月。即著妙師伴師住山。師諾之。

時伏牛山法光和尚亦在蒲城。間入府。師一見。知是宗門作家。請益。光和尚示以離心意識參、絕凡聖路學。師深領其旨。每嘆曰。光師談論。如天鼓音。

光和尚一日搜師詩讀之。笑曰。何自得此佳句。復笑曰。佳則佳矣。那一竅欠通在。師問。和尚通否。光曰。三十年拿龍捉虎。今日草裏走出兔子來也嚇一跳。師曰。和尚不是拿龍捉虎手。光拈拄杖作打勢。師把住。以手捋其鬚曰。說是兔子。恰是蛤蟆。光大笑休去。師將別時。光送以詩曰。「雲中獅子騎來看。洞裏潛龍放去休。」

及至五臺山。先投大塔院寺。主人大方。遇之甚優。卜居北臺峰下之龍門。開基五尺下。得銅佛。高尺許。眾奇之。師自請在溪邊揩洗佛背。下有字曰清郎造。師躍然。高呼妙師。曰。此地我曾住過。妙師曰。何證。師曰。此佛是我造的。妙師曰。又有何證。師曰。佛背下有我名字。妙師請佛看字。曰。師名德清。此名清郎。何認作汝造耶。師曰。不信麼。即取出報恩寺山人所贈圖章與看。曰清郎印。妙師無語。此佛應山人所囑存之為後日證有驗也。

未幾。妙師別結廬于木瓦梁。師靜室構成。單丁獨處。不數日。匡山黃龍潭徹空師至。師喜留同住。二師輪日值鑪邊事。住將半載。長干雪浪師與同參三五人結伴游臺。訪師于龍門。燈夜茶話及山中耆宿。可參見者有幾。師曰。聞鳳林寺二虎老師。位居德雲。人稱山中活文殊也。我尚未一見。雪師曰。何不同往。師喜諾。

明日同入鳳林。二虎和尚見諸師。大喜。席地而坐。獨於師綢繆有加。笑語無間。唯鄉音重。師但作聽勢。竟不知所言何事。夜復同臥。笑談竟夜。

明晨飯罷。諸師別去。知客進方丈叩曰。某人等待和尚有三五十年者。有一二年者。未曾見和尚歡喜若此。此諸師有何因緣。能啟和尚尊意。二虎和尚曰。老人不說汝等後生。不知我扯那一位是澄印麼。知客曰。是。曰。他是當時毛賴債。當時他掃地。我關門。我兩箇同生西方。今日同來此土。我還記得。他不記得了。我認得他。他不認得我了。知客曰。印師即今在龍翻石住靜。應有幾年。二虎和尚曰。此地他曾住過。此番住只得八年。住過二字又證佛是師造審矣。

時山中有奸商作難。諸山知師與代州鴈平道胡公有舊識。求師解之。師應諾。尋出山至代州。自作書自投順菴。胡公識師。即請進署中。臺山難事即時瓦解。師辭歸山。胡公堅留署中商略向上事。日夜對坐。但有言說。隨筆記之。積月餘。所記字紙盈篋。胡公命人錄之成帙。即授梓。請師命名。曰緒言。此書乃師首出也。

公一日公務遠行。留師署中。命三五幹僕供役。師閉門一七。不敢重敲。茶飯俱不得進。胡公回。詢師起居。使者具實陳之。公茫然。急自掇門。見師端然而坐。公令取擊子於師耳邊擊三下。師聞聲從空落。忽覺。開眼見胡公。笑曰。歸何速耶。公曰。師定何久耶。師曰。轉身纔坐未久。公曰。已過一七矣。

又盤桓數日。師堅辭歸山。公遣人送之。師至山。諸山迎接。拜謝為解大難。此是山中千載大吉祥也。

師每坐溪橋。水聲宛然。久之。動念即聞。不動念即不聞。一日。忽然忘身。音聲俱寂。自此眾響闐然。不復為擾矣。

時過大塔院寺。見一梵僧。偉然可懼。手拉師近前。向師曰。師是大人再來。滿頭髮皆紺色。後必大作佛事。師唯禮謝而已。

是時。師頭陀也。一夕夢入金剛窟。石門榜大般若寺。見清涼大師倚臥床上。妙師左侍。師趨入禮拜。右立。大師開示。初入法界圓融觀境。謂佛刹互入、主伴交參、往來不動之相。纔說其境。其境即現。自知身心交參涉入。妙師問曰。此何境界。師笑曰。此無境界境界。

師又夢履空上昇。入廣大樓閣。瞻禮彌勒。聞其說曰。分別是識。無分別是智。依識染。依智淨。染有生死。淨無諸佛。自此智識之分了然於中。

適大雪經旬。各臺頂雪俱吹聚龍門。將師靜室覆揜深幾十

丈。師覺寒甚。促徹師撥火。徹推簾不開。以手探之。知為雪擁。師曰。吹火。有則有命。無則無命。吹之火發。師曰。性命可保矣。二師融雪作茶飯畢。無可為計。兀坐而已。

北臺、白馬寺、中臺三處見雪埋龍門。會議急鳩集二三百人。執鋤鑿、筐帚、探竿下臺頂。覓龍門路。依路挖洞。用竿前探。隨探隨挖。師聞隱隱有人聲。曰。此是臺頂上人為我們開雪。少選聲寂。師曰。此或夜矣。蓋雪中不辨晝夜。聞聲知為晝分。不聞聲知為夜分矣。

如是三五次。音聲漸朗漸近。一日探竿擢著靜室。眾人歡呼。勇猛向前。抵門掀簾而進。眾人見師。哭曰。師是南方人。到山經此大難。幸而有火。此佛天默佑也。師曰。也要經過始得。此又證汪公所囑冰雪堆裏深埋去實矣。

師與徹師稱謝。仍撮雪煮茶。大眾歡飲別去。明日。諸山聞二師無恙。咸來相望。攜米麵果點至者。幾無容足處。

未幾。神宗皇帝遣官祈皇嗣於武當。皇太后亦遣中官于五臺山就大塔院寺建無遮大道場。為聖躬皇儲禱也。請師與妙師主盟其會。師經布法壇軌則、種種供具、大眾四事。四十日不交睫。會竣。師以臺山虛聲難久居。遂蹈東海之上。易號憨山。尋清涼疏所謂那羅延窟者。即東海牢山也。計師初進五臺至出五臺。僅八年。此又證二虎和尚云此番只得八年乃有宿慧之語。

皇太后以五臺祈嗣之勞。訪求三師。大方、妙峰俱至。命龍華寺住持復至海上喻師。尋建寺西山。期以必往。即發三千金為師建精舍。師俱辭。唯深隱是計。其三千金付有司賑濟孤

貧囚繫。

時慈聖敕頒十五藏經。散施天下名山。以一藏送東海牢山。無處供奉。慈聖命合宮布金修寺。賜額曰「海印禪寺」。

是冬。禪室成。靜坐。夜起經行。忽見海與天圓明一際。身心世界廓然無礙。上下虛明。如大圓鏡相似。入室取楞嚴經證之。開卷見汝身汝心。外及山河虛空大地。咸是妙明真心中物。全經觀境。了然心目。述楞嚴懸鏡一卷。

丁亥。開堂說戒。四方衲子風趨雲驟。師復為眾說小品。隨筆錄之。曰心經直說。以懸鏡文簡。學者不易入。復創意述楞嚴通議。

己丑。為報恩寺請藏。齋送至龍江。便道省親。且欲重修本寺。以報出家地恩。乞慈聖日減膳饘百兩。積之三年可舉。慈聖諭之。此牢山不知何年湮沒。為黃冠所有。諸無賴黃冠見師興創。多妒之。稱引宋七真故宇以為訟端。為難不已。師唯一體同觀而已。

甲午。入賀聖節。命說戒于慈壽寺。期完歸山。以陶鑄法器為事。適上數惡內使以佛事請用太繁。偶以他故。觸上怒。會有忌送經使者。因之發難。遂假方士流言。僧占道山。聞於上。敕逮師及送經使者。下鎮撫司獄。又敕問官將向所出諸名山施資十數萬計嚴訊之。師曰。媿為僧。無以報國恩。今安惜一死以傷皇上之大孝乎。即曲意妄承。非臣子所以愛君之心也。有死而已。止供前施七百餘金。而前所辭建寺之金。已遍散孤貧獄囚。所司有印籍在。復請覈內支籍。代賑之外。無他。上

意釋。

時相國洪陽張公暨諸當事營救甚力。得出獄。杖八十。神色不異。忽有異人至前曰。老師無虞。後日有數百萬生靈待老師救之。師私付生靈至數百萬。多是螻蟻螺螄之類。因起放生意。後每至處。多勸人放生。時洪陽張公語人曰。人知愍公為大善知識。不知有社稷陰功也。眾聞之悚然。旨戍雷陽。侍御樊公繼謫問師雷陽風景如何。師方註楞伽經。拈卷示之。曰。此雷陽風景也。

戴督府請住曹溪祖庭開堂。先是。達觀大師先到匡廬候送師。囑曰。近來祖道陵夷。獅弦絕響。多是源頭壅塞。道脈不通也。師度嶺表。留意曹溪。力為疏決之。師此念時時在中。一聞戴公之命。極喜。不負紫柏老人所囑。

師進曹溪。歎曰。無怪祖道寥寞。源頭既化為俗境。諸祖道場又豈有昇耶。第一。山門內外為俗市。酒肆肉案、各色舖店有三百餘家。啟戴公。著落韶州司李親自催趕。即時不留一人一店。三日後磚瓦之跡亦無。第二。一百房頭有一百魚塘。而韶司李亦一一親自填平。其魚放之溪流及長江。

師與合寺僧授戒。斷葷酒。寺僧咸曰。靈通侍者酒祀為常。此不能斷。師作文一篇。為侍者斷酒。在後如有以酒供者。送之官。如自飲。坐罪。從此寺僧皆變為清淨法侶。

重修祖殿禪堂。廊廡山門、廚庫諸寮鼎然一新。四方學人聞風遠趨。自曹溪路逕開闢。廊廡廓達。而諸祖道場漸有人灑掃。開堂始有無明和尚。漸有雲門、博山、天童。再有雪嶠、

三峰、弁山諸善知識。即今遍大地是禪師。不知自何而來。如能續佛慧命。同佛受用。幾能知恩報德于師者。又幾能知師一指之力能撥轉盡大地廣大法輪耶。

粵東徭獞。不守禁制。屢征不息。戴督府請師議之。師會通六道。分布諸將。先察經過地方良民之處。安官把守。樹旗標號。兵過不許侵犯。不得誤殺良民。師自出。師從船而進徭獞。有預知兵利勢強。有先為逃竄者。大兵一至。深入巢穴。盡種族。招安百姓。新立官署。改然寧靜矣。師回。戴公同諸道設齋稱賀拜謝。戴公極欲上疏鳴師之功。師力辭之。

師念兵之往還。經過多地。秋毫無犯。保活性命不知幾百萬。因憶京都相師言有數百萬生靈待救之。實見于此。洪陽張公言師有社稷陰功。實大有社稷之顯勳也。師因出所著。有奇門指掌一書傳世。師歸曹溪。著曹溪通誌。法華品節擊節通議。圓覺、起信直解等作。為馮昌曆諸弟子談中庸、大學。有決疑。著春秋左氏心法、老莊影響論、老子道德經解、莊子內篇。如是諸作。亦證長干異人言師眉有三教之任不虛矣。

衡戊申冬進曹溪禮祖謁師。適師去端州採木。明年四月。同湛公至端州見師。師便問曰。禪人為什麼不捨者件破衲。通身作汗臭氣。衡曰。正要薰破和尚鼻孔。師曰。是則是也。須易過始得。遂脫葛衣與衡。衡即著之。拂袖而出。師笑曰。者漢三十年來目中所罕見者。自此機緣。酬唱不一。是年六月歸曹溪。衡侍師左右月餘。值戴制臺差官請師下會城。衡別師之南嶽。卜靜棲。是年七月日也。

先是。曹溪門口拆去店舖牌坊。內路西進百步立一關聖祠。坐西面東。即祠前北進五十步立一禪堂。一為祠奉祀香火。一為接待往來禪客。路東進如西遠。立一祠。坐東面西。與關聖相對相配。祠前北進如西禪堂。立一公館。以應接過道官府。第祠中不知立何香火。請問師。師曰。陳亞仙是曹溪地主。此中未有他像。當立陳公像。借重為山門伽藍。亦表地主之意。又請曰。不知陳公之像如何。適師冠東坡巾禮佛畢。師曰。如我之像而像之。眾喜。即如師立相。

因修大殿。魔僧作祟。撓之公家。妄說師修祖殿過用常住二百金。眾僧未決勝負。請神。神降曰。汝眾僧不自知過。住陳亞仙地。不作好事。他來向汝討地租。汝還告他。慙師即陳亞仙也。言訖神去。眾僧惶然自失。

後師將修祖殿出入數簿呈於公府。算明過用師已分三百餘金。追還於師。眾僧返坐。證神童討地租之語亦奇矣。言師是陳亞仙。亦證師言如我相而相之深有以也。

時貞皇毓于青宮³⁰。詔戍士之老疾註誤者陳情。而宥師有二焉。首尾覈奏凡六年。乃聽自恣。師乘恩赦。癸丑至衡陽。遊南嶽。止于靈湖。禮八十八祖道影。衡先為病魔所撓。之邵陽就醫調治。未能迎師。丙辰春。拽病軀至靈湖禮師。足同住半月日。師親書手卷一通。後以偈曰。「法意簷前草。拈來覆大千。付君須自重。花發利人天。」

俄頃復曰。老僧有雙徑之行。此座非子不能擔荷。衡以病

³⁰ 即東宮，太子也。

體自怯。作禮堅辭。候師登舟。即歸邵陽。嗣後雖有音問往來。未得躬親師側。惜此一別。終天別也。

是年師避暑金竹坪。註肇論等書。因卜五乳峰下為投老地。復為達大師末後因緣之雙徑。為眾說小參。經遊吳越。弔雲棲。作塔銘。說法淨慈之宗鏡堂³¹。日繞數千指。

歸五乳。閉關謝眾。效遠公六時刻香代漏。專心淨業。著華嚴綱要。方閣筆。粵方伯生白吳公暨諸弟子緣修大殿始末。堅請復至曹溪者三。壬戌冬。師攜二三侍者至。為諸弟子說法期畢。誡諸弟子曰。「老人再過嶺來。出乎思議之外。老人老矣。所有言說甚勿忽略。教理須要精研。本有務要透徹。就老人在此。好與汝等證明。」眾人聞之。惕然自進。

癸亥冬。玄圃蕭公進山。同師談笑四五日。師同登山一眺。為師卜一塔地。行至天峙崗。蕭公四顧曰。塔地在此。指點穴所。師曰。天峙崗地。相公點穴。非法王不能居。二人相視而笑。

師送蕭公後。覺有微恙。韶州太守聞之。挾醫進山候師。師不就醫。未三五日。告眾曰。吾將行矣。汝等莫孤負自己。眾忙然請偈。師喝之。寂然而逝。

知事急報蕭公。公已度嶺矣。聞歎曰。因緣如此。奈何勢不能轉。作書托韶守張公。用意料理後事。張公親進山。為師開穴、造塔殿。周圍築墻。廊廡門徑。煥然一蘭若。看師入龕

³¹ 是淨慈寺丈室之名。

入塔。無一事不經心目。張公用心亦何殷殷若此耳。

訃至匡山。知微公奔至。師龕已入葬矣。知公拜請合寺耆宿長幼。欲啟龕歸五乳。合寺大眾不諾。即合省檀越、當道亦不允。知公無如之何。暫歸匡山。百計求書。投張制臺。差官下南韶道。道仰府。韶州太守提南華寺當事者躬自啟龕。合寺大眾祭送。詬罵知公不孝。知公扶龕歸五乳。葬于東山之下。供養一如鑿大師肉身等也。但以磚封龕于內。

嗣南康錢司李登山。謂大師塔坐地偏。向後龍群峰之中別卜一地。雖稱極美。但未得穴。共費七百餘金。皆錢公自任。未半載。別有堪輿相曰。此下有蟻。開示之。果然。仍啟歸舊處。如前供之。

有湖廣蕭公。在粵作道。公子方四五歲。日向父母哭泣要往曹溪。父母竟不知曹溪何在。訪之在韶州曲江地方。公子隨故。託夢于父母要往曹溪。蕭公差人送柩于曹溪。言之寺之當事者。咸曰。此是憨大師轉一身來鎮曹溪耳。遂葬于大師塔傍。

辛巳秋。知微公垂老而去。諸眷屬輩偷安者多。致師塔香火冷落。有廣州及門弟子劉公諱起相者任瑞州刑館。每過五乳禮塔。見香火難於接續。復啟龕過曹溪。將入塔。有宋大將臺號昭明者進山。伴一僧。號遠蒼。與宋公欲開龕一視。眾止之。遠蒼私鑿一小孔視之。師之法容儼然如生。請眾視之。皆大喜。同心開龕。全身堅固。癸亥至癸未。已二十一年。內外衣服鮮明如新。手足全身皆黃白色。光潤如生。髮爪俱長。見者聞者生大歡喜。盡發難遭之想。宋公覓善手奉全身金漆。漆之如能

大師一般。能大師有靈通侍者。師塔之左有蕭公子。儼然一侍者。又似侍者先在塔側候師法身進山也。此亦一奇因緣。非心識可及。

衡在曹溪同師夜談次。師向衡曰。我後日無肉身。衡曰。何以知之。師曰。昔達大師命我摸他全身上下。筋肉骨血長成一塊。捏他手臂如鐵棍相似。則知他身堅固不壞。我身皮肉虛浮。一捏空去。則知不堅。達師多劫咒力薰習乃爾也。衡聞師說。信之。時達大師已入滅七年。傳聞全身不壞。塔于徑山。先師在靈湖托劉居士買一壽木隨身。向衡曰。我老人一生好睡。身後與我做一長棺。伸腳睡去自在。師親向衡言達師肉身堅固不壞。師又為達師闍維其身。不與之留。自言無肉身。而肉身堅固如生。不知二老肴訛在甚麼處。於戲。真文殊普賢大人境界。非凡小可測。

師之游戲世間。超出世間。示有諸作。了然無作。縱橫自得之妙。佛祖無容摩挲。而天眼龍睛又豈能窺覷者哉。

師世秋七十有八。僧夏六十有六。衡十五歲聞師名。至四十五歲師示寂。衡與師若聞若見。盤桓僅三十載。師身後至今二十一年。聲名海內。溢溢若生。無論縑素。坐間靡不以師為齒舌先鋒。是衡與師生死際會有五十餘年。衡雖生如死。師之將來。光明廣大。悠遠終古。不可期之。大喜來哲受用不盡。復為贊曰。

師之容顏德相。人或得而擬議。

師之無得自到之妙。人焉得而度量。

獅之震怒兮。白日雷霆無畏。

象王回旋兮。晴空電掃若忘。

於戲。

真明教嵩、永明壽、中峰本之文章。海闊江遠。

若大慧杲、洪覺範之鐵脊。百煉而愈剛。

滅而不滅。幾猶往返梅關閣道。

藏而弗藏。依然示現金色身光。

如是去就。在師何有。

惟將來之眼目。大法可揚。

銘

1. 南京栖賢庵樂愚和尚塔銘

樂愚和尚。諱性潔。字潤庵。別號樂愚。北直隸保定府博野縣人。失其姓氏。童年依本邑城西寺瑜伽上師剃落。習讀經論。年二十。同香客朝五臺山。見獅子窟法席之勝。欲栖止焉。辭諸同伴。眾香客強拽力勸。欲其同歸。以見同行之意。師決不肯轉。遂揮手而別。師進謁方丈。求依止。時空印和尚喜其年幼氣勁。命歸堂。三年之中。華嚴大鈔與諸經論習聽已周。究竟佛法大旨。不在文字知見。將從前所蘊學問知見一齊拋卻。弊衲一肩。孤身萬里。大壯善財南詢。不同赤尾比辱。南中諸祖道場、禪講尊宿。不消一縷破衲。拂之無餘矣。即出山。弊衲復歸五臺。入獅子窟見空印大師。大師揚目視之。曰。性潔與麼命僻。南方行腳一遭。一領破衲也不能換卻。師曰。和尚不與性潔換。誰人敢換。大師微笑而已。

是時衡事大師方三五月。見師舉止。自畏之。問傍人。知是大師先參室中之子也。後與盤桓甚密。

神宗庚子秋。同事大師進京明因寺。主楞嚴法席。衡先師南來。習靜天臺華頂峰。師次年亦南行。止靜雙徑凌霄峰下。衡出天臺。直造徑山訪師。師見大喜。喜其必同住也。是時茶熟。與師同摘茶次。衡曰。住山人貪心亦不除。栽許多茶作麼。師曰。你也得喫。衡曰。我祇好喫現成的。師震聲一呵。衡曰。幸汝不是我般人。一日上山取柴。催師。你先行我後來。少頃。衡私杖笠而行。師在山上遙見是衡。作出山步履。手指高聲大

罵。衡竟不顧。惜此一別乃終身別也。

衡居湖廣邵陽。聞師結社匡山栖賢寺。未幾復持鉢白門。縛茆於謝公墩右。雖在城市。單丁獨處。瓦罐茶鐺。更清於巖穴深處。真火宅中一團冰雪。有為煩熱所逼。一見師頓入清涼。從此高人名士多就師消其世燄。即城市樂山林。即今時坐太古。不捨人間而超越世外多矣。如大司馬李公、殿元劉公。諸君子密契甚多。而深入心源者。如宗伯凌公、侍御陳公。可謂形影相應。因更茆栖作梁棟。煥然一功德林。因自栖賢寺至此。亦依栖賢標名。是知師住謝公墩栖賢庵二十餘載。煙霞城市。變幻無時。心目間惟匡山栖賢寺是其所。觀諺語云。「斑鳩樹上鳴。意在麻地裏。」此師住謝公墩栖賢庵二十年之心也。

衡居邵陽。嗣之雲居。屢遣人迎師同榻過老。師不諾。益見師栖賢寺一片心。如金剛幢堅固不動。於戲。師之世緣有盡。而栖賢寺之心未盡。於崇禎十五年九月二十九日。自知衰老不能。勉告大眾而逝。栖賢未了因緣。似待師再來也。

是時侍御陳公北上。宗伯凌公獨任末後一段大事。入龕茶毗。無一事不經心目。卜塔地於牛首山中。幾經去就。不得可意。尋之山左。路傍一地頗取。有山之耆宿號慧明者。先卜之。因開壙。二函同葬。供作一塔。亦如多寶釋迦分坐一塔。以示十世古今始終不離於當念、十方刹海自他不隔於毫端之正受也。

今慧明樂愚二尊宿。雖兩地示寂。前後共喪。亦無二無二分、無別無斷故。二尊宿面目相向。如水投水。似空合空。亦

可謂無縫塔。此一奇緣皆凌公放之則彌六合、卷之則退³²藏於密之妙手也。

衡自決老死丘壑。久無城市之想。癸未冬。偶為意外之風漂墮都城之下。訪師所居。師早去一年。惜乎人生聚散有時。散日多聚日少。而一聚因緣實不可輕忽。使師遲一年示化。或衡早一年而至。與師末後一段風光又何如哉。又知因緣時節。神力莫能強之。衡無那³³。具一瓣香。叩於遺像之前。無語之語。語不堪聞。無思之思。思不可會。惟我與師知之密矣。

衡入牛首山供諸祖道影。又得瞻拜師之塔前。此皆不思議因緣所致耳。適宗伯凌公亦至。語間偶曰。樂和尚在日。言與師同參之好不淺。其塔銘微師無可施手。衡再三以不文為辭。凌公曰。知師不事文字。吾輩寧以文字為請。唯求師之真意耳。衡不能再語。惟據平昔與師一二實證聊為之銘。銘曰。

佛祖密意。相續無間。代不乏人。如珠一貫。
劫外靈根。有出有藏。數有消長。性無炎涼。
宋末元初。漸雜伎倆。三百年來。斯道若喪。
我明突起。雲谷月心。紫柏霞衣。雪調同音。
擊大法鼓。樹大法幢。開盲破聵。月炤秋江。
樂愚大師。生遭毒手。一見霞衣。百念不有。

³² 依中庸補一退字。

³³ 同無奈。

冷面無門。通身是口。破衲藤條。大獅子吼。
走盡雲山。未移下步。坐老城隍。全無回互。
冰霜獨烈。煙雨獨棲。傲骨剛腸。傾倒如泥。
應度已度。堪歸而歸。奄然而逝。曉日夕暉。
賴有哲人。卜地作塔。萬畝雲霞。千秋風雅。
衡與大師。同參小弟。誰死誰生。法輪無替。
山光還舊。月色如昔。大師面目。八九十七。

2. 樵長章先生墓誌銘

古今墓之有銘者。誌本氏源流。永於後世之明鑑也。此道多興於巨族尊姓、名家豐室、大德大位。可以徵前啟後。此銘者。名之嘗道也。蓋銘之幽旨。本於孝子賢孫事先人、為盡生死之道故耳。抑時以一晝一夜為一日。人以一生一死為一世。人之生也有生數。人之死也有死數。有生富而死貧者。有生貧而死富者。有生長而死短者。有生短而死長者。原人之業有精粗。故受數有參差不一耳。人之生數盡而入死數。死數盡。方盡人一世之數。仁子知先人生道已盡。不可挽。顧其死道。以長其數。慎終追遠。誠孝之深致。古人痛先親之遺蛻。藏於家。恐有狼藉之患。無如之何。墓於土。高為墳。用標先人之跡猶存於世。亦使後裔不迷其本。於心有所歸焉。如先人之墓存千萬年。則先人之死數亦千萬年不盡。猶世上人也。恐墳平而墓無考而銘以誌之。為終古久視之道。此實為先人長世之想。又

墳平銘腐。骨為黃塵。人之死數乃盡。合生數為一世之數始盡。斯人方不為世有也。是銘之作。本期先人世數恒在。昭於日月無惑矣。此心能達古今、通天地、貫人神、等貴賤。孝道幽微。實極於此。是則仁子視先人之墓如本體。諸人視前人之墓如己身。培植護惜。不可輕犯。乃見天地同胞、萬物一體之大孝也。所以有德於南面者。精嚴律法。有輕犯古墓者。律以重刑。為欺死之心毒於欺生也。恐斷古人世數、沒世不存。故以償命律之耳。生數死數乃大造生生不盡之意。墓乎銘乎亦聖賢生生垂遠之跡。墓之銘。銘在斯矣。

溧水金之章公。才名冠眾。深嗜禪理。久為圓通浪禪師室中密契。衡傳戒白門清涼寺。金之章公時過其處。慎重閒雅。知為有道之姿。扣其所蘊。不露一字。更見深密。益增欽仰。予卜靜於紫竹林中。居士一日持令先人樵長先生行實略。屬予作銘於墓。予不覺驚愕。公才人也。奚不知人若此耶。墓銘乃久遠之謨。非假文人之手不可。予再三為辭。居士再三殷請。不得已。忘其固陋。聊酬肯意。

樵長章先生。源祖於閩之浦城。仔鈞章公之後裔。浦之章氏。名族也。樵長公居溧水。亦世家也。才德肩立。才能啟世。德能扶強。真賢哲也。夫人李氏亦稱其賢。所生三子名某字某。諸孫名某某字某某。其智其行互為增上。亦可謂難兄難弟、賢子賢孫。麟趾兆于一門。華德鍾于一室。無乃仔鈞公與練氏夫人生生之德。昭著古今。故光明遠大。盈盈至此。嗟嗟。人德之至。即天德之真。天德之真即性德之妙。是則古今人物、出藏事業皆吾人至性至德之光明。達此即頓超聖賢名分之外。何

假格物而後致知。參究而後妙悟哉。予讀樵長先生所著之書及金之公所作行略。數聞先生之友貫之畢先生之美誦。深慕先生之高尚。無可仰攀。略為之銘以見其懷。銘之曰。

古人至道。妙於無生。無生無滅。故能長生。

聖賢體此。生生是命。天地萬物。同正一性。

君臣父子。禮樂倫次。密於護生。形於名字。

生有生方。死有死地。生死一周。是為一世。

仁子芳心。奉親長保。生死有數。死同生存。

墓以藏形。墳以標號。銘以誌之。久視斯道。

樵長之賢。賢於性德。性德物齊。生生不忒。

金之伯仲。血脈一貫。惟此是學。親親可勸。

父垂於子。子奉於父。此道存存。死生如故。

父欲潛輝。子固相續。誌於九泉。光明常住。

天地蓋載。日月輝煌。幽人同致。宗嗣永昌。

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十二

(遼東錦州松山所見任浙江湖州府總巡廳信官余三瀛發心捐貲

喜刻顯愚和尚語錄第十二卷。計字一萬一千一百四十。該銀六兩六錢八分四厘。敬為慈母張氏夫人名下。性天朗耀。慧炬圓明。仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十月 日楞嚴寺藏經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十三

住南康府同安寺嗣法門人正印編次

歌

1. 雲居插田歌

君不見。

世出世間達道人。不言妄想不言真。

但知有生無生意。平常日用無疏親。

無生安生生無生。本無聖解與凡情。

著衣喫飯生活計。拈來無事不圓成。

能衣能食生之本。春耕秋穫快如滾。

一飽高眠佛不為。於中受用難思忖。

難思忖。離言說。根本法輪無間歇。

日出月沒恒自轉。寒來暑往何時輟。

諸佛子。聽我說。佛與波旬俱妖孽。

絕聖棄智民自安。古人不是無根舌。

諸佛子。同我住。莫將文字求歸趣。

閉目瞑心寂滅魔。談玄說妙閒家具。

正法輪。田一片。諸佛眾生同一貫。
百千三昧此中生。性德恒沙不可算。
諸佛子。同我去。深泥田裏好相聚。
拽耙鞭牛真快活。拖泥帶水渾無顧。
畦畔分明水路通。泥水平如掌面同。
拈起一莖次第插。寬狹橫豎須合中。
田角斜。禾路直。橫豎成行若絲織。
畦似如來福田衣。禾象梵王網孔密。
諸佛子。同我來。及時應節莫挨排。
插得一莖一佛現。千莖萬莖皆如來。
放去拈來無別物。能拈能放又為誰。
超然頓入不思議。那嫌日晒與風吹。
釋迦師。曾示此。末後拈花露全體。
兒孫只向花頭覷。拈起禾苗迷宗旨。
瀉山老。有生涯。父慈子孝甚堪誇。
南山大有人插禾。荷鋤能有幾作家。
洞山聽公妙處多。趁閑蓋屋晴割禾。

納輸王稅無餘事。水邊林下任高歌。
識得心。無寸土。古人早向諸君吐。
爛泥田裏豈無刺。分付闍黎莫莽鹵。
日出作。日入息。野老昇平忘帝力。
縱使文章冲北斗。還須男耕女仍織。
此一莖。正法眼。法界照來全不見。
不但魔外絕蹤跡。佛祖光明俱不顯。
此一莖。涅槃心。山川海嶽盡黃金。
雷震長空浪泊天。無起無滅無浮沉。
此一莖。菩提樹。根盤無始葉繁聚。
開花結果劫前香。起死迴生超靜慮。
此一莖。寂滅海。萬象森森俱不闕。
若有若無無出沒。無彼無此無雜壞。
此一莖。如意珠。百寶圓明光自殊。
隨求隨應應無息。無欠無餘同太虛。
此一莖。清淨戒。酒肆出來欠肉債。
腳尖踢倒毘盧師。拳頭打破華藏界。

此一莖。無盡藏。生生不已無遮障。
取之不盡用不竭。小大得之隨心量。
此一莖。大導師。生死涅槃路不迷。
資糧具足隨所往。風光到處有高低。
此一莖。大醫王。佛魔都來買藥嘗。
沾著通身冷汗出。不復爾短我猶長。
此一莖。慈氏閣。善財登之大開豁。
無量無邊三昧門。門門得入大解脫。
此一莖。空王殿。坐斷十方光始現。
無壁無門任往來。莊嚴無量香雲遍。
此一莖。大梵剎。梵王曾將供釋迦。
百草頭邊安樂國。大地無處不金沙。
此一莖。光明幢。摧邪顯正標無雙。
崔嵬高起金剛燄。八面玲瓏若虛窗。
此一莖。太阿鋒。揮空寒燄若飛龍。
是佛是魔未敢觸。吹毛利處沒行蹤。
此一莖。塗毒鼓。耳其聲者全身腐。

死後再甦方始知。個裏原不容佇顧。
此一莖。柳栗棒。黃檗拈起大愚唱。
打得臨濟顛倒顛。殃及兒孫沒了當。
此一莖。無縫塔。南陽國師是先達。
對御曾將此樣呈。潭北湘南漏七八。
此一莖。玻璃盞。文殊舉示識者罕。
能溫能涼妙有餘。日用不知空自賺。
此一莖。乾屎橛。臨濟將來作禪悅。
從古至今嚼未碎。其中滋味自然別。
此一莖。獅子吼。百獸聞之皆遠走。
餘音落處韻猶長。知者還他出者口。
此一莖。大白傘。一切蓋覆能遍滿。
法界合來一柄收。本來清淨無雜染。
此一莖。大方廣。花雨松風發幽賞。
就裏本無元字腳。非縱非橫絕比況。
此一莖。大圓鏡。法界圓明性清淨。
情與無情影現中。重重無盡無偏正。

此一莖。大法螺。聲震十方演摩訶。
四句俱離百非遣。不存一字義猶多。
此一莖。優鉢花。奇香瑞色有靈芽。
三千年到時一現。春種秋收果未差。
此一莖。本來面。一年一度為誰現。
春時青色秋時黃。莫把靈光逐境變。
此一莖。如來藏。一物不有含萬象。
非即非離非離即。語言知見成冤謗。
此一莖。無垢識。吞吐十方絕消息。
識神佛性兩難分。唯佛與佛知端的。
此一莖。金翅鳥。橫身宇宙出頭少。
身壞雙睛堅不壞。龍王得之無價寶。
此一莖。瓶內鵝。陸互將來布網羅。
入時容易出時難。南泉妙有沖霄鶴。
此一莖。水牯牛。溪東溪西任優游。
水足草足真法樂。不犯他家苗稼休。
此一莖。野鴨子。馬師扭得鼻頭紫。

當時飛去未飛去。今日同參此田裏。
此一莖。獅子王。睜睛奮爪勢難當。
千里往還須臾間。懸崖返躑力獨強。
此一莖。鰲鼻蛇。毒氣薰人性命絕。
兒時做出老知羞。老來更見皮無血。
此一莖。鳩毒鳥。遺退落處不生草。
沾著一塵全體潰。那覓菩提與煩惱。
此一莖。出谷鶯。高遷喬木發新聲。
燕雀寧堪追芳躅。狐兔望影不復生。
此一莖。娑羯龍。萬子千孫遠幾重。
凡聖隱顯不可測。海門深處水雲封。
此一莖。白面虎。峭壁嘯風長威武。
獐鹿驚逃沒蹤跡。利爪張牙靡敢觸。
此一莖。衝天鷲。面前飛過見也不。
捉鳩捕雀甚疾溜。來去難窺多恍惚。
此一莖。大力鬼。忽現頭時忽現腿。
去住出沒無處覓。移山驅嶽抒海水。

此一莖。野狐精。為妖為孽動人情。
本源佛性何曾二。邪正從緣莫強爭。
此一莖。西施女。天然美貌花能語。
雲外姮娥誰欲效。影落波心取弗舉。
此一莖。共命鳥。兩首一身同饑飽。
法界圓明無隔礙。不見大兮徒爭小。
此一莖。兩頭蛇。見者必死行路嗟。
舌尖休挂兩面刀。從來果報毫無差。
此一莖。千頭魚。頭頭口目能吸覷。
大士八萬四千臂。業報圓通殊不殊。
此一莖。大頭龜。偷生水底幾千年。
細身片片能舒縮。一性圓明無變遷。
無變遷。任成壞。萬波千浪光自在。
無聚無散無去來。何生何滅何驚怪。
此一莖。三腳蟾。吞霞吐瑞有奇瞻。
能變化。廣包涵。從來無處下鉤探。
此一莖。九耳獒。天生靈物出神胞。

能捕獵。善哮唬。偉然不與犬同毛。
此一莖。無足蚓。土裏化生土裏寢。
截身兩段俱能行。佛性那頭應可審。
此一莖。百足蟲。行時俱動動還同。
自性神通真三昧。超然無處不圓通。
此一莖。獨角麟。紫燄紅霞光滿身。
大似優曇時一現。現時必有大緣因。
此一莖。六牙象。凡聖參差不可量。
帝釋窟前瓔珞身。普賢遊行法界藏。
法界藏。語意絕。充滿剎塵水底月。
一塵遍入一切塵。塵塵玉象無差別。
此一莖。一馬駒。踏殺天下人也無。
初得金雞一粒粟。大作鹽醋盛豐餘。
此一莖。獨眼龍。作家手段自從容。
頭正尾正輕輕點。頓見滄山笑裏鋒。
此一莖。岑大蟲。兔子翻身虎勢雄。
大用現前無軌轍。令人千古仰真風。

此一莖。者瞎驢。主賓名位無實虛。
漫將語意求端的。濟上宗風韻自殊。
此一莖。赤稍鯉。禹門未過浪不起。
搖頭擺尾直南去。必落他人壘甕裏。
此一莖。端獅子。顛狂老大學兒戲。
直饒弄到未生前。不免傍觀笑落齒。
此一莖。政黃牛。孤標不與世同游。
自來自去誰相識。橋上清風水上鷗。
此一莖。活跳蚤。筋斗連翻徒賣巧。
縱使一翻遍塵刹。禪³⁴中世界無多少。
此一莖。金獅子。身高丈二威無比。
牙爪剛強無所畏。嘯天伏地能調子。
此一莖。銀獅子。霜滿其身雪滿趾。
智勇能為百獸王。震怒一聲聞千里。
此一莖。玉獅子。飛行獨步絕依倚。
一吼能令千里聞。野干狐狼都嚇死。
此一莖。銅獅子。張口伸腰威欲起。

³⁴ 音坤，禪。

遺糞能令百物畏。孤蹤行處絕虎兇³⁵。

此一莖。鐵獅子。咬人先咬咽喉始。

猛烈能令行路絕。醉象惡龍靡敢抵。

此一莖。石獅子。抱子能藏石窟裏。

有時臥。有時起。千里尋食如咫尺。

此一莖。雪獅子。寒光凜凜難近視。

睜睛奮爪勢威凜。瑞物從來多奇技。

此一莖。木獅子。十字街頭能舞戲。

能蹠跳。善進止。惡發無物堪相似。

此一莖。泥獅子。食人不厭肉沒齒。

入海飲水魚龍驚。一吸能令乾到底。

此一莖。磁獅子。爪牙未露惡未已。

輾毬³⁶大似花貓兒。狂性一發震天地。

此一莖。石秀才。一筆千行不剪裁。

滿腹文章沖北斗。英豪獨步廣寒來。

此一莖。石和尚。曉夜尋經知向上。

³⁵ 音四，雌犀牛。

³⁶ 同滾球。

能戒能定能神通。自有人天送供養。
此一莖。石將軍。封疆展土立功勳。
長戈短戟威千里。能鎮中華絕寇群。
此一莖。石宰相。日月為心海為量。
能彰禮樂文華國。調鼎雄才居眾上。
此一莖。石夫人。雲髻霞裳冰雪身。
能向寒崖獨自立。花朝月夕不知春。
此一莖。石童子。拾薪汲水能隨使。
更有一能人不及。學書日寫千張紙。
此一莖。石女兒。月下彈琴調新奇。
纖指弄花香滿袖。粧樓高望採蓮池。
此一莖。石漁翁。垂絲千尺意何窮。
披星月。歷霜風。能將鉤餌博鮮烹。
此一莖。石樵夫。擔柴換米供饘³⁷廚。
山下能知山上路。幾回親到葛洪居。
此一莖。石仙人。雙髻鶉衣雲外身。
呼風雨。驅鬼神。能將黃土點金銀。

³⁷ 音沾，粥，此泛指飲食。

此一莖。枯海潮。頭起如山幾萬遙。
大造樞機神在此。生生無間長還消。
此一莖。枯江濤。巨浪無風三尺高。
百谷到頭終入海。萬流下落總歸漕。
此一莖。枯湖浪。船到中心隨風蕩。
夜來明月正當天。一波一月無遮障。
此一莖。枯川灘。瀑花如雪聲如喧。
人多易推順流舵。舟子難牽上水船。
此一莖。枯潭漩。千洄萬復如螺轉。
深難測。底未見。船到中間看方便。
此一莖。枯溪瀑。長湍如帶曲如抱。
石上騰。石下繞。流遠應知源處浩。
此一莖。枯池流。奔波泛漲不藏舟。
瀾野湧。漫渠溝。漁人無處下鍼鉤。
此一莖。枯澗泡。大似玻璃光可好。
時生時滅本無根。內裏虛空人難到。
此一莖。枯井波。萬疊千層泊天河。

蛟為隱。龍為窩。出沒縱橫有若多。

此一莖。枯泉湧。石罅迸出清且冷。

一點沾人毛骨蘇。脫凡入聖為灌頂。

此一莖。劫火光中一株草。

根不燒。葉不燎。春生未萌秋先老。

此一莖。劫火光中一片雪。

鵝毛輕。銀花潔。紅燄之中寒逾冽。

此一莖。劫火光中一莖毛。

重鼠鬚。輕兔毫。舞空上下不能焦。

此一莖。劫火光中一滴露。

任燒然。無遮護。懸空經劫溼如故。

此一莖。劫火光中一浮漚。

當處起。隨處流。烈燄狂風未即收。

此一莖。劫火光中一跳蚤。

亦能躍。亦能翻³⁸。蹤跡疾溜無處討。

此一莖。劫火光中一火螢。

身帶炬。飛若星。飄風驟雨更光明。

³⁸ 音跑，飛也。

此一莖。劫火光中一草蚊。
行作樂。飛成群。如鑼如鼓鬧黃昏。
此一莖。劫火光中一細蠓。
何處生。空裡鬪。性慣娟飛與蠕動。
此一莖。劫火光中一微蟻³⁹。
識猶昧。形尚菲。不辨頭兮不辨尾。
此一莖。晴空電。紅燄金光千里現。
雷火同燒神鬼驚。來時恍惚去不見。
此一莖。炎日霜。六月當陽結白光。
寒最冽。冷非常。行人不必問清涼。
此一莖。暗室影。左回右轉時無定。
相婆娑。性清淨。個中不許分偏正。
此一莖。地中天。張羅萬象自森然。
高無上。廣無邊。幾人踏破劫空前。
此一莖。中夜日。昇天朗曜群昏失。
照無私。行無跡。光明星月無倫匹。
此一莖。冰河燄。燒空猛烈速如念。

³⁹ 音己，虱卵。

大千燬燼沒纖塵。法界圓明不涉漸。
此一莖。空花果。纍纍落落葡萄朵。
味極甘。鮮不墮。莫味生前者一個。
此一莖。露柱卵。夜半初生光明粲。
外面圓。內面軟。中有玄黃自沖滿。
此一莖。碌軸兒。初生便有大殊奇。
語有齒。步能移。霜為眉鬢雪為髭。
此一莖。木雞鳴。在殼即能報五更。
啼子午。呼重輕。聲聲相續劫前聲。
諸佛子。信也未。何事一莖賤復貴。
世出世間一物無。千差萬別何曾二。
諸佛子。信也不。莫謂一莖有出沒。
過去未來本一際。拈來放去勿輕忽。
諸佛子。信也麼。勿怪一莖名許多。
物本非名名非物。將誰分自與分他。
諸佛子。信也無。漫擬一莖有萬殊。
識破萬殊名字相。吳牛元是跛黔驢。

諸佛子。信也非。好將一莖達所歸。
透過者些真自在。橫來豎去不相違。
諸佛子。信也歟。諦審此莖果是渠。
識得渠儂無彼此。籐條舉起是飛魚。
諸佛子。信也難。實有一莖隔萬山。
是有是無俱不住。優游無處不通關。
諸佛子。信也疑。若執一莖事事迷。
百草明明祖師意。金身丈六古人題。
諸佛子。信也謗。豈在一莖生伎倆。
是色是空清淨身。一華一草如來藏。
諸佛子。信也漫。識此一莖唯一貫。
提得定盤星子穩。何愁千轉與萬轉。
諸佛子。莫恍惚。信則須教信入骨。
離此別求玄與妙。玄妙應知盡鬼窟。
諸佛子。勿猶豫。顛愚言說無虛句。
此莖不了從何了。縱了還從者裡去。
諸佛子。休懊惱。樂處何如苦處好。

向此安閒真快活。天堂地獄和身倒。
諸佛子。少驚怪。刀山劍樹蓮花界。
佛祖都同如是說。放身向此脫皮袋。
諸佛子。謾去來。拈起一莖眼豁開。
看去看來無蓋覆。通天通地信奇哉。
諸佛子。離知見。知見不生全體現。
此莖非教亦非宗。憎愛兩頭俱坐斷。
諸佛子。無疑猜。佛祖都從精進來。
伸手屈腰全己力。別無聖解與凡才。
諸佛子。去恐怖。生死苦樂何依附。
無脩無證無染污。何用將心求妙悟。
諸佛子。除顛倒。花自花兮草自草。
雲在青天水在瓶。趙老屋中無王老。
諸佛子。斷分別。分別不生信口說。
此莖說到未來際。大海波中點片雪。
話到此。應瞥地⁴⁰。再要依稀沒巴鼻⁴¹。

⁴⁰ 極短時間，此言迅速省悟。

⁴¹ 根據，亦作把柄。

大丈夫漢休自棄。莫教孤負出家志。
出家一事非細事。睜目看來難舉似。
直超一念未生前。就裏那容佛祖計。
佛祖計絕事如何。從來佛法無許多。
明明了了甚明了。一念纔生萬頃波。
病僧不是強饒舌。句句傾心肝膽裂。
只恐諸君信不真。叨叨不覺口出血。
口出血。為君說。直下承當猶踏轍。
提起一莖凡聖盡。布毛吹處狂心絕。
今是古。古是今。今古何曾有淺深。
古能如是今如是。豈肯讓古而屈今。
古是今。今是古。古人何強今何腐。
人人腳底透長安。漫諉今人難比古。
傘居不惜兩莖眉。再為諸人重賣癡。
彼此同安清淨界。不須更覓毘盧師。
毘盧師。光明滿。豬是豬兮犬是犬。
大洋海底火燒天。劫火光中洗木碗。

放心栽。莫顧慮。為君再舉末後句。
飯到大家同放參。泥深各自高揭褲。
信得及。同我住。碧溪橋畔雙杏樹。
若有疑惑莫虛勞。且向諸方托鉢去。

2. 皮囊歌

吾有大患。惟吾有身。
及吾無身。與佛同真。
身是何物。四大微塵。
集聚成塊。妄分我人。
將吾圓明不動之本智。隔越為視聽覺知之六根。
又將吾圓常不二之自性。分別為色香味觸之六塵。
不悟六塵原我妙性。是非取舍。恣縱貪嗔。
又不悟六根原我真性。生滅知見。執認識神。
根塵自起自滅。生死自屈自伸。
如是顛倒煩惱。難以具陳。
如是虛妄過患。惟吾有身。
及吾無身。罪福何臻。

及吾無身。生死絕因。
豈不是無礙解脫。豈不見本命元辰。
學道人。先學貧。造業多因聚金銀。
富貴幾能長保守。利己從來皆不仁。
學道人。當自新。精進不必避苦辛。
大道本於智慧出。邪僻懈怠長頑囂⁴²。
欲知無身之妙訣。還尋古人之要津。
無明識性即佛性。幻化空身即法身。
若了法身無片事。任從天下樂欣欣。

又（三首）

吾性本圓。身何隔礙。
吾性本常。身何敗壞。
身是何物。集聚四大。
四大假合。多諸患害。
累吾本真。不得自在。
無寒暑。忘寒暑。寒暑逼。惱無處。

⁴² 音銀，愚癡而固執。

處無內外虛內外。內外不淨無可愛。
寐為夢。寤為想。功德法財被汝戕。
饑欲食。寒欲蓋。清淨家風為汝敗。
我癡愛汝如金玉。汝終負我成泥塊。
我欲坐。汝偏臥。不覺隨汝生罪過。
我欲勤。汝好懈。不覺隨汝成墮怠。
爭名爭利結冤家。相殺相吞償業債。
輪回生死為汝招。顛倒煩惱恣汝快。
奉勸諸方達道人。修學先要空皮袋。
吾今識破者肉團。終不為汝生狂態。
願為牛。願為馬。怕甚奴僕與使者。
打何辱。罵何害。一任枷鎖與杻械。
現為膿血屎尿窟。何嫌癰疽並疥癩。
利刀山。密劍樹。鐵蛇鐵狗夢相聚。
沸鑊湯。燄鑪鞴。火車火檻何驚怪。
但能放下此皮囊。無處不是蓮花界。
一性常靈亙古今。佛魔圈縲一時解。

任我南北與東西。十字街頭好買賣。

又

者皮囊。最虛妄。歷劫被汝常欺誑。

百千解脫不自由。無量光明都遮障。

諸佛與我性無別。由汝分出凡聖相。

我欲諸佛行可齊。為汝桎梏難向上。

無生滅。妄生滅。生滅去來何休歇。

無背向。分背向。背向取捨沒了當。

食欲精。服欲美。逾養逾憍全無義。

位欲高。名欲暢。勢力敗時何所仗。

少年謾誇好顏色。無常到來無強壯。

體不潔。相不淨。膿血積聚多疾病。

龍麝薰。香水盪。腥臊到底成灰壤。

從來多少丈夫漢。被汝迷狂如醉象。

彌天惡業因汝造。終劫輪迴累我闖。

吾今識破者冤尤。終不隨汝生伎倆。

爾自生。爾自死。苦樂與我無關係。

爾自譽。爾自謗。榮辱與我無近傍。
無始沉迷一旦覺。自在優游坦蕩蕩。
者段風光說向誰。天上人間無比況。

又

此肉團。費周折。障礙多端不可說。
求生不生枉苦辛。求死不死成妖孽。
要放下。放不下。百計安排反欺詐。
願休歇。不得歇。千般伎倆徒煩熱。
明明知是空中華。隱隱難出眼裏屑。
諦思量。細分別。今古誰能拔此櫟。
多富多榮無久駐。受貧受苦何歡悅。
念至此。心欲死。不覺不知被身使。
看實徹。意欲瞥。若昏若迷墮鬼穴。
空勞知見超過龍。無那形骸累作鱉。
幾發狠。狠不起。懊惱自責汗如洗。
強勇猛。猛不烈。悲傷自忿淚盈血。
出籠大喜鳥同飛。脫殼還愁龜命絕。

知道了。自下劣。者回畢竟硬如鐵。
若不棄命做一番。真語返成虛饒舌。
隨他地獄並天堂。好看紅爐點片雪。
諸佛眾生任去來。碧潭深處撈明月。

3. 孝思車公劬園歌

天地勞勞長生。萬物勞勞自靈。
父母勞勞。鞠育我形。
我亦勞勞。以盡親情。
千秋大業。未有不勞勞而成。
萬德真乘。未有不勞勞而明。
生前生後。唯一勞之亭。
勞勞之外。別無以名。
君造此園。惟永其庚。
君樂此園。惟遠其聲。
劬園劬園。微識其精。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十三

(遼東錦州松山所見任浙江湖州府總巡廳信官余三瀛發心捐貲喜刻顛愚和尚語錄第十三卷。計字五千七百八十。該銀三兩四錢六分八厘。敬為慈母張氏夫人名下。性天朗耀。慧炬圓明。仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十月 日楞嚴寺經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十四

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

經解

1. 心經小談

「摩訶般若波羅蜜多心經」。此十字乃一經之題目。摩訶是梵語。唐言大。般若是梵語。唐言智慧。波羅蜜多是梵語。唐言彼岸到。即到彼岸。言眾生無智慧。迷淪生死苦海。諸佛菩薩有大智慧。照破無明。能超生死苦海。到涅槃彼岸。故云摩訶般若波羅蜜多。心之一字。念在上即般若心。若念在下。即此本經為六百卷之心也。

經者。梵語修多羅。此云契經。契理合機之教也。此方從略。故但云經。故云摩訶般若波羅蜜多心經。此經多不讀摩訶。據文中云深般若。題中亦應云大般若。

觀自在菩薩。即能行般若之人。舉是人以顯般若之法。觀自在三字。是此菩薩別名。菩薩二字是通號。何名觀自在。言此菩薩行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆空。度一切苦厄。故名觀自在。照見五蘊皆空。即觀。度一切苦厄。即自在也。

上略破三字大意。下講明其義。舍利子。是尊者名。此尊者智慧第一。故呼其名而授之。謂上言照見五蘊皆空。如何照見。如何得空。舍利子當如是觀照。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。如是觀照。即空也。此四句。上二句先照

色空體一。下二句方照見色性本空。言不異。要成下一即字。總之在色即是空一句為正。餘助成耳。色一法如是觀照。受想行識亦如是觀照。故云亦復如是。

上講明五蘊皆空一句。下講度一切苦厄。謂五蘊諸法若有。即有生相。有滅相。有垢相。有淨相。有增相。有減相。皆苦相也。若諸法空相。既是空相。有何生。有何滅。有何垢。有何淨。有何增。有何減。既無生滅垢淨等。即涅槃真樂也。故復告舍利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。此一節。講明上度一切苦厄一句也。

上既講明照見五蘊皆空、度一切苦厄之義。下廣為開演。是故空中一句。承上諸法空相之中。言此空中不唯五蘊皆空。十二處亦空。十八界亦空。無眼耳鼻舌身意。無色聲香味觸法。此空十二處也。無眼界乃至無意識界。此空十八界也。此空世間法。下空出世間法。無無明乃至無無明盡。無老死乃至無老死盡。此空緣覺法也。無苦集滅道。無智亦無得。此空聲聞法也。言此空中世間出世間皆空也。此開演上照見五蘊皆空一句。即一觀字也。

以無所得故一句。承上起下之辭也。言世間法出世間法都無所得。以無所得故。諸佛菩薩依之斷煩惱、證菩提、出生死、證涅槃。故云菩薩墮依般若波羅蜜多故。心無罣礙。無罣礙故。無有恐怖。遠離顛倒夢想。究竟涅槃。此言菩薩依般若離苦得樂也。三世諸佛依般若波羅蜜多故。得阿耨多羅三藐三菩提。此言諸佛依般若離苦得樂也。

自以無所得至阿耨菩提。此一節。開演引證上度一切苦厄一句。即自在二字也。

上既破解講明開演引證、明知照見五蘊皆空、度一切苦厄實處。故下結成。有二。初結顯般若之功。故云故知般若波羅蜜多。是大神咒（轉凡成聖、神妙難測）。是大明咒（慧日當空、破無明暗）。是無上咒（無過之前、無加之上）。是無等等咒（不唯無上、亦無齊等）。上結顯般若神功。二結成破題。因上破云照見五蘊皆空、度一切苦厄。如何見得。既講明開演引證。了然明白。故此結云能除一切苦、真實不虛。此即自在也。

總之一經只觀自在三字盡矣。上顯說。下密說。故說般若波羅蜜多咒。即說咒曰。揭諦揭諦。波羅揭諦。波羅僧揭諦。菩提。薩婆訶。

上顯說令人依義生慧。密說令人持誦生定。定慧均等。脩行備矣。

2. 首楞嚴經懸談

「大佛頂如來密因脩證了義諸菩薩萬行首楞嚴經」。大佛頂三字。是以處名法。顯法尊極無上之稱也。言大佛頂者。即如來三十二相中。最極尊上無見肉髻相也。蓋如來全體超出世出世間。即足輪相。亦超越世出世間。故九界聖凡咸頂禮佛足。是佛足已極尊上。可知如來三十二相足輪在最下。肉髻在最上。是此頂相。乃佛全體無上軀中無上之相。試觀三界內外、情與無情、聖凡微妙境界。何處更有尊過此處、妙過此處。不唯無尊過妙過者。聖凡微妙色相之中。決無一法可與此處相等。豈

非此相是無上之無上處耶。如來於此處放光、說咒、證法。是以無上之處顯無上之法實矣。

初如來自標名曰。有三摩提。名大佛頂首楞嚴王、具足萬行、十方如來一門超出妙莊嚴路。此十方如來一門超出妙莊嚴路三句。因阿難啟請十方如來得成菩提、妙奢摩他、三摩、禪那最初方便故。如來即以十方如來一門超出妙莊嚴路應其所請之意。此如來以大佛頂名顯說無上也。八卷末安名又曰。「是經名大佛頂嚩怛哆般怛囉無上寶印。」此如來以大佛頂名密說無上也。是知此經顯密俱稱大佛頂。

最初如來在王宮應請。「知阿難為姪術所加。齋畢旋歸。于時如來頂放百寶無畏光明。光中出生千葉寶蓮。有佛化身。結跏趺坐。宣說神咒。敕文殊師利將咒往護。」此如來最初於此無上處說無上咒。七卷中。因阿難請重為宣說。「爾時世尊從肉髻中涌百寶光。光中涌出千葉寶蓮。有化如來坐寶華中。頂放十道百寶光明。一一光明。皆遍示現十恒河沙。金剛密跡擎山持杵。遍虛空界大眾仰觀。畏愛兼抱。求佛哀佑。一心聽佛無見頂相放光如來宣說神咒。」此如來第二番在無上處放光說無上咒。此密說名大佛頂。因此二番在此無見頂相放光說咒。是名之實據也。

五卷中云。「即時十方普佛世界六種震動。微塵如來住世界者。各有寶光從其頂出。其光同時於彼世界來祇陀林。灌如來頂。」此如來同十方諸佛初番從無上處放光相灌。證此無上首楞嚴法。六卷中云。「爾時世尊於獅子座。從其五體同放寶光。遠灌十方微塵如來及法王子諸菩薩頂。彼諸如來亦於五體同放寶

光。從微塵方來灌佛頂。并灌會中諸大菩薩及阿羅漢。」此如來同十方佛第二番從無上處交光相灌。顯此無上首楞嚴法。此顯說名大佛頂。因此二番交光灌頂。是名有實證也。

又頂光說咒。為密亦兼顯。交光灌頂。為顯亦兼密。互為融攝。亦名佛頂光聚。亦名如來頂。此四番立名。四番放光。是則大佛頂三字。是以處彰名、以名顯法。妙極無上之稱明矣。

如來密因者。是以人顯法。如來是果人。望此首楞嚴法為密因。亦是舉無上之人。顯無上之法。此法微妙無上。故稱密。如來乘之得果。故稱因。故曰密因。如來乃諸佛十號中之一號。如依理名。來依智稱。智與理合。寂照不二。故名如來。眾生雖具如如本覺之理。而無歸來始覺之智。將如如不動之本體。妄見為五蘊生滅之妄相。故名眾生。如來依如如空寂之理。生起廣大遍照之智。照破世出世法。當體全空。了無一法隔礙。故智與理合。體用一如。故受此稱。

又如字。眾生與佛共之名正因。如來依之證果名密因。是如來密因無別所因。即自如如之體。經云。「若於因地以生滅心為本脩因。而求佛乘不生不滅。無有是處。」又云。「汝今欲令見聞覺知遠契如來常樂我淨。應當先擇死生根本。依不生滅圓湛性成。以湛旋其虛妄滅生。復還元覺。得元明覺不生滅性為本修因。然後圓成果地修證。」是則如來依如為因。是謂密因。依如為果。是為妙果。是因果皆一如如本體。即因果一如也。

來字。照如體本空。名如理智。照如體即有。即如事智。照如體非空非有、即空即有。名一切種智。是智從理生。理因

智顯。如外無智。智外無如。是理智一如也。此因果理智依人說密因。即所因之法具三諦三觀。依真諦生空觀。空觀照真諦。依俗諦生假觀。假觀照俗諦。依中道諦生中道觀。中觀照中諦。三諦即如如不動之理。三觀即上來字遍照之智。在能修能證為人。在所修所證為法。如字從三諦所顯。來字從三觀而名。是如來以三觀三諦為密因。三觀總成一來字。三諦總顯一如字。來不外如。此又人法一如也。是人法、因果、理智。皆一如來藏妙真如性明矣。

修證了義者。正明因果人法一如無餘也。依如而修。為了義之修。別無所修。依如而證。為了義之證。別無所證。故曰修證了義。此修證二字。通乎人法理智因果。在能修能證為人為智。在所修所證為法為理。修為因。證為果。是人法理智因果皆一如明矣。

諸菩薩萬行者。菩薩指能修行人言。萬行指所修行法言。上如來是果地覺。即果明因。顯此首楞嚴如如不動之體為密因。菩薩是因地心。即因推行。顯此首楞嚴如如不動之體具足萬行。萬行與密因總一如體。總名密因。分名萬行。非有別體別義也。

首楞嚴者。即三觀密因菩薩萬行之總名。梵語首楞嚴。此云究竟堅固。蓋佛與眾生同一如如不動堅固之體。本無聖凡迷悟、生死去來差別名相。眾生不覺。妄見有聖有凡、有迷有悟、有去有來、有生有死、有內有外、有小有大、有是有非。種種差別之相。是將不動堅固之體見為生死去來敗壞之相。因此顛倒謬執。自生苦惱。愈沉愈淪。愈迷愈深。獨奈何哉。如來愍此。示之以無上妙法。使究竟推窮諸法。何生何滅、何去何來。

究竟到不見一法有生。不見一法有滅。不見有法實往。不見有法實來。即見諸法本來面目。即復自家不動堅固之本體。故曰究竟堅固。此經一題。唯此堅固二字盡矣。此堅固即如如不動之體。即常住真心。此堅固心。照而常寂。曰理曰法。寂而常照。曰智曰人。依此寂照而修。曰了義修。契此寂照而證。曰了義證。總曰密因。分曰萬行。是則人法理智、因果修證、世出世間、情與無情。總一堅固妙心也。即堅固以求萬法。萬法何有。即萬法以究堅固。堅固顯然。豈非究竟堅固大解脫哉。

又此經如來自立五種名。結經者撮五名之要。貫此一題。第一名「大佛頂嚩怛哆般怛囉無上寶印、十方如來清淨海眼」。此中「嚩怛哆」至「無上寶印」十字。詮密不該顯。故不取。十方如來等八字。詮顯不該密。故亦不取。大佛頂三字。顯密俱詮。故取焉。後頂光說咒。此詮密義。交光灌頂。此詮顯義。

第二名「救護親因、度脫阿難及摩登伽得菩提心、入遍知海」。此中救護親因至摩登伽。詮能啟教人、不該所啟之教。得菩提心等八字。但詮果法、不遍因法。故不取。

第三名「大方廣妙蓮華王、十方佛母陀羅尼咒」。此中大方廣等七字。該顯不詮密。又大方廣重大佛頂之大字。故不取。十方佛母等八字。詮密不該顯。又十方佛母重大佛頂之佛字。故亦不取。

第四名「如來密因修證了義」。此八字顯密俱該。故全取焉。最初如來首標「有大佛頂首楞嚴王、具足萬行、十方如來一門超出妙莊嚴路」。此顯為如來密因。七卷後云。「十方如來因此

咒心。得成無上正遍知覺。」此密為如來密因。經云。「是種種地。皆以金剛觀察十種深喻。奢摩他中。用諸如來毘婆舍那。清淨修證。漸次能入。」此顯具修證了義。經云。「縱其自身不作福業。十方如來所有功德悉與此人。由是得于恒河沙、阿僧祇、不可說不可說劫。常與諸佛同生一處。無量功德。如惡又聚。同處薰修。永無分散。」此密具修了義。又云。「如是積業。猶湯消雪。不久皆得悟無生忍。」又云。「是善男子。於此父母所生之身不得心通。十方如來便為妄語。」此密具證了義。又前「十方如來因此咒心」至「傳此咒心」。是證了義。從「阿難。若諸世界隨所國土。所有眾生。隨國所生樺皮貝葉」等。至「十方如來便為妄語」止。通屬脩了義。是密具修證了義之實據。是修證了義並詮顯密二義明矣。

第五名「灌頂章句、諸菩薩萬行首楞嚴」。此灌頂章句多屬密部設兼顯。又重大佛頂之頂字。故不取。如此經中三種漸次。並觀音大士圓通章。獲二殊勝、四不思議。即顯說菩薩萬行。七卷後云「是故能令破戒之人戒根清淨。未得戒者令其得戒。未精進者令得精進。無智慧者令得智慧。不清淨者速得清淨。不持齋戒自成齋戒」等。是密具菩薩萬行。是諸菩薩萬行顯密兼詮也。首楞嚴即顯密大定之總名。故並取焉。是則此題分取第一第二。全取第四。成此一題。

經之一字。即能詮之教。梵語修多羅。此云契經。謂契理契機之言。略契字故但曰經。即十卷之文句。上十九字。乃十卷文中所詮之義。文義合名。故曰「大佛頂如來密因修證了義諸菩薩萬行首楞嚴經」。

此首楞嚴經十卷文義。不出阿難所請九句之義。阿難恨自己修小乘。道力未全。不能折伏娑毘羅咒。欲請十方如來大道力無上菩提之妙因。冀佛發明菩提之因。依之修證。成菩提妙果。既全佛之道力。即得大自在。阿難之請意。意在於此。

如來將與發明菩提妙因。先候阿難受病之淺深。然後按病為發妙劑。藥症相投。真妄並遣。即復本來面目。成就慧身。即與佛同大道力也。世尊候得阿難病。在最初發心顛倒。見佛相好是妄塵。能見之見是妄根。能愛之心是妄識。根塵識三皆妄。故迷佛知見。不能通達清淨實相。如來以一首楞嚴大定。具三妙觀。細為究竟。一一破除。直達清淨實相堅固不動之體而後已。

初破能愛之妄心。此妄心屬遍計性。如來先用奢摩他。究竟遍計性無體。以顯空如來藏堅固本體。初卷自「爾時世尊在大眾中。舒金色臂摩阿難頂。告示阿難及諸大眾。有三摩提。名大佛頂首楞嚴王」起。至二卷中「四義成就。汝後應知。見見之時。見非是見。見猶離見。見不能及。云何復說因緣自然及和合相。汝等聲聞。狹劣無識。不能通達清淨實相。吾今誨汝。當善思惟。無得疲怠妙菩提路」止。通是破遍計性。顯空如來藏。發明奢摩他義。即空觀也。其中初破遍計自性。即從七處徵心起。至二卷中責阿難「汝等即是迷中倍人。如我垂手等無差別。如來說為可憐愍者」止是也。次破遍計所執。從「阿難承佛悲救深誨。垂泣叉手而白佛言。我雖承佛如是妙音。悟妙明心元所圓滿常住心地」起。至後「無得疲怠妙菩提路」是也。

從二卷中「阿難白佛言。世尊。如佛世尊為我等輩宣說因緣及與自然。諸和合相與不和合。心猶未開。而今更聞見見非見。重增迷悶。伏願弘慈。施大慧目。開示我等覺心明淨。作是語已。悲淚頂禮。承受聖旨。爾時世尊憐愍阿難及諸大眾。將欲敷演大陀羅尼、諸三摩提妙修行路」起。至三卷中「是故當知。意法為緣。生意識界。三處都無。則意與法。及三界三。本非因緣。非自然性」止。通是破因緣性。顯不空如來藏。發明三摩提義。即假觀也。其中初明二種妄見。以示因緣本。正破阿難見佛之見是妄見。次會四科入實。正破因緣性。乃破阿難見佛相好亦妄相。所以總破云。「汝猶未明一切浮塵諸幻化相。當處出生。隨處滅盡。幻妄稱相。其性真為妙覺明體。如是乃至五陰六入。從十二處至十八界。因緣和合。虛妄有生。因緣別離。虛妄名滅。殊不能知。生滅去來。本如來藏常住妙明、不動周圓妙真如性。性真常中。求於去來、迷悟、生死。了無所得。」是知佛之相好菩提。亦不出五陰等四科所攝。但有漏無漏與眾生差別耳。

從三卷中「阿難白佛言。世尊。如來常說和合因緣。一切世間種種變化。皆因四大和合發明。云何如來因緣自然二俱排擯。我今不知斯義所屬。惟垂哀愍。開示眾生中道了義無戲論法」起。至後「汝元不知如來藏中。性識明知。覺明真識。妙覺湛然。遍周法界。含吐十虛。寧有方所。循業發現。世間無知。惑為因緣及自然性。皆是識心分別計度。但有言說。都無實義」止。是示圓成性。顯空不空如來藏。發明禪那義。即中道觀也。其中清淨本然即空相。循業發現即假相。空不礙假。

循業發現。假不礙空。清淨本然。即中道第一義諦。亦名中道了義。阿難領三觀行相。悟明圓滿常住真心。故說偈贊佛。發願利生。以報佛恩。

前發明三觀體相。但開示奢摩他、三摩、禪那七字明白。未明三觀圓妙元是一心。從四卷初「爾時富樓那彌多羅尼子在大眾中。即從座起。褊袒右肩。右膝著地。合掌恭敬而白佛言。大威德世尊。善為眾生敷演如來第一義諦」起。至四卷中「或得出纏。或蒙授記。如何自欺。尚留觀聽」止。是釋三觀之疑。顯三觀之妙。發明妙奢摩他之妙字。其中初釋三觀之疑。顯三觀自相之妙。次圓會一心。顯三觀圓融圓悟圓修之妙。總是發明妙奢摩他之妙字。

上開示妙奢摩他、三摩、禪那八字明白。此八字只密因二字。妙即密也。奢摩他等即因也。從四卷中「阿難及諸大眾聞佛示誨。疑惑消除。心悟實相。身意輕安。得未曾有」起。至七卷中「世尊。如是惡魔。若魔眷屬。欲來侵擾是善人者。我以寶杵殞碎其首。猶如微塵。恒令此人所作如願」止。發明最初方便四字。其中初明二決定義起。至六卷中「於是阿難及諸大眾身心了然。得大開示。觀佛菩提及大涅槃。猶如有人因事遠遊。未得歸還。明了其家所歸道路」。乃至「無量眾生皆發無等等阿耨多羅三藐三菩提心」止。是明入觀方便。次從「阿難整衣服。於大眾中合掌頂禮。心跡圓明。悲欣交集。欲益未來諸眾生故。請問安立道場。遠諸魔事」起。至後「恒令此人所作如願」止。是明攝心方便。此二方便。通屬初心修習行法。故曰最初方便。

上與阿難發明「妙奢摩他三摩禪那最初方便」十二字已明。從七卷中「阿難即從座起。頂禮佛足而白佛言。我輩愚鈍。好為多聞。於諸漏心未求出離。蒙佛慈誨。得正薰修。身心泰然。獲大饒益。世尊。如是修證佛三摩提。未到涅槃。云何名為乾慧之地、四十四心」起。至八卷中「作是觀者。名為正觀。若他觀者。名為邪觀」止。是發明「十方如來得成菩提」八字。其中大意。迷真成妄。名十二類生。滅妄名真。成十二聖位。初明三漸次。示能成行法。次明五十五位。是所成聖位。後結云。「如是重重單複十二。方盡妙覺。成無上道。」此成即得成之成。無上道即菩提也。恐非如來所成菩提。故又結云。「是種種地。皆以金剛觀察如幻十種深喻。奢摩他中。用諸如來毘婆舍那。清淨修證。」此照應阿難請辭十方如來四字。

上發明「十方如來得成菩提、妙奢摩他、三摩、禪那最初方便」二十字之義已完。阿難所請之義已周。阿難之沉惑已盡。如來之覺體已圓。正修行路無餘疑矣。故文殊隨請此經之名。如來即立五種了義之目。上已往開示。皆阿難所請得全道力之真乘。未明阿難所恨未全道力之妄想。從八卷中「說是語已。即時阿難及諸大眾得蒙如來開示密印般怛羅義。兼聞此經了義名目。頓悟禪那修進聖位增上妙理」起。至十卷末「汝應將此妄想根元、心得開通。傳示將來末法之中諸修行者。令識虛妄。深厭自生。知有涅槃。不戀三界」。正是發明阿難「恨無始來。一向多聞。未全道力」三句之義。初明七趣情想是迷中未全道力。後明五陰邪魔是悟中未全道力。是則迷悟兩途未明自心。皆是道力未全。經云。「性真常中。求於去來迷悟生死。了不可

得。」於此了然可見矣。是知此一部經。十卷文義。不出阿難所請九句三十六字盡矣。

後流通分。乃付囑讚歎之語。學者看經。能將三十六字照破全經之旨。則根塵識性應念化成無上知覺。豈不頓超迷悟之外。豈不頓明佛知見。豈不頓證清淨實相。看經至此。則心境頓融。能所俱泯。身心世界全一大佛頂首楞嚴王也。豈不具大慈大悲、大雄大力、大解脫哉。同志者宜盡心焉。

3. 金剛般若經略談

「金剛般若波羅蜜經」。此八字乃一經之總題。金剛是喻。即金剛寶最堅。萬物不能壞。最利。能壞一切物。般若是法。梵語般若。此云智慧。此慧之體本寂。即實相般若。此慧之用圓明。即觀照般若。實相之體。生死等法不能到故。喻之金剛最堅。一切物不能壞。觀照之用。能空生死等法故。喻之金剛最利。能壞一切物。此金剛般若在大部中名能斷分。則知今喻金剛。唯重能利能空一切法也。

此經從須菩提啟請已去。至後「不取於相。如如不動」。通是用觀照般若之法。不取心佛眾生之相。又照心佛眾生無性。又照心佛眾生本寂。成一清淨菩提心。然現前心佛眾生有實體用。如何得知無性、本寂而不取耶。後以金剛觀察深喻喻之心佛眾生皆是有為。如夢幻泡影。則心佛眾生諸法不待排遣而自空矣。既是本空本寂。欲何所取。是知行般若時。只是一味不取。則世出世法一無所有也。又諸法不是因不取而後無。唯其本無。因妄取成有。但不取。自還本來面目。是則金剛之名。

即夢幻等喻。以夢幻等喻。喻空一切法。故稱金剛喻。經中先法後喻。題中先喻後法。首楞嚴經云。「金剛王寶覺。如幻三摩提。」如幻。即金剛也。三摩提寶覺。即般若也。

波羅蜜。此云彼岸到。即到彼岸。以梵語多倒故。蓋般若乃諸佛眾生共有之佛性。眾生不善用。用之見色為色粘。用之聞聲為聲轉。不能超聲色之外。逐境流轉。名為此岸。諸佛善用此佛性。用之照色色空。用之照聲聲寂。能超聲色之外。達境唯心。名為彼岸。是此岸彼岸。非有兩地。同是一境。但超與不超。名為此岸彼岸。是轉名不轉體也。般若妄見。亦只一佛性。因覺不覺。故別其名。亦無實性也。

經之一字。即文句之假名。以貫攝為義。是能詮言教。即文字般若也。依相言。則有喻有法、有體有用差別名義。合之。故曰「金剛般若波羅蜜經」。依性言。唯一如如不動清淨菩提心。了無能所、法喻、體用之分也。

此金剛般若經一卷。雖文義重沓。總不出須菩提所讚所請之義。所讚。「如來善護念諸菩薩、善付囑諸菩薩。」所請。「善男子、善女人發阿耨多羅三藐三菩提心。云何應住。云何降伏其心」是也。如來所答。先總答菩提心。以酬所請之意。然後展轉發明。使其信受清淨。即見所讚不虛也。

先總答菩提心。從「佛告須菩提。諸菩薩摩訶薩應如是降伏其心」起。至「須菩提。菩薩但應如所教住」止是也。

其中初答降伏其心。即發起大悲。能降伏我心。以大悲能度一切眾生。若無智運之。即墮生死。故以智運之。雖是滅度

無量無數眾生。實無眾生得滅度者。何以故下。徵明其義。「若菩薩有我相、人相、眾生相、壽者相。即非菩薩。」是悲不離智也。

次答云何應住。即發起大智。於一切法應無所住。以無所住能遠離一切相。若無悲運之。即墮涅槃。故以悲運之。雖是不住於相。而行布施饒益眾生。

下徵明其義。謂何故既行布施。又不住於相。蓋菩薩不住相布施。其福德方是無漏。猶如虛空。廣大不可思量故也。

後結答須菩提問。意謂汝問發菩提心云何應住。菩薩發菩提心。但應如我所教而住。是真實菩薩。是真實阿耨多羅三藐三菩提心。是知菩提心無別自體。唯悲智和合。故名菩提心。又大悲降伏我心。即不取心相。大智不住一切法。即不取眾生、佛之相。既不取心、佛、眾生三相。是三相無有差別。同一清淨菩提心也。

上既總答菩提心行相如此。下為發明。以見如來護念付囑菩薩之善巧。

因總標菩薩於法應無所住行於布施。所謂不住色布施。不住聲香味觸法布施。雖分示六塵之法。未指陳六塵之法所在何處。故下為指明六塵在處。即佛與眾生也。既六塵通該佛與眾生。不住六塵。即不住佛相、眾生相。不住。即不取也。不取佛相。即不取樂相。不取出世間法相。不取眾生相。即不取苦相。不取世間法相。從「須菩提。於意云何。可以身相見如來不」起。至後「須菩提。當知是經義不可思議。果報亦不可思

議」止是也。

其中先不住佛相。佛有福慧二相。從「須菩提。於意云何。可以身相見如來不」起。至「如來常說。汝等比丘。知我說法如筏喻者。法尚應捨。何況非法」止。是不住佛福相。即不取福果也。

從「須菩提。於意云何。如來得阿耨多羅三藐三菩提耶。如來有所說法耶」起。至「須菩提。一切諸佛及諸佛阿耨多羅三藐三菩提法。皆從此經出。須菩提。所謂佛、法者。即非佛、法。是名佛、法」止。是不住佛慧相。即不取智果也。

上護念菩薩不取如來福慧二果。恐疑謂發菩提心為求菩提道。今於佛福慧二相都不取。即菩提道亦無。何用發菩提心耶。故下引四果及佛菩薩皆以不取而後證果。因不取福慧二相。其福慧乃能廣大無漏。若取相即屬有漏。非菩提心也。初引聲聞不取四果。次引如來不取菩提。後引菩薩不取莊嚴。然後結成。以一切聖賢都是不取而後證果。是故菩薩發菩提心亦「應如是生清淨心。不應住色生心。不應住聲香味觸法生心」。即不應住如來福慧二相生心。「應無所住而生其心」。是真清淨心也。文從「須菩提。於意云何。須陀洹能作是念。我得須陀洹果不」起。至「佛說非身。是名大身」止是也。

上開示結成以不取為菩提心既明矣。即付囑信受。使傳持佛慧命相續不斷。文從「須菩提。如恒河中所有沙數。如是沙等恒河。於意云何。是諸恒河沙寧為多不」起。至「若是經典所在之處。即為有佛。若尊重弟子」止是也。

此經是頓教。不歷修證漸次。隨分一字一句。義皆圓滿。故即請經名。文從「爾時須菩提白佛言。世尊。當何名此經」起。至「若復有人。於此經中乃至受持四句偈等。為他人說。其福甚多」止是也。

上發明證成付囑此菩提心。了然明白。當機領解。陳自所解。如來復為印證。又從「爾時須菩提聞說是經。深解義趣。涕淚悲泣」起。至「如來說第一波羅蜜。即非第一波羅蜜。是名第一波羅蜜」止是也。

已上護念、付囑。總是護念菩提心、不住如來福慧二相。下護念菩提心、不住眾生相。從「須菩提。忍辱波羅蜜。如來說非忍辱波羅蜜。是名忍辱波羅蜜」起。至「如人有目。日光明照。見種種色」止。是護念不住眾生相。

又從「須菩提。當來之世。若有善男子、善女人。能於此經受持讀誦。即為如來以佛智慧。悉知是人、悉見是人。皆得成就無量無邊功德」起。至「當知是經義不可思議。果報亦不可思議」。是付囑此不住眾生相清淨菩提心、使傳佛慧命也。

上發明菩提心不取佛、不取眾生。清淨行相意義已周。恐疑謂菩提心要上求佛果、下利眾生乃成菩提心。何故教佛與眾生皆不可取。若不取佛與眾生。則菩提心云何而生耶。是教離相發菩提心。則無菩提心可發矣。故須菩提重復請問「善男子、善女人發阿耨多羅三藐三菩提心。云何應住。云何降伏其心」。

前問「云何應住、云何降伏其心」。意謂發菩提心降伏何等心。故曰云何降伏其心。住於何法。故曰云何應住。如來答意

謂發菩提心應降伏我心。應住於無相。是清淨菩提心。今問云何應住。謂菩提心要借外緣而生。云何應於無相而住。又菩提心要借內因而生。云何降伏我心。若無內因外緣。則菩提心無因而生矣。是前後問辭似同。問意迥別。下如來所答。亦是辭同意別。

經云。「佛告須菩提。善男子、善女人發阿耨多羅三藐三菩提心。當生如是心。」此句是總答。謂發菩提心當要生如是清淨心。內降伏我心。外不住生佛名相。此重一當字。謂當要生如是清淨心方名菩提心也。故云「我應滅度一切眾生。滅度一切眾生已。而無有一眾生實滅度者」。又釋明其義。經云。「所以者何。實無有法發阿耨多羅三藐三菩提心者。」以實無有法一句。釋明當如是生清淨心。謂若實有法。如來何故強要汝等不取。以實無有法。眾生妄見。內取心相。外取生佛之相。故成迷倒。汝若不取。即正知見。故名菩提心。是以實無有法為正理。以不取內心。內因正。不取生佛之相。外緣正。因緣既正。能生正智。故名菩提心。是則一有所取。即背正理。所生皆顛倒見。非菩提心。故發菩提心者。「應如是住。如是降伏其心。」

上答明其意。下引證。從「須菩提。於意云何。如來於燃燈佛所。有法得阿耨多羅三藐三菩提不」起。至「須菩提。若菩薩通達無我法者。如來說名真是菩薩」止。是以如來實無有法得成菩提。菩薩實無有法莊嚴佛土。證成菩薩應如是不住於相。應如是降伏我心。是名真發菩提心也。

上以實無有法一句總答明菩提心應住降伏之義。未詳明實無有法是實無何等法。故下廣明實無有法之法字。從「須菩提。

於意云何。如來有肉眼不」起。至「須菩提。菩薩所作福德。不應貪著。是故說不受福德」止。通是廣明實無有法之義。以心佛眾生諸法既都實無所有。則了無一法可取。即達清淨實相。以顯如來護念之善也。

其中初明心無我。文從「須菩提。於意云何。如來有肉眼不」起。至「須菩提。過去心不可得。現在心不可得。未來心不可得」止是也。

又從「須菩提。於意云何。若有人滿三千大千世界七寶以用布施」起。至後「若人以此般若波羅蜜經。乃至四句偈等。受持讀誦。為他人說。於前福德。百分不及一。百千萬億分。乃至算數譬喻所不能及」止。是明佛無我也。

其中初從「須菩提。於意云何。若人滿三千大千世界七寶以用布施」起。至「得福德多」。是明佛福因性無我。又從「須菩提。於意云何。佛可以具足色身見不」起。至「是名諸相具足」止。是明佛福果性無我。總此二章。通是明佛福性無我。

又從「須菩提。汝勿作是念。我當有所說法」起。至「如來說非眾生。是名眾生」止。是明佛智所說法無我。又從「須菩提白佛言。世尊。佛得阿耨多羅三藐三菩提。為無所得耶」起。至「如來說善法。即非善法。是名善法」止。是明佛智所證法無我。通此二章。是明佛智性無我。并前福性無我。是護念菩提心實無有佛可取也。既護念不取佛。福慧二嚴。其心清淨。

後付囑生信受持。故云「須菩提。若三千大千世界中所有

諸須彌山王」等。又從「須菩提。於意云何。汝等勿謂如來作是念。我當度眾生」起。至「凡夫者。如來說即非凡夫。是名凡夫」止。是明眾生無我。

上歷明心、佛、眾生三法皆實無有。是正明實無有法。護念菩提心。不應取法、不應取非法。故得清淨。但未知有法發心有何過。若有法發心無過。即依有法發心亦可。何故必竟要依實無有法發心耶。故下以有相見佛為非。反成上實無有法發心為決定義。經從「須菩提。於意云何。可以三十二相觀如來不」起。至「是人行邪道。不能見如來」止是也。

上來證明反成。總明心、佛、眾生三法實無所有。以破執實有我法之常見。又恐執實無有法。不作福德。成斷滅見。故下又破撥無因果之斷見。并上破常見。通是於心佛眾生三法上遠離斷常二見。成就無上正等正覺之心。此破斷見之文。從「須菩提。汝若作是念。如來不以具足相故。得阿耨多羅三藐三菩提。若作是念」起。至「是故說不受福德」止是也。

前從「須菩提。於意云何。可以身相見如來不」起。至「是經義不可思議。果報亦不可思議」。通是破遍計性。遣人法二執。以不取心佛眾生等法。護念菩提心。清淨離相。

從須菩提重請「善男子、善女人發阿耨多羅三藐三菩提心。云何應住。云何降伏其心」起。至「是故說不受福德」。通是破因緣性。明人法無我。以明心佛眾生三法無性。是菩提理趣。以理趣本無一法。成上菩提心行相應不住不取也。既實無心佛眾生。了無一法可得。即真清淨。事事法法。同一如如不動。

故示圓成性。以明人法一如。

從「須菩提。若有人言。如來若來若去。若坐若臥。是人解我所說義不」起。至「但凡夫之人貪著其事」止。是顯圓成性如如之理。其中初以如來若來若去。明法性身如。次以世界微塵無成壞相。明法性土如。身土一如。即如如體。

從「須菩提。若人言佛說我見、人見、眾生見、壽者見」起。至「一切有為法。如夢幻泡影。如露亦如電。應作如是觀」止。是明圓成性正智之照。

其中初明現量智。從「須菩提。若人言佛說我見、人見」起。至「於一切法。應如是知、如是見、如是信解。不生法相」止是也。「如是知、如是見、如是信解」。即如來現量正知正見。是究竟菩提心。

次明比量智。從「須菩提。若有人以滿無量阿僧祇世界」起。至後「應作如是觀」止。此用金剛觀察十種深喻。比心佛眾生有為諸法。如夢幻泡影。了無實性。以喻比觀。故名比量。觀察入理。故名正觀。以正觀之比智。合上正智之現智。通是如如全體大用。

是前破遍計性。遠離人法二執。成就正智之大用。又破因緣性。通達人法無我。顯說如如之本體。是合如如正智為圓成性。分圓成性為實相觀照二種般若。是圓成性。遠離遍計。成就正智。遠離因緣。成就如如。即如如正智。合為一阿耨多羅三藐三菩提心也。此經大旨盡於此矣。

是知此經始終只是一阿耨多羅三藐三菩提心。如來善護念、善付囑。只是成就得一發字。已發者。護念發起清淨心。未發者。付囑發起信受。此就多分言。已發方堪付囑。未發更要護念。總之要成就一發字。是佛善巧也。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十四

(遼東錦州松山所見任浙江湖州府總巡廳信官余三瀛發心捐貲喜刻顛愚和尚語錄第十四卷。計字一萬七百八十。該銀六兩四錢六分八厘。敬為慈母張氏夫人名下。性天朗耀。慧炬圓明。仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十一月 日楞嚴寺經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十五

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

中庸說白

子程子曰。「不偏之謂中。不易之謂庸。中者。天下之正道。庸者。天下之定理。」

此篇乃孔門傳授心法。子思恐其久而差也。故筆之於書。以授孟子。其書始言一理。中散為萬事。末復合為一理。放之則彌六合。卷之則退藏於密。其味無窮。皆實學也。善讀者玩索而有得焉。則終身用之有不能盡者矣。

天命之謂性。率性之謂道。修道之謂教。

此三句。一書之大綱也。命。令也。生也。天之生物成物。乃本然之性。故曰天命之謂性。即天下之大本也。率。尊也。循也。聖人循性盡性。乃公然之道。故曰率性之謂道。即天下之達道也。修。造也。行也。聖人之行道弘道。乃常然之教。故曰修道之謂教。即天下之大經也。又性在妙悟。可默而識之也。道在勤習。可學而不厭也。教在弘傳。可誨而不倦也。

道也者。不可須臾離也。可離。非道也。是故君子戒慎乎其所不睹。恐懼乎其所不聞。莫見乎隱。莫顯乎微。故君子慎其獨也。喜怒哀樂之未發。謂之中。發而皆中節。謂之和。中也者。天下之大本也。和也者。天下之達道也。致中和。天地位焉。萬物育焉。

此一節略發綱中大旨也。道也者一句。牒上率性之道。下明修道之工。須是綿密。無絲毫滲漏。方謂之修。故云不可須臾離也。下句是返成此句之義。故云可離非道也。因可離非道。故君子不可離道而安。人之偷安放逸。多在人所不見不聞處而自恣也。所以此處必要戒慎恐懼。工夫方得綿密。不致須臾違于道也。

下二句釋成此義。何故不睹不聞處又要戒慎恐懼。謂隱處最見微處最顯故耳。是故君子慎其獨一句結成也。慎即戒慎恐懼也。獨即不睹不聞也。此與大學並看探玄。恐違其旨。

喜怒下明修契之功驗。謂道有何益而慎修若此綿密耶。故此啟之有二節。初明道大。次明功大。喜怒哀樂之未發。天命之性也。發而中節。率性之道也。此出道之體用。下正顯其大。故云「中也者。天下之大本也」。此出體大。「和也者。天下之達道也」。此出用大。而道如是大。修致之功亦大。故云「致中和。天地位焉。萬物育焉」。致即修也。天地位。萬物育。正顯功大。因致中故天地並位也。因致和故萬物並育也。其大何如。有如是之功。故勸其修致、不可須臾離也。

此略通大旨。下廣開其義。

仲尼曰。君子中庸。小人反中庸。君子之中庸也。君子而時中。小人之反中庸也。小人而無忌憚也。

此章引聖言。以證道不可須臾離也。初二句輕言君子能中庸。小人不能中庸。下出能不能。所以君子能者。時中故也。時即須臾不離也。小人不能者。無忌憚故也。即無戒慎恐懼也。

此借小人之肆。欲顯君子之慎獨。因慎獨而成君子。以明道不可須臾離也。

子曰。中庸其至矣乎。民鮮能久矣。

此章總歎道之全體至大。而世罕能知行也。至矣。道大。民鮮能。機小也。

子曰。道之不行也。我知之矣。知者過之。愚者不及也。道之不明也。我知之矣。賢者過之。不肖者不及也。人莫不飲食也。鮮能知味也。

此章引聖言釋上鮮能之意。鮮能之咎。聖人知之。道在誠而明。明而誠。苟偏其一則失中。故不能也。知者過於明。其過不在明。在輕其行。所以道不行也。賢者過於行。其過不在行。在輕其知。所以其道不明也。不明。賢亦失中。不行。知亦失中。愚不肖可知矣。下歎道在日用中。而民不覺不知。故云人莫不飲食。鮮能知味也。

子曰。道其不行矣夫。

此章乃前結句耳。此引聖言。結歎道之不行。過在斯耳。此道其不行與上道之不行。首尾照應。不必離為章。分其旨。轉折要成一中字也。

子曰。舜其大知也與。舜好問而好察邇言。隱惡而揚善。執其兩端。用其中於民。其斯以為舜乎。

此引聖言。以大聖證能中之道也。由上歎中庸至德民鮮能

中者。過在知行不均。其孰能知行均等。故引大聖證之。舜雖大知。不輕其行。所以能中也。舜好問至中于民。皆行也。好問好察。知也。隱惡而揚善。執其兩端。以中于民。行也。由斯知行均等中于民。所以為舜也。此就上章言之。若細說。知行皆有中道。此章本借聖人明中道。末又以中道結顯聖人。此重在一中字。由知能中也。

子曰。人皆曰予知。驅而納之罟。獲陷阱之中。而莫之知辟也。人皆曰予知。擇乎中庸。而不能期月守也。

此引聖言。反顯時中也。由前大舜一章。重一中字。後顏子一章。重一時字。此章在中間。照應前後。以不能中。不能守。反顯能中能時中。乃大聖大賢能之耳。

子曰。回之為人也。擇乎中庸。得一善。則拳拳服膺而弗失之矣。

此引聖人言。顏子為能時中之道也。雖云擇乎中庸。其重在弗失之。即一時字。此由仁能恒守也。

子曰。天下國家。可均也。爵祿。可辭也。白刃。可蹈也。中庸不可能也。

此章以可勇之事。顯中庸難勇也。可均。可辭。勇于義也。可蹈。勇于強也。此勇皆可能。惟中庸至德。勇之者鮮矣。益見首章民鮮能之句確實也。

子路問強。子曰。南方之強與。北方之強與。抑而強與。寬柔以教。不報無道。南方之強也。君子居之。衽金革。死而

不厭。北方之強也。而強者居之。故君子和而不流。強哉矯。中立而不倚。強哉矯。國有道。不變塞焉。強哉矯。國無道。至死不變。強哉矯。

此章引聖人答子路問強。以證至德之勇也。由前云天下最難之事。猶可能之。惟中庸不可能。其能之者。決是大雄大勇也。故出此章。自子路問強。至抑而強與。是夫子以三強倒徵子路之強何如也。自寬柔以教至而強者居之。是引風土之強。未是強也。故君子下方出至德之強。是真強也。四強哉矯。上二強於能中也。下二強於能時中也。此章以強能成立上不可能一句確實也。此與前章明由勇能中能時中也。

子曰。素隱行怪。後世有述焉。吾弗為之矣。君子遵道而行。半塗而廢。吾弗能已矣。君子依乎中庸。遯世不見。知而不悔。唯聖者能之。

此章總結前八章之義也。由前君子中庸而時中。小人反中庸而無忌憚。以反顯正。中間展轉發明總在時中。以成道不可須臾離一句之義。素隱行怪不能中也。故聖人不為。則聖人能中也。半塗而廢不能時中也。在聖人不肯已。則聖人能時中也。

君子下總結能之唯聖人。依乎中庸。知也。下二句。誠也。由知能擇乎中也。由誠能須臾不離也。此章重在唯聖者能之。以成上民鮮能。中庸不可能。及舜與顏子能之義也。上釋修致綿密工夫不可須臾離已竟。下明修致始終功驗。

君子之道。費而隱。夫婦之愚。可以與知焉。及其至也。雖聖人亦有所不知焉。夫婦之不肖。可以能行焉。及其至也。

雖聖人亦有所不能焉。天地之大也。人猶有所憾。故君子語大。天下莫能載焉。語小。天下莫能破焉。詩云。鳶飛戾天。魚躍于淵。言其上下察也。君子之道。造端乎夫婦。及其至也。察乎天地。

此章啟道之作用。始終充滿。無乎不在也。言君子之道費而隱者。以費通乎君子。小人惟以隱而成君子。故曰君子之道費而隱。重在隱也。費。用也。隱。誠也。即素其位不願乎外。故名隱也。中庸一書要在誠。此隱字乃一書之骨髓。此費隱二字。是啟端倪。向下所說皆發揮此二字義。

初略明費之始起及終致。謂上已知道不可離。但不知向何處行。向何處用。故此言道不在遠處。就在夫婦日用中也。然夫婦雖至愚。猶有夫婦之知。若無夫婦之知。夫婦不和也。夫婦雖不肖。猶有夫婦之行。若無夫婦之行。夫婦相判矣。夫婦孝和乃有夫婦之知行。即此夫婦之知行。及于父子兄弟朋友君臣。周于萬物。充乎天地。所有之知。皆此一知也。所有之行。皆此一行也。是知大道起於夫婦。故云可以與知焉。可以能行焉。

終極天地之外。故云雖聖人有所未至也。天地之大也。人猶有所憾。言天地雖大。尚有未盡之道。聖人之未盡可知矣。因天地之大。人尚有憾。故君子欲盡其道。凡知行必須充滿入微。圓轉無滯可也。故云語大莫能載焉。語小莫能破焉。下引詩以成此義。言上下察即圓轉無滯也。君子下。結成道之始終如上充滿無乎不在也。

子曰。道不遠人。人之為道而遠人。不可以為道。詩云。伐柯伐柯。其則不遠。執柯以伐柯。睨而視之。猶以為遠。故君子以人治人。改而止。忠恕。違道不遠。施諸己而不願。亦勿施於人。君子之道四。丘未能一焉。所求乎子。以事父。未能也。所求乎臣。以事君。未能也。所求乎弟。以事兄。未能也。所求乎朋友。先施之。未能也。庸德之行。庸言之謹。有所不足。不敢不勉。有餘。不敢盡。言顧行。行顧言。君子胡不慥慥爾。

此章引聖言。一明道在人倫中。以申明上章造端夫婦之義也。道不遠人。言道本諸身、不假外求也。人有尚虛玄超邁。遠于人而求道。是不知聖賢之道就在自身五倫之中。外身而求道是不可以為道也。下引詩證明不遠之義。睨視猶遠者。以柯伐柯。其則雖近。猶有彼此之別遠也。人以人自治其身。初無二體。有何遠哉。故云君子以人治人。改而止。改。治也。止。忠恕也。人。仁也。人自以人心正其人。體止矣。外此無別加矣。故下云忠恕違道不遠。人果以人自成。亦能成物。成自。仁也。成物。知也。仁知。道之全體也。又何外求哉。

施諸己而不願。亦勿施於人。此指示忠恕之妙訣也。上節懸說道不遠人。以彰其義。下方指出道在人倫中實在之處。故曰君子之道四。丘未能一焉。由上明道造端乎夫婦。終極乎天地。而超略父子兄弟君臣朋友。故此出之也。

言行即五倫中知行。若充之即天地間知行也。有所不足。不敢不勉。無不及之過也。有餘。不敢盡。無過之過也。言顧行。行顧言。形容上不敢不勉、不敢盡。從容中道也。言行相

顧。全在誠也。故結云君子胡不慥慥爾。上略明費字。下略明隱字。

君子素其位而行。不願乎其外。素富貴。行乎富貴。素貧賤。行乎貧賤。素夷狄。行乎夷狄。素患難。行乎患難。君子無入而不自得焉。在上位。不陵下。在下位。不援上。正己而不求於人。則無怨。上不怨天。下不尤人。故君子居易以俟命。小人行險以徼幸。子曰。射有似乎君子。失諸正鵠。反求諸其身。

此章從前君子之道費而隱而來也。此二本同言之。故分明。前已明費之相。因接明隱之相也。初二句標章素富貴行乎富貴。至無入而不自得焉。形容素其位而行也。在上位。不陵下。至不怨天。不尤人。形容不願乎其外也。故君子下結明。易。平素也。俟命。不願外也。行險徼幸。借小人對顯君子。守誠自如若此也。子曰下。引聖言以射況君子不外干也。

君子之道。譬如行遠必自邇。譬如登高必自卑。詩曰。妻子好合。如鼓瑟琴。兄弟既翕。和樂且耽。宜爾室家。樂爾妻孥。子曰。父母其順矣乎。

此章牒成前章君子之道造端乎夫婦之義也。前雖言造端夫婦。未發其義。故此以辟⁴³明之。聖賢之道。雖是充滿天地。其基本在夫婦間。如行遠登高必自邇卑起始也。下引詩證之。詩意亦有次序。妻子既合。兄弟亦合。兄弟既合。家室咸宜。是知齊家。以脩身為本。脩身即在夫婦間正起也。下引夫子贊詩

⁴³ 同譬。

之語。明本既立而道自生也。父母其順。由妻子好合也。父母既順。兄弟豈不順。兄弟既順。朋友君臣天地豈不順。而夫婦為道張本益明矣。

子曰。鬼神之為德。其盛矣乎。視之而弗見。聽之而弗聞。體物而不可遺。使天下之人。齊明盛服以承祭祀。洋洋乎。如在其上。如在其左右。詩曰。神之格思。不可度思。矧可射思。夫微之顯。誠之不可揜。如此夫。

此章牒成前章君子之道素其位、不願乎外之誠也。鬼神之德。其盛在隱而見也。視之弗見。聽之弗聞。隱也。體物而不可遺。最顯著也。使人承祭如在。心自誠明也。人之一誠。無物不照。後文云至誠如神是也。下引詩言神之隱顯。不可不思。夫微下。結示鬼神微之能顯。隱之能見。而人之誠不可揜。亦如此耳。上略明費隱大意竟。下廣明費隱發用極致也。

子曰。舜其大孝也與。德為聖人。尊為天子。富有四海之內。宗廟饗之。子孫保之。故大德必得其位。必得其祿。必得其名。必得其壽。故天之生物。必因其材而篤焉。故栽者培之。傾者覆之。詩曰。嘉樂君子。憲憲令德。宜民宜人。受祿于天。保佑命之。自天申之。故大德者必受命。

此章並後二章皆發揚費之極致也。此皆以孝德發端。誠。隱也。其意在費。言大孝者。非私孝。一身而已。乃協天之德。故曰大德孝。天之孝。故曰大孝。因孝天。故稱天子。因德格天。故並天位。此章始終言舜。德與天並。即成前天地位焉一句。既與天地位。萬物育可知矣。後二章多發揮萬物育焉。前

後互言耳。其大孝也與一句。是標立。聖人天子饗之保之。是指實。此以名位顯孝德也。故大德下又以孝德成名位。轉成上聖人天子饗之保之。見孝德之實也。故天之生物下明名位非天之私與。乃人自德所致也。詩曰下引詩證因其材而篤焉一句。故大德者下結明。又因受祿于天三句而結也。

子曰。無憂者。其惟文王乎。以王季為父。以武王為子。父作之。子述之。武王纘大王、王季、文王之緒。壹戎衣而有天下。身不失天下之顯名。尊為天子。富有四海之內。宗廟饗之。子孫保之。武王末受命。周公成文武之德。追王大王、王季。上祀先公以天子之禮。斯禮也。達乎諸侯大夫及士庶人。父為大夫。子為士。葬以大夫。祭以士。父為士。子為大夫。葬以士。祭以大夫。期之喪。達乎大夫。三年之喪。達乎天子。父母之喪。無貴賤。一也。

此章以武王周公顯文王之德也。文王深于性與天命。其德難言也。特以武公事跡而言之。其顯德益深矣。無憂乃文王之至德也。父作之。子述之。是釋無憂之義。然猶未盡無憂之旨。武王纘大王。至子孫保之。述其名位也。武王末受命。至無貴賤一也。述其禮樂也。皆至德之實。武公二節形容子述之三句。

子曰。武王周公。其達孝矣乎。夫孝者。善繼人之志。善述人之事者也。春秋。脩其祖廟。陳其宗器。設其裳衣。薦其時食。宗廟之禮。所以序昭穆也。序爵。所以辨貴賤也。序事。所以辨賢也。旅酬下為上。所以逮賤也。燕毛。所以序齒也。踐其位。行其禮。奏其樂。敬其所尊。愛其所親。事死如事生。事亡如事存。孝之至也。郊社之禮。所以事上帝也。宗廟之禮。

所以祀乎其先也。明乎郊社之禮、禘嘗之義。治國其如示諸掌乎。

此章以武王周公之制。以明費之極致也。達孝與大孝稍有別焉。大者。以德格天而言。達者。以善繼述而言。前達于祖父。後達于子孫。上達于天子。下達于庶人。以孝道之理。通乎古今上下。故曰達孝也。善繼善述。釋達孝之義。

春秋以下。詳示善繼善述之事。春秋。祭之時也。祖廟。祭之處也。宗器裳衣時物。祭之物也。宗廟之禮至所以序齒也。祭之禮也。踐其位至孝之至也。以位禮樂祭結其達孝之事於此至矣。郊社之禮至示諸掌乎。又以祭之禮為治國之本。結之大舜以大德必得位祿。此以善禮而能治國。大孝達孝又詳矣。此三章詳示天地位焉。萬物育焉之義。此上明費之極致已竟。下明隱之極致。

哀公問政。子曰。文武之政。布在方策。其人存。則其政舉。其人亡。則其政息。人道敏政。地道敏樹。夫政也者。蒲蘆也。

（蒲。水蠟燭草也。蘆。葦草也。此二皆叢生之物。未見易生也。蒲蘆在內典是蟲名。彼螺裸之咒螟蛉。取其易變易生也。若咒土塊即難能也。若以人道敏政看。則蒲蘆是蟲義猶順。地道敏樹。是借地道以成人道之義。以人為三才最靈。故為政在人。離人無政也。下為政在人。揀非木石之無知也。取人以身。揀非羽毛之異類也。裴公美云。地獄沉憂愁之苦。鳥獸含狘獠之悲。可以整心慮、證菩提。唯人道為能耳。正合斯旨。恐為杜撰。從古亦正。）

故為政在人。取人以身。修身以道。修道以仁。仁者。人也。親親為大。義者。宜也。尊賢為大。親親之殺。尊賢之等。禮所生也。在下位。不獲乎上。民不可得而治矣。故君子不可以不修身。思修身。不可以不事親。思事親。不可以不知人。思知人。不可以不知天。天下之達道五。所以行之者三。曰君臣也。父子也。夫婦也。昆弟也。朋友之交也。五者。天下之達道也。知、仁、勇三者。天下之達德也。所以行之者。一也。或生而知之。或學而知之。或困而知之。及其知之。一也。或安而行之。或利而行之。或勉強而行之。及其成功。一也。子曰。好學近乎知。力行近乎仁。知恥近乎勇。知斯三者。則知所以修身。知所以修身。則知所以治人。知所以治人。則知所以治天下國家矣。凡為天下國家有九經。曰修身也。尊賢也。親親也。敬大臣也。體群臣也。子庶民也。來百工也。柔遠人也。懷諸侯也。修身。則道立。尊賢。則不惑。親親。則諸父昆弟不怨。敬大臣。則不眩。體群臣。則士之報禮重。子庶民。則百姓勸。來百工。則財用足。柔遠人。則四方歸之。懷諸侯。則天下畏之。齊明盛服。非禮不動。所以修身也。去讒遠色。賤貨而貴德。所以勸賢也。尊其位。重其祿。同其好惡。所以勸親親也。官盛任使。所以勸大臣也。忠信重祿。所以勸士也。時使薄斂。所以勸百姓也。日省月試。既稟稱事。所以勸百工也。送往迎來。嘉善而矜不能。所以柔遠人也。繼絕世。舉廢國。治亂持危。朝聘以時。厚往而薄來。所以懷諸侯也。凡為天下國家有九經。所以行之者。一也。凡事豫則立。不豫則廢。言前定則不跲。事前定則不困。行前定則不疚。道前定則不窮。在下位不獲乎上。民不可得而治矣。獲乎上有道。不信乎朋友。

不獲乎上矣。信乎朋友有道。不順乎親。不信乎朋友矣。順乎親有道。反諸身不誠。不順乎親矣。誠身有道。不明乎善。不誠乎身矣。誠者。天之道也。誠之者。人之道也。誠者。不勉而中。不思而得。從容中道。聖人也。誠之者。擇善而固執之者也。博學之。審問之。慎思之。明辨之。篤行之。有弗學。學之弗能。弗措也。有弗問。問之弗知。弗措也。有弗思。思之弗得。弗措也。有弗辨。辨之弗明。弗措也。有弗行。行之弗篤。弗措也。人一能之。己百之。人十能之。己千之。果能此道矣。雖愚必明。雖柔必強。

此章引孔子答政。以曲盡隱之極致也。前君子素其位而行。及鬼神之為德。已明隱之大略。今借天下國家五倫九經。曲盡隱之極妙。無乎不在。無處不周。有一處一時非誠。則隱之體有欠缺不極圓也。隱。誠之異名也。誠。道之本體也。故曰修道以仁。中曰知、仁、勇。後曰必明必強。皆誠也。

人存人亡。以賢不肖言之也。人道敏政。以地道敏樹對言者。以人為三才最靈。故能敏政。非草木羽毛而能也。下云為政在人。是也。家語在得人。恐各有義意也。蒲蘆。比況也。故為政在人。至禮之所生。略目政以仁義為主。仁義。誠也。

故君子不可以不修身。至不可以不知天。勸修也。既是政在人身。修身在仁義。是故君子不可以不修身、不知天也。

天下之達道五至所以行之者三。指引修身之所及修身之能也。君臣等列五倫之名也。五者下結五倫之德也。言修身在此五倫中。修有一處不達。則誠之之用不滿也。知仁勇。則能行

之道。所以行之者一也。誠而已矣。三行不備。則誠之體有缺矣。

或生而知之至及其知之一也。言知之始起差別。終致一也。或安而行之至及其成功一也。言仁勇發用不同。克功一也。子曰下。指示三者之由。可以修得也。知斯三者下。正結三者之能也。

知所以修身至知所以治天下國家、五倫在其中矣。初明修身以仁義。次勸修。又示修身之處。五倫也。再示修身之行。三行也。又辨三行循序修省之別。又示三行之由。其義詳且盡矣。故結此三行。以涉五倫。覆成上修身以仁義為主之義也。

天下國家下。以九經推擴其誠。修身等。列九經之名也。修身則道立等。列九經之益也。齊明盛服等。示修九經之行也。凡為天下國家下。結九經一誠為骨也。

凡事豫下。又以言行事理辨誠不可離也。在下位不獲乎上等。重以五倫九經。轉折詳明誠之體用。充實遍滿。無斯須縫罅。極盡誠之妙圓也。

上來曰仁義三行。未明白說誠。至此方說出。曰誠身明善也。誠者。乃天道本然之誠。故曰誠者。誠之者。乃聖賢以誠率天之誠。故曰誠之者。此天道人道而言也。又誠者。不勉而中。聖人也。誠之者。擇善而固執之者。賢人也。此就人道聖賢優劣而言也。因上歷五倫九經明以誠為主。誠何其大哉。故此說明誠者天道聖人之道也。而五倫九經豈外於是哉。

博學之下。續明擇善固執功行也。博學至篤行之。教修學也。有弗學至行之弗篤弗措也。教加行也。人一能之至己千之。教增進也。

果能下總結知行一誠必能也。自君子之道費而隱至此。歷明費隱之義已竟。總顯修道之功驗。並上修道之綿密。皆修道之謂教一句也。

自誠明。謂之性。自明誠。謂之教。誠則明矣。明則誠矣。

此章明道之本體也。上自君子中庸以來。皆發露誠作用之德。此方發露誠本體之德也。誠明者。乃本然之誠。自然之明。然誠體之上。自有明照之用。此是天然之誠。得天之道。故謂之性。明誠者乃以明擇乎善而合誠之體。以有作為修飾。故謂之教。總之一誠。上可率性。盡天道也。下可垂教。盡人道也。天地古今。一誠盡矣。誠則明。明則誠。言有體必有用。有用必有體。名異而體一也。上標大意。下釋之。

唯天下至誠。為能盡其性。能盡其性。則能盡人之性。能盡人之性。則能盡物之性。能盡物之性。則可以贊天地之化育。可以贊天地之化育。則可以與天地參矣。

此章釋自誠明之謂性也。性本自誠。故天下聖人。唯以至誠能盡其性。果能盡其性。天地萬物同一性也。既同一性。人欲之私何由生焉。既無人欲之私。同一生理。則德同天地。故贊天地之化育。德既同。位亦同。所以與天地參也。前費極致三章以誠之發用。明天地位萬物育。此以誠之本體率天之性。故與天地並位。贊天地化育也。

其次致曲。曲能有誠。誠則形。形則著。著則明。明則動。動則變。變則化。唯天下至誠。為能化。

此章釋自明誠之謂教也。性體之誠明。無為之德。非學可能也。修致之誠明。是有作為。所以能化能為。教也能變能化。所以可教也。此校前則次之。故曰其次云云。致曲恒守。恒一之謂也。由守一則心不散。不散則無妄。故誠因之。由心誠則身正。故形因之。由形端則行可觀。故著因之。由行著則德明。故明因之。由德明能動物。故物因之。由動物則物從其變。故變因之。由物從變則成其化。故化因之。此化與贊天地之化育同。前云生知。學知。困知。及其知。一也。明矣。

至誠之道。可以前知。國家將興。必有禎祥。國家將亡。必有妖孽。見乎蓍龜。動乎四體。禍福將至。善。必先知之。不善。必先知之。故至誠如神。

此章釋誠則明、明則誠也。前知先知如神皆明也。不誠則己。一誠必明。是知誠明一體也。此並前二章。總明誠本體之德。明上率性之謂道一句也。

誠者。自成也。而道。自道也。誠者。物之終始。不誠無物。是故君子誠之為貴。誠者。非自成己而已也。所以成物也。成己。仁也。成物。知也。性之德也。合內外之道也。故時措之宜也。

此章以天道人道合其誠也。自成者。體自完固。不假外物而成也。此成與成性存存之成是同。所以言道自道也。此成自性也。物之終始。不誠無物。此誠物也自本性。自誠無妄無息。

故能為物根本。所以言物之終始不誠無物也。是故下。人道也。由天道自成成物。是故君子循天之誠。亦自成成物。所以言誠之為貴也。是故二字。是法天德起聖賢之德。仁也、知也。是收聖賢之德歸天德。內仁也。外知也。仁與知而時中之。故云時措也⁴⁴宜也。

故至誠無息。不息則久。久則徵。徵則悠遠。悠遠則博厚。博厚則高明。博厚。所以載物也。高明。所以覆物也。悠久。所以成物也。博厚配地。高明配天。悠久無疆。如此者。不見而章。不動而變。無為而成。天地之道。可一言而盡也。其為物不貳。則其生物不測。天地之道。博也厚也。高也明也。悠也久也。今夫天。斯昭昭之多。及其無窮也。日月星辰繫焉。萬物覆焉。今夫地。一撮土之多。及其廣厚。載華嶽而不重。振河海而不洩。萬物載焉。今夫山。一拳石之多。及其廣大。草木生之。禽獸居之。寶藏興焉。今夫水。一勺之多。及其不測。龜鼈蛟龍魚鱉生焉。貨財殖焉。詩云。維天之命。於穆不已。蓋曰天之所以為天也。於乎不顯。文王之德之純。蓋曰文王之所以為文也。純亦不已。

此章釋成上一成字也。或謂誠何能成已成物耶。故此釋云。至誠不變不息、久、徵、悠遠、博厚、高明。故能成已成物也。所以云載物、覆物、成物也。不息等顯誠之德。載物等正指能成也。博厚配地等。此以無象之誠配有象之天地。以明其博厚高明悠遠。其象如此也。

⁴⁴ “也”據中庸原文疑是“之”字。

如此下結博厚高明等。乃誠本然性德。不屬造作。故云不見不動、無為而成也。天地之道。可一言而盡者。誠而已矣。不貳。一誠也。生物成物也。天地之道博也等。推明上為物不貳一誠也。今夫天斯昭昭等。推明上生物不測能成也。

下引詩證成天性誠而不息之義。「維天之命。於穆不已。」詩辭也。蓋曰下釋詩之義。文王下以聖人之德合天之德。亦云不已。亦能成物也。此章與誠者自成共是一旨。雖人道天道對言。其旨在天道。明上天命之謂性一句也。

大哉。聖人之道。洋洋乎。發育萬物。峻極于天。優優大哉。禮儀三百。威儀三千。待其人而後行。故曰苟不至德。至道不凝焉。故君子尊德性而道問學。致廣大而盡精微。極高明而道中庸。溫故而知新。敦厚以崇禮。是故居上不驕。為下不倍。國有道。其言足以興。國無道。其默足以容。詩曰。既明且哲。以保其身。其此之謂歟。

此章承前文王之德純亦不已。發起聖人之道也。由前天德不已。文德亦不已。故云大哉聖人之道。峻極于天。禮儀威儀。明上發育萬物之用。待其人而後行。惟聖人才能行此禮儀威儀也。故曰下。成上待人而後行之義。故君子下。又躡至德至道而言也。是故居上不驕等。又踵敦厚以尚禮而言也。詩曰下。引詩證明敦厚尚禮。可言可默。不倍不驕。以保其身。可謂明哲矣。

子曰。愚而好自用。賤而好自專。生乎今之世。反古之道。如此者。災及其身者也。非天子。不議禮。不制度。不考文。

今天下車同軌。書同文。行同倫。雖有其位。苟無其德。不敢作禮樂焉。雖有其德。苟無其位。亦不敢作禮樂焉。子曰。吾說夏禮。杞不足徵也。吾學殷禮。有宋存焉。吾學周禮。今用之。吾從周。

此章釋前章詩云既明且哲、以保其身之義也。前云明哲能保其身。此以愚賤而災其身。反顯明哲之德也。非天子下皆明哲之事也。

王天下有三重焉。其寡過矣乎。上焉者。雖善無徵。無徵。不信。不信。民弗從。下焉者。雖善不尊。不尊。不信。不信。民弗從。故君子之道。本諸身。徵諸庶民。考諸三王而不謬。建諸天地而不悖。質諸鬼神而無疑。百世以俟聖人而不惑。質諸鬼神而無疑。知天也。百世以俟聖人而不惑。知人也。是故君子動而世為天下道。行而世為天下法。言而世為天下則。遠之則有望。近之則不厭。詩曰。在彼無惡。在此無射。庶幾夙夜。以永終譽。君子未有不如此而蚤有譽於天下者也。

此章因前章一徵字發起。推明前章之義也。三重者。即議禮、制度、考文。三事乃天下公行之事。萬古通行之道。不可輕易妄作。故曰重也。其寡過矣乎。成上一重字。重此三事故寡過也。上焉者等。言此三事不可輕易作。明重字之義。故君子之道本諸身至知人也。明寡過之義。是故君子下。明三重之成德也。下引詩結。明通章之義。惟一徵而已矣。在彼無惡。在此無射。即徵諸民之義也。

仲尼祖述堯舜。憲章文武。上律天時。下襲水土。譬如天

地之無不持載。無不覆幬。譬如四時之錯行。如日月之代明。萬物並育而不相害。道並行而不相悖。小德川流。大德敦化。此天地之所以為大也。

此章釋前禮儀三百。威儀三千。待其人而後行。孔子是其人也。所以云祖述堯舜、憲章文武等。此章天地萬物全體是一聖人。聖人全體是天地萬物。所以結云此天地所以為大。即聖人所以為大也。自愚而好自用。至此皆推明大哉聖人一章中之義。

此中庸一書。以天命之謂性一章為綱目。自君子中庸至君子依乎中庸、遯世不見、知而不悔、唯聖者能之九章。明修致綿密工夫。自君子之道費而隱。至哀公問政一章共九章。明修致終始功驗。此二節共十七章。發明修道之謂教一句。自誠明至至誠如神四章。發明率性之謂道一句。自誠者自成至故至誠無息二章。發明天命之謂性一句。上發明三句皆所知所行之道。道即誠也。乃顯誠之能德故。自大哉聖人至此四章。是發明能知能行之人。即顯聖人之能德也。

或曰。前舜與顏子二章。及大孝無憂達孝三章。皆稱聖人之德。何云彼唯所行之道哉。曰。前舜與顏子是借人明修致工夫。大孝三章是借人明修致工驗。雖稱人道。為顯道之發用。故為所知所行也。此大哉聖人四章。是借道顯人。其中極盡道之圓備。乃極顯聖人之能事。所以此四章為能知能行之人也。

上明人與道之義已究竟矣。故下結贊。初贊聖人以配天德。末贊至誠以歸天性。盡矣。

唯天下至聖。為能聰明睿知。足以有臨也。寬裕溫柔。足以有容也。發強剛毅。足以有執也。齊莊中正。足以有敬也。文理密察。足以有別也。溥博淵泉。而時出之。溥博如天。淵泉如淵。見而民莫不敬。言而民莫不信。行而民莫不悅。是以聲名洋溢乎中國。施及蠻貊。舟車所至。人力所通。天之所覆。地之所載。日月所照。霜露所墜。凡有血氣者。莫不尊親。故曰配天。

此章結贊聖人之德以配天也。聰明等。乃知仁勇質文五者。德之實也。溥博淵泉。德之深廣也。而時出之。德之發用也。溥博如天。淵泉如淵。形容上溥博淵泉之義。見而民莫不敬三句。形容而時出之之義。是以下明發用極致。周圓充滿。範圍天地。故曰配天。此結聖人之能也。

唯天下至誠。為能經綸天下之大經。立天下之大本。知天地之化育。夫焉有所倚。肫肫其仁。淵淵其淵。浩浩其天。苟不固聰明聖知、達天德者。其孰能知之。

此章結贊至誠之德歸於天性也。經綸等三句乃教乃性乃道三大體也。焉有所倚。明上三大體乃誠者自成。無假于物。即中也。肫肫其仁。言誠之實也。淵淵浩浩。明誠之廣大也。苟不下。結誠之高明深厚。非聖人不能到也。下引詩證成。

詩云。衣錦尚絀。惡其文之著也。故君子之道。闇然而日章。小人之道。的然而日亡。君子之道。淡而不厭。簡而文。溫而理。知遠之近。知風之自。知微之顯。可與入德矣。詩云。潛雖伏矣。亦孔之昭。故君子內省不疚。無惡於志。君子之所

不可及者。其惟人之所不見乎。詩云。相在爾室。尚不愧于屋漏。故君子不動而敬。不言而信。詩曰。奏假無言。時靡有爭。是故君子不賞而民勸。不怒而民威于鈇鉞。詩曰。不顯惟德。百辟其刑之。是故君子篤恭而天下平。詩曰。予懷明德。不大聲以色。子曰。聲色之於以化民。末也。詩曰。德輶如毛。毛猶有倫。上天之載。無聲無臭。至矣。

此章廣引詩。證誠之能德也。前以隱名誠。於此章見矣。曰惡其文。曰闇然。曰淡。曰簡。曰濫。曰潛伏。曰人所不見。曰不愧屋漏。曰不動。曰不言。曰無言。曰不賞。曰不怒。曰不顯。曰不大聲以色。曰無聲無臭。皆隱之義也。此書依一誠為萬事。復萬事于一誠。故此顯誠之德至精至細矣。

闇然、淡、簡、濫之（之疑衍）。誠也。知遠、知風、知微。明也。至誠如神也。潛雖伏矣至毛猶有倫。皆言隱能見、微能顯。乃誠之實德也。其重在隱。故有天性無聲無臭結之。至隱也。萬事至于無聲無臭。盡矣極矣。莫可加矣。故云至矣。此章與前章是一文。不必分也。

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十五

（信商■■■■龍同室楊氏。信商■■■■同室江氏。喜刻顓愚和尚語錄第十五卷。計字一萬六百三十。該銀六兩三錢■■■■厘。伏願仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十月 日

楞嚴寺經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十六

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

雜著

1. 天主說辯（并序）

天主教乃西域梵自在天外道也。震旦往無其種。自我明萬曆間。有珣馬竇自西洋航海而來至京師。神宗厚遇之。後茲陸續而至者有數十人。多在閩粵浙淮南北兩京諸地。所從者皆斯文學者。其類精于天文。能博金銀等物。所以能動人心。專排佛。其從化者家有佛像菩薩像。皆令投諸江海中。或躡佛言為難。如云梵網有言。「一切有生皆宿生父母。殺而食之。即殺吾父母。」如是則人亦不得行婚。是妻妾吾父母云云。士僧無能答。雲栖大師嘗為析之。其辭藻雅深細。非上智未易曉。衡因廣其說。言雖不文。意雖淺識者易解。不為舛說所惑。全生生一念。遠離顛倒夢識。證自性之仁慈。續諸佛之慧命。仍以雲栖大師說首置。使知茲辯源流深淺。如此而已。

古杭雲栖大師著

又問彼云。梵網言。「一切有生皆宿生父母。殺而食之。即殺吾父母。」如是則人亦不得行婚。是妻妾吾父母也。人亦不得置婢僕。是役使吾父母也。人亦不得乘驪馬。是陵跨吾父母也。士人僧人不能答。如之何。

予曰。梵網止是深戒殺生。故發此論意。謂恒沙劫來。生

生受生。生生必有父母。安知彼非宿世父母乎。蓋恐其或已父母。非決其必已父母也。若以辭害意。舉一例百。則儒亦有之禮。禁同姓為婚。故買妾不知其姓則卜之。彼將曰卜而非同姓也則婚之。固無害。此亦曰娶妻不知其為父母、為非父母。則卜之。卜而非已父母也。則娶之亦無害矣。禮云。「倍年以長。則父事之。」今年少居官者何限。其舁轎引車。張蓋執戟。必兒童而後可。有長者在焉。是以父母為隸卒也。如其通行而不礙。佛言獨不可通行乎。夫男女之嫁娶。以至車馬童僕。皆人世之常法。非殺生之慘毒比也。故經止云一切有命者不得殺。未嘗云一切有命者不得嫁娶。不得使令也。如斯設難。是謂騁小巧之迂譚而倍大道之明訓也。胡可得也。

復次。彼書杜撰不根之語未易悉舉。如謂人死其魂常在。無輪迴者。既魂常在。禹湯文武何不一誠訓於桀紂幽厲乎。先秦兩漢唐宋諸君何不一致罰於斯高莽操李楊秦蔡之流乎。既無輪迴。叔子何能說前生為某家子。明道何能憶宿世之藏母釵乎。羊哀化虎。鄧艾為牛。如斯之類。班班載於儒書。不一而足。彼皆未知。何怪其言之舛也。

天說餘

予頃為天說矣。有客復從而難曰。卜娶婦而非已父母也既可娶。獨不曰卜殺生而非已父母也。亦可殺乎。不娶而生人之類絕。獨不曰去殺而祭祀之禮廢乎。被難者默然以告予。

予曰。古人有言。「卜以決疑。不疑何卜。」同姓不婚。天下古今之大經大法也。故疑而卜之。殺生。天下古今之大過大

惡也。斷不可為。何疑而待卜也。不娶而人類絕。理而然矣。不殺生而祀典廢。獨不聞二簋可用享、殺牛之不如禴祭乎。則祀典固安然不廢也。即廢焉。是廢所當廢、除肉刑、禁殉葬之類也。美政也。嗟乎。卜之云者。姑借目前事。以權為比例。蓋因明通蔽云爾。子便作實法會。真可謂杯酒助歡笑之迂譚、排場供戲謔之譚語也。然使愚夫愚婦入乎耳而存乎心。害非細也。言不可不慎也。

客又難。殺生止斷色身。行姪直斷慧命。意謂殺生猶輕。不知所殺者彼之色身。而行殺者一念慘毒之心。自己之慧命斷矣。可不悲夫。

觀衡著

天主教云。梵網經言。「一切有生皆宿生父母。殺而食之。即殺吾父母。」如是則人亦不得行婚。是妻妾吾父母也。人亦不得置奴僕。是役使吾父母也。人亦不得乘驪馬。是陵跨吾父母也。此以妻妾奴僕不得言父母難所殺生靈亦不得言是父母也。斯言特肉眼不明。不知輕重耳。試為論之。

世間者。輪迴也。輪迴者上下返復也。若子孫妻妾、奴僕驪馬中無多生父母。則世間不名輪迴。既世間有輪迴。而子孫妻妾、奴僕驪馬中實有多生父母。以肉眼不見。隔生不識。姑不罪之。獨殺一事大慘。殺之業大重。故佛特為申明。使知生靈中或有父母。豈忍殺父母而食之乎。此吾佛至極悲誨。最後明訓。愍四生之慘毒。救三塗之業苦。豈將肉眼不明之事以難佛眼真明之理哉。是以蠅火爭明于杲日。特不自量也。

又世間顛倒輪迴。而妻妾奴僕中或有多生父母眷屬而不識者。皆長夜中人夢未醒耳。唯佛洞然。故稱覺者。謂覺世間顛倒故也。有云「三界不生釋迦、萬古如長夜」是也。佛既已覺。又覺諸有情。勸人辭親割愛。出塵離俗。不殺生。不妻妾。不奴僕。不驪馬。遠離顛倒夢想。究竟真常而後已。豈妻妾奴僕決然不可廢乎。若謂不妻妾。絕生人之大本。不奴僕。絕役使之名分。是不知不妻妾、不奴僕、不驪馬。即聖世。人皆聖賢。自能化生。何假妻妾。自能所欲隨至。何用奴僕。自能乘空往來。何用驪馬。豈必定要妻妾而後生、奴僕而後役哉。果是聖賢處世。示有妻妾。示有奴僕。示有驪馬。皆變化所出。定無多生父母屬眷、相親相冤而為顛倒也。今以世間經常難出世間之大道。實明暗相背耳。

又佛名空王。無有實法可說。特以名字引導眾生。歸乎自性。至如真理。名曰真心。名曰法身。於真理中豈有身心之名哉。蓋眾生所重者身心。故就其所重而名之。曰幻身非身。更有法身。妄心非心。更有真心。使人信是自己本體。孰肯不盡心焉。是佛以身心之名。引人至於性地。佛愍世之迷倒。殺貪猛熾無可遏禁。以眾生所重者父母。故言多生父母有在六道中者。而殺而食。即殺父母。是以父母之名。止人之殺心。救眾生之冤苦。佛以假名杜人殺機。導人至於仁慈之地。是佛善巧方便、無上妙誨。豈得以世智辨聰而可議哉。

又以理論之。天地萬物同一真性。則萬物之身豈非諸佛聖賢法性耶。萬物既是諸佛法性。又非父母妻妾奴僕法性耶。法性既一。萬物名諸佛亦可也。名父母妻妾奴僕亦可也。殺萬物。

說殺諸佛亦可也。說殺父母妻妾亦可也。欺陵妻妾奴僕。說欺陵諸佛父母亦可也。而妻妾奴僕驛馬獨不可敬重乎。或謂妻妾既可名父母。而復妻妾者。是喪倫也。豈有人而妻妾尊長者耶。曰妻妾可名聖賢父母。性一也。倫者跡也。現今父母妻妾各有其形。豈得混跡而喪倫耶。以跡觀則殊尊卑。以性觀則等親愛。視父母兄弟如路人則不可。視妻妾奴僕驛馬如父母。未嘗不可也。視萬物如父母亦未嘗不可也。萬物既可視如父母。可忍殺而食之耶。如是難者。是以跡駁性。以事障理。而有限之恩焉能駁無礙之辯耶。

又六道中必有父母者。以眾生自有識神以來。生死輪轉。恒河沙之恒河沙不足較劫數之多。遍觀大地。無芥子許不是眾生捨身受身處。備經六道。生生皆有父母。其劫數恒沙不足為較。曾為父母眷屬者恒沙亦不足較也。大地既無芥子許不是眾生受身處。則六道中亦豈有不是親緣眷屬者。總之親而復冤。冤而復親。近而復遠。遠而復近。上而復下。下而復上。改頭換面。從冥入冥。互不相知。悲夫。輪迴顛倒甚至於斯。然人之父母妻妾子孫奴僕驛馬及所殺眾生亦非無因而相遇。必是多劫多生親緣眷屬。或冤或親。因緣相感。聚於一時也。寒山有言。「我笑他家顛倒顛。媳婦騎驢阿翁牽。騎爺馬。搯白皮。鍋裏煮著肥羊肉。羊肉⁴⁵都是沾親帶故人。」知此。可忍以眾生肉舉筋⁴⁶下咽耶。

又妻妾奴僕驛馬中。或有多生親緣眷屬而不為罪者。何耶。

⁴⁵ 此羊肉二字疑衍。

⁴⁶ 同箸，筷子。

曰。非全無罪。但就世間肉眼不明不知而無犯倫之罪。其實是生死重業。故佛教人出生死。一切悉離也。如人有犯上者。或殺或姪。或天加之雷霆。或王加之刑法。必至大辟。人有夢中犯上。亦有淫殺盜妄者。在佛法則不容。在世法則付之不知。無可證明。則不加罪。而天地鬼神或知之。以夢事沈迷。亦不見過。夢迷既可減過。而多生親緣。或有在妻妾奴僕中。以隔生不識。過亦可減。但出世聖人厭其顛倒耳。或曰夢迷犯上可減過。隔生不識。有長上誤為妻妾奴僕者。亦可減過。獨不曰隔生不識、誤殺親緣亦可減過耶。

曰。此言迷謬。不足論也。妻妾奴僕是攝受因。殺生是慘毒因。以慘毒加蚤虱尚有罪。況加之雞犬、加之牛羊、加之騾馬、加之多生父母而可無罪耶。佛言六道中有父母者。意在生人親愛。救眾生之慘毒。非以隔生論倫理也。

2. 為安城石者朱太史結放生社文

古杭雲栖大師乘願力來。為淨土法門中興教主。廣遠法師之弘範。紹壽禪師之芳猷。誠彌陀示現、慈氏分身也。著述甚多。盛行於世。有戒殺放生等文。而慈覆萬靈。得全生活、往生安養者。非算數可知。有七事不宜殺生之戒最為明訓。能啟千古不覺之習弊。有智識讀之。無不涕淚太息也。

吉州安城石者朱居士。慧性猛利。信從多劫多佛深種善根而來。聞道即有深契。從病僧受諸佛淨戒。遵雲栖戒殺放生之儀。合普門慈悲護念之旨。舉家持年三長齋。嚴於戒殺。於雲栖七事中抽生日一事。自本家不論尊卑長幼。生誕之日。不許

殺生。將平素誕日殺生宴會之費。買各般生命放之再來庵（乃一庵名）放生所。隨彼天年長短。自去自來。以免湯火刀砧之苦。資之食寢法力之樂。即合家護念清淨。可謂變火宅為蓮花淨域。轉眷屬為菩薩伴侶。欲同之親里結放生社。廣此一行以及諸方。周於天下。皆知天地同胞。萬物一體。以躋天下同仁也。然石者公此一念。雖不敢妄擬是佛。是菩薩。是聖賢。但世間凡俗之念不能收之。石者公恐此一行不能恒普。欲病僧一言以鑑於後。

蓋放生戒殺一事。乃聖賢之本心。從古至今。碑銘傳記甚廣。豈容再說。但條理放生所得宜。不至虛名廢壞為善。可為遠大之念也。要擇一寬廣地。建庵作放生社。後靠山。要高遠。圍築為放生所。前離庵百步外開一大放生池。高築垣牆。近池建接引佛殿三間。安僧十二眾。修淨業。晝夜六時以佛聲熏悟所放生物。凡放生主人。隨家豐儉。素常生日所費廣者。不可苟減。素常生日所費少者。不可強增。但依常隨宜為善。凡所放生物大至牛羊豬犬。小至鵝鴨魚鱉、田雞烏鶻等物。陸生安之以陸。水生安之以水。以各生其生。各樂其樂。野生放山林。家畜養之以欄棧。亦須嚴防密護。勿使盜賊狐狸侵犯。若放之而不守護。亦徒有放生之名而無放生之實。

每凡作會之日。請僧六眾。禮懺一日。以資所放生物神識。消彼往業。此日多買生命。依雲栖放生儀作法放之。其能放之人。箇箇是聖賢。用心所放之命。物物具聖賢妙性。形相雖殊。同一生活。念慮各別。共一真源。人為萬物名相標揚。萬物為人耳目玩悅。有人無物。人則頑然。有物無人。物則寂爾。人

物對待。文彩昭然。是則人物互相發用。彼此互宜安生。互相供樂。互相明心。豈不是莊嚴淨土。豈不是聖賢同臨。豈不是天地同胞、萬物一體。豈不是天下同仁耶。聊計此。

3. 放生社文

丙子夏月。避暄蘇溪桂柏園中。有諸上善人結放生社。持此冊求一語以為盟證。

病僧喜曰。諸善男子。放生之道。大道也。古今聖賢、世出世法。唯一生字而已。離生之外。無道可言。蓋天地萬物同一生理。凡血氣之屬莫不有知。但有知者均謂之佛性。所以謂「上至諸佛。下至螻蟻。佛性皆然」是也。一切山川林藪之屬。皆無智識。均謂之法性。佛性法性。有情無情。差別不一。同一生理。所以古聖先賢觀得生理既同。則護惜萬物與護惜己身等無有異。書云。「非時殺一獸。非孝也。非時斷一木。非孝也。」非孝。不順生理故也。原其草木禽獸。與人相與為用。互為資生。同為保愛。豈可妄為傷殺乎。是大違生理、大非孝道明矣。

又則人非萬物則智不生。謂智非境不生也。萬物非人則名相不顯。謂境非智不了也。是人與物相生。境與智相待。乃能發智慧、立名言。乃出生諸佛菩提也。若殺一有情身。即滅菩提因。以身能運載菩提故。若壞一無識物。即損菩提緣。以法能軌生物解故。是則若人妄殺有情之身。妄壞有生之物。即殺佛慧命。斷滅佛種。豈不是大惡大罪耶。但世沈迷。習以為常。不覺其為大惡大罪。隨流忘返。輪迴不絕。如能覺其非。此覺即是佛心。既得佛心。即入佛數矣。

今諸上善人同為放生。不唯得世間聖賢之心。即諸佛之心也。蓋世間聖賢以生生為主。雖是護惜萬物。必有能護之生。所護之命。世外諸佛菩薩先安於無生。無有我人等相。而護生之念乃能普能常。世之聖賢以生理既同。各使其安生養生。有陷不生之地。則救之解之釋之。故有救生放生之名。佛菩薩以同體大悲。無緣大慈。不唯救眾生世間苦難。而能與一切眾生出世間之大樂。故有利生度生之願。若但救之安之。世間壽數能有幾何。故佛利益度脫。使其超越世間之外。究竟常住。始是大全生理。大安性命。永不生不滅。是謂真長生。真壽命也。

諸善男子既得世出世間聖賢之心。非聖賢何疑哉。須要保持覆護此心此行常遠不退。即從今已去。為諸佛菩薩攝授。欲此心此行常住。先擇空閒地。建立三寶形像。為大伽藍。每結會期。都要入伽藍內。使心有歸向。伽藍前大開放生池。凡水生者放之于水。伽藍之後或左右圍放生所。凡陸生者放之于陸。使各安其生。各樂其命。再加之佛法咒力薰習。自然各得超生。其在會諸上善人姓名同勒石於伽藍內。教其各人子子孫孫相承入會。如子子孫孫繼此放生一會。永世不斷。即眾善人法身常住。眾善人光明常照。亦可謂清白傳家。亦可謂賢善繼世。豈不轉凡品成聖品、轉塵土成樂土哉。有識宜勉之。

4. 蓮社成規

圭峰禪師云。「今知心是佛心。定當作佛。」諸上善人。今既知人人具有佛性。個個本是彌陀。從今已去。再不可作眾生顛倒之事。口常念佛。身常禮佛。心常想佛。想佛者。想佛清

淨法身即是我之本性。無生無滅。不墮諸數。常要超越聖凡名相。想佛智身無障無礙。慈悲喜捨。常行慈悲方便。與佛無二。想佛色身相好光明。解脫自在。常要厭離五欲。莫生貪著。心既是佛。又行佛事。不名為佛。又名何等。豈非頓登佛地。此即是成佛要門也。

如是行去。不待往生而佛身具足。再入蓮質。更見增修。直至圓滿菩提。永無退屈。如無決定信心。別求玄妙知見、向上機緣。恐不免誤入歧歧。應慎之慎之。如決定信心念佛。行住坐臥之中不可間斷。

此是各人自己密綿工夫。亦要興揚三寶。開導萬方。相邀同志。或十人。或三五十人。擇幽僻伽藍之地。結會定期。同聲念佛。使若見若聞。同登蓮品。在僧在俗。共躋佛乘。此自利利他、成佛之妙行也。今將念佛規範條分于后。

一。凡至會期。當次會首。先期入庵營備。

一。凡會次。有不到者。罰油一觔。如有不得已事。先入庵白過。或請人代說不論。

一。凡會次。念佛三次。早晨誦彌陀經一卷。往生咒三遍。遶堂念佛三百聲足。小淨土文。回向完。念三皈依。三拜。日中誦彌陀經一卷。往生咒三遍。拜四十八願。念古淨土文。回向完。念三皈依。三拜畢。午後誦彌陀經一卷。往生咒三遍。念八十八佛懺悔。遶堂念佛三百聲足。念雲栖大師淨土文。回向完。稱南無西方極樂世界毫如五須彌之讚。三稱三拜畢。

一。凡會次。有赴齋僧至。請上座。以表恭敬三寶故。

一。凡會次。隨分放生。不論大小多少。以表救護一切故。

一。凡供佛香燭果品。要殊勝精潔。

一。凡念佛畢。各人靜坐默念。不可雜談戲論。妄說他家是非長短。

一。凡自有過者。當對眾發露改悔。或自己聞他人有過。亦勸對眾發露。或彼此究竟。務要莫違佛心。如不彼此究竟。不名同會。不名同志。不名同是佛心。

一。三會念佛畢。將供佛果品均之。清茶一坐。以表受佛所賜。深結佛緣。真為佛子。

以上條成。一一不可移易。如有違者。罰油一觔。入庵供佛。

5. 圓通會成規

首楞嚴經云。「此方真教體。清淨在音聞。欲取三摩地。實以聞中入。」歷觀竺天震旦。依觀音一門脩證者最多。古之明教嵩、大慧杲等都從此門而入。皆有禮觀音儀文。即今諸方緇素拜觀音洪名者甚多。每見即獲聰明智慧。福壽崇高。乃至悟入圓通聖性者不能備舉。

觀衡既生此方。復值此時。捨此妙妙聞心一門。別求易悟易入者。無有是處。是以自出家以來。常禮拜觀音大士洪名。因受持首楞嚴經。更見觀音大士名體俱遍十方。超越一切。不

唯此方獨上也。是以發心生生世世傳持楞嚴大教。世世生生常隨觀音菩薩脩學。從因至果。歷事諸佛。教化眾生。乃至入胎出胎。出家苦行。成道說法。入大涅槃。不出此一聞薰聞修金剛三昧。

因撰禮觀音儀文一卷。以成自利利他妙行。普勸一切同修此行。今諸上善人宿乘般若根。因此良聚。不以病僧見棄。相從受戒起名。此名宗派依圓通法門建立。攝受一切。同為觀音菩薩眷屬。從今已去。直至成佛。亦不出此圓照三昧。如一人頂禮菩薩。或持念菩薩聖號。於行住坐臥。亦無有間。欲顯揚大教。普勸諸方。應於清淨伽藍。同眾修禮。使見聞隨喜。共入圓常。今將結會禮懺規成條列于后。

一。凡臨會次。當事會首。先期入庵。宿歇營備。

一。凡會次。在會列名者俱要到。如散漫不赴者任罰。

一。供佛香燭果品。要殊勝精潔。

一。凡有不得已事不得入會。先期入庵白過。或請人代說。如先不白。不赴聽罰。

一。凡會期。早飯後禮懺二次。中飯後禮懺二次完。

一。凡禮懺。必請清淨大德二眾掌磬及木魚。

一。稱名要清遠。起拜要齊。不可前後參差。

一。伏地必要觀想。懺有觀門明言。

一。行道要五步遠一位。安詳徐步。不可過緩過急。

- 一。跪拜各人拜蓆一條。不可厚鋪被褥。
- 一。跪誦懺文須合掌。不可手靠懺桌。離桌三寸。
- 一。伏地須兩手伸過頭前。如佛頂光相似。
- 一。禮懺畢。各就本位坐。默念菩薩。不可雜談戲論。
- 一。眾中有違菩薩心者。當善為勸諭。
- 一。凡見赴齋僧至。當如菩薩。以表恭敬心故。
- 一。凡會次須放生。不論大小多少。以表慈悲心故。
- 一。凡食時。每人和菜一盤。不可廣設珍味。恐妄費折福故。
- 一。凡會畢。將供果均之。清茶一坐。以見受佛所賜。真為佛菩薩眷屬。承佛加被故。

以上條成。一一如法。不可妄自移易。違者依法任罰。

6. 為父母禮懺疏

伏以十方刹海。未隔自他之殊。一土區隅。那分南北之異。事有遠近。理無參差。土木金石之頑品尚能感通。骨肉血脈之至親豈不冥應。陰宅陽居。情與無情。禍福關於累代。天堂地獄。善及不善。業報轉於寸心。父母身即我之身。我之念即父母念。懇禱歸依。期父母身心俱淨。求哀懺悔。願椿萱生死頓超。大開報本道場。廣作薦親佛事。弟子觀衡是日淨手拈香。剗心泣血。一心歸命十方三寶。一切聖賢。南無本師釋迦牟尼

佛。南無本師觀世音菩薩。願放慈光。俯垂洞鑒。伏為修薦先考某。先妣某。

觀衡切念生來福薄。累父母財散家貧。幼小災多。苦父母形勞念瘁。乳哺萬般。未報劬勞。一點無酬。方知問字。早計偷安。十四歲出家。惱父母犁肝之痛。發父母斷腸之悲。不唯養育成虛。返增愛別離苦。二十歲行腳。數千里蹤跡遙隔。二十年音問無聞。倚門之望。徒傷泣血之悲。更慘生子如斯。要子何益。養子似此。求子何為。

衡自慚背至親之深恩。得彌天之大罪。每有回養之心。業不由計。今聞風水之歎。罪不容誅。懊悔空懷。迷悶無策。由是自控衣鉢之淨資。營辦香花之妙供。就于本堂。仗請清眾。啟建修禮慈悲懺法薦亡報本大道場。觀衡有識以來。過去所作善業惡業。若遠若近。若多若少。惡業自己承當。善業回向父母。今生所作善業惡業。若憶若忘。若散若定。惡業自己承受。善業回向椿萱。我以今世宿生賢善回向父母。倘力不能強。復以現前當來身心代替父母。決願其得度。

又慚自無天眼宿命。不能見父母今居何道。倘父母罪報難超。願現前身。願當來身。入大地獄。受無量苦。經無量劫。不生退屈。又恨自乏道力神通。不能令父母頓證佛乘。如父母積業未淨。願入我心。願入我識。沈大業海。經無量劫。受無量苦。不生厭離。

我今如是懇到投誠。發願回向。十方常住三寶。一切聖賢。同運慈悲。放大光明。攝受先考某。先妣某。業緣頓斷。罪性

皆空。正念圓明。佛心顯現。長別輪迴之趣。竟生安養之鄉。蓮開上品之花。果授一乘之記。八解六通。隨心自在。三身四智。應念圓成。不違安養導師。遍事塵刹大覺。廣修慈悲喜捨。圓滿定慧光明。傳無盡之神燈。作有情之慧幟。虛空有盡。行願無窮。

7. 宗侯為母生日禮懺疏

伏以貴處宮壺⁴⁷。生生之本與民不二。尊居宗室。親親之念與世皆同。理合天地。同根孝通。人神一致。緣苦發心。黎庶尚乃希登樂地。知榮悟本。王侯豈不頓超禪天。奉親求懺。願親壽高增百齡。為母植因。祈母福安享千足。頂禮圓通聖號。薰修自在法門。二殊勝力應念備於身心。四不思議唯心遍於世界。切念慈母某雖處花宮。恒存蓮域。知身心如水月。悟世界是空華。每求解脫之門。未達菩提之路。六十春光已是因循虛度。百年晚景自當精進修持。若不努力向前。猶恐怠心退後。是以弟子某遙聞五臺梵刹。投誠三寶座前。代母歸依。求佛攝受。稟受解脫淨戒。乞命圓通法名。誓作觀音大士眷屬。願為自在法門伴侶。

茲者某月某日。乃慈母某天地賜生之日。靈嶽初降之辰。是以云云。伏願壽嶽巍巍。松柏相參南極。福源浩浩。江河共注東溟。聞根清淨。有妙音。有梵音。有海潮音。有觀世音。永不聞於世間之音。十方圓明。無我相。無人相。無眾生相。無壽者相。常能現於自在之相。世世生生修習聞薰三昧。在在

⁴⁷ 音摑，宮中道路也，借指宮內。

處處興揚圓通法門。願與菩薩同一法身。願與普門共一名號。直至成佛。不遭枝歧。再祈禮懺報恩。弟子金籬修密。玉樹鬱蓊。天潢滾滾常流。聖派源源不盡。彩鳳祥麟交集。金龍朱鶴齊臻。上下安和。內外承順。諸有所作。一切如願。

8. 曉幽冥榜

伏以堅溼煖動虛妄合聚曰生。地水火風虛妄離散曰死。生而形曰人曰物。死而隱曰鬼曰神。四大偶聚。不知將何為人。四大既散。又不知將何為鬼。精心研究。著力參尋。幻化無可指陳。夢事奚能分割。人自不知其非人。妄生顛倒。鬼亦不知其非鬼。枉自沈淪。生必有死。現前活骨。都是轉眼幽靈。死必有生。暗地孤魂。無非接腳人物。又則人生以來。不知經幾世人、幾世鬼。鬼死以去。亦不知經幾劫降、幾劫昇。是則人鬼雖異。皆是輪迴。昇沈雖殊。同一我愛。

汝等游魂落魄。野鬼閒神。莫戀冥途。當尋覺路。即六根。離六根。何者是我。即四大。離四大。何者是身。若知芭蕉非堅。何勞入水洗坏。如識秤鎚是鐵。休更執燈覓火。莫教打失鼻孔。須是立定腳跟。一回磕著虛空。瓦解冰消。一步纔移露柱。烏飛兔走。漫自因循鷗鷺。大能變化鸚⁴⁸鵡。倒駕慈航。逆流智海。著弊垢衣。拖泥帶水。說無味法。接物利生。坐微塵裏。莊嚴水月道場。遍法界中。興揚空華佛事。一念萬年。劫火光中馳木馬。萬年一念。大洋海底吼泥牛。鏤骨銘肌。共報佛恩。大願弘慈。齊成正覺。

⁴⁸ 同鷗。

又

伏以真源湛寂。本無迷悟之殊。業識紛紜。遂有幽顯之異。若顯若幽。總為輪轉。若情若想。通是昏迷。由是輪迴相傾。煩惱相習。漂泊六趣。長劫沈淪。汝等餓鬼閒神。游魂散魄。或有依怙。或無親緣。或依草附木以為生。或住骨守屍而作活。處幽暗如花林園觀。食穢污若甘露醍醐。顛倒如斯。迷惑不覺。良可憐愍。當自猛省。莫負己靈。諦觀今日之苦果。皆由前世之業因。更尋無盡之罪根。全是妄執之我見。只因堅執物我。橫生愛憎。於生死上不解出離。於塵勞中自取輪轉。欲出生死。永脫塵勞。惟知我見本空。當下罪根自淨。念念是光明般若。塵塵是清淨法身。所以古人云。「苟無煩惱等病。法身當處現前。」又云。「有我罪即生。無我功德比⁴⁹。」是知迷悟二途。只在有我無我之間昇沈。一念儼如翻掌覆掌之速。若能頓悟。不歷僧祇。便成正覺矣。

茲者自恣嘉會。廣集高流。為汝等頂禮諸佛洪名。薰修慈悲懺法。開大寂滅門。人人自悟唯心淨土。建大光明幢。個個自知本性彌陀。一悟不復更迷。一超不復再退。坐寶蓮華。遊十方國。乘大慈航。度一切生。此乃出世之良津。成佛之要訣。宜速薦取。莫待遲疑。

9. 戒壇榜示（青原）

青原祖庭肇自唐代。思禪師為鼻祖。有肉身塔。現存手植荊猶生。此地之靈可知矣。自唐至今千有餘載。至國朝神廟初

⁴⁹ 壇經原文是我罪即生，亡（忘）功福無比。

年。狼藉殆盡。適有本郡縉紳諸大檀越。乘宿願而來。力為興復。時大魁劉翁密為袖籌之首也。二十年來佛堂僧舍壯麗可觀。亦賴本寂禪師善於布置之力。諸大檀越念道場已復舊時面目。而祖燈續燄傳輝少見其人。欲請諸方大善知識主盟此事。雖萌此念而未遂其事。寂禪師早示寂矣。一時難得其人。乃劉孝翁同大檀越。召病僧說戒羯磨。以為將來得人之張本用意。其善也歟。

蓋戒之一字。統盡十方三世諸佛法藏。即我釋迦如來說法四十九年。談經三百餘會。末後拈花。原始要終。唯一金剛光明寶戒而已。經云「唯此一事實、餘二則非真」是也。此戒精持。佛見法見尚不可立。況有生死、去來、迷悟之妄想耶。但生一念求玄求妙、求悟求超越。即屬染汙。即名破戒。但穿衣喫飯、日用平常不觸不背。即如如佛也。南泉云。「王老師⁵⁰有一頭水牯牛。擬向溪東。不免犯他官家苗稼。擬向溪西。不免犯他官家苗稼。不如隨分納些些。」趙州云。「有佛處急走過。無佛處不可住。」此二老是善持戒者。可為師之。

茲者本月八日。乃我釋迦本師示生之日。諸方衲子受戒之期。承諸大檀越開此清淨戒壇。成就自他本有大事。有欲入壇受戒者。各發向上心。先禮辭父母。告白師長。入壇之後。師長父母王官大命俱不得出。保持此戒。不惜身命。一稟戒體。頓登佛地。一日無犯。即一日佛受用。一年不犯。即一年佛住世。如盡未來際不犯。即究竟無上正覺也。所有條成開后。

⁵⁰ 即南泉禪師本人，因俗姓王，亦稱王老師。

一。諦信自心與佛一體。體既是佛用。永不作眾生事。

一。不得妄求玄妙知見。古人云。「但知心是佛。莫愁佛不解語。」

一。但讀誦大乘經典。不得習小乘外籍世間技藝。

一。不得妄拈古德機緣、效顰棒喝等事。

一。晝夜誦經。不得雜談戲論、睡眠、惡見惡作。

一。修懺禮佛。跪不厚薦。拜須叩地。合掌不得靠桌。行道須五步遠一位。

一。舉佛聲要悠長高遠。

一。入壇要更新淨衣及履。

一。登廁更履。便後洗淨。

一。懺畢。各人就懺位跏趺入觀。不得接語亂心。

戒壇榜示

病僧某殘廢之軀。乞食方外。唯了餘生為計。持鉢至此。近於我大覺世尊成道之日。聞諸大德有欲從病僧求戒者。雖是不堪此舉。又不敢私身而辜佛化。但歡喜從順。又在諸大德各自酌量、預先告知。既發如此向上心。莫作尋常故套。各人先要白過師長父母。屏息諸緣。清淨身心。一入戒壇。不得出界往返。有辜自己。空有受戒之名。而無受戒之實。孰之過歟。原夫人人本來是佛。因習染世間眾生事業。故名眾生。今稟佛

戒。如佛而行。豈不名佛。又名何等。

稟戒之後。精心護持。一日不犯。是一日清淨。一月不犯。是一月佛受用。一年不犯。是一年真自在。從今以去。盡未來際。一無所犯。究竟清淨。豈不是常住法身。豈不是頓登佛地。豈不是無礙大解脫哉。幸各自勉之。壇中成規列于后。

一。實信為本。諦實信取自性本來是佛。

一。既入戒壇。三七日內。不得假師長父母之命犯眾往來出界。

一。過三七後。隨各人歸事師長、參謁知識。保持戒體。勿染俗緣。

一。半月半月。凡同戒者。和合一處。誦戒布薩。

一。凡入眾中。知上中下座。不得如無智人不別尊卑。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十六

(信弟子程佛先、佛素。信弟子程衛航、衛雄。喜刻顛愚和尚語錄第十六卷。計字八千一百。該銀四兩八錢六分。敬為伏願仗般若而悟證真乘。賴菩提而安寧老稚。謹意。康熙十四年十月 日楞嚴寺經坊附板)

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十七

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

頌

圓通頌百首

觀音大士即今在甚麼處？

欲尋大士安身處。歷盡溪山煙水深。

偶向竹林間結足。一聲幽鳥送清音。

欲問圓通何處是。行同舉步住同居。

穿衣喫飯憑誰力。休更騎驢又覓驢。

圓通大士今何在。萬紫千紅淨妙身。

擬作聲前色後句。依然花鳥亂啼春。

欲知自在真消息。鑊湯爐炭樂有餘。

縱復拖犁與拽耙。神通無盡總如如。

山前修竹清風好。山後長松明月巢。
識得圓通隨處是。得逍遙處且逍遙。

普陀大士居何土。水乳從來不易分。
珊瑚枕上兩行淚。半是思君半恨君。

為尋紫竹林中主。誤入圓通不等閒。
幾片白雲臨綠水。一輪紅日吐青山。

開眼見明合眼暗。觀音大士是何面。
誰能識得紫金容。腦後神光千里電。

江上清風清徹骨。山間明月明如心。
道人自具超方手。瓦礫拈來都是金。

普門住處原非遠。未到千難與萬難。
是水那非香海水。無山不是洛伽山。

茅檐村店遠梅花。石徑回谿古木斜。

借問白華山上路。青童笑指樹頭鴉。

紫竹林深何處覓。出門便是草漫漫。

幾多未出門前去。亦在閒花野草邊。

漫去千峰與萬峰。重重無盡又重重。

何如高臥家山裏。前有幽篁後有松。

迎風嫩柳黃金縷。破雪寒梅白玉條。

游子飄飄何不返。故園春色為誰饒。

空外求空未是空。心空無處不圓通。

一簾花影休疑月。滿院松聲莫認風。

須彌頂上水漫地。大洋海底火燒天。

圓通自是無遮礙。誰信文殊是普賢。

小院回廊空寂寂。疏窗殘卷日遲遲。
那堪識此間消息。坐臥經行更不疑。

翁一聲兮婆一聲。相呼相應甚分明。
家家自有觀音在。門外尋來返不成。

雨裏榴花新浴出。雲中鳥語帶潮來。
獨憐妙境無人識。幾度披簑移竹栽。

普門住處何幽深。打破虛空無處尋。
昨夜簷前雨滴響。恍然聞入海潮音。

舉手自知八萬臂。低頭未昧百千容。
多般神用無時歇。刺雨登山學種松。

雨中花藥將迎笑。雲裏樓臺幾欲飛。

但使春光長自在。何愁游子不知歸。

大士何為閒不住。小艇獨宿白沙洲。

夜深霜冷不收釣。無限金鱗幾上鉤。

春鶯啼遍柳煙密。秋鴈鳴時蘆白深。

百鳥百聲聽不盡。何須更問海潮音。

手觸手時各有知。個中消息莫狐疑。

大悲八萬四千臂。試看何人少一支。

風鼓楊花上下飛。如蛾如雪亂殘輝。

故園春色看將盡。游子不知何日歸。

崖前瑞草蒼愈古。澗底長松葉不凋。

一片白雲橫谷口。幾多歸鳥盡迷巢。

昨夜觀音海上來。自言今往五臺去。

臺山婆子眼睛明。莫使傍人成笑具。

圓通大士不知醜。昨夜三更變作狗。

不會守家但會獵。能驅猛虎遍山吼。

何處去尋觀自在。風光無盡不須愁。

百花叢裏應當醉。莫把杭州作汴州。

青山常在水常流。識取圓通境自幽。

四五百條花柳巷。二三千座管絃樓。

郊外哭聲斷客魂。白頭婆子拜新墳。

誰知大士剜心語。句句傷情不忍聞。

欲知大士居何土。斗室還同天地寬。

向外馳求終不悄。咸陽殿裏覓長安。

半夜賊來將破家。兒郎有力即擒拿。

呼童執火來相照。誰信阿翁把面擦。

眼底笙簧聽不盡。耳邊朱紫任參差。

飛刀雨矢盈空下。正是圓通自在時。

臨濟喝時天地裂。德山棒下佛魔絕。

大機大用憑誰力。只可心知不可說。

鎮江白酒甚為佳。天下傳聞說不差。

曾到酒家沽一醉。元來就是虎丘茶。

捨得一文萬曆錢。市中出買熟豬足。

只誇滋味十分美。何事不知阿爺肉。

廁裏蛆蟲極樂國。花間蝴蝶涅槃城。

看來處處皆春色。出入無時不奉迎。

牛出矮欄四體糞。豬來污水一身泥。

花冠纓絡難將比。自在從來不易知。

誰家公子慣風流。淺履輕衫錦市游。

為醉春臺迷出處。不知身在岳陽樓。

解牛門戶腥羶重。屠狗人家葷濁多。

可喜蒼蠅靈性在。飛來飛去不空過。

山重重處水重重。深入煙雲密有松。

細徑苔封行跡少。忽聞鐘磬隔層峰。

百花爭艷喜春光。晴日優游興轉長。

欲問普門何處是。一番風過一番香。

六月日頭炎似火。松陰水際好乘涼。
不知何處無寒暑。桃李花紅滿目光。

蘆葦冥冥秋水陰。行人無伴轉蕭森。
試看念念驚懷處。便是尋聲觀世音。

背上癰花堪擬鉢。面前目癩可如桃。
但思就裏誰知痛。莫問圓通白玉毫。

虎嘯風生萬壑搖。龍吟雲起一天潮。
千般手眼千般用。老鼠生成能避貓。

滄山父子真慈孝。曹洞兒孫委宛多。
不犯阿翁護痛處。渾身上下任摩挲。

十八佳人學畫眉。濃裝淡抹弄嬌姿。

都將脂粉誇精俏。味卻娘生真面皮。

蝎子稍頭鉤甚利。虻蛇口內齒猶毒。

觀音瓶瀉清甘露。沾著教人痛入骨。

死死生生復死。來來去去去還來。

普門隊裏無來去。生死叢中見善財。

大士安身不可說。赤身歷歷明如月。

隨人一棒一條痕。難避一拳一握血。

無相之身有相衣。衣新衣舊體無違。

欲知大士通身骨。扯破虛空見瘦肥。

一道神光亙古明。為空為有若陰晴。

佛魔伎倆不容入。方識觀音是假名。

生為大士黃金骨。死是圓通自在身。

生死死生無盡意。分明無間等微塵。

一堂都是癡禪和。日日要尋觀自在。

空費三飧味不知。請君細看鋤頭菜。

古木無根當大路。撐天拄地未曾栽。

大材可惜無人識。一遇樵人折作柴。

半肩破衲若鶉毛。疊疊層層湧海潮。

萬象森羅都覆卻。披來寒暑一齊消。

枝頭羽族結臺殿。地裏毛群作洞房。

莫謂幽居有上下。長天虛谷一秋光。

浮空錦翮多空趨。躍水金鱗任水狂。

不是癡心隨境轉。只因無地不家鄉。

朝朝稀粥雪花菜。澹薄家風真可愛。

真覺齒間滋味長。飽飧不用還他債。

滴滴露珠滴滴月。露珠無盡月無別。

謾將知見覓圓通。底意從來絕筆舌。

明眼道人切莫錯。天花朵朵隨風過。

好花入眼便成塵。鬧裏偷閒有幾個。

欲尋大士安身處。大士安身不可尋。

畫虎畫皮難畫骨。知人知面不知心。

蟻穴玲瓏若鬼工。層層疊疊塞相通。

微塵身入微塵土。識取光明藏一同。

刺人自己不知痛。打己他人亦不知。

借問圓通何以故。多因知見強支離。

自食他人不知飽。他饑我亦不相知。

唯有圓通慙肚臟。從來無飽亦無饑。

形容萬別無他容。住處千殊惟一處。

畏死貪生未免癡。天宮地獄常相聚。

刺蝟鍼錐能覆體。蜒蚰宮殿自隨身。

青階白壁皆安樂。花雨香風都是春。

蚯蚓缺睛蛇缺足。蝦蟆無尾蟹無頭。

千奇萬怪為誰現。何事悲心日不休。

螢火腹間燈燭火。飛蚊翼上管絃長。

隨身樂事堪行樂。不必逢人問故鄉。

四蹄踏地何其妙。兩角撐天亦灑然。

出沒自由無掛礙。倒騎驢子上雲巔。

試摸自家雙鼻孔。百千諸佛共呼吸。

者回識取娘生面。馬面牛頭共出入。

跏趺獨坐一爐香。忽在南方又北方。

誰信剎塵諸佛土。不離紫竹一匡床。

展腳長眠白月下。光明不讓水晶宮。

睡濃莫做圓通夢。佛祖都為過耳風。

歷盡千山與萬山。不知身在白雲端。

試詢南北東西客。誰跨青牛度玉關。

夜深獨立孤峰頂。頭上虛空腳下地。

一步不移遍剎塵。普門出入無開閉。

舉足踏翻華藏界。伸拳觸斷毘盧眉。

何事闍黎不細行。只因無處可分離。

可當屙處自當屙。清淨法身不奈何。

試看所屙無別物。不須回互自圓陀。

欲尋大士安身處。大士安身不可尋。

幾盡遠山山更遠。復窮深水水彌深。

每問普門無可入。忽逢驢子飲江水。

分明岸上蹄蹋蹄。又喜水中嘴對嘴。

大士何為貧徹骨。通身上下無遮護。

自將自肉自為食。無愧無慚無恐怖。

普門大士富如何。金縷衣衫著許多。

從古至今剝不盡。赤身無處可摩挲。

欲入普門深復深。九重深處更沉沉。

玉階青鎖行人斷。寂寂簾垂鳥不音。

欲識普門自在宕。是男是女無遮障。

那分妙用與神通。信是天然一合相。

啞子舌頭全在手。普門大士通身口。

塵塵剎剎說無間。剎剎塵塵師子吼。

大士何為無定處。不分善惡一齊去。

銅枷鐵鎖上天堂。纓絡花冠入地獄。

重門金鎖密難通。寶殿琉璃映日紅。

遙隔珠簾聞玉振。不知眉目與誰同。

若說觀音即是我。他人面目又為誰。
人人都是一觀音。相罵相撓正好搥。

一片秋光到處明。無分山谷與江城。
古今莫不同清照。醉自醉兮醒自醒。

淨瓶有水非甘露。楊柳青青翳眼睛。
欲識普門真消息。驚鴛白牯卻惺惺。

蚤能避死連連跳。蟲善逃生只一弔。
者個賊心莫問誰。題名道字招人笑。

網羅樹上百般鳥。釣起江中萬尾魚。
盡是普門三昧力。為腥為血足人廚。

黑夜路行撞著賊。鎗來劍去不相識。
一回得手生擒住。元是東村張扁食。

張三李四初為友。不友文章但友酒。
醉後發狂打落鼻。百千面目一時醜。

雪擁巖扉煨榾柮。瓦鐺爛煮無油菜。
飽餐自覺無餘想。何用更尋觀自在。

法戰長戈血性兒。如雲如雨偏寰區。
塵煙掃盡乾坤闊。未出觀音臂一支。

死死生生復死。來來去去去還來。
誰知大士身無盡。生死去來幾萬回。

蜂窠密爾狀蓮房。覆隱側居禮有常。
來住空行識舊路。圓通無處不生光。

木凳一條五尺長。移來坐臥當繩床。

一回坐斷無差互。金獅卻為白象王。

欲識大士安身處。面目須教認得真。

試看泥豬與疥狗。方知野鬼及閒神。

高山流水千年遠。明月蘆花一色新。

識取圓通無兩畔。逢人不必問疏親。

欲知大士安身處。不是冤家不聚頭。

自古慈悲多惹怨。從來恩愛反成讎。

張公暗易李公馬。王母潛偷趙母牛。

是是非非難去就。圓通無盡亦無休。

偈

1. 淨土詠（五十首）

遙想西方大導師。夜來月吐珊瑚枝。

玉京吹徹無生曲。正是蓮開上品時。

雲有深山鶴有林。我唯安養是歸心。

夜來月照長廊下。一句彌陀劫外音。

翠竹幽蘭滿院香。秋雲疏雁引微涼。

心中遙見蓮花界。也自蒲團對夕陽。

結盟蓮社陶元亮。歸念西方白樂天。

借看藕花池上客。古今名跡已垂篇。

萬山深處野人家。心地常開優鉢花。

流水雲光真極樂。清疏每自坐煙霞。

池邊階道平如掌。花上樓臺次第開。

注想空勞清入夢。何如彈指得歸來。

門裏親緣門外客。相看不覺鬢毛白。

彌陀一句青山外。方識人間是火宅。

七寶池中八德水。輝天鑑地湛逾清。

何時得向其中澡。一滴沾身百念輕。

積翠庭前柏樹子。趙州用處偷心死。

不萌枝上欲何棲。百寶蓮花遍地起。

七斤衫子未為重。今古禪流掇不起。

何用拾人葬垢衣。西方瓔珞隨身體。

寂光真淨樂何如。明月蘆花未可圖。

識得彌陀真面目。穿衣喫飯莫模糊。

珍禽遶樹傳幽響。水鳥浮流演妙音。

早向蓮花登上品。清聞相與日談心。

風動琅玕響玉音。空中鴈羽振金聲。

遙思淨域諸天樂。日夜清聞更好聽。

雨過湘江春水生。隨風到處一舟輕。

縱然未比珍鄉樂。且喜悠悠世外情。

桃柳芳村春色賒。竹籬高掛酒旗斜。

行人多少途中醉。幾悟蓮邦是我家。

莫謂樂邦西去遠。剎塵佛國一毫端。

但知彼此唯心現。往返不須彈指間。

心念佛時佛念心。佛心無二影森森。

恒沙界外蓮花國。元是家山舊竹林。

百尺竿頭須進步。塵塵現出古彌陀。

試看百尺竿頭客。一個法身不奈何。

春山晴日步芳青。鳥語流泉處處聲。

聞說蓮鄉諸淨侶。花間池上樂經行。

秋山無伴獨幽尋。古木寒巖步步深。

一句彌陀傳遠谷。空林頑石已知音。

寂光未異莊嚴土。向上不為斷滅禪。

細細蟲聲宣法界。佛聲豈背未生前。

自性彌陀時放光。聞聲見色豈囊藏。

同行同住還同臥。細語高聲是廣長。

柳密青鶯肯自下。松高黃鶴喜歸來。

但知樂土唯心現。到處蓮花上品開。

話頭卜度為參禪。鑽得彌陀骨肉穿。

直待夢回方始覺。寂光原是未生前。

呼浪呼波都是水。分禪分教豈殊途。

不知佛法無多子。空逐名言墮有無。

諸佛法身無際畔。彌陀何獨在西方。

但知心內無餘法。滿目青山常寂光。

莫愁白髮三千丈。何慮珍鄉十萬程。

識取虛空無老少。春來秋去總無生。

跏趺夜半一聲鐘。敲破西方不見蹤。

方識彌陀原是我。開簾月照萬層峰。

何處疏鐘敲夜斷。夢回無處覓方隅。

不知誰去蓮花國。滿目青山舊畫圖。

極目松煙十里長。經行忽憶藕花香。

何時得到金臺上。親見彌陀頂上光。

驢事未休馬事來。人生能有幾徘徊。

等閒一句彌陀佛。四色蓮花遍地開。

柳綠桃紅七寶樹。鶯鳴燕語頻伽音。

若將淨穢分優劣。昧卻彌陀一片心。

春林晴日杜鵑啼。不奈幽人動遠思。

好識目前皆故國。採芳競入藕花池。

大地白蓮花一朵。無終無始合仍開。

層層葉葉微塵國。葉葉層層任去來。

十方諸佛讚西方。不是無端出廣長。
只恐癡人耽寂滅。錯將斷見作真常。

面前突出須彌山。今古群迷幾過關。
誰信唯心真淨土。十方未隔一毫端。

淨土唯崇常寂光。何分淨穢贊西方。
有來有去菩提智。來去何曾違故鄉。

倩女離魂那個真。行人不必強疏親。
但於蓮土尋歸宿。鬼面神頭清淨身。

不為聖義絕階級。休認竿頭穩坐人。
九品蓮花開次第。塵塵無不是全身。

秋林日淡喜空清。閒步不知心跡輕。

忽憶蓮池行樹下。幾多淨侶共經行。

等閒無事長松下。一句彌陀音最清。

淨土未曾隔此土。何須遠覓了無生。

魚米肉山三昧力。七珍百寶佛神通。

何為蕩子不知返。辜負蓮胞幾度紅。

有時獨上孤峰頂。遙望西方是我家。

數朵白雲出遠岫。幾行疏鴈過天涯。

目送孤鴻過遠汀。心存蓮界晚霞生。

忽然月上東山頂。大地清光一色明。

今朝屢了洗頭面。明日穿衣又喫飯。

日日年年只此事。何如早向蓮花辦。

十萬億多佛刹西。彌陀化境最堪棲。

幾回定入蓮花國。無那山猿鬥雪啼。

鎮州出大蘿蔔頭。今古禪流咬不碎。

好去先歸極樂天。蔗漿易飽醍醐味。

臨濟一條白棒短。趙州三寸舌頭長。

打來罵去人多少。斷送皆歸常寂光。

百草頭邊清淨土。千華臺上紫金容。

何因不識彌陀面。惱殺春風過遠松。

父慈子孝天然樂。夫唱婦隨性自歡。

誰信合家真禮樂。便是蓮花國土寬。

2. 曹溪贈禪人

一頭高掛舊天涯。曾在廬陵學種瓜。

為訪曹溪登庾嶺。幾番明月照袈裟。

3. 贈若拙師刺血書經

刺血書經痛處親。鍼頭莫昧本來人。

試看滴滴紅光現。盡是如如淨法身。

4. 訪慕湘車八

別館晴臺燕語春。傍城古木綠條新。

煙浮萬狀憑誰力。此事如何舉似人。

5. 次碩卿劉公韻

示疾毘耶枕石流。高人相訪在清秋。

室中八萬四千座。獨讓文殊第一籌。

6. 贈十洲曾公

日對楞嚴心自空。香臺燈影漫搖紅。

是雲必竟歸山去。流水潺湲總向東。

7. 示覺海禪人

向上從來不易傳。百城煙水總徒然。

但能著眼腳跟下。步步光明遍大千。

8. 示法璽印禪人行腳

試問宗乘作麼舉。鎮州蘿蔔廬陵米。

此回別去到諸方。莫落他家甕甕裏。

9. 與元白可法子

博山走過到金粟。又別天童覓舊知。

相見雲居春日好。百花百草正芳時。

又

不是禪兮不是教。幾疑幾信幾能到。

此回親過趙州關。方識雲居都不好。

10. 與超宗翼法子

濱江相視道心深。又為雲居遠處尋。

今日眉毛同舊日。劫前一點獨知音。

11. 與法璽印西堂住雲居明月堂

老人托鉢出雲居。山自高兮水自低。

明月祖庭凡所有。一齊分付璽公持。

12. 示安止黃居士

不效諸方超佛祖。但能荷鋤學農圃。

有人向我問工夫。舉起鋤頭無寸土。

13. 舟次雲間贈可參座主

可公深入楞嚴定。無畏光中出廣長。

遍覆三千宣密義。人天座上雨花香。

又

萬里虛舟任往還。春江新水到雲間。

雖然不用鉤頭餌。也有金鱗過禹關。

14. 雲間西林寺贈道閒座主講法華經

諸法本來寂滅相。花飛春老魚吹浪。

尋幽喜見演斯經。卻信眉還在眼上。

15. 贈道開座主講涅槃經

乘時深入雲間寺。煙雨逢迎方外心。

幾載空山耽寂寞。今朝重聽海潮音。

16. 贈玉田知客

歷盡諸方五味禪。波斯鼻孔當牛穿。

而今穩坐故園地。饑好加餐困好眠。

17. 舟次青浦別宗元陸公

人有新聲鳥有音。春花春草正森森。
淵源無盡清江水。何似元公送我心。

18. 雲居同眾插禾（四首）

真正法輪恒轉處。春來秋去去還來。
入田那怕泥浸脛。刈草誰愁日爆腮。
足食足衣足受用。任風任雨任安排。
青光滿目及時薦。劫外生涯著意栽。

其二

昔日開田人不見。今朝僧眾又何來。
但能自己全生意。莫管傍人笑滿腮。
泥水通身俱是樂。禾苗放手不須排。
靈根未犯春工力。處處生涯處處栽。

其三

幾片山田越今古。幾人耕去幾耕來。
農家落日鋤隨手。野老多愁涕滿腮。
本分生涯全具足。任緣活計漫安排。

試看無地不春色。刺霧披雲到處栽。

其四

一莖微露劫前事。好信春光遍地來。

日暖農夫忙下手。南泉鍋破笑盈腮。

散秧亂擲同兒聚。齊植成行如鴈排。

拈起那堪知落處。不應擬議只應栽。

19. 和一衲遮身韻（十首）

一衲遮身百事新。閒花野草紫金身。

披毛戴角空還樂。嘯月吟風喜亦嗔。

空裏點花休翳眼。水中捉月漫勞神。

試看滿目青山上。萬紫千紅色色真。

其二

一衲遮身百事閒。心安無處不祇桓。

青山自古能藏拙。白社從緣漫掩關。

棒喝交馳空計較。詩文獨步枉爭端。

何如無事盟鷗客。明月蘆花任往還。

其三

一衲遮身百事浮。逍遙意外罕相投。
幾多客醉鄉中夢。無限人迷鏡裏頭。
存想神丹顏未駐。藏舟夜壑世誰留。
從今識此閒消息。地老天荒總不愁。

其四

一衲遮身百事休。水邊林下樂優游。
眼前活計隨緣盡。世上功名不足謀。
萬事交加從夢覺。一身不有更誰愁。
等閒誤入桃花塢。白磧溪邊學飲牛。

其五

一衲遮身百事無。乾坤老我一庸夫。
漁樵蹤跡宜堪混。佛祖門庭斷不圖。
無識阿師唇掉舉。有慚禪士嘴都盧。
劫前風韻難相續。雲在長空水在湖。

其六

一衲遮身百事飄。得逍遙處且逍遙。
踏翻碧海千尋闊。睡起紅輪三丈高。

隨我採薇遊鹿豕。任他干祿上雲霄。
拈來盡是光明藏。何用求金砂裏淘。

其七

一衲遮身百事勾。也無歡喜也無愁。
竿頭獨立誰能進。赤體橫眠人不偷。
幾向漁舟敲石火。每從樵徑聽猿謳。
但知世界同流水。一葉何妨萬里浮。

其八

一衲遮身百事完。優游無計自閒閒。
色空不必多知見。修悟何勞分易難。
柳巷花街簫鼓鬧。姪房酒肆舞歌闌。
一條直道通今古。莫問黃河有幾灣。

其九

一衲遮身百事忘。千年暗室一燈光。
冰河不異湯泉熱。火宅還同雪屋涼。
自是大方離軌轍。從來此道少奚囊。
祖翁未躡門前路。不用尋聲更覓香。

其十

一衲遮身百事荒。飄風驟雨有何妨。
大觀遍地皆吾體。細看誰家是故鄉。
法界莊嚴空寂寂。竿頭枯槁自忙忙。
道人妙有超方手。劫火融成蓋雪霜。

20. 贈約生熊給諫以差竣復命

大道要門。唯君與父。盡命竭力。
是為初步。須臾不離。宛轉回互。
君父即我。我即君父。沒處逢迎。
豈容瞻顧。無可奈何。有屈難訴。
到此方知君父恩。從來面目無遮護。

又

惟聖是心。惟賢是行。心行不凡。名位即聖。
善惡從習。凡聖無性。本體如如。廓然清淨。
迴絕言思。豈容偏正。獨露真常。眾妙圓應。
大用現前無軌轍。不屬方便與修證。

21. 示自潔禪人

禪人遠自荊紫來。今復還歸荊紫去。
來來去去所為何。報云道人本無住。
無住非是數去來。去去來來皆實際。
實際之中無去來。無去無來本無住。
識此無住是寂常。天堂地獄任遊戲。

22. 示可凡禪人

眾苦皆因身心有。苦數無量名為海。
明明苦海是身心。纏綿貪愛不能捨。
相逢都願出苦海。迷執身心求安泰。
不知身心苦海因。執苦出苦無是處。
若將身心都放下。一切眾苦不能到。
不唯眾苦不能到。一切樂事不能動。
苦樂不動佛也無。佛也既無何所有。
一物不有同太虛。豈非無礙大解脫。

23. 贈首龍郭公六袂

是聖是凡勝功德。萬般皆從壽建立。

壽命根本生枝葉。花果香色妙莊嚴。
世壽有為亦有數。性命無始亦無終。
人間八萬四千歲。究竟天壽八萬劫。
八萬大劫世為長。性量之中如石火。
世間算數一至億。增進不可不可說。
不可說數猶可數。一恒河沙數難較。
一河二河千百萬。乃至增到不可說。
不可不可說河沙。未若一洲微塵眾。
一洲不及四天下。一四天下碎為塵。
一塵一數世難算。一四天下塵數多。
何如小千世界廣。小千不及于中千。
中千未及大千界。大千世界俱為塵。
世智聰慧數難曉。一佛刹塵數未多。
百千萬億亦可量。刹塵至一世界幢。
一幢二幢不可說。增至一輪世界海。
一世界海所有幢。諸幢中有諸世界。
一切俱作極微塵。一塵一數佛明見。

一世界海塵縱多。何及盡空世界海。
十方虛空不可量。世界海數亦無盡。
如是無量世界海。塵數唯佛能盡知。
一切世界海微塵。雖多未出于數量。
廣增至於遍法界。一切數量非數量。
諸佛眾生悉平等。言說心數不能到。
如是壽量真壽量。其中受用不思議。
今知君壽已耳順。方外無可為心舉。
持此大數為君祝。六十甲子重更數。
數來數去終復始。願君住世無窮已。
剎剎塵塵恒聚會。生生劫劫常相續。

24. 贈香谷居士

諸佛眾生同一性。真性本來無凡聖。
諸佛悟此成正覺。眾生迷之為邪命。
邪命隨流生死中。從邪入邪罔歸正。
無始至今不解脫。皆因未了性清淨。
眾生欲要頓成佛。放下身心無一病。

身心憎愛若全無。法界虛明一圓鏡。
圓鏡虛明無影像。佛與眾生全虛妄。
若識諸佛妄不真。是人即超毘盧上。
毘盧之上任往來。生死涅槃無遮障。
塵刹集聚一毫端。毛孔周遍不可量。
疥狗泥豬淨妙身。刀山劍樹蓮花藏。
此是成佛最妙訣。諦信諦信不虛誑。

25. 示達原覺禪人行腳

佛與眾生一法界。無彼無此無雜壞。
諸佛證此自圓通。眾生迷之妄隔礙。
有身有心有彼此。有逆有順有憎愛。
外障鄉土難超越。內縛身心不自在。
自屈自小自紆迷。本體何曾有覆蓋。
無覆無蓋自圓常。不得受用妄驚怪。
聖凡從此迴差別。縛脫本來無分派。
禪人欲要達本源。身心境界俱莫待。
先將內心空諸境。後從境上廣心大。

心境互生還互泯。互出互入互廣大。
一一塵中一切塵。微妙圓融超劫外。
禪人朝海與朝山。看來未出龜毛袋。

26. 示一乘開士為丹術所誤

至人捏土成金。凡人見金變土。
富貴本於施因。不在神通丹釜。
貧窮精怪魍魎。皆為金石所苦。
諸佛福慧究竟。身心悉為檀度。
君子義壯山河。道人眼空佛祖。
眼中佛祖尚空。豈被幻術所侮。
生死涅槃二路。不可不知回互。

27. 壽蘇溪郭中書六袂

蘇仙曾向龍泉游。畫舫蘭橈溪上流。
蘇溪得此名為繇。前來既久後無休。
藍色霞光兩雜糅。溯入深山曲並幽。
山水環抱靈氣收。一脈遠來結芳洲。
中產哲人實仙儔。閒曠不說有公侯。

我今到此興何稠。正遇阿翁花甲周。
賢善老少誦嘉猷。如嵩如岱何堪酬。
萬畝千坵穀數優。安比崑崙最上頭。
君家陰鷲遠難求。鶴齡莫論幾千秋。
肯信劫外有蓮舟。花間樓閣日悠悠。
日悠悠。菩薩伴侶共真修。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十七

(楊州府華嚴巷敬佛庵剃度孫比丘尼旋義。敬刻顛愚先老和尚語錄第十七卷。計字柒千三百捌拾個。該銀肆兩四錢。仰祈慈力加庇。庶得人人悟般若真空。個個證菩提妙果。康熙十五年四月 日楞嚴藏經坊附板)

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十八

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

詩（四言古）

1. 述志

大道寥寥。孰可繼兮。我有斯志。力不稱兮。

大聖威光。來照我兮。加我色心。越海嶽兮。

超邁有無。淨水月兮。大開爐冶。鎔六合兮。

惡用鉗錘。鍛凡聖兮。弄丸往復。無知識兮。

2. 思山

南山冬煖。北山夏涼。白石青蘿。荆扉晝長。

冠蓋車馬。孰非黃梁。耽之不返。實為可傷。

觀彼蜚螻。糞轍努步。穴丸轉蛻。高飛飲露。

綠柳松陰。清音可慕。纖蟲尚爾。人何不悟。

但一其心。決然不誤。

3. 懷霞衣大師

回思五峰。嵬然天上。曾躋危絕。堅冰萬丈。

今何失之。屯蹇自障。吁嗟其懷。無由可狀。

雨夜飛燈。花擁崖戶。靈跡彌多。神龍密護。
再欲陟之。病不前步。躊躕多端。愈加回互。
念極傷神。泣垂瀑布。

4. 題快哉亭（四首）

快哉此亭。四面風輕。大夢誰覺。與世同醒。
快哉此亭。花笑盈盈。大喜不撓。與世同清。
快哉此亭。雪白光凝。大樂可作。與世同聲。
快哉此亭。滿月孤明。大觀無我。與世同生。

又

有時閒步。快哉此亭。形神欲飛。超越鵬程。
當中獨立。快哉此亭。不欹不倚。正大光明。
無事踟躕。快哉此亭。個中消息。語意難形。
一榻翛然。快哉此亭。紅塵不到。清夢蓮生。

又

金樽玉盞。遲日薰風。快哉此亭。一醉仙翁。
比興捫古。風雅捉空。快哉此亭。真正吟翁。
龍團起霧。鳳髓生風。快哉此亭。七碗盧翁。

海潮舌響。水月心空。快哉此亭。今古談翁。

又

疏音泉冽。古道霜清。身心寂爾。快哉此亭。

客來善應。敵往不征。安無所得。快哉此亭。

筆飛龍虎。舌震雷霆。變化無礙。快哉此亭。

壁間山水。袖裏雲城。掌握六合。快哉此亭。

5. 為陳母周安人作

乾坤定位。日月繼照。百物蘊靈。純德是孝。

陳母生邁。兩儀正氣。柔質剛腸。閨中貞志。

芳齡撫孤。拮据勝勞。生活有道。紡徹晝宵。

善於嚴訓。溫以嘉儀。聞風受益。實女中師。

子如事父。僕若得主。內智圓明。家聲遠舉。

形同土苴。心烈冰霜。灑掃進止。詩禮成章。

人中淨品。天上淨因。高超梵侶。豈落塵襟。

名德標世。子孫保之。光輝今古。天地齊眉。

又

大造無朕兮。形於眾形。百物有知兮。靈本一靈。

聖賢超越兮。男女無爭。閨品貞潔兮。至道可升。
陳母降質兮。淑氣同生。芳齡操節兮。冰雪合清。
撫孤甘苦兮。紆紡無停。女紅正命兮。今古常經。
訓子有道兮。遠振家聲。處眾寬柔兮。上下安寧。
垂簾幽密兮。蘭桂盈庭。虛堂深邃兮。雲霞滿楹。
日月爭輝兮。千載光明。溪山並秀兮。萬古長凝。

詩（五言古）

1. 擬古（十九首）

大道本諸己。求之似轉遠。自迷衣下珠。伶俜不復返。
邈邈道路長。落落歲月晚。人生胡自棄。男兒應自勉。
彼何為丈夫。而我自屯蹇。潮水不離海。流雲還歸岫。
馳求枉苦辛。勞勞空去就。老氏不新成。古德云仍舊。

二

遠近望崇阿。獨獨一茆舍。珊珊四圍竹。裊裊煙生白。
影影見隱者。兀兀簷下坐。空空無相與。寂寂無鳥過。
欲往尋無路。令人空磨磨。

三

層層南山石。蔥蔥石上柏。何期栖其中。猿鳥相主客。
野果好充糧。野花好供賞。猿鳥共徘徊。熙怡同所餉。
石隙有清泚。藍光映俯仰。手掬吸一滴。毛骨皆精爽。
柏下足風涼。巖阿深且敞。寒暑可安悅。此外復何想。

四

青山日迢迢。白雲影依依。巖鳥聲細細。晴色淡微微。

良辰難再至。嘉景莫遲違。相將芰荷侶。過嶺采山薇。
松花合紫芝。滿籠攜將歸。呼童快吹火。煮薇烹紫芝。
圍坐盤石上。共飽樂如癡。白雲對青山。何用口舌為。

五

東溟有九淵。驪龍在深處。頷下有明珠。眾珍不可喻。
其名為如意。得之隨所欲。暗夜生光輝。病骨能瘥愈。
願得凌霄鶴。乘之便飛去。翱翔過海左。九天可去住。
入海水自關。坦路行無慮。如意真如意。躊躇何能取。

六

山中閒何為。入林尋香草。香草芝與蘭。移來蝶隨遶。
培植在盂盆。日日勤灌澡。不如在林中。清香還更好。

七

青山行不盡。煙水更重重。區區自往還。南北復西東。
春夏燕北行。長楊拂清風。秋冬湖南行。輕舟到處通。
日暮先問宿。早起候日紅。花果處處有。粥飯家家同。
鳥鵲巢高枝。綢繆累百工。

八

遙遙雲外鶴。栖息崑崙山。伍伴獨仙人。高遠不可攀。
物尚緣高遠。人寧耽世間。觀彼水中鷗。飛去復飛還。
如自信超越。當觀心所思。所思不離世。與世決不離。
於世一無思。六合隨所之。心神已高尚。何須問階梯。

九

水中月嬋娟。可見不可取。再三費撈攬。明明不得舉。
魚龍吞弗入。波瀾蕩弗祛。何緣同此物。不被世取與。

十

紅紅石榴果。鮮明終必墮。艷艷芙蓉花。芳妍畢竟落。
明明不久長。往往見執著。水覆不再收。人老無復少。
不知心不休。只言事不了。

十一

獨入萬峰裏。巖阿住蛇虎。蛇虎見我來。潛蹟不復睹。
擊石取火然。然松竟朝暮。腸空尋藤花。衣破木葉補。
就地枕石眠。日出不知午。常年不見人。自覺形如土。

十二

春風連夜起。花木競芬芳。蛺蝶隨風舞。鶯語遶垂楊。

綠野集樽酒。朱樓艷新裝。簫鼓鳴晴晝。絃管發清商。
歡樂雖云極。芙蓉豈耐長。燕趙多佳人。三五慣成行。
臙脂劃粉面。龍麝薰羅裳。彈曲多慷慨。纖指弄馨香。
奄忽霜露至。一旦成淒涼。丰姿在何處。黃土變榆桑。

十三

天地何其長。日月何其古。人生天地間。奄忽化為土。
花木枯還榮。人死不復睹。傷嗟世上人。營營徒自苦。
天地陰復晴。日月出還沒。人死趨新生。豈常耽舊骨。
天地一造物。今古一精神。身異性不異。今人實古人。
欲知堯與舜。兒女逐時新。

十四

知見爭尖新。言說空古今。天雨花狼藉。異香逸玉塵。
無常忽到來。能言不能免。語句隨風散。知見隨業轉。
未達安閒地。安談徒自賺。

十五

鬚眉已皓雪。頂露皎如月。扶策進不前。百步歇十歇。
為道當及時。侵老色力怯。光陰不可待。黃墳多夭折。

少壯不努力。衰老徒嗟咽。

十六

不住孤峰頂。常年煙水路。病到獨何悲。乞食難移步。
臥地孤獨舍。厭棄無人顧。痛楚覺夜長。吁嗟向誰訴。
肆游千樣好。病苦實難度。願得同心侶。復同濟勝具。
死生有所託。厄患相衛護。空想發長嘆。焉能適所慕。
引領望天曉。垢衣多霜露。行人未見過。寒餒無為厝。

十七

中秋皎月光。溪山照微涼。疏風流細細。星漢燦煌煌。
月下八九鴈。聯翩橫成行。遺音空索索。客思發幽傷。
春見鴈北往。秋見鴈南翔。往返竟何依。徘徊欲斷腸。
茫茫宇宙內。何處是故鄉。

十八

客從遠方來。不問親與故。相迎歸客寮。餽粥共朝暮。
住時同骨肉。去時無戀顧。歡愛無綢繆。不同鴛與鷺。
明月對清風。何益恒穆穆。

十九

皎皎明月下。明明水晶宮。人生無百歲。此境不多逢。
此境不多逢。徘徊仰虛空。故鄉隔萬里。明月當空中。
親朋同瞻仰。憂喜何不通。

2. 贈寶檀上人之南海

秋風漸漸涼。秋草微微黃。芳菊正吐蕊。露濕將成霜。
此去謁名勝。隨緣禮道場。地遠境差別。天寬路與長。
飯店有婆子。點心周金剛。路畔山澤裏。何處無賢良。
逢人須下問。為道時參詳。得明真際事。不虛涉遠方。
如或有未悟。還來到我傍。觀汝眉與眼。為汝細敷揚。

3. 讀癡僧傳

昨閱癡僧傳。癡僧真是癡。更有知癡者。傳言語大奇。
無癡不見奇。非奇誰識癡。癡奇相與耳。結牖為心知。
癡亦可為奇。奇中亦有癡。形名雖有二。就裏無參差。
癡奇易可曉。奇癡未易知。愛與癡人友。非癡復何疑。
我亦慕癡奇。求癡不得癡。我亦愛奇癡。求奇不得奇。
信是天性然。強之何能為。

4. 閱宋僧書藏經卷

殘卷墨猶新。紙堅色甚古。歷年經數代。移徙處何所。
我今既珍重。前人遞相撫。愈傳愈見奇。流布永不腐。
欲知不腐因。精神如生睹。細觀行行字。點點不越矩。
墨汁絕重輕。首尾全靈府。收之筆管直。舒之幾丈許。
處處見心力。冥與天地伍。嗟哉世上人。作事多相侮。
小藝尚不成。大事何為聚。試看前代人。工夫慎斤斧。
紙墨乃爾強。道行知恒溥。從來見大造。不孤人所苦。
賢哲宜勉勵。學道豈莽鹵。

5. 讀紫柏老人集

維我大雄氏。隔城擲巨象。涕唾金輪位。寂安雪山上。
貧徹虛空骨。乃爾無遮障。魔兵飛雨發。頓入光明藏。
能使六師徒。傾心知所向。百億日月光。堂堂難比況。
達磨涉險來。孤危少近傍。神光未委命。觸之尋跡喪。
毒流至漕溪。惡發無涯量。二宗五派支。旗鼓各宣唱。
馬祖霹靂舌。臨濟生鐵棒。張弓與擎槎。或擒復或放。
機用離言思。斯道獨神王。嗟哉何隆替。緇徒皆俗尚。

絕無獅子行。群群野狐樣。法運賴有靈。哲人斯仍降。
搜空佛魔窟。掃盡爾我相。教綱理頹綱。宗風善始暢。
千載待一人。靈機殊有仗。遠續劫前燈。重昏還大亮。
鏗鏘金玉聲。春花莫與狀。活殺在掌握。出沒超伎倆。
南北之東西。血戰無生將。

6. 廣熊翁韻

自古長安道。知君已過關。朝中大有道。方外信無慳。
聖性猶龍歎。僊標攜鶴還。是書不厭閱。剩語亦應刪。
心已栖蓮域。跡權寄市闌。簪纓繼遠世。禮樂正諸寰。
清白時臨水。孤高日對山。幾煩珠玉句。破我耽空頑。
地隔身隨遠。神交興不闌。千般神變化。兩鬢何愁斑。
向上有真鑒。幽居不獨閒。自慚猿鳥類。無計逐高攀。

7. 贈六藏禪人（二首）

參禪莫執著。觸處要活潑。大道貴平常。至理忘穿鑿。
舉念都是病。放下孰非藥。將心求妙悟。無繩還自縛。

其二

遠自博山來。今將博山去。磨我腳已穿。拽爾鼻不住。

迎面須彌山。隨身猛火聚。不知往來人。往來依何處。

8. 過吉水隴洲懷晉翁劉孝廉北上

兩次叩君堂。知君好處去。公郎喜我來。相陪觀樟樹。
春日色遲遲。春鶯啼處處。樹古根結深。幹大枝繁聚。
頂聳參雲霞。數丈未可目。腰羸佩鱗甲。六人圍不住。
檣鳥幾高遷。游人誰獨步。今古歲月長。春秋多霜露。
此地樟成名。大樟亦多數。唯有此樹神。聲名超萬戶。
木古尚爾然。人材應自悟。此中有哲人。大有塵外意。
塵外小太虛。豈可比庶物。我今遶樹行。誰知遶樹趣。
趣深未易知。知者可相續。

擬古長詩

述志

維予窮陬子。少小知歸心。十二學茹素。十三期山林。
十四背父母。出外任浮沉。路行恐人識。潛行竄葦陰。
惟怕父母逐。不畏虎狼臨。白日走蘆葦。夜宿傍人音。
別家有數日。樹下遇阿師。我即接足禮。師問何所期。
我具陳本意。師乃納受之。攜我過瀛洲。憩息黃窪裏。
恨髮不疾落。求師不照理。私自而剪去。師乃許灌洗。
剝削快如風。頓階苾芻體。隨師乞食行。行到飛沙村。
村頭有神廟。同師內居存。存居四五載。事師知寒溫。
每聞過客言。緇子有所尊。不是游講肆。便可參悟門。
荏苒荒村頭。與俗何所論。即今有高人。久住清涼山。
嘉號稱空印。高行疏往還。日登空王座。時驗祖師關。
座中萬指繞。門下多鳳斑。茲師紫金色。偉然不等閒。
目深秋海碧。眉秀雙翼翹。耳長厚有輪。齒密白且堅。
鼻直雙垂爪。血絲圈盈顏。平坦無牆塹。慎獨與人寬。
一見如父母。再見披心肝。人稱活文殊。見者得心安。

仁者宜早趣。錯過自顛頂。予聞過客語。心英若風蘭。
移時告本師。師呵面生寒。回互不敢語。躊躇逮半年。
欲行不得行。師苦固遮攔。一夜叩聖前。細訴辭家緣。
本意為性命。此地何留連。師既不欲我。我即竊逃遷。
但不忘師恩。懷師如懷天。參學事已遂。歸來侍膝邊。
聖前祝願已。半夜乃飄然。朦朧月色裏。躑躑獨翩翩。
夜行四十里。黎明方息肩。兀坐垂楊下。思師淚如泉。
迢迢自茲去。茫茫何時旋。乞食復前往。悠悠望遠川。
離師日漸遠。途長步漸緩。朝行夜投宿。倦怠饑喫飯。
冉冉二旬餘。遙見清涼堰。步步向空行。進山多梵苑。
古寺三百餘。新剎百多院。隱居小蘭若。不可以數挽。
風猛暑猶淡。山深古可徵。澗藏千載雪。石掩萬年冰。
崖巒掛星斗。五峰摩天青。日月光可掬。雲雷奔下陁。
幽壑霞縹緲。崇阿岫杳冥。異花不可計。細草亦難名。
長松雜萬木。參差接羽翎。離離光艷艷。鬱鬱氣馨馨。
異境與異人。變幻多異靈。攝身光如鏡。金燈若飛螢。
瓊樓挂金縷。玉殿懸金鈴。供從天上來。人向定中惺。

微妙數不盡。一見輕身形。自離鄉未久。土氣多羸疏。
舉目無相識。徬徨暗嗟吁。如何得接引。捨身在靈虛。
東寺宿一宿。西林覷一覷。蹭蹬半月日。逢叟舊識余。
叟名名守心。瀛洲過我廬。指引入禪林。胸襟略展舒。
初進西林談。再進獅子窟。一入獅子窟。心安如舊居。
謁禮印大師。投誠侍經書。聞經多有疑。諮疑多破除。
事師僅三夏。慎終篤如初。隨師入京都。我年二十二。
疇昔善根薄。懶廁學者類。不白於大師。私行無顧計。
學者間古董。一切盡捐棄。復到父母鄉。見之如天墜。
咸言韓湘子。于今重出示。父母逼還俗。親朋僉與譬。
在家可修行。何須欲遠駛。父母好顧盼。親朋易相贊。
俗心不易解。不語亦不二。親朋接連來。父母每揮淚。
住近三五日。一朝作辭意。借言省本師。還來不遠至。
是夜自得夢。夢見一齒墜。母亦向我言。今夜夢奇異。
綽約一婦女。丰姿世無二。上服垂過膝。下裙拖覆趾。
上下純白綾。綾花壯碗式。白帕罩雲髻。玉環為耳墜。
形色衣未分。眉目更殊懿。眉灣似初月。目湛等秋水。

丹朱點重脣。蔥白露纖指。瓔珞網肩頸。天香隨身起。
超超趣中軒。盈盈面微喜。我見不敢前。彼言我辭爾。
只來此一次。再見必難矣。言訖出門去。不知其所止。
我見母言夢。與我夢可擬。胸中自慘然。不敢露其齒。
恩愛今永訣。因緣必有以。拜別父母已。目顧妹與弟。
忍意出門行。離情絕依倚。遙遙就正道。脈脈循舊履。
復省剃落師。師見大歡喜。聞說欲他往。師心復不美。
脫身上好服。皆留供本師。尋一舊長衫。碎布以砌裨。
行心懶細刺。麤鍼略綴之。縷片百千條。條條挨次縻。
一片有四邊。上縻餘下綏。縻之次鱗鱗。綏之細纍纍。
青藍若鶉毛。風吹亂披離。著之禮辭師。師送長歎歎。
徘徊古道傍。相望各生悲。師老緩回步。我自隨路馳。
是時十月初。清晨有寒霜。頭上無竹笠。身下無繩床。
手中無杖策。腰間無鉢囊。孤孤叉手行。乞食借碗裝。
食罷還人碗。隨途不厭長。初道經齊魯。齊魯逢年荒。
乞食人告苦。竟日不沾湯。兩日或一食。食不論溫涼。
塚邊拾杜梨。糞堆揀棗噉。口乾帶舌苦。乏食兼乏漿。

行有一月餘。乃出饑饉方。再道經吳越。吳越是豐邦。
初參雪浪師。知名不易揚。再謁雲栖師。末世大慈航。
飄海禮洛伽。慈誓聖中王。攝人遊水際。身心入蒼茫。
糞壤木中蟲。安能遠翱翔。灶突雞肋處。寧知海汪汪。
潮聲響暴雷。浪起立如牆。雲接山嶽動。日映玻璃光。
瀛渤渺無涯。進退妙有常。造化二儀髓。容冶百寶藏。
生機活如神。消長觀陰陽。水中標拳石。石堅如金剛。
梵刹倚玄嶠。淨宇生清香。水晶映碧殿。琉璃懸燈煌。
巖巖有隱士。林林有竹房。應身三十二。聖凡俱莫詳。
延延將欲返。溫手復上堂。告別大慈師。問船望高檣。
揚櫂乘順風。一夜出海洋。尋問天台路。神往石橋傍。
路路有接宿。處處有賢良。初抵鳳化縣。有塔坐高崗。
拜起觀其額。布袋和尚葬。雨阻二三日。天晴行傖傖。
細徑遠高阪。窮山歷大荒。初宿彌陀庵。再宿天峰寺。
將上華頂峰。霧厚滅人志。崖高澗水黑。草莽溪徑芘。
到寺冷寥寥。寺老失轟鳳。不知何代修。老僧八九位。
天晚已安宿。明晨登絕頂。頂上碎石塔。寒光孤耿耿。

仰天在咫尺。可以聞咳警。沖虛入冥搜。肆眺發深醒。
茆屋五尺高。四簷掛冰冷。屋中一老僧。畏寒不伸頸。
向前禮其足。垂目亦不睜。識僧是道者。不敢輕動靜。
將別再作禮。賜我一麥餅。下頂半中腰。有庵稍修整。
前有洗硯池。左有甘泉井。額名太白堂。居者有談柄。
一座稍傾談。相憐經夜永。我言欲隱居。主人喜相領。
天光過早飯。相將過西嶺。古洞名王經。林石頗幽迥。
野蔬可充糧。老林足有柴。傍崖便結構。此身宜活埋。
廬小雖易結。鑊鼎無安排。轉身太白堂。暫別作計懷。
去訪天柱峰。隱者亦相偕。盤桓六七日。語意無少乖。
因說居山事。隱者喜同謀。高明之國清。處處喜相陪。
具備鑊與鼎。麥麩六七盃。刀鎌各一握。麤碗五七枚。
隱者同我轉。亦同到巖隈。太白主人迎。笑言何遲回。
主人共隱者。就日伐山槐。平基竹破箴。刈茆枝編坏⁵¹。
勞勞不數日。廬成可安綏。隱者眾相賀。山茗各數盃。
隱者各自歸。我自虛徘徊。萬慮歸往古。一身若壞坏。
肚餓方撥火。種火深埋灰。苦菜燒淡羹。麥麩蒸麤餹。

⁵¹ 蒲枚切，音陪。《集韻》：牆也。或作坏。

初餐舌尚饒。久服體亦臞。晴明揀枯樵。雨暗坐癡獸。
破碗代燈盞。竹筒作燈臺。不浴頭盈垢。無語口生埃。
苦薄漏成渠。壁疏雪擁腮。山雞報曉早。孤猿啼夜哀。
雞寒傍屋宿。猿餒推門來。野牛狀似虎。山羊聲若孩。
形容幾如野。鳥獸無疑猜。靈淵只見湛。心華逐漸開。
一年覺有進。二年返成怠。靜久動橫生。工極魔為災。
欲要求妙悟。欲要博高才。欲要能詩書。欲要廣室財。
九流俱樂部。百家俱樂部。冀名覆天下。冀身成聖胎。
紛紛諸念起。念念不能隕。自慨動魔機。工夫略且放。
倦時打酣睡。醒來閒眺望。容容三月日。異念略騷蕩。
重復整身心。一念無背向。惺惺復寂寂。寂中細揣量。
萬物形雖殊。虛空本一樣。虛空既不二。真心豈二相。
古今是一人。乾坤無二狀。我為太白時。逸句稱絕唱。
我為右軍時。大書無比況。我為達磨時。東來傳向上。
我為玄奘時。西去博經藏。壽命曾為仙。富貴曾為王。
百家皆自藝。九流皆我創。事事已做過。古今名已暢。
不會大受用。私心自成障。在世多少書。佛語盈巨海。

見成窮未盡。何為別主宰。往時如有闕。補之猶未闕。
如或見有闕。多是博未在。不謂古全盡。來期還有待。
不是弄潮手。何得妄新改。前後皆是我。全闕亦唯吾。
補闕非私名。闕全非漢胡。遵古美猶妄。私新豈可乎。
諸妄不可圖。欲圖皆已圖。展轉再展轉。剖剖重剖剖。
反復幾千番。諸念一時枯。試問身後名。身後欲隨受。
不受即不知。不知有何有。大莫佛名大。久莫佛名久。
界外復界外。佛名有未覆。劫前又劫前。佛名亦不嗅。
嗅之劫可際。不聞無窮究。無窮較有際。佛名無半晝。
覆之界可量。未覆無疆囿。無疆較有量。佛名如小宿。
佛名不周恒。世名焉溥舊。古今參玄人。此心何通透。
堅身欲常住。光明同金玉。設使同金玉。無知土木屬。
二儀尚銷殞。金玉何所趣。佛身不足貴。枯骨何所欲。
肉身都常住。殭骨徒為辱。除是利有情。一火為高錄。
冥心向上人。此念不可續。十四而為僧。未曾見欲色。
尋常不見有。靜中覺未殞。立地超聖諦。憶此未一值。
因此一念滯。工夫不著力。觀身對青山。長嘯自追惡。

何為此山中。此念猶不息。此處若不息。當於何處拭。
此念如不誅。披緇有何識。披緇又且置。何事來山崩。
細推身與心。必竟誰起意。心從多劫來。恒與色相織。
心欲經已久。何謂不曾遇。身假四大合。地水火風聚。
聚散本無知。悉能思欲具。色真愛其身。初死身還住。
何不抱屍娛。而反生惡懼。欲果實愛心。應與鬼相觸。
不惟不相觸。斬殃遠逐驅。身心各自分。既不敢依附。
合和亦身心。胡為作美務。形色無久常。人情易起滅。
我與彼亦與。我絕彼亦絕。交情兩交愛。夫妻生有別。
世間顛倒見。繆作金石結。金石亦非堅。況是野馬掣。
海島丹仙子。固身不夜泄。世上丈夫兒。天倫自有節。
閨中貞女郎。夫逝心隨竭。此雖生死情。尚能有剛決。
如何超方人。此事還未瞥。思想獨傷神。奮發腦欲裂。
慚惶父母恩。兩目泣傾血。孤心挂寒空。死志堅如鐵。
欲在此時盡。道在此時徹。身心應爾空。此事方親切。
不見有凡情。從何求聖哲。豈同野狐禪。顯異作妖孽。
舉止似融通。寤寐無殊轍。蕨芽春正肥。飽食安且悅。

不那⁵²獵人見。到處為饒舌。人跡漸有來。盛來不可輟。
作意移深居。他山卜幽穴。中夜離草庵。曉躡石橋雪。
石橋多隱者。分榻願共歡⁵³。自問心不住。下山如鳥翮⁵⁴。
回望山何妒。慨自根下劣。徑山訪同參。長干避暑熱。
秋初登九華。次問匡山路。零零曠野孤。遲遲冬已暮。
鄱陽湖水寒。晚照方開渡。到岸問歸宗。入寺探其故。
開先尋墨池。黃崖觀瀑布。山下遊已遍。山上漸高步。
山靈道氣深。夜行不生怖。但見有煙廬。必往一瞻顧。
地幽人亦清。二俱可羨慕。乾罡嶺⁵⁵最高。矯望雲霧護。
問路於隱者。隱者喜偕往。樵徑細如絲。雪凍隨跡響。
上行十里餘。清逼人氣爽。行至極頂處。舉眺絕高敞。
地名金沙盆。其形凹如盎。昔人曾結廬。人去廬失掌。
廬矮蘿茨深。蘿與廬結綵。撥茨入廬中。土坑生青茵。
打掃一箕踞。寂然喜偃仰。戀戀不欲回。頗奈無其餉。
還同隱者歸。留我過歲旦。正月下九江。持鉢早至晏。

⁵² 猶言不奈。

⁵³ 同啜，飲。

⁵⁴ 音血，義字典不載。

⁵⁵ 亦作乾崗嶺。

乞米足十斗。所須將米換。市一小土鍋。又買二瓦罐。
換碗換刀鋤。米乃去一半。剩米四五斗。歸山如奔電。
一日竟至山。心勝不知倦。明晨二月朔。晴爽無雪霰。
挈米帶火包。歸廬如窠燕。山高春色遲。野菜青未見。
草裏揀枯葉。土鍋經夜鍊。經夜煮不爛。合粥囫圇嚥。
春深野菜抽。夏到所事便。門前二石床。四平厚三尺。
橫闊一弓餘。縱括長二載。曝背為臥具。客至作几席。
曬芹補壞衲。事事皆不逆。石下一小池。水足供朝夕。
耽空空作室。嗜寂寂成癖。沈沈可三載。不悽亦不懌。
反疑大聖人。何為空役役。不覺空為禍。安寂恒自適。
一夜踏空行。虛空忽爾釋。乃見大覺心。土木與瓦石。
有生還有滅。有損還有益。損益非虧盈。生滅無今昔。
明明大聖心。何為墮偏僻。不因此夜行。幾乎成死瘠。
知見向空拋。空寂向有擲。逢場任西東。豈在竿頭噓。
死睡何虛棄。惡夢還可繹。惡夢還可繹。好夢宜狼藉。
巖穴深處人。夢夢可痛惜。即今不努力。桎梏還羈縛。
前聖與後聖。互相為良藥。不盡煙水行。我心還執著。

復下乾罡嶺。諸方歷綽綽。名山古道場。一一不忽略。
育王禮舍利。景星度炎燹。鴈宕過支提。萬山直邈邈。
武夷問仙骨。贛州睹瑞經。飛雪度梅嶺。殘冬到祖庭。
禮祖像如生。潤色光熒熒。墜腰石中凹。皮履甚美細。
香火百千秋。樓殿壯次第。藍橋一溪縈。青山四圍閉。
闌閉如重城。層層如埤垝。中間有肥田。可以千萬計。
僧徒千有餘。春耕秋有穡。靈區造物工。斯人有斯地。
詢謁憇大師。采木未歸輦。明春末方歸。一見即有契。
適師有他行。禮辭歸南嶽。初上祝融頂。當空獨卓卓。
遍遊七十峰。古木抱幽樸。獨凌石廩巔。三湘望可濯。
縛茆石廩下。翛然自汲斲。四山雨落花。滿徑無鳥啄。
萬木凋殘葉。遍地是蟬殼。東嶺宿回鴈。西林鳴紅鸞。
極目天水際。蒼黃誰先覺。懸崖偶自崩。石落如雷暴。
毛羽都驚愕。巨木輒摧剝。自覺山作惡。冥心自超擢。
西巖有隱士。草烏為日用。自羨味清奇。好事與人共。
侵早持一鉢。進門兩手奉。我見喜不禁。感激且珍重。
初食體極輕。再食而意縱。食罷去采薪。不覺為風中。

夜回洗足時。眼角一絲痛。獨坐交中夜。藥毒忽惡攻。
神氣向頂飛。臟腑結冰凍。偶爾不自知。甦久知藥弄。
獨自不敢動。伏伏如在夢。四肢汗暴流。五內忽空洞。
天曉無人來。湯水無人貢。望人無人至。隱者送烏來。
呼我不能應。隱者忽驚疾。問我知藥誤。失顏悔唉唉。
與我煎湯粥。事我無晝夜。送烏還自喫。載喫載自罵。
藥自甘心死。誤人罪難赦。事我三月餘。病深不見瘥。
汗多血氣衰。皮骨如枯草。大死去七次。小死不可考。
氣色雖微微。心地猶曷曷。山中乏醫藥。病中信難保。
天假舊知己。遠來衡山道。聞我為病撓。忙忙星夜到。
見我淚如傾。山中遭此惱。接我至雲陽。配藥自篋擣。
秋末交冬初。調理逐漸好。其病方纔好。論經復太早。
氣減風日增。病恙經年抱。雲陽住二載。愁病難除討。
甲寅過邵陵。初住駐鶴坊。主人接我來。殷殷供粥湯。
燈夜伴我坐。煎藥每自嘗。病非一日痊。城市難久常。
間過無念閣。起坐自安詳。賴遇諸賢達。憐我病何央。
鳩財給湯藥。給食給衣裳。擇地雙清後。為我結松房。

本意為調息。無心構棟梁。日掩摩竭室。時據維摩床。
僵臥已十載。漸成一道場。此是濱水靈。非是我能昌。
吾今四十五。道行一未就。四十而不就。苗也何其秀。
馬齒日漸缺。鶴骨日漸瘦。回思南來心。神駒千里驟。
身衰心未衰。豈憚面皮皺。一旦病輕時。柳栗橫宇宙。

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十八

（楊州府華嚴巷敬佛庵剃度孫比丘尼旋義。敬刻顓愚先老和尚語錄第十八卷。計字柒千九百四十。該銀肆兩柒錢陸分四厘。仰祈慈力加庇。庶得人人悟般若真空。個個證菩提妙果。康熙十五年四月 日楞嚴藏經坊附板）

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第十九

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

詩（五言律）

1. 贈彭工部

青銅彩鳳集。綠柳嬌鶯鳴。

香殿三天上。花宮百寶成。

開渠分月仰。鑿石動雲聲。

自古長安道。曾修巖下盟。

2. 賀五臺曾明府六秩

曾作中州牧。因為上國遊。

庭椿鶴共立。門柳翠同幽。

花甲重添日。風光不老秋。

聖朝新雨露。還有鳳池酬。

3. 壽思履王明府六秩

霞山聳翠色。濱水長清流。

鹿集依山苑。鶯鳴遶帝州。

雲霄抗舊志。花甲度新籌。

香篆千秋日。崗陵上可浮。

4. 南陽殿下遊南嶽過五臺庵以墨竹菊見贈奉謝并贈行李

棕駕來方外。僊標逸不群。

菊梅生可摘。松竹翠堪分。

有意尋巖壑。無心博見聞。

衡山自茲去。回日接風雲。

5. 賀靈山屈居士誕日禮佛飯僧

年老知歸佛。生辰喜飯僧。

不祈天上福。惟續劫前燈。

蔬水同兄弟。蓮花結友朋。

南山松柏好。瑞靄碧層層。

6. 次善長徐公韻并贈行李

相逢擬結社。離別欲銷魂。

去路穿花塢。停舟沽酒村。

風光盡客舍。幽興到家門。

記取雲山約。三生石上論。

7. 贈復公歸匡山

香爐峰上寺。流水遶平臺。

地接東林勝。人承惠遠才。

層雲穿樹翠。細草襯花開。

留意尋幽壑。結茅待我來。

8. 贈青陽李公北上

閱史洞千古。修禪在一心。

一心超物外。千古只如今。

涼月照秋水。寒郊催夜砧。

明年丹桂發。香遠送芳音。

9. 山居（二首）

盤曲千峰裏。危廬倚翠岑。

泉聲亂鳥語。枯木間芳林。

石徑穿雲細。荊扉落葉深。

幾回忘住處。山色碧森森。

其二

虛堂雨滴聲。秋夜蟲音響。

獨坐意何為。幽哉神益爽。

無燈若閉目。尋物全憑掌。

八萬四千臂。今知不用想。

10. 瞻白孫侯為羅城令贈行李

君有淵明興。我無惠遠才。

昇冠思舊履。遺草見新裁。

八桂花盈市。三湘月滿臺。

雲車自茲去。鴈語幾時來。

11. 樺皮笠

方頂似孤峰。周圓如小天。

雨中能避溼。日下可遮暄。

曾覆千林雪。遙沾萬里煙。

飄零三十載。唯爾是同年。

12. 藤杖

出自冰霜地。形枯亦有因。

相將恒不厭。到處若為親。

海渚刺朝霧。天涯探晚津。

谿山與明月。獨與去來身。

13. 放生鵝

鶴鹿本仙致。畜鵝亦頗清。

聲高能壯志。步緩自無驚。

茹素離貪濁。浮波覺跡輕。

居庵四五載。僧誦解隨聽。

14. 蟬

曾推車轍糞。轉蛻便高飛。

飲露知清尚。棲陰遠害機。

孤吟醒旅舍。繁噪亂斜暉。

疏柳盈青碧。幽閒爾獨歸。

15. 蠶

蛛網能傷物。蠶絲為益人。

好賢多自損。利己必疏親。

諫國甘刳腹。餒鷹喜割身。

偷生徒賣履。君德獨天真。

16. 蜘蛛

腹大食無厭。足長快有餘。

當空能結網。白晝善潛居。
物到即時縛。自牽便處誅。
傷殘終有報。雄耀又何如。

17. 螢

螢火一微物。何因身有光。
林間疑虎眼。空裏亂星芒。
雨溼猶能亮。風吹亦更狂。
天人光未見。推此信應詳。

18. 燈蛾

投明不及暗。好事那如閒。
豈不識燈火。偏然愛往還。
燄燒全體爛。油溺舉身難。
虛死既無益。勸君安壁間。

19. 蟻

身微多智勇。曲穴極工精。
勝鬥能排陣。遠征自有程。
物羸集眾舉。移徙抱兒行。

巨細形殊別。蟻靈見性情。

20. 鴈

南北知時往。春秋遺遠音。

群飛成次序。獨識見蕭森。

食息擇幽曠。清貞無亂淫。

鴈丘千古月。寒色照人心。

21. 促織

促織健于鬥。幽音響復清。

急啼經夜永。疏杼刺寒情。

遠客魂無定。孤心寐不成。

秋殘能幾日。切切為誰鳴。

22. 鵬

鼓風闢巨海。舒翼摩高天。

丘壑難栖跡。春秋豈記年。

抱生在遠曠。求食入溟淵。

物貴尚希見。易知未必賢。

23. 演古（二首）

吾無隱乎爾。遍界不能藏。

地結山河秀。天緯星斗光。

春深蝶興醉。秋杪鴈聲長。

試看月中桂。折來寸寸香。

其二

吾無隱乎爾。遍界不能藏。

臨水休疑影。尋梅莫問香。

頭頭無間隙。處處豈乖張。

異草白雲外。都原是故鄉。

24. 贈龔大理奉命賞邊

欽命出關右。齋金濟遠邊。

不辭沙路險。唯計塞城堅。

古木秦時樹。清流漢代川。

歸來知有道。天下士心全。

25. 壽本來居士五十

蓮花結淨侶。貝葉自明心。

學易年方勝。磨磚道轉深。

塵中能作主。劫外獨知音。

遠望南山上。相期紫竹林。

26. 贈冉三尹行李

才良堪國佐。仁恕使民思。

此地方為福。高車又遠馳。

鶴琴清自壯。花月雅相宜。

密意從今契。逢迎信有時。

27. 贈若訥舒公

辭柔悅眾心。行美起人意。

水月淨襟懷。風雲壯志氣。

濯纓二水清。極目四山翠。

乘興探幽奇。煙霞情可寄。

28. 贈思履王明府

今聞政有望。昔論見無差。

百姓孰非子。萬方總是家。

堂高多得月。市淨勝栽花。

自具鹽梅手。能調眾口誇。

29. 贈魁字郭都護

備兵出遠鎮。征馬去長天。
一箭雙鷗落。長纓萬首連。
山清沒虎跡。海靜息狼煙。
直待封侯日。歸來大纛⁵⁶懸。

30. 贈武林逸度黃公行李

相逢日尚淺。相感意何深。
獨有超方事。非同世俗心。
風輕催去路。月冷傍疏林。
天竺舊遊處。難期再過尋。

31. 壽郡伯澹然黃公六秩

召伯清分地。從遊政自賢。
江寬魚得躍。日暖草爭妍。
爵祿三千重。風光六十年。
春秋喬史上。不必更求仙。

⁵⁶ 古代軍隊里的大旗。

32. 贈別駕路公

仙標來楚地。灑墨散霞光。

龍虎生風雨。松梧滴翠香。

化機旋指掌。浩氣養玄黃。

擬結蓮花社。盟同西嶽長。

33. 壽郡侯杜公六袂

萬畝分春象。千花擁壽觴。

鼎高騰綺篆。樽美瀉瓊漿。

周甲年方勝。增籌祿更長。

民心恒與樂。歌詠祝如崗。

34. 贈孝則車公行李

河淡雲輕度。風微秋漸涼。

四方君也志。三益友之良。

問路諳鄉語。停舟傍桂香。

自來詩膽壯。名戰喜逢場。

35. 東阿道中

孤杖侵寒露。長途無客前。

明星猶在樹。曙色半橫天。
去路不知處。來時未記年。
一身何所寄。萬里自隨緣。

36. 秋夜露地乘涼

秋夜暑猶在。獨眠露地風。
星光搖樹底。螢火亂空中。
好景隨時異。長天到處同。
有生俱作客。誰是主人翁。

37. 炯公何部郎見訪

雲鳥辭丹陛。仙乘出紫霄。
帆迎湘水上。路入楚山遙。
博野秋光淨。微涼露氣饒。
因從巖下過。一見信同條。

38. 鄭太白太史見訪

芳音注已久。今日喜逢迎。
氣並雲霄遠。心將海月明。
圖書聯北斗。翰墨重南城。

遺我扇頭句。深知道在情。

39. 謝給諫見訪

六月日方炎。幽林暑不到。

全無世上思。豈有山居好。

溪月演真文。花禽談秘奧。

忽傳天使來。深入煙霞道。

40. 謝馬明府送衲衣

惠我千鍼衲。寶為百福衣。

勝叨施力博。深愧道心微。

石聳層雲碧。松新滿月輝。

披之勤禮誦。相與共歸依。

41. 為豈凡金副憲作

宿乘菩薩願。來現宰官身。

已透生生意。全無屑屑塵。

弓絃清磬響。劍氣玉毫新。

大用隨時發。圓通本一人。

42. 贈惕若王公從鄉試之閩吳

林深思月照。鶻俊欲天飛。

不有金蘭契。寧期藤樹依。

吳山瞻海曙。閩嶺入雲微。

禁籍知名日。遙迎駿馬歸。

43. 郡侯熊翁見贈佳韻賦此以謝

重陽先六日。五馬出郊來。

秋蝶猶春舞。霜花迎露開。

尋幽忘鳥道。得句見仙才。

期結東林社。蓮從石上栽。

44. 遊龍牙寺

昔布金磚地。今成腐草田。

礫礫如舊列。石磨尚相連。

山帶攢眉思。溪含噎氣言。

空餘碑可讀。興復在何年。

45. 遊白鹿寺

為訪德山寺。因從白鹿過。

殘碑苔蘚隱。屋漏烏蛇多。

階砌沉荒草。龕床引薜蘿。

銅鐘得出土。興復事如何。

46. 禮德山鑒禪師塔（八首）

威名千古重。遺跡至今存。

度火機⁵⁷先薦。孤峰記後尊。

鉢持獅子乳。棒斷野狐魂。

四海參玄士。幾多入大門。

其二

點心從飯店。歸命在龍潭。

燬燼五千卷。巾瓶三十年。

根深榦自大。行重德應先。

愧我瞻依後。真燈可許傳。

其三

龍牙碑獨泣。白鹿鐘傷神。

遠望德山樹。遙知梵宇新。

⁵⁷ 龍潭大師點紙燭，度與德山師，師擬接，潭復吹滅，師於此豁然頓悟。詳見德山禪師開悟因緣。

入門香有氣。禮佛地無塵。

老柏與雙桂。鑿師常住身。

其四

吾師每說法。曾未立纖塵。

何事手中棒。反為膝上痕。

佛魔原未有。物我本無因。

請看猿呼影。方知枉費神。

其五

頽磚遍地寂。古木蔭山寒。

碑有昔時跡。寺無前代寬。

龍潛知守戒。鳥集喜偷安。

閒殺手中棒。應將一舉看。

其六

病骨不辭老。枯藤如舊狂。

因來朗水曲。獨眺孤峰傍。

柏子流香遠。松煙極目長。

吾師常說法。青殿倚山光。

其七

兒孫千載下。衣鉢萬年長。
自是靈山在。亦因道祖光。
猿依楓樹古。鳥弄柏枝香。
不見崖頭老。推師再上堂。

其八

臨濟三遭棒。兒孫次第新。
未聞善德老。曾打是何人。
虛事傳成實。流言返作真。
知師手裏棒。究竟本無因。

47. 游武陵溪口

欲卜桃園隱。因過帝子家。
金莖多瑞露。玉葉溢紅霞。
淡白孤亭月。清香上苑花。
仙枝真異俗。劫外有靈芽。

48. 贈覺花林茂才

客路同相聚。心知自有緣。

欲期出世外。應識未生前。

物物非他物。年年是舊年。

直須與麼會。劫火是青蓮。

49. 贈惟高謝茂才

幽質宜偏僻。芳姿喜淨深。

清香超俗味。淡色遠塵心。

孤潔堪方玉。名高不說金。

靈苗空劫外。能得幾知音。

50. 次朴先劉公韻

廿載臥煙市。未忘巖穴心。

傘居思大樹。竹隱慕祇林。

瘦骨將垂老。癡狂猶未禁。

逢君如舊識。方外獨知音。

51. 贈邑侯

一錫從雲水。三生訪舊緣。

先聞邑得聖。今見地多賢。

瑞草乘時秀。名花到處傳。

仰觀松頂月。清白可齊天。

52. 贈真復譚公

定力從心淨。慧根本性靈。

思修真自復。持誦念逾精。

種竹為遮俗。栽松喜並清。

我來特遠訪。再結白蓮盟。

53. 贈閒閒陳居士

閒共白龍隱。山深別有天。

避人唯念聖。求友自知賢。

竹影搖空翠。松陰結暮煙。

欲明今日事。須信未生前。

54. 禮青原祖塔（八首）

曹溪承密印。來住青原山。

質直心無巧。平常語未艱。

雲深迷鳥道。溪遠隔人間。

千載重新日。應知不等閒。

其二

達磨單傳旨。從師兩派分。
初開枝重大。垂蔭葉紛紜。
灘激瀑如吼。淵深浪不文。
五位君臣語。兒孫愛逐群。

其三

米價家常話。傳聞遍地新。
但能了未有。所事那非真。
色色廣長舌。聲聲堅密身。
渠儂生活計。全不費精神。

其四

高盤雙象嶺。深入一龍溪。
自古真山水。多為聖住持。
蒼崖還舊色。喬木吐新枝。
好境與人共。俗心難並知。

其五

殿聳雲生棟。池開水遶廊。
魚歡吹浪響。鳥語帶花香。

梵唄清聞遠。幽鐘覺夢長。

夜來獨眺望。無地不名場。

其六

祖塔標雲外。慧燈照劫前。

溪山常自在。猿鳥幾更遷。

喜得中興日。知為別有天。

龍神時密護。此道大生緣。

其七

崖畔黃荊樹。傳師手自栽。

枝垂欲鳳舞。幹老作龍腮。

古字難於讀。真文不用猜。

山靈護法在。此木有神培。

其八

山深多宿鳥。荊老復生兒。

欲識青原主。應知白社師。

家風全舊業。法道自新奇。

人境性俱寂。何曾有悟迷。

55. 贈旋觀王公

十年知有道。今日荷清光。

已躋三賢位。恒居四攝堂。

聖朝真羽翼。法苑大金湯。

因識螺川上。從來佛日長。

56. 贈平田劉明府

尋僧入古寺。乘興過西峰。

見性能超俗。談心妙合宗。

疏林通細徑。晴日影長松。

密契生前事。清聞原上鐘。

57. 為幼潛王公題墨竹枝

倒幹蒼龍起。垂枝紫鳳翔。

從來君子道。自是不尋常。

孤潔知根本。清疏見節長。

因茲雨露勝。滴翠日生香。

58. 謝郡侯李翁贈米糲

偶來禪坐處。一見謂先識。

半是鄉情重。多因聖性直。
遺糲憐我瘦。分麵荷君食。
好共華山上。雲霄次第陟。

59. 為雲郡侯熊翁見訪

鎮日響明德。無因接淨光。
偶來深竹裏。頓集雨花香。
徑仄轉幽密。林深送晚涼。
抑揚超楚俗。重見趙公堂。

60. 留別任之郭公

初到螺川上。逢君信有緣。
但知身是幻。無別道堪傳。
護念能仁寺。安心古佛園。
此行期未遠。回日共超然。

61. 為給諫熊青翁作

多年辭錦闕。逸老愛疏林。
天地廬堪蔽。溪山畫可珍。
隨緣闊耳目。無處不身心。

時上歐峰頂。清聞鐘磬音。

62. 壽旋觀王翁六袂

仙翁推⁵⁸己卯。花甲喜同周。

賀客遙知眾。山芹寧敢修。

聊緘一二字。猶祝百千秋。

如得逢迎日。雲霄共上游。

63. 為給諫約生熊公

春寒積雪重。天諫刺雲來。

霧密山常隱。林深凍未開。

為尋鹿苑跡。因見鳳池才。

談到無疑處。方知不用猜。

64. 懷郭首龍居士

知君夙慧大。乘願入今時。

處世能超悟。居塵為導迷。

飯香發舊廩。荊老布新枝。

遙憶螺川上。青原月滿池。

⁵⁸ 顓愚和尚年譜作‘仙庚惟’，二者皆通，故並存之。

65. 懷素而郭公

麟龍次序至。門第自高崇。

聖性期先覺。佛乘信不空。

培蘭宜獨秀。種桂並成叢。

香象歸依處。昭然心目中。

66. 贈孝先劉二公

三度識君面。此回方會心。

放閒惟自省。清尚待知音。

不欲酒場勝。欣然茶戰深。

非因宿有約。寧得契同金。

67. 贈石者朱部郎

究取真常樂。休將物我分。

身心同聚沫。世界等浮雲。

應事先輸己。同光漫逐群。

青山結白社。相與細論文。

68. 贈叔監鄒孝廉

已具金剛骨。能為智慧身。

安心不住相。護念自超塵。
報母修真果。延僧問淨因。
共結竹林友。清聞日益新。

69. 再過青原

有意曾參去。無心又到來。
山還舊面目。人已半疑猜。
知我祖靈在。求賢天眼開。
慧燈如續燄。須賴卻前才。

又

七祖棲真地。靈源來處深。
有緣我再到。無聖共誰臻。
花竹堪供眼。溪山漫語心。
春來連夜雨。滴滴海潮音。

70. 贈安于劉二公

三年來托鉢。大事為君賢。
廊廟根基遠。祇桓道義全。
惟知生可護。無別法堪傳。

自慚猿鳥隊。何以列芳筵。

71. 贈安世劉四公

六月炎方烈。喜迎江上風。

傍松心自寂。近水影隨空。

聽鳥生機露。觀帆客夢同。

故鄉何必問。無地不圓通。

72. 答元公黃居士

未識神先與。觀光念獨空。

大雄能自在。善應本圓通。

坐斷孤峰頂。踏翻海岸東。

令人無覓處。千古仰真風。

73. 游金山寺

萬頃波如鏡。山光影次中。

銀盤托翠殿。金烏⁵⁹出瓊宮。

水合雲天碧。燈聯星斗紅。

神龍恒出沒。大徹憶元公。

⁵⁹ 金烏為太陽之別稱，前銀盤指月亮。

74. 游焦山寺

水淨玻璃界。光清涵翠微。

殿深多鳥宿。江遠到人稀。

古木流霞色。蒼崖佩薜衣。

勝觀酬積慕。不覺踐西暉。

75. 訪朱涇船子道場（四首）

久慕浮沉意。來尋古道場。

孤舟無處覓。寒像有餘剛。

寺舊接煙市。僧稀少法堂。

瞻依空自惜。無計續清光。

其二

橈下無生口。死生權在手。

不知顧命魚。正遇垂鉤叟。

明月照空階。清風搖斷柳。

獨憐昔日舟。今已為誰有。

其三

含虛魚口大。鉤餌若何施。

斫盡南山竹。空垂東海絲。

真心惟自適。明眼許誰知。

獨有朱涇月。清輝如舊時。

其四

三紀煙波上。單求一個鱗。

卻將窮性命。番作覆舟人。

漫擬屈原夢。寧同范蠡身。

清歌惟自許。千古韻猶新。

詩（七言律）

1. 懷霞衣和尚

昔年親到金剛窟。此日沉淪失老翁。
清拙獨難酬法語。薄緣何再列真風。
山間煙水千重遠。月照晴虛一色同。
每憶旃檀心未盡。幾回夢入竹林中。

2. 和車大參韻

綠柳紅桃溢目新。溪聲山色更宜春。
樽前把臂金蘭契。石上論心道德真。
繩約結來猶彼此。煙霞醉後何疏親。
道人別有情深處。不是白雲自在身。

3. 壽太常劉翁七句

朱顏皓首擬商山。城市韜光疏往還。
幾向烏臺瞻紫極。每遊鹿苑扣玄關。
年來七十增花甲。壽到八千獻綵斑。
掌上靈芝今已秀。清心好共白雲閒。

4. 思鄉

落魄江南二十載。杖頭曾未遇家音。
椿萱定已頭更雪。鄰里誰先骨化金。
南北地分人杳隔。關山天遠月同臨。
此生料在千峰老。何竭青烏一片心。

5. 懷旋湛師

憶昔曹溪得遇君。相依半載遽為分。
自知鈍鳥棲巖下。每擬神駒度嶺雲。
冰雪獨侵山寂寞。雨花應遶座繽紛。
幾回對月思交者。情想偏于重處勤。

6. 次耽野山人韻

請君入社意何如。陶令曾遊惠遠廬。
簷下疏窗堪對月。門前近水任潛魚。
明心還是單傳旨。遮眼須憑幾葉書。
莫謂世緣難擺脫。秦宮漢闕總成虛。

7. 次紫蘿居士韻

蹤跡留連隔翠微。經年臥疾怨相違。

眼前世事隨時盡。物外空山何日歸。
七尺枯藤同我瘦。五峰巖鳥傍誰飛。
知君有意尋幽谷。石上松間可共依。

8. 次車四公韻

漫隨霜葉論浮沉。獨向空林幽處尋。
柏子樹殘親見道。桂花香發已明心。
世間名利有清濁。物外煙霞無古今。
好展襟懷包萬象。雲高水瘦示秋深。

9. 懷清海呂居士

昔年結夏在澧溪。吾道逢君有護持。
別日曾期即復返。窮途不料轉支離。
流雲萬里歸空谷。冰雪千尋墮淨棲。
幾載遠違銀鴈隔。道心應是勝當時。

10. 和太常劉公韻

作家無過馬師機。一喝如雷絕百非。
照膽當臺全體現。吹毛出匣倚空揮。
白雲峰外須回步。明月巖前漫掩扉。

若信超方別有事。莫教虛度薜蘿衣。

11. 和孝廉王公韻

蟬聲昨日始鳴秋。雲澹長空水澹流。

識破目前俱幻夢。相逢石上即清幽。

青山深處徒尋拙。白日隨時莫問休。

鏡裏不須驚病老。滄瀛豈逐去來漚。

12. 遊冶城棲霞寺

深巖峭壁隱金容。紫氣紅霞遶幾重。

遍地渠流八德水。參天翠疊萬層峰。

池分蟬影高低月。谷納鯨音遠近鐘。

四絕寰中此第一。浮生能得幾過從。

13. 自述（二首）

一自為僧學苦空。溪山行盡意還同。

衲衣初染西山雪。孤杖橫搖南海風。

侵野雲霞生面上。寒霄星月落盂中。

于今臥疾十三載。向後餘生未可通。

其二

蕭然無事可如情。空自高兮雲自輕。
坐近南山孤袖翠。影臨秋水一魂清。
疏霞流彩穿斜照。去鴈遺音別晚汀。
湖海身心何處寄。青鷗白鷺每逢迎。

14. 秋日晚望

倦起閒行獨暢哉。輕雲疏影幾徘徊。
秋高鴈老南中度。江遠人寒天上來。
野寺空餘清梵唄。澄潭水底次樓臺。
幽人莫使興愁望。肆眺應教淨眼開。

15. 鷺鷥

不巢樹杪不翔空。飛傍蘆花一色同。
獨立白蓮停水上。影沉皓月落波中。
兀然聊似守株者。清矣端如直釣翁。
自信疏蹤超燕鷲。從來不解避霜風。

16. 題畫

山有亭臺水有船。生涯何處不安然。
遠觀遠水渺無際。深入深山別有天。

晝永樵歌聯谷口。夜來漁火出江干。

休將春夏秋冬事。換卻白雲深處禪。

17. 次郡侯熊翁韻

插草藏身瀆水東。毘耶消息許誰通。

鶴蹤獨立千峰外。車駕何來萬樹中。

有意尋真真否幻。無心對境境耶空。

聲前一句如應問。夜海煙消杲日紅。

18. 初遊雲居作

路入雲霄山外山。幾人曾過趙州關。

碧溪流水隔塵遠。明月湖光自古閒。

千載樹神靈有在。萬年香火信無慳。

徘徊祖道重輝日。杖鉢相期去復還。

19. 輓六來王郡伯

雙清磯後五臺庵。此道思君是指南。

松榻有時欣共塵。竹林無間喜深談。

西峰遙下鵝頭髮。南國頻來鴈足函。

獨悵死生情未盡。空教孤月照蘿龕。

20. 璧黃介公玻璃瓶

介公接得曼殊盞。化作頻伽甘露瓶。
今日拈來仍舊色。諸方傳去有新聲。
能將獅子乳同淨。卻並楊枝蔭復清。
借獻文章第一府。相看莫落世中情。

21. 謝弇丘沈司馬齋

誰信齋筵是法筵。天花爛熳雨階前。
滿盤托出皆家具。覲面相呈無別傳。
飽食非文全正令。加餐重頌是真詮。
欲知此句離言說。此句堪酬地主賢。

22. 次王介公韻

一別雙清漸有年。思君幾度月明前。
未能立地超形跡。只得隨時了世緣。
迎翠堪憐新樹色。碧溪遙憶舊茶煙。
知君昔契竹林密。不惜芳音為我傳。

23. 答黃介子用來韻

城市山林地有靈。清涼消息幾能明。

無為那得同仁視。有道誰堪與世驚。
虛谷啼鶯音自古。高山流水韻還清。
落花飛雪時相聚。何用蘭舟作遠迎。

24. 宿祖堂有感

昔年到此求知己。今日重來訪舊緣。
巖下空空融面目。軸中字字雪言詮。
夜清百鳥同林宿。秋老孤猿抱果眠。
最喜慈恩遺像法。瞻依深感主人賢。

25. 靈谷寺禮寶公塔

遙望松煙五里深。入門夾道影陰森。
池清邀月拭新浴。谷淨迎鐘遞遠音。
殿迴無梁如古洞。塔高摩漢並危岑。
從來大聖靈多在。千載令人起道心。

26. 游雞鳴寺

翠積鍾山天際寺。雞鳴得遂上方游。
寶公遺像為誰住。融祖真身豈獨留。
煙樹樓臺環帝闕。江城塔廟壯皇州。

登臨喜見乾坤闊。幾憶唐虞百萬秋。

27. 禮長干塔

長干孤立妙高峰。梵語流光遠幾重。

寶頂九霄聞貝響。層門八面見玲瓏。

神工奇出接天巧。佛力猶來鎮地封。

仰視巍然身欲起。徘徊不盡意何從。

28. 次靈谷堂頭覺公韻

第一山頭月正明。江城無地不光生。

聲前正令誰先薦。雲外孤蹤我獨輕。

靈谷喜陞新法座。鍾山思結舊時盟。

知君不負人天請。萬丈門庭一指撐。

七言絕句

1. 輓憨山本師和尚

曹溪一見許相親。再叩衡山意更真。

五乳峰前誰說法。高山流水萬年春。

2. 懷霞衣和尚

寥寥方外幾經秋。百技都將付水流。

獨有竹林時入想。年來衣鉢是誰收。

3. 遊白蓮池

登天雲路半空開。瑤草香花擁石臺。

池內白蓮花正放。不知僊子幾時栽。

4. 遊武夷水簾洞

匡廬瀑布三千丈。鴈宕龍湫萬仞高。

晚興獨歸僊子洞。簾垂斜日照波濤。

5. 山居（三首）

獨宿孤峰百念輕。長空寥廓夜霜清。

誰知個裏閒消息。月照寒巖幾處明。

其二

寒巖松食綠荷衣。坐石談經任鳥圍。
一片煙霞橫谷口。從來此境到人稀。

其三

獨坐寒巖得意時。雪深百尺未為奇。
解空不假離聲色。一任孤猿月下啼。

6. 題畫

斷巖疏柳小亭空。青嶂重重影梵宮。
石徑苔封行跡少。晴陽獨見抱琴翁。

7. 秋思

秋山紅葉自寂寂。晴日白雲何鱗鱗。
萬里長空無住著。一聲鴈語獨惺人。

8. 壽車翁自心居士

南山鶴老八千歲。北海鵬搏九萬遙。
借問人生行樂事。百年七十是僊標。

9. 壽香巖劉居士

千年松影千年鶴。百歲人逢百歲春。
一度花開一度錦。幾回月上幾回新。

10. 送馬茂才

天街煙柳細吹人。雲路瑤花香異新。
又得煖風連夜發。一聲鶯語萬家春。

11. 送龔茂才

凌霄雲路去天臺。郁郁香風拂面來。
日照海紅龍躍錦。百花應是為春開。

12. 送彭茂才

嚶嚶花鳥上春林。金石鏗鏘紫苑深。
晴日玉階欣共醉。朱纓贏得壯紅心。

13. 歲旦贈車翁

一年一度長年華。笑看兒童共聚沙。
白髮暗思殘歲月。幾多竹馬自橫斜。

14. 賀玉田李公新門

碧山環翠水生霞。金玉門庭出善家。
春暖池塘青靄靄。高槐嫩柳錯如花。

15. 贈市隱居士

秋雲城市任相逢。何邈深山幾萬重。

高館笙歌吹落月。孤村砧杵搗疏鐘。

16. 贈五臺曾公

雨滴巖花火欲然。風吹岸柳娜如綿。

雲中樓閣和空靜。樂意昇觀第幾天。

17. 題畫

遠山野水小橋斜。古木高林棲晚鴉。

斷石孤亭相對坐。百年無事付殘霞。

又

倚空石筍青如洗。向日巖花紅正開。

寄語看花人入眼。春光過去不重來。

18. 懷守心叟

當年親近遠公師。今日驅馳空自迷。

遙想五峰冰雪冷。不知白卻幾莖眉。

19. 嶺南送禪客歸五臺山

百草青青夏日長。歸途萬里入清涼。

今朝相送梅關外。何日重聞飛雪香。

20. 贈易門劉公啟制

虛谷幽棲春色來。龍門變化起風雷。

滔滔無盡雙清水。碧映紅桃夾岸開。

21. 贈明宇歸武陵

駿馬嘶風去路輕。鳥啼花滿武陵城。

儻逢舊日秦人處。借問桃花幾樹生。

22. 贈中潛居士歸鄉

江上官棚板壁黃。優游水國自風光。

知君明歲春先到。惠我松蘿一小囊。

23. 贈應度居士遊南嶽

祝融峰頂四天空。可望金烏出海紅。

折得珊瑚盈碧袖。歸來遙聽馬嘶風。

24. 贈思履王公北上

天衢鶯囀百花新。信手拈來都是春。

無限香風吹不盡。採芳還是玉階人。

25. 次孝廉羅青田韻

北山孤鳥自南來。數載回翔憶五臺。

燈夜喜君談密意。那知紅焰起寒灰。

26. 題小畫

萬疊青山望不極。重重霞色結幽深。

喬松幾處影茅舍。欲問人家生隱心。

27. 贈東川李居士七十九

只少一年是八十。霜盈鬚髮雪盈眉。

迢迢大路觀如舊。來往行人幾故知。

28. 題墨畫蘆鴈

遠山極目色蒼蒼。蘆鴈相參步有行。

野燎杳無煙火氣。前村應有路還長。

29. 懷司空澹然黃翁

長干車馬古今叢。臺殿崢嶸海氣雄。

高坐瓦官前代寺。知君乘興訪支公。

30. 贈克遠曾國學五旬

階下青蘭迎客至。庭前白鶴望僊來。

雲山水接龍山水。長注曾公五十杯。

31. 贈玄印上座

雲陽共入楞嚴定。別後俄經二十年。

此日相逢來意外。真情難盡舊因緣。

32. 寄懷雪嶠和尚（有引）

衡昔居靜天台華頂峰。有頭陀號不空者。常來投齋共宿。行坐喃喃。句多不落古人聲調。予時癖淨。忽而不察。別已四十餘年。不聞下落。數年來徒仰雪嶠之名。今乃知嶠公即向之不空也。聲高海內。深愧昔時當面錯過。偶成二絕。書呈法壇併政。

四十餘年音未通。諸方共慕雪嶠翁。

今知名異人無異。雪老原來舊不空。

又

當年華頂同兒聚。今日猶聞襦袂聲。

自是異人無軌轍。風來雨去若為情。

五言絕句

1. 懷古

舉頭秦日月。極目漢山川。

試問長安道。誰為古聖賢。

2. 秋夜（二首）

月色清鋪水。砧聲響落秋。

蕭疏人影淨。恍惚泛虛舟。

其二

螢火去還來。蟲音響不絕。

誰堪臻此境。能樂不能說。

3. 晚望

長空八九鴈。秋水兩三鷗。

往返歸何處。茫茫一葉舟。

4. 送禪人歸雲陽

遠自雲陽來。今辭濱水去。

谿山都一般。明月歸何處。

5. 雨中

微雨空含潤。輕風荷欲搖。

兀然風雨裏。蛙聲破寂寥。

6. 林間坐

無事林間坐。鳥來傍我立。

不唯心已灰。形亦寂如石。

7. 山居（五首）

早年急學道。到老返無為。

溯思童子日。恰似隔雲泥。

又

日暮倦欲息。早起仍復作。

不知誰所使。歲月流如梭。

又

少年多獨行。老與眾同居。

身老心不老。真箇是顛愚。

又

自小未作家。到老多顛倒。

不解討安閒。鋤雲復鋤草。

又

秋山獨自行。忽然遭一跌。

至今筋骨疼。羞向人前說。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第十九

（揚州府華嚴巷敬佛庵剃度孫比丘尼旋義。敬刻顛愚先老和尚語錄第十九卷。計字八千二百。該銀肆兩七錢四分六厘。仰祈慈力加庇。庶得人人悟般若真空。個個證菩提妙果。康熙十五年四月 日楞嚴藏經坊附板）

紫竹林顓愚衡和尚語錄卷第二十

住南康府同安寺嗣法門人正印重編

詩

雲居雪獅子韻（一百首）

瑞物舒光靈鷲臺。天花片片聚成胎。
試看表裏無餘色。應信孤高本自裁。
微吼能驚山嶽震。獨踞那計豹狼來。
寒威體露無遮蓋。牙爪分明不用猜。

二

生獬玉質降瑤臺。不比尋常塵垢胎。
牙爪有威雄自烈。膽毛無畏勢難裁。
一時震吼音聞遠。千里遊行瞬息來。
相視漫將知見會。本來面目絕疑猜。

三

林木山川白玉臺。新年獅子降新胎。
地靈自有靈時現。天瑞還從瑞物裁。
狐兔聞聲皆遠去。魍魎見跡絕無來。

懸崖返躑稱雄力。百獸尊王豈用猜。

四

空中突出妙高臺。雪裏俄生奮迅胎。

滿肚冰霜潔自勝。通身珠玉貴難裁。

嘯天餘氣沖霄漢。踞地威風肅往來。

自性堅強誰比似。渾然劫外那容猜。

五

獸王偶降宿雲臺。白淨光中白淨胎。

自是威神多未見。故令人欲共相裁。

玉關難以防蹤跡。金鎖寧堪繫去來。

獨步縱橫空劫外。世間知見孰能猜。

六

山高雪重結銀臺。相聚冰花成玉胎。

筋骨難將諸獸比。皮毛不拒萬人裁。

白疑象駕普賢至。威見獅乘妙德來。

分付諸君須入眼。此回莫作等閒猜。

七

多年未見清涼臺。今日欣看冰雪胎。
傲骨當風能獨立。孤蹤踞地那堪裁。
詩人得句生幽興。遊子知歸擬再來。
中夜月明渾一色。清光獨照豈容猜。

八

雪爪冰肌嘯玉臺。千林萬壑一胞胎。
回頭欲吐生前意。舉尾誰堪當下裁。
近睇多愁寒且凍。傍觀少見去還來。
清高勁骨天然貴。白牯驚鷺莫浪猜。

九

山上重雲雲上臺。瓊蕊梅花聚作胎。
劫外風光能獨露。世間音韻漫相裁。
幾回刺霧披雲去。每自冠星戴月來。
就裏未通凡聖竅。休將形跡當真猜。

十

雲外高明雪滿臺。侵人冷燄結清胎。
大張口吻吞諸相。矯起眉毛壓眾裁。

獨步不隨芳草去。閒行未逐落花來。
知君到處人難到。用盡枯腸不易猜。

十一

雲居峰上雨花臺。白色白光結白胎。
揚尾掃空威自振。舉頭嘯月韻難裁。
遍尋曠野閒居處。不向長街共往來。
因此人間多未見。聞風望影亂相猜。

十二

雲居祖地說經臺。勝雨天花明月胎。
爪似剛錐深地刺。牙如霜劍倚天裁。
當空未見寒宵伴。中夜誰侵冷色來。
左顧右看無縫罅。孤高不與世人猜。

十三

天開靈域出雲臺。地勝偏宜產勝胎。
首尾似將銀鑄就。爪牙猶似粉裝裁。
深藏沒跡難尋覓。遠舉超然易往來。
乍見寒威雄欲起。令人幽思一齊猜。

十四

白毫光裏白銀臺。瑞氣凝成無畏胎。
剛骨從來別有種。威獰到處迴無裁。
嘯天吼地獨尊貴。逐日追風自去來。
智力難將百物比。相看不用更相猜。

十五

碧溪流水遠平臺。雲裏光生白澤胎。
步大游行從大徑。力雄發用自雄裁。
迎門遠召千祥集。鎮宅應無百怪來。
眉目現前無實性。依稀蹤跡任君猜。

十六

雲裏光生白寶臺。碧空寒色現奇胎。
雙睛掣電生人畏。一吼驚雷無物裁。
靈性知藏非去去。芳蹤欲出不來來。
但知本體離思議。不用將心上下猜。

十七

一片寒光照法臺。大雄獨出劫前胎。

無心自是人難會。有相從緣物可裁。
恍惚鏡花誰取與。依稀水月自何來。
眼前不是眼前物。語意難容到此猜。

十八

寒飛奇瑞聚瑤臺。嘉境多靈產異胎。
千驥罕追塵後跡。萬夫未敢目前裁。
孤蹤不識從何隱。芳躅無因偶自來。
多少海山游獵客。漫將狐兔當熊猜。

十九

高聳崔嵬雲外臺。白毫光裏降靈胎。
威風自是無倫匹。傑氣何從作擬裁。
入眼幾多當面錯。聞聲實少近身來。
欲知此物真皮骨。且莫情常毛羽猜。

二十

萬峰高處見平臺。天雨冰梅聚似胎。
本色不容丹紫污。獨尊空費有無裁。
休將曠野求蹤跡。漫向人天覓去來。

物外清標真可尚。幾勞行客動思猜。

二十一

五龍潭上放光臺。靈氣將生先兆胎。

獅子巧呈白雪相。金毛翻作玉梅栽。

寒霄星月同清賞。露地風霜誰共來。

天降瑞徵多遠意。微言莫在眼前猜。

二十二

金毛何事降靈臺。萬樹千峰共一胎。

奮迅早能超彼岸。生嚴不用借神裁。

寂然未逐春秋變。應節猶從逆順來。

須信故園這一事。元無面目與君猜。

二十三

湖月同輝明鏡臺。忽然現出狻猊胎。

寶華王座隨時供。白澤神圖舉世裁。

喜怒原非關自己。去留本是為人來。

試看著腳居何地。方識渠儂不受猜。

二十四

雲中獨聳清涼臺。香雨寒吹見粉胎。
牙爪不於深處隱。皮毛卻惹世間裁。
調兒那怕揚家醜。尋食須知有路來。
一墮胞胎難覆蓋。寧教人世不疑猜。

二十五

真如寺坐蓮花臺。此日何因見瑞胎。
萬壑風濤同震吼。千林雪瀑並威裁。
下方能達上方路。彼地同歸此地來。
識取者般無用物。任他神怪不須猜。

二十六

五老峰前寶月臺。常年雪舞一朝胎。
千山俱戴何人孝。萬木同為故國裁。
有意揚威全己力。無端發怒為誰來。
朔風切莫將春會。此物從來絕擬猜。

二十七

慧命相傳般若臺。雲中寒積雪凝胎。
空清猶帶生前意。高曠奚關世上裁。

芳草綠楊何處賞。零花白蕊此時來。
羚羊挂角無尋處。大道休將小技猜。

二十八

獅子何來嘯月臺。威靈獨躍雪花胎。
降魔自在無勞力。調子縱橫妙有裁。
倒地翻身仍復起。入空沒跡又重來。
盤旋總是憐兒態。一任傍觀作戲猜。

二十九

雪月交輝光滿臺。忽然突出吉祥胎。
通身不染玄黃色。索性何堪花卉裁。
威武自強喜亦怒。優游獨步去還來。
超群靈跡迥殊別。管見休將羊鹿猜。

三十

漫漫雪色照巖臺。寒結光凝獅子胎。
大性未嘗拘小節。雄心自不許輕裁。
踏翻海嶽獨無比。吼震乾坤誰敢來。
縱使平常人亦畏。凡情無怪不能猜。

三十一

雲居高聳比天臺。雪舞楊花大狀胎。
混沌不須為鑿竅。堅凝何必用修裁。
空階獨坐若何待。長夜高踞有自來。
一片寒光絕管帶。此中元不許人猜。

三十二

極喜雲居諸祖臺。往來飛絮積如胎。
稍從方外師僧手。不假人間工匠裁。
天性須知獨自許。靈蹤莫問為何來。
欲將此物求端的。放下胡思與亂猜。

三十三

明月湖光明月臺。雪花狼藉纍為胎。
清標信自天中降。生氣疑從神力裁。
日月雙睛空裏怒。乾坤一體劫前來。
世間多少奇男子。錯把英雄顛倒猜。

三十四

無心杏樹遠香臺。雪放寒光照玉胎。

極目瀰茫同一色。驚心胡亂起千裁。
出門高躡白雲去。策杖遙從銀漢來。
欲問鄉關何處是。東家莫作西家猜。

三十五

羅漢塔朝佛印臺。漫空雪裏降神胎。
谿山盡為冰壺飲。樓閣俱將玉屑裁。
日照通身因汗下。霜侵全體長毛來。
現前好覓來時路。莫到空階枉費猜。

三十六

石鼓皦皦震法臺。天祥地瑞共胞胎。
奇形不是無因出。威狀誰堪有意裁。
舉止獨從法運轉。精神原為國徵來。
即今識取太平相。莫問君平大衍猜。

三十七

膺公去後見空臺。今日天花降吉胎。
頭上有頭人未見。肚中無肚那堪裁。
渾全不許通諸竅。純潔何容與物來。

獨露堂堂壓萬品。皮毛漫作一斑猜。

三十八

雲表空餘說法臺。多年未見聖人胎。

此日雨花呈瑞相。來朝續燄有靈裁。

正當霜月堪遊戲。分付狐狼漫出來。

往返不由樵子徑。欲求形跡杳難猜。

三十九

彭湖波湧月明臺。雪覆千林呈素胎。

妙德光中無可覓。威音那畔不須裁。

應知瑞物因時至。還信休徵為法來。

無相何嘗違有相。名言莫到口邊猜。

四十

修水紆回古佛臺。今朝又睹舊時胎。

乾坤遍布白毫相。宇宙遙憐玉瑞裁。

特緣好事呈先兆。不是無為到此來。

毛骨明明全本色。何勞穿鑿落疑猜。

四十一

灑掃雲居舊日臺。天公雨瑞結冰胎。
冷光早露故園信。寒色不違當地裁。
大士能將慈力伏。小郎寧敢躡蹤來。
威儀不是尋常見。到眼看來莫亂猜。

四十二

雲中一片袈裟臺。諸祖威靈降聖胎。
大體橫空絕對待。孤標卓地豈雕裁。
門庭高峻維新製。法道重興如舊來。
看透現前無別物。莫教心思捕風猜。

四十三

刺空孤立法幢臺。寒雪恢成心印胎。
祖令未知何日舉。宗風先兆此時裁。
當陽獨示機前意。為物姑從階下來。
自是家傳正法眼。不隨俗子起狐猜。

四十四

雲堆祖地舊煙臺。有道將興現瑞胎。
堅密何容毛髮入。精貞不到剪刀裁。

端師慣作村前舞。大士高乘雲外來。
靈物出時知有應。相看不必預先猜。

四十五

慧燈繼照佛光臺。獅子來呈法運胎。
雪爪拿狐血不染。霜肌飲霧香難裁。
飛行慣會憑空下。垂跡何曾踏地來。
明白風光宜薦取。思量不免落疑猜。

四十六

天花頻雨光明臺。香滿山林見寶胎。
神彩殊奇非世有。精瑩皎潔自天裁。
爭觀圍繞前仍後。耽視徘徊去又來。
好鏡乘時冥共賞。大家歡悅競幽猜。

四十七

重雲高捧坐禪臺。香雪霏霏結勝胎。
大勢儼從神方出。精微不借鬼工裁。
瞻依旋復多忘返。聞說推排爭欲來。
車馬幾能臻此境。惟餘清曠我閑猜。

四十八

趙州關護法王臺。佛國原無異種胎。
毛骨餘寒唯雪聚。爪牙剛利盡霜裁。
騰空沒處追遺影。應物乘時似再來。
當面逢迎須著眼。大好休同狐兔猜。

四十九

安樂殿前安樂臺。雨花爛熳降天胎。
靈機不墮古今數。淨性寧為起滅裁。
仰視長空能自視。忽來斯地有因來。
幽人好共同高尚。莫把浮軀作實猜。

五十

碧溪橋鎖白雲臺。天地冥濛幻若胎。
冰雪冷腸通底潔。風霜剛骨傲天裁。
雅觀閒曠輟毬去。極喜舒懷抱子來。
看取生機無巧拙。溪山蘿月一般猜。

五十一

前後三三塔有臺。祖靈今日見靈胎。

勢高漫擬從天降。體白休疑是雪裁。
真際不行鳥道去。應身猶借鵬程來。
古今途路為家客。關外翻將關內猜。

五十二

雪滿山林光滿臺。香風吹作玉華胎。
清姿勿向空中覓。生氣何關世上裁。
輕易不聞神物出。等閒難遇威乘來。
今朝興到逢佳境。有意同看盡量猜。

五十三

雲漫宇宙雪漫臺。縹緲香生變化胎。
出沒有時人罕見。縱橫無定世何裁。
眠雲恍惚白龍隱。步月蕭條玉象來。
大事晚成聞古訓。精思不厭漫相猜。

五十四

鬼鬼雲表舊香臺。光滿長空照雪胎。
明暗獨行爪有眼。高低直往意無裁。
及時樂聚休遲後。有興優觀幸早來。

大道未明明在此。鬧中何似淨中猜。

五十五

密霧重雲護戒臺。寒飛春雪孕香胎。
一塵不立離諸取。兩眼方開落世裁。
寂寂寒庭人罕到。寥寥空界那能來。
逢迎欲問祖師意。月渚風汀不二猜。

五十六

松風蘿月護生臺。春雪飄飄結俊胎。
英氣遠超塵界外。尊生不到世間裁。
大力無當能自立。威行絕待為何來。
相看欲識深深意。眉目分明莫錯猜。

五十七

高高山上五雲臺。雪落空階巧塑胎。
勢若有靈占吉利。心同無計杜思裁。
踏空不許耽空見。示相何嘗住相來。
此事明明俱在眼。莫隨游子亂疑猜。

五十八

當年諸祖降魔臺。今日春寒雪壘胎。
不昧未生前一步。暫隨念起後千裁。
懸鈴意在超方去。脫索知為解縛來。
本體如如無挂礙。言思不到此中猜。

五十九

高出人間心印臺。遙從天上降巍胎。
好將笙管稱新賀。勿誤珠璣盡美裁。
今日共瞻君子兆。後期應見大人來。
齊家打掃蓮花座。翹聽頻伽音莫猜。

六十

重疊青山高上臺。香雲篩雪化生胎。
剛強本事真堪恃。猛力天然不用裁。
五指為降狂象現。一身曾忍獵人來。
威慈自在真無畏。鑽仰何從豈可猜。

六十一

昔年膺祖印心臺。此日天龍喜降胎。
雪質猶存空性在。冰心不落世緣裁。

清涼會稽曾騎出。玄奘靈山多撫來。
一聖出時有一瑞。將來事見信奇猜。

六十二

極上凌霄高顯臺。梅花雪葉砌英胎。
剛腸不為魚蝦染。強力寧堪羅網裁。
時節唯因大業至。世間不是等閒來。
威雄壓眾真希有。妙思何妨語句猜。

六十三

幽蘭芳草翠巖臺。粉雨奇花滿月胎。
尊重不同諸品鬥。剛強自異眾毛裁。
幾向孤峰張遠眺。每從絕壁顯威來。
淨觀自有無師智。莫作滄瀛玩境猜。

六十四

接日摩天獅子臺。霜空月夕降新胎。
河西曾見垂名句。湖北遙聞開國裁。
大用大機誰與觸。獨尊獨貴那同來。
古今多少參禪客。盡把猢猻當寶猜。

六十五

瓊枝霜月雪中臺。喜見階前一出胎。
仰老曾遭埋虎手。圓公卻被乞兒裁。
雲中不受珊瑚策。月下誰披瓔珞來。
幾度欲親親未得。此回也要效顰猜。

六十六

歐山高並崑崙臺。披雪相看希有胎。
清淨不容佛祖見。光明豈借人天裁。
莫言白趾竟何往。勿謂孤蹤有所來。
就裏本無閒伎倆。玄黃朱紫任君猜。

六十七

碧水源生迎翠臺。靈深今見大強胎。
劫前自在金剛骨。眼底縱橫水月裁。
天矯白龍銀海出。猙獰素虎玉山來。
徘徊清致看無盡。收入奚囊免教猜。

六十八

銀色光涵金色臺。凍雲影現大威胎。

霜毫蓋膽雄難觸。冰骨連筋力莫裁。
神鬼鮮能窺所至。人天無計識從來。
獨憐無限游觀客。誰是知音不亂猜。

六十九

寒光散照水晶臺。雪纍香生精進胎。
平等未關三世轉。圓明不拒十虛裁。
落花飛絮隨身下。片月殘霞送影來。
誰向此中知獨眺。冷風割面痛何猜。

七十

萬峰攢簇藏龍臺。雪聚崑然勇猛胎。
冷燄揚輝空意想。寒光流照起幽裁。
誰知此境無人到。我信閒情乏旅來。
獨有凍鳥鳴食切。飛來飛去不疑猜。

七十一

雲擁春山雪擁臺。孤高卓立見芳胎。
平天意氣無他似。本地風光祇自裁。
鐘寂獨餘明月冷。夜深誰共玉階來。

寒空萬里同清致。得有閒情大好猜。

七十二

震旦高標最勝臺。雪飛靈氣化珍胎。

人間天上無栖泊。古往今來絕擬裁。

八面風旋吹不去。一輪月照冷偏來。

此中欲覓真消息。虎眼龍睛沒處猜。

七十三

南浦奇觀歐岌臺。今朝佛日照蓮胎。

本來清淨離諸染。自分光明越眾裁。

有意那堪個裏住。無心誰向此中來。

相從相顧難相識。莫使人天落眼猜。

七十四

萬丈峰頭龍藏臺。新春風雪壯梅胎。

摩尼乍現驚人相。優鉢初分啟世裁。

自是淨光超眾妙。非關塵品不同來。

舉頭誰是知音者。錯把家翁作客猜。

七十五

石磴霞梯冰玉臺。淨光忽現大雄胎。
萬水千林無畏吼。五音六律有新裁。
等閒未出門前去。無事誰從階下來。
知此威神離對待。佛乘祖位亦難猜。

七十六

鷲嶺遙飛落此臺。靈區恒蘊大乘胎。
明明百草頭邊意。步步孤峰頂上裁。
乍喜白牛露地起。又疑玉象躍空來。
生成肌骨原如此。漫把青猿黃鶴猜。

七十七

孤峰皓月步空臺。雪色霞光映有胎。
壓眾巍然唯不動。超群遠矣妙無裁。
庭前瑞事無如淨。門外香聲任自來。
無位真人如在眼。漫將屎橛作奇猜。

七十八

兜率天分百畝臺。靈多瑞現大人胎。
卓然未落塵緣鞵。清矣非為世欲裁。

罕有山猿持果至。杳無巖鳥獻花來。
道人碧眼同秦鑑。寒影孤光不犯猜。

七十九

金剛華座碧雲臺。影淨光寒立雪胎。
芳砌才臨蹤半露。瑤空未降影何裁。
詩狂句得聲前意。禪眼機遲棒後來。
打雨敲風閒計較。此中一點不容猜。

八十

祖骨常靈鎮法臺。雪中忽現金毛胎。
眼前雄狀人仍畏。肚裏剛腸誰敢裁。
羅網重重力直往。海山疊疊見能來。
進前退後無狼藉。回互休教落意猜。

八十一

大雄何事到春臺。雪裏翻身天外胎。
兩眼仰觀百不有。一心恒寂萬無裁。
雲山坐斷舊時路。玉壘寧期此日來。
牙爪森然空劫外。誰能拚命打頭猜。

八十二

青山銀海玉樓臺。灼鑠光明現大胎。
不借父娘懷抱出。豈容佛祖揣摩裁。
有緣暫爾一機動。無事寧輕六出來。
者點寒光無意味。幾人能此向前猜。

八十三

迴越人間萬丈臺。山靈祖胤有賢胎。
自知霜骨高空外。孰信冰心出意裁。
誰似面前法可指。不防腦後前從來。
即今眼底休空過。莫待閒情後悔猜。

八十四

鐘鳴鼓響法音臺。香雨靈花妙應胎。
高臥懸空人不到。微行未與世同裁。
寒巖月冷回身急。古殿苔深沒跡來。
分付海山行腳客。只宜相看不宜猜。

八十五

樓閣崢嶸天上臺。非常處現非常胎。

龍吟自與蛙吟別。獅乳寧同驢乳裁。
指路須教驀直去。到家已是涉程來。
獨憐不落古今句。惱殺闍黎不復猜。

八十六

霞影雲光祇樹臺。良時將至見良胎。
水中月白誰能舉。鏡裏花紅幾可裁。
擺尾搖頭呈力戲。睜睛奮爪轉腰來。
俊哉好個閒消息。不是斯人不易猜。

八十七

鼻祖當年豎拂臺。於今又見大音胎。
神機不落聲前句。妙用寧將語後裁。
臨水那堪窺影去。凌空誰解捕風來。
多因雪調難相續。卻把單于作樂猜。

八十八

昔日拈香萬指臺。多年寂寞始逢胎。
滿腔雪調從新吼。全體霜威若舊裁。
曾向懸崖撒手去。幾經鬧市刺頭來。

風光到處多知己。莫使閒情對月猜。

八十九

廬嶽相鄰密意臺。風雲抱雪合為胎。
花階未似空階寂。鬧處何如淨處裁。
寸草不生萬里去。通霄無礙九重來。
時艱且喜同寒苦。莫聽傍人熱惱猜。

九十

直上雲霄萬仞臺。白玻璃界碑磔胎。
縱橫豈受紅絲繫。勇猛難將金鎖裁。
正熱鬧時尋不見。沒蹤跡處偶然來。
行人欲要知歸路。明月蘆花任爾猜。

九十一

碧溪明月落霞臺。雪滿林丘見素胎。
遍入剎塵身未動。端居毛孔體難裁。
幾番雷雨橫空下。一任風雲掃地來。
自是生成無畏力。神睛鬼眼漫相猜。

九十二

鄱陽波映翠微臺。月皎湖光見妙胎。
擬似伸頭猶畏尾。恍如欲吼又無裁。
千岐盡是家山路。萬別還同故地來。
得放下時姑放下。何須計較用心猜。

九十三

石徑盤回上有臺。密雲交雪產孤胎。
一輪雙月寒無伴。萬頃銀河光可裁。
有道須從這裏去。無為幾向那邊來。
相看未免徘徊意。好入龜毛袋裏猜。

九十四

選佛場開甘露臺。時清又見法輪胎。
香雲為蓋因知重。密霧彌封絕意裁。
不發宏音原有待。只留孤影為誰來。
但知大物無虛出。何用芳心向上猜。

九十五

卜幽尋古上方臺。極喜親迎雪嶺胎。
情與無情同一色。是於不是漫多裁。

青猿忽化素猿嘯。黃牯俄驚白牯來。
共睹眉間真實相。不須猜處也須猜。

九十六

珂雪光瀾七寶臺。銀花鏡現海珠胎。
骨迎霜月存堅性。目視雲霄有遠裁。
瑞草叢時難可住。白雲深處不宜來。
誰堪向此發幽興。短語長篇好共猜。

九十七

白雲影裏芙蓉臺。淅瀝鵝毛聚好胎。
有相不離空處現。新聲元是舊時裁。
人天路徑隨君趣。祖父門庭望子來。
一片寒情無可訴。流風疏月幾同猜。

九十八

千峰中結葵心臺。階似琉璃雪長胎。
透露生前形不撥。顯揚劫外思難裁。
投食全無一鳥下。沖寒能有幾人來。
莫言此事知音少。覲面相呈何用猜。

九十九

鷲嶺遙分雙杏臺。春寒雪長出群胎。
堂堂大體人咸重。凜凜威風物鮮裁。
圓性遠離修證位。常光不涉古今來。
諸方多少參玄士。錯把奴郎當父猜。

一百

六出繽紛貝葉臺。雲間霞影遶祥胎。
威光欲視難相識。眉目堪觀未可裁。
自重慣於安腳穩。誰能敢犯敵頭來。
望風須是先回避。莫待傷身不及猜。

紫竹林顛愚衡和尚語錄卷第二十

（楊州府華嚴巷敬佛庵剃度孫比丘尼旋義。敬刻顛愚先老和尚語錄第二十卷。計字陸千三百拾陸個。該銀參兩柒錢九分二厘。仰祈慈力加庇。庶得人人悟般若真空。個個證菩提妙果。康熙十五年四月 日楞嚴藏經坊附板）

紫竹林顓愚衡和尚語錄附卷

行狀

住南康府同安寺嗣法門人正印焚香敬述

師諱觀衡。字顓愚。別號傘居。北直隸順天府霸州趙氏子。生於萬曆七年己卯八月十八日亥時。母夢大士攜童入抱。覺而有娠。誕見白衣重包之異。七歲受書鄉館。質越群童。間同兒戲。多以佛事為伍。十二歲茹素。喜奉觀音大士。即欲求得出家。苦父母不許。

十四歲即頓離父母。私遁鄉間。逡巡進退。不識所之。越三日。忽見臺山惠仁大師自遠而來。師即出禮曰。吾欲出家。乞師披剃。惠曰。汝誰。何便作此語。師具陳所以。惠見師表異常。遂帶往瀛州。客於黃窪小舍。師屢求祝髮。而惠不之允。師特引刀自剪。惠不得已而為染薙焉。命名取字。隨住沙村。主靜三載。服勞奉養。靡不克盡弟子之心。

年十八。每聞客曰。五臺山獅子窟有空印大師者。乃人天儀範。四眾規模。日陟空王座。時驗祖師關。真療饑之餐。破暗之炬。倘得依之。足為慶幸。師籌之不己。卓然曰。為僧要門。莫過參禪聽教。我輩非殘非腐。何以小節自拘。即叩伽藍。背師夜走。直四十里。黎明息肩。竟不知身何在也。越旬日。遙見清涼之堰。足若乘雲。了無跋涉之苦。及見大師。果蒙英嘉器勗。命典侍寮。自此窮研經典。寢食俱忘。數載中。楞嚴、法華諸經。莫不了然心目間也。

庚子歲。隨大師入燕京。赴明因寺講席。得圓大戒。一日。達觀大師入寺與空師同坐一榻。語話之餘呼師。摩頂而相曰。此子頂蓋如蓮花。但下角欠缺。恐不壽。倘入山斷雜習。乃為佛祖骨髓也。師禮謝歸寮。見眾侍語笑甚誼。師震威喝之。達師聞而問曰。此何人聲也。空師曰。適小侍顛愚子耳。達師曰。此子五十時。必名振海內。是時師因習聽既久。胸臆澹如。遂嘆曰。出家乃大丈夫事。豈區區以文字為哉。故盡屏去所習。單提一念。切究本分大事。

尋出京都省親。其父母見之色喜。遂縱鄉鄰逼師還俗。師知不可。乃以省師得脫。嗣後順道南行。遍參知識。逮過齊魯時。遇歲饑。或一日一湯。兩日一粥。飲甘泉。拾糞棗。所歷艱辛。不可殫述。由是月餘方出其界。

後抵吳越。始見豐邦。復自慶曰。若無此地幾傾命矣。初參雪浪和尚。次謁雲棲大師。凡屬當代宗匠。莫不訪見。諮決心疑。既而飄南海禮洛伽。由順風出島。以至天台華頂峰王經洞。見其寒威逼迫。勢欲摩空。遂與隱者商而習靜焉。是年師當二十三。

辛丑歲。初番主靜。見其山多獼猿野雉、虎兕山羊。爪趾交錯。聲音迭更。一以正大自持。視身如枯。視心如死。身世坐忘。不知所有。第因工夫太猛。諸念雜陳。自知魔機既發。略歇工夫。倦眠醒眺。宴度時光。雖然。猶思古人學道。百折千旋。成就其志。豈因一蹶而卒、不前進者乎。由此復理身心。一日。讀楞嚴經有省。時當二十五。

癸卯歲。因春芳日暖。鳥獸飛騰。獵人成群。往來不輟。師欲別構幽棲。卜之不得。遂去華頂。至雙徑訪樂愚大師。而過金陵長干休夏。秋遊九華。冬上匡山。歷覽諸勝。遂卜靜於乾崗嶺金沙盆。時因春遲。野菜未抽。每從枯草中覓取苦薺黃葉和羹烹啜。三載中灰頭土面。不事往來。專提本參話頭。一夕踏月經行。忽然大悟。偈中有曰。「一夜踏空行。虛空忽爾釋。乃知大覺心。土木與瓦石。」師年二十八。

丙午歲。去乾崗嶺。禮育王舍利。復渡海至天台休夏。隨游閩之武夷古簾洞。有詩存焉。次年入粵。遊南華勝蹟。進禮曹溪祖容。

己酉夏。見憨山祖於端州。時當溽暑。氣味蒸人。禮畢。祖問。禪人那裏來。師曰。廬山。祖曰。為什麼不捨者件破布衫。通身作汗臭氣。師曰。正要薰破和尚鼻孔。祖曰。是則是也。須易過始得。遂脫葛衣與師。師著之。作舞而出。祖曰。老僧三十年來目中所罕見者。侍月餘。因戴制臺請祖入省。師乃別以楚遊。

庚戌春。上南嶽石廩峰主靜。師抵峰頂。喜其山巒雄峙。卉木蕭疏。無論陰雨晴明之際。趺坐巉巖峭壁之間。以禪定自試。竟日忘歸。不知身世所有。忽一日。東首自墮片石。其聲如雷。師出目之。祇見走獸飛禽。毛羽驚懼。久之。西巖有隱者。日以草烏為食。自美其味。兼餽於師。師初服不知保任。以致中風悶絕。師知藥作。取筆書案。云誤中烏藥而死。隱者午後復送烏藥而來。見師不語。亟歸取菘豆搗汁。灌之得甦。嗣成痼疾。九死一生。山中乏醫。苦無調治。值壬子歲。得紫

蘿劉居士迎至雲陽養疾。期年稍愈。復得自心車居士延師邵之無念閣。數載俱以養病為事。時憨祖有云。「禪門下衰。幸得一個半個真實為生死的學人。與之周旋。稍慰寂寥之懷。今斯人有斯病。豈龍天厭薄法門乎。倘佛祖加被。病魔自當遁跡也。」

乙卯春。臺山空大師遣月舟來迎師。辭疾不返。

丙辰。師年三十八。邵陵諸護法為師結庵雙清磯。師額曰「五臺庵」。此名蓋不忘清涼五臺之本也。是年春三月。省憨祖於湖東。依隨半月。適祖有雙徑之行。師特焚香請益。祖書法語偈曰。「法意簷前草。拈來覆大千。付君須自重。花發利人天。」祖初欲以己席留師。因寶慶諸弟子迎師甚勤。義不可卻。遂縱師歸之。師自此歸庵。大開法席。立規條。結禪制。示眾有云。「古人云。我要一向舉揚宗乘。法堂前草深一丈。如今要求個法堂前草深一丈的善知識。了不可得。大都皆好溫煖。好人承事。無非將高就低。隨波逐浪。大家混入野狐精隊裏去也。咸謂播揚大教。不知實為傷風敗教之徒。良可太息。」次年靜室落成。太史鄭公題曰「顛山蘭若」。時聞空大師順世。為文哭之。

戊午春。集律儀常軌。著律學知要。自序略云。「祖師門下問答。意在時時提撕。使不昧卻也。一機不來。如同死人。如來教人行住坐臥、取舍視聽之間持誦偈咒。亦在時時有人故也。」師每歲令人撿拾枯骨。至中元日。建會而火瘞（音意，埋葬）之。復立圓通懺一卷。冬夏二期。令眾薰修。吳楚江南。遍行其法。

次年。五乳憨祖以書招師繼主曹溪祖席。師以疾辭。辛酉

歲。于闐國海藏上師餽師舍利。師示以法語。略曰。「此顆舍利。自南泉拈出。相傳至今。落在病僧手裏。上師帶去西國。有時拈弄出來。也知大唐國中仁義不少。」

癸亥冬。聞愍祖示寂曹溪。有懸真燒香法語。哀痛迫切。明年。金剛四依解刻成。隨立同聞思修錄。請結法社。得其登錄者五十三人。因立圓通法派十六字。曰「觀音旋明。聞復清淨。殊勝妙德。真實圓通」。

丁卯夏。作禮佛發願儀。自序有「人欲橫流、非禮不能截斷、我慢凌高、非敬不能折伏、是知禮敬者、乃摧慢幢之利斧、杜欲流之堅堤」云。此時南陽郡王吾鏡宗侯、附馬侯公。前後入庵。問道真切。給諫玉筍張公冊封入楚。謁師。問曰。如何是應無所住而生其心。師指香爐曰。此是福窩裏的。給諫默領其旨。

己巳春。郡侯杜公、郡丞黃公、別駕路公一時同謁。求師法要。是年。師因父母前後訃聞。未遑追悼。至此捐衣鉢。建薦親道場。疏略有「自慚背至親之深恩。得彌天之重罪。願自無始以來。所作善業惡業。惡業自己承當。善業回向父母」云。

師一日經行。見僧看經。食不知應。師叱之曰。為僧自有本業。何暇于斯。僧作禮曰。然則經非本歟。師將其卷袖之。曰。還我經來。僧擬進語。師搖手曰。不是不是。僧罔措。師咄之。師之說法。不欲和混諸方。故弟子以機緣偈頌歌贊等錄。鑄成請名。師目之曰「閉門語」。

壬申歲。楞嚴四依解著成。甲戌夏。授天隨宜監院事。秋

去臺庵。師居臺庵一十九載。每於結制、說法種種間。神不知悴。體不知勞。足不越檀護之門口。不談人世之事。每夕課餘。張大傘趺於露地。因有傘居稱焉。時為暴客欲得飲餞於庵。師聞不悅。遂私杖笠而出。人無知者。已而太守熊公并闔郡兩書迎師返錫。不諾。

是年八月。泛舟武陵。禮鑿大師塔於德山。因遊荊澧諸道場。常德榮王迎師梅園說法。闔府皈依。冬過湘潭。孝廉李公迎師說戒於法寶庵。

乙亥三月。過攸縣。貞復譚居士請師說戒於雨花庵。秋遊吉州。禮青原祖塔。十月。文水豹玄婁居士迎師柳莊庵說戒。十一月。郡丞王六來迎師摩訶庵說戒。十二月。司冠朱玉槎迎師生生庵說戒。

丙子春。平田劉公迎師西峰寺說戒。夏入蘇溪避暑。桂柏園緇素弟子請師結制。禪侶駢駢。僧問和尚。誰家兒孫。師曰。臨濟。僧曰。臨濟兒孫多是棒喝交馳。硬如剛鐵。和尚為何綿軟如泥。師曰。好兒不住爺屋。

丁丑春解制。去安城。泛舟南康。二月。上匡山為愍祖掃塔。五乳諸弟子請師主席。不諾。乃說戒。并序愍祖華嚴綱要。秋八月。下匡山。上雲居。到之日。喜其山光殊勝。地勢幽奇。謂侍僧曰。此南地北山。可稱第一道場也。正趺坐樹下。會沙彌進報主僧味白曰。樹下老僧趺坐若佛。味曰。我向夢樹下湧一寶塔。應在斯乎。後出迎見。恍如舊知。禮畢詢號。師曰。行腳人何號。味曰。向聞匡山有活佛號傘居者。得非師耶。師

笑而頷之。由是味欲以院事乞為主席。師不諾。留之以詩。次日過雲門。隨喜大慧禪師遺蹟。因疾作。於方家嶺甘露庵憩息月餘。味師復偕給諫青嶼熊公同緇白虔請。師乃許之。是時師當五十九。丁丑歲也。

九月朔。入院晚參。略云。「有一物。天不蓋。地不載。極遍極圓。無損無壞。投之於火。火不能燒。擲之於水。水不能溺。亙古亙今。巍然獨立。且道是什麼物。便有恁麼奇特。莫是無為真佛麼。莫是生死根本麼。莫是日用主人公麼。若喚作。入地獄如箭射。不喚作。入地獄如箭射。你諸人畢竟作麼生。」

十二月。說戒。以方融璽為監院事。次年春解制。應孝則劉殿元開七里松道場之請。夏乃歸山。

己卯歲。開墾荒田。清修古塔。塔之由。師因見洪覺膺祖⁶⁰之塔為寺中向。常疑之。意謂膺祖之後。洞山聰公⁶¹嘗有東塔主之稱。此必為湮沒失所。無知者妄額有之。師每每留心。不獲。一日策杖東山之麓。聞杖下有空洞聲。命開視之。未遠即獲斷碣。有梅花香噴遠之句。愈足徵信。俟及其底。果為膺祖塔也。且內有鎖鑰。眾開不得。唯師能之。給諫熊公贊曰。開塔原是坐塔人。是年枯荊生枝。古杏結實。觀者以為祖席興隆。應在師矣。

冬月結制開爐。命諸禪人俱參觀音大士即今在什麼處。有圓通頌百首。

⁶⁰ 雲居道膺禪師，諡洪覺。

⁶¹ 洞山曉聰禪師，遊學時曾在雲居山做燈頭，智慧過人，祥庵主讚歎其為雲門兒孫。

庚辰春解制。師問方公。觀音大士即今在什麼處。方云。家家門前雪滿堆。師云。雪消後如何。方曰。水到渠成。師云。也不辜汝喫清粥淡菜。是冬。明月堂落成。兵憲金豈凡題曰「無心古佛」。秋⁶²應劉殿元青原祖席之請。九月入院安禪結制。法席甚隆。明年七月。得熊給諫書。即去青原而入會城矣。

是時。正印在城南黃牛州閉關業已四載。久慕師之道風。欲圖親炙。不獲。時聞師舟抵城。即欲請師開關。以便依隨左右。闔公殷為代請。果蒙師至關前說法開示。

時江省奉上嚴禁。不許糧食過關。師因自帶米船數隻。冀回雲居供眾。至此防閑⁶³。疑無出策。會豈凡金兵憲來謁。以閒閒庵集見序并寫師照求贊。公見師贊中有「欺誑百端、一味瞞官」之句。遂疑而問曰。想師有米在此、欲出關耶。師笑曰。獨瞞大護法不過。遂與之周旋得出。

至冬月。印來參。禮畢。師問曰。南州為汝開關。還記得麼。印曰。怎敢忘卻。師曰。試舉看。印曰。西山紅雨靜。南浦白雲多。師曰。猶有窠臼在。印曰。昨離修水。今到雲居。師曰。來此何為。印曰。親近和尚。師曰。要見老人真面目始得。印一喝。師笑曰。又是諸方蝦蟆氣息。乃列印為羯磨位。此後凡遇公案淆訛處。莫不為印發明。抑揚追究。痛何如哉。

師一日見僧參話頭真切。抵其前而不之覺。師警之曰。青光白日喫了檀那飯。奈何不為本分事耶。僧作禮曰。某甲根基

⁶² 前已說庚辰冬月之事，此應是辛巳之秋。參見此後熊文舉所撰之塔銘。

⁶³ 本義為堤防及圍欄，引申為防備禁阻。

淺薄。於話頭無有入處。師指案冊云。經卷也不識。僧誤以師指看經。後果於四相空處得悟。

癸未春。砌羅漢垣。為山門外護。建明月堂。為主者退居。改碧溪水為左旋架。安樂橋為右進。乃為新增四景。命諸子各各詠之。旋觀王公一日以書問道。師裁答畢。仍以原書遞印。曰。今日病僧倦劇。不及回書。勞子一稿代之。印領回。至無夢無想、主人公在什麼處。沉滯五寸香許。忽聞板聲。遂得句曰。鼻息吼如雷。天光不覺曉。急陳之。師閱罷。置書問曰。除卻前語。再道看。印語未終。師搖手曰。不是不是。印疑之。遂閉門七日。參究無罅。一夜。月下經行。方釋其疑。遂入方丈。禮謝曰。從後不被老漢熱瞞。師曰。汝得何道理。便與麼話。印曰。自古鹽鹹醋酸。師曰。大士即今在什麼處。印直前打師一掌。師把住曰。不許手忙腳亂。清切道來。印拓開曰。者老漢猶嫌少在。師大悅。復署方兄與印為東西首座。

異日。山靈震動。一眾皆驚。師謂眾曰。此山當代矣。後於八月四日。以常住事委無穎副寺。以明月堂委印。曰。此明月堂是病僧逸老之處。法璽西堂當守之。至深夜。呼印入室。以大衣、如意及藏經、慈旨、常住文券書偈付之。曰。此乃佛祖慧命。子當護持。病僧出山矣。

至三更時去雲居。明日理舟楫赴邵陵。因螺川寇阻。遂放舟金陵。冬月舟次上清河。水部浩若周公偕眾來謁。別後。師恐舟居難為應接。特命移繫石頭城下。未經一月。四眾來從比肩接衽。求示者不知幾許。靈谷覺浪和尚聞師至。遣書并詩候於舟中。師立時裁答無草。僧歸言之。覺為吐舌。

是冬棲賢庵度歲。次年江陰弟子唯心來迎。復理舟楫至雲間。禮中峰法像。洙涇訪船子遺蹟時。江上黃介子偕司馬沈弁丘諸檀度往返江干。請益無暇。三月。金陵弟子持書於江陰十方庵迎師主清涼法席。許之。四月進院。五月說戒。六月建報國道場。七月設孟蘭會。八月。師去清涼。於西天寺禮板的達禪師影。於靈谷寺禮誌公和尚塔。兼過牛首設齋。送空大師像入諸祖位。由是緇白弟子請師入祖圖。師曰。病僧薄德。無當也。眾推尊不已。師於臨濟下指曰。衡當於此。是年師當六十六。甲申歲也。

冬十月。值縉紳弟子等迎師入金陵。建刹於城北山南。師額曰「紫竹林」。此名者。抑亦不忘清涼竹林之本也。乙酉春。建造禪堂。三月。工程就緒。夏月結制說戒。數千指圍繞。時少司空須彌劉公。同大司空大瀛何公、大司寇枝樓高公訪師。林中歡談竟日。金陵豫王亦仰師道範。欲得親瞻。命大宗伯入林迎之。師辭以疾。九月建韋馱殿。十一月。天界寺德慧熹等迎師說戒。依隨者不下以數千計。明春二月。乃歸林中。

是年正印持雲居諸書迎師返錫。臨行之日。法堂前古杏無端自折一榦。見者莫不驚疑。及印抵林。師已示病。不克行矣。師年六十八。丙戌歲也。

三月。贊蔡司馬行樂⁶⁴後。不親筆硯。四月朔。遷靜室。作調攝計。因有遠來求戒者四十餘人。辭不獲去。初八日。仍歸方丈力為說戒。

⁶⁴ 即此書卷十一所謂題明翁蔡居士六袂初度行樂圖。

二十二日。集眾曰。法璽西堂不遠千里到此。欲接病僧歸老雲居。但此竹林一席無人承當。眾中若有承當者出來。為汝證據。良久。指地顧千幅云。此福地也。子當珍重。幅云。音乘侍座不久。不敢當和尚大恩。

復顧妙明監院云。汝作麼生。妙出作禮。默然就位。師笑云。參天紫竹。許汝親栽。遂命理舟楫。辭眾而行。緇素弟子疑師歸雲居祖席。未敢哀留。姑從之。次日。妙明等至舟候師。輒見發回香資二十金。命歸林中設齋安眾。乃謂諸弟子曰。病僧四十年夙願。欲得不僭檀那地。今思水國。惟眾成之。眾聞驚愕。久之。印領諸侍僧長跽。曰。此意在師不以為然。在諸弟子實難以奉命。師意拂然。自此諸弟子防護甚謹。

一日。師呼印云。船上所有衣鉢。俱屬五臺掃塔之資。分文不屬雲居。子莫妄想。印作禮曰。和尚恩踰父母。碎身莫酬。況印嘗讀死心有云。「求道者不與財。求財者不與道。」此非師之所以待印也。師笑曰。子既如是。病僧何言。

五月朔。命千幅乘代為臺山掃塔因緣。會方叔予至。師語之曰。清涼五臺乃病僧受業之地。欲得齋費千金。惟公是賴。叔予曰。此弟子力之所及。但以三年為期。師聞之甚喜。

初三日。師疾篤。眾護法親理臥輿。強師歸林。次日。師呼天衣曇曰。五臺庵乃病僧最初法席。汝當負吾杖笠。至彼建塔。以表病僧遺愛。曇作禮謝退。

初六日。命設齋請眾護法及諸山耆宿入林作別。眾詣榻前。師厲聲曰。此竹林一席。乃諸公心地也。幸為愛念。眾同聲曰

遵命。師曰。再之病僧四十年夙願。欲尋水國。諸公成就何如。旻昭陳護法曰。王舍城中無人敢擔。請師寢此一念。師喟然嘆曰。錯也錯也。遂不復語。

已刻。師命掖起趺坐。弟子見其神氣稍清。有為法身塔請者。師搖手不答。正印復跪曰。和尚不久住世。請留一偈以示後人。師震聲一喝。印謝曰。師說偈已竟。

少頃。師問午否。答曰。未也。既而復問。以致再四。答曰。午矣。師儻然而逝。三日顏色不變。內外持香頂禮者。黑白森然。林無隙地。見者聞者。靡不揮涕而言。真肉身佛也。

初八日。以陶器函蓋。奉於本林方丈。師之爪髮衣鉢。建塔於本林之山陽。素華法師⁶⁵記之。法身靈龕建塔於豫章雲居之東靜室。給諫青嶼熊公誌之。

世祖順治十八年壬寅元旦。塔院回祿。塔主自常顥聞於諸門人。而元白可、超宗翼、西意源、西生彌、妙明願、徹庵清、融定安、晦之明、正印等遷於本山之仰天坪。重建塔焉。少宰雪堂熊公銘之。

師之法臘五十四年。世壽六十八歲。得業於五臺空印大師。嗣法於曹溪憨山肉祖。師之說法也。單提向上。直指人心。問答不落棒喝之機。示眾不墮斷常之見。開爐結制。格外鉗鎚。拔楔抽釘。超庸作略。其卓識也。惟遵古制。不徇時宜。尚朴實。厭奢華。身不衣帛。手不握金。食不擇精粗。心不存好惡。

⁶⁵ 即藕益大師。

不動舌尖而稱揚佛祖。不下禪床而接待宰官。凡遇坡務。納屣先行。但值經營。躬親畚插。師之字。鐵畫銀鈎。筆鋒剛勁。點畫間缺。自成一家。得之者爭相寶重。師之相。額廣臉圓。髯修身胖。威儀整肅。動止端莊。見之者互相恭敬。觀師德化。真末世慈航。人天龜鑑。豈是初機晚進所能企及者哉。

及其有司縉紳護法。楚之有鄭之玄、熊茂松、黃克儉、王思履、車大任、劉紫蘿、車以逢、車以遴、譚貞復、車以遵、劉胤祁、劉胤禎、王尚賢、劉正寶、車泌書、簡文灝、譚本來、王飛孺、陳內白、劉白蛟、劉孝先、車萬育。江西之有熊德陽、劉同升、金之俊、黃端伯、朱世守、熊維典、劉平田、郭如閻、田仰、郭首龍、朱石者、王旋觀、鄒叔鑑、郭任之、袁懋芹、蔡兆元。金陵之有陳丹衷、凌世韶、劉士禎、何應瑞、高倬、蔡二白、張幼仁等。皆師最契者。

其嗣法受戒弟子元白可、天隨宜、萬白灝、西意源、西生彌、方融璽、超宗翼、聲隱顯、草堂讚、佛語訓、優曇頤、東巖璨、若雷默、二水璵、千幅乘、妙明願、佛地在、笑峰然、無能現等。皆師深勗者。

正印叨為晚子。不能悉知。此蓋於老人耳目聲教之外。窺見一斑。狀出以效盲人摹象之得。免遺一志之私也。倘諸方明眼欲鑑全容。請以浮漚深諸滄海。

塔銘

前進士出身通議大夫吏兵二部左侍郎

新建法門弟子熊文舉頓首拜撰

顥愚和尚。以丙戌夏示寂於江南之紫竹林。其嗣戒弟子方融璽迎靈龕歸雲居。建塔於東靜室。至壬寅元旦。忽被回祿。塔主自常灝急聞於慧山元白可、萬松超宗翼、龍門法璽印、南山西意源、泰和西生彌、竹林妙明願、徹菴清、晦之明、融定安。歸雲居共議。徙塔於常住之東向、地名仰天坪之上。而觀察桐城王公願五捐俸助費。於是遷塔有日矣。其嗣法門人法璽印公。自雙溪龍門來。以塔銘見屬。值文舉方召起佐中樞。屏跡蓼居。擬疏陳請。力辭筆墨之役。復念顥愚禪師道德孤高。載華振海。豈舉鈍劣之所窺測。贊揚再四。辭不獲命。因據龍門法公小狀書其涯略以應。

按狀。師霸州趙氏子。生於萬曆七年己卯八月十八日亥時。母夢大士引童子入門抱之而娠。生時有白衣重胞之異。壬辰投五臺圓照寺惠仁大師剃度。法名觀衡。丙申參空印大師受具。其字顥愚。

庚子隨師入燕。參達觀禪師。觀以手摩師頂。曰。子頂骨如蓮花。至五十當名振海內。是年南詢。禮雪浪雲棲二大師。遂結茆獨處於天台華頂峰。讀楞嚴有省。癸卯。卜靜於匡山之乾崗嶺。踏月經行。忽然大悟。遂說偈曰。「一夜踏空行。虛空忽爾釋。始知大覺心。土木與瓦石。」

戊申入曹溪參憨山和尚。師侍立次。山曰。子為甚麼不捨者一件破衲。通身作汗臭氣。師曰。正要薰破和尚鼻孔。山曰。是則是也。須易過始得。山遂脫葛衣與師著之。師著葛衣。拂袖便出。山曰。老僧三十年目中所罕見者。自是師資酬唱。機緣甚愜。

庚戌。師辭山入楚。登南嶽石廩峰。誤食草烏。大病。調治於邵陵。丙辰。建五臺庵於雙清磯。是年復省憨山和尚於衡陽湖東寺。山親書源流。當堂付囑。偈曰。「法意簷前草。拈來覆大千。付君須自重。花發利人天。」俄頃復曰。老僧有雙徑之行。此座非子不能擔荷。師作禮堅辭。歸五臺開法。

甲子。列「觀音旋明、聞復清淨、殊勝妙德、真實圓通」之派。冬結制。得真實學者一十五人。甲戌。泛舟武陵。禮德山鑒大師塔。常德榮王迎於梅園說法。乙亥。入西江禮青原塔。丁丑。至匡山五乳掃憨山和尚塔。作華嚴綱要序。給諫青嶼熊公、住持味白請師中興雲居。開法結制。命諸禪人參觀音大士即今在甚麼處。會元白可自天童歸。受請寶峰。師以二偈贈之。

戊寅。應劉殿元孝則居士開七里松道場。庚辰。出膺祖塔。於雲居故址構明月堂。砌羅漢垣。改碧溪水。萬松超宗翼辭歸邵陵。師以法語并書偈囑之。

辛巳。再應劉殿元請。復興青原祖庭。師入院結制說戒。法席甚隆。甫一年。青嶼給諫、約生給諫二熊公迎返雲居。舟至章門。會相國豈凡金公時方兵備南瑞。往參師。於龍沙寫師像贊之。

癸未。署方融璽、法璽印為東西首座。復以明月堂曰。此乃老僧逸老之處。法璽西堂。汝當守之。至深夜。呼入明月堂中。以法衣一頂、如意一柄及藏經、慈旨文券并書偈付之曰。佛祖慧命。子當護持。

遂赴寶慶。至螺川寇阻。乃東下金陵。諸宰官居士書迎。主石城清涼法席。八月。師登牛首。供諸祖道影。送竹林空印大師入祖位。於是眾請師入祖圖。師曰。病僧是個擔板漢。眾推尊再三。師於臨濟派下指曰。衡當於此。乃臨濟三十世也。是年冬。諸檀護及緇素弟子迎住石城北山。師額之曰「紫竹林」。

乙酉。清兵下金陵。大將軍豫王企請三次。以疾辭未赴。仲冬。諸檀那戒子德慧熹等。固請弘戒天界寺。師許之。

丙戌。師入院時。受戒者環繞萬指。無不歡喜讚歎。得未曾有。師之末後聲光赫奕如何也。四月歸林。示疾。會雲居西堂法璽印持書來迎。師聞之喜甚。即命千輻乘、妙明願理林中事。登舟歸雲居。適江土戒嚴。舟不克行。金陵眾檀那治臥輿迎歸竹林。

五月初六。命治齋謝別。千輻乘跽請說偈。師搖手不答。法璽印繼請。師震聲喝之。已刻。師端身趺坐。問曰。午否。答曰。未。繼而復問曰。午否。答曰。午矣。遂儵然而逝。傾城士女持香頂禮三晝夜。時方溽暑。顏色如生。

初八辰刻。用陶器函蓋。其入塔前後業已敘述。不贅也。銘曰。

我聞師拈。

臣奉於君。子順於父。不順非孝。不奉非輔。
是曹洞宗。非臨濟句。正令全提。痛棒打出。
是則綱常。煌如鐘鼓。大哉我師。德隆化溥。
性相兼融。宗教並主。流水高山。牙絃獨撫。
賞音者誰。衡陽五乳。我儀師慈。明月寶璐。
我聞師言。彌天法雨。眾生皆病。義不獨瘡。
是擔板漢。敢辭偃僂。威赫香光。孰龍孰虎。
樺皮破帽。憑誰收取。雲居春好。百花無數。
安樂橋邊。溪聲未腐。寶慶不歸。螺江寇阻。
石城茫茫。何殊東度。臨寂憐然。是日正午。
振威一喝。萬流截住。咸炬雖炎。何傷玉宇。
美哉斯遷。金堂瓊柱。浩劫濟風。作鎮萬古。

雲居顓老和尚語錄後敘

宗師出世。手眼卓絕。袖裏藏鋒。則咳吐掉臂。直指祖師西來大意。第見近時禪學之盛。穎悟之秋。差珍異寶過眼便識。豈其強硬。終自落於群邪。先雲居顓老和尚。再來古佛應化。踏翻滄海。豎立精幢。一字一句。又安可與諸方並例。信乎。架長虹而吞巨浪。輒義學而吐玄津。今觀吾師。上溯憨老人柳巷之見笑翁。機緣契合所自來矣。塗毒鼓聲。聞者奔潰。恨予生晚。親炙座前。蒙師開發。如登寶階。令我夢者覺。忘者憶。久久磨煉。垢盡翳除。瓣香不能酬其萬一也。茲遇同安法璽和尚荷師大法。入草求人。買棹秀州。深追法乳。重輯師紫竹林集若干卷。以付剞劂。俾久遠流通於世。禾城士宦仰其風而誦師之錄。甚為希有。一段光明不致使其埋沒也。

康熙乙卯孟夏四月下浣金明戒弟子真璨拜書

後跋

刪繁取要。法典易為流通。補舊拾遺。禪源不致壅塞。蓋觀理事相宜、簡備得當之法由來尚矣。嘗聞我愍祖寂後。有親筆上堂語錄全稿若干卷。被侍僧心啟者竊市他方。卒不得見。是知記室無人、不能備全師道者往往有之。何居。吾顓先老人曾住雲居時。以示眾機緣一冊授印習藏。嗣及老人出山。印亦忘及齋歸記室。明年。竹林弟子為師刻錄。印猶不預。是時老人忘其所以。將謂此卷已落、無何有矣。又豈知是年印歸林中特出諸袖耶。老人見而怪問曰。此吾思之不得者。子奚來哉。已而印陳其由。師意大悅。彼時即欲附刻。因工竣不可。遂命別冊鑄行焉。

自是以來。印游江楚吳越、兩京諸地。或交接於紳士。或探訪於同袍。每於文房書笈中。得見老人親書墨蹟甚多。凡屬集遺者。輒命抄謄成帙。名曰竹林遺稿。

然則老人當時行化。侍從居多而記室中尚有缺典者何哉。豈謂是篇無味不足記歟。是人無識不屑教歟。非也。要知老人說法。筆氣汪洋。摛文不待。至於求贊、求偈、求諸法語者。來則應之。書則與之。凡此者多以援筆成篇。無事落草。故記室中不遑登錄者不知幾許。吾故於愍祖竊錄之前。觀乎老人遺稿之後。則不能為記室中人辭其責也已矣。

今既有此遺稿全集兩端。理合統刻入藏為當也。但思刻費難構。閱者易煩。敢以兩端較參。酌為附藏。或於宗源有係者。即照遺稿補之。或於語言太贅者。即照全集刪之。示眾。若雲

居等法語、若晦之明序、若板的達偈、若熊給諫。是皆遺稿補之之類也。法語。若玉空序文、若衡南書、若王思履疏、若經懺等。是皆全集刪之之類也。因以成集。得二十卷。與之大藏並行。諸經同轉。冀得聲光大播其前。法化永貽諸後云爾。

時康熙十五年丙辰歲四月佛誕日嗣法門人正印謹識

紫竹林顛愚衡和尚語錄附卷二十後

(顛愚和尚語錄附卷。計字捌千九百五個。該銀肆兩捌錢六分。信女周門王氏喜助刻銀貳兩。冀薦夫主周印官早生蓮界。速證菩提。信士王旋證、張旋琦。信女王氏、鮑氏、周氏。共助錢柒百五十文。眾信共助銀貳兩四錢。惟願法化興隆。子孫繁衍。謹意。康熙十五年四月 日楞嚴藏經坊附板。浙禾夏維寧梓)

【附錄】

答墀隆李將軍

(出如來香卷第十)

釋觀衡（明）

衡寢疾濱江一十七載。過客雖有。而不以病僧見棄者。唯執事一人而已。衡自知沈冥。不能啟悟執事一語。有孤慈愛甚多。別後一切謝絕。唯執事一念常在。遺命忽至。拜讀慈旨。及覩佳惠奇品。感荷殊勝。喜不能禁。來諭云。漳臘僻處絕徼。觸目塞草黃沙。絕無漢人之跡。萬里孤征。形影相弔。兼之餉絀兵單。番部環錯。意欲求去。此數語不知是足下套語、是實語。如套語。則不合寄病僧。如實語。大不當執事所發。今日敵人屢犯邊疆。奇男子多不見立名于世者。皆為輒暖清好之氣。柔弱剛骨。在內不真其仁。在外不真其勇。在儒不真其學。在武不真其技。皆此輒暖之風釀成一時之弊。執事既稟剛毅之骨。豈可為時氣所奪耶。人之去就不一。總之死生一念不決耳。死生一念看破。古人未死。今人未生。生死既空。又何所慮哉。奇男子視天下如掌中。方外道人視十方如毛孔。豈可以鄉關萬里為孤絕耶。塞草黃沙。多為古戰場。正是將軍舊游之處。餉絀兵單。無乃久積之弊。正是將軍著力之時。處此境。當此時。氣不剛而自剛。機不發而自發。豈非執事稱意之境、舒志之時耶。心在此見。智在此出。身在此用。名在此立。乃至立地成佛。亦在此際見分曉。外此別求詩酒笑談以為清尚。閉門閒處

以為逃禪。以彼為樂為得。衡不知也。苟無益於世。諸有所作。皆為魔業。如肯有益於世。不向此處。不於此時。又待何處何時。如向安處安時。益又何施。成佛成祖。為聖為賢。大抵都從苦難中發起。如將此身作一有益事。雖七歲而夭。即永世之壽。如為輒暖自安。雖外包以金玉、內填以酒肉。縱百歲千歲。實若未曾生也。衡言此。執事豈不踴躍哉。此語出衡鄙見。不知執事以為何如。縱不當高明所鑒。亦衡犬馬之心。幸勿為罪。謹復。

示顛愚衡禪人

憨山大師

（按：此法語并後訊病偈并出自憨山老人夢遊全集卷五，東海那羅延窟侍者福善日錄）

向上一路。乃出家人本分事。古人發足超方。只要究明此事。近代以來。概不知出家為何事。安可望為古人乎。

顛愚衡禪人。初依五臺空印大師聽習經論。久之遂盡屏去。單提一念。切究本分事。萬里南詢。過曹溪。謁老人請益。

老人謂此事若不放下身心、苦切根究到水窮山盡處。終無下落。縱到水窮山盡處。古人謂之靜沉死水。又謂之玄妙窠窟。若不回頭轉腦。則面前如鐵壁銀山相似。祇是得力時。不是受用處。古人用心。不是死到底。須是死中發活始得。要在回機轉位。所以道。「百尺竿頭坐的人。雖然得入未為真。百尺竿頭重進步。大千世界現全身。」學人到此。只索轉身。別行一路。方不被他作障礙。

禪人唯唯。作禮而別。乃就誅茅南嶽。未幾老人亦曳杖而至。詢禪人。則為病魔所撓。業往寶慶就醫。老人聞之。歎曰。禪門下衰。真實為生死的學人最為難得。今斯人而有斯疾。豈龍天厭薄法門乎。

丙辰春三月朔。風雨夜半。忽禪人冒雨衝泥而至。老人相見大喜。曰。此豈病夫所能耶。睹其眉宇津津爽氣。是知其疾已瘳八九。因再拈香請益。

老人特示之曰。子之病魔。乃子之大善知識。為助道因緣。子知之乎。切以眾生之病。病在有我。以執我故。一切煩惱眾病以之而生。病生則苦必隨之。自古及今。無有一人不病于是者。唯知病。病之人不為病耳。且四大假合。聚必有散。縱使不病。何嘗不病哉。若了病不病者。則病不能病之矣。子知今日之病。不知多生劫劫病。病至今日矣。子若不了今日病。則從此已去而不知病之底止也。

子知生死之病。而不知要出生死之病大有過於生死之病也。夫何故。古人以參禪不出陰界。墮於識情窠臼。縱有妙悟。皆成我見。以執四大為我。病尚可醫。今離四大復執有我。此病則醫王束手。最難調治。諸佛諸祖特特出世。單為治此一種膏肓之病。費盡多少心力。求肯服藥而瘥者。幾何人哉。禪人身病已瘳。而切不可被禪病侵也。

雲門謂法身有兩般病。甚言透過法身。若法執不忘、已見猶存。亦是病。極言認執之病也。禪人將前所蘊一切玄言妙語及參禪執守功勛一齊唾卻。只到一點惡覺惡習不留。定不被他養成病根。直使佛祖無立腳處。豈不見善財童子南詢百城。參五十三大善知識。各授一種法門。到頭只落箇與法界等、與虛空等。何曾有實法繫著耶。

又不見毘盧遮那。法身非身。而托普賢妙行為身。普賢無行。但以眾生之行為行。故曰菩提所緣。緣苦眾生。若無眾生。則無菩提。此從上佛祖出世之真榜樣。老人因謂禪人。四大病身。非病魔不能治。禪病刺心。非眾生不能治。從今日去。只將身如大地等。則病魔潛蹤。心與眾生等。則我見不立。我見

不立。則禪病自消。以心不自心。則本不生。不生則一法不立。苟一法不立。又有何法而作知見障礙哉。古人云。「捨情易。捨法難。」禪人捨身即捨情。捨見即捨法。情法兩忘。豈不為大無礙解脫之人哉。嗟余老矣。再晤為難。禪人勉之。

訊顓愚衡公病

憨山大師

四大久觀如泡影，
病魔何處可潛蹤。
古人自有安閒法，
只在無生一念中。

紫竹林顓愚大師爪髮衣鉢塔誌銘

(此銘並後塔文皆蕩益大師所作，出靈峰蕩益大師宗論卷八)

金陵紫竹林顓愚大師。丙戌仲夏六月坐脫。門人以陶器奉全身。供於林之山陽。次年弟子請歸雲居。於是金陵緇素以所存爪髮衣鉢。就山陽建塔供養。徵銘於旭。旭愧學未師安。言無足重。然人之相知。貴相知心。旭既謬辱愛敬。迴逾世情。又安敢以無文辭。

謹按譜。師諱觀衡。顓愚其字也。順天霸州人。姓趙氏。昆季四人。師居仲。母夢大士攜童子入門。急抱之。覺而有娠。萬歷己卯年八月十八日亥時生。白衣重胞。狀異凡子。年十二即茹素。喜事觀音大士。年十三。儵然有出塵志。

年十四。堅欲入道。父母不許。乃潛逸。塗（通途）遇五臺山圓照寺惠仁師。懇求剃度。依住四載。年十八。聞清涼山師子窟空印大師名。潛逸往參。投誠篤事。居侍寮三載。諮決心疑。仰學至德。始終如一日也。

年二十二。隨空師入燕都。侍楞嚴講席。進菩薩戒。參紫柏大師。自念習聽義學未是出家大丈夫事。潛逸南行。參雪浪、雲棲二大師。獨住天台華頂峰。讀楞嚴經。破諸疑網。時高明無盡大師登華頂訪智者遺蹤。見師子處茅庵。少年精進。托宿作竟夜談。越三年。移住匡山乾罡嶺。每一飯輟。坐數日。至第三年。月下經行。忽有省悟。三十歲進曹溪禮六祖。次夏四月。謁憨山大師於端州。一見相契。秋仲辭去。登南嶽。住石廩峰。

三十三歲誤食草烏。中毒濱絕。離山就醫。愍大師特至南嶽。嘆曰。禪門下衰。幸得一個半個真為生死學人。與之周旋。稍慰寂寥。今斯人而有斯病。豈龍天厭薄法門乎。

三十八歲。結五臺庵於邵陵。覬愍大師於湖東。參侍半月。大師示以法語。大意謂身病已瘳。切不可被禪病侵。蓋眾生身病本乎執取。而禪病亦本乎執取。若法執不忘。己見猶存。亦是病。直須將從前參禪執守功勳並玄妙知見一齊唾卻。定不可被他養作病根。其語切至。幾數千言。今親筆手卷尚供林中。故知顛師從來開示學人。隨機圓活。不似諸方認定一死貓頭。其得力於愍大師者誠不淺也。

師曾以授戒法問愍大師。大師答云。「老朽未閱律部。於諸戒相實未細詳。今惟遵梵網。以心地法門為宗。以十重為要。其四十八輕。亦未能細說。但令行人半月半月誦持而已。近時學人識淺心粗。多虛少實。求其果能精持如古人者。所未易見。而弘律者。原非學人。事多杜撰。難可為準。公處若有藏經。幸一詳檢律部。有以示我。望之望之。」維時師亦無暇閱律。但宗楞嚴四種清淨明誨開示後人。令持心戒。兼令專禮觀音大士。著有圓通懺法。流通最廣。

居五臺庵。二十年足不越戶外。度弟子千餘人。授記署名者幾三萬人。至年五十九歲。特登匡山五乳寺。埽愍大師塔。建報恩道場。寺眾請主法席。固辭不可。仲秋下匡山。登雲居禮祖塔。寺眾亦堅留主席。黎明潛逸。中塗疾作。不能行。闔山比丘往返虔請。乃復登雲居。至六十五歲秋。離山登舟。山為再震。師於此山夙緣深矣。是冬泊石頭城。次年冬十月。卓

錫紫竹林。林本城北荒地。師住未幾。蔚為叢席。

師發心深為生死大事。故於父母師長皆不辭而行。然秉性至孝。每遇親師忌日。設追薦道場。必極誠懇、竭哀慕。觀者無不感發。

生平儀容古樸。不事矜飾。廣頰豐頤。平頂大耳。修髯如戟。短髮覆肩。目光炯炯射人。終夜露坐。不畏大風。或雷雨亦坐大傘下。故學者稱「傘居和尚」云。衣服不御寸帛。日惟一粥一飯。絕不雜食。每作務必兼人。其接物也。上自王公大人。下逮田夫牧豎。禮不異節。溫溫言笑。靄若春風。而學者見之。不威而懾。隨所到處。僅一輛草鞋便行。來不先通。去不先辭。錫駐之地。縑素雲集。求戒問道。殆無虛日。然未嘗自立涯岸、別建門庭。蓋既得空印大師之教。又得憨山大師之禪。又復匯歸於雲棲大師之淨土。故其開示法語直捷廣大似紫柏。應機禪語輕便圓活似趙州。又眼界雖甚高曠。口角不輕雌黃。謙光盛德。慈念虛懷。真令人目擊道存也。

所著有楞嚴、金剛四依解及紫竹林全集行世。法臘五十四。生年六十有八。長旭二十年。兼親侍憨山大師。誠為法門先輩尊宿。乃不惟忘年下交。而每致書問。必反稱辱教某某。嗚呼。旭真慚悚無地已。合掌墮淚為之銘曰。

佛法如大海。潛流注百川。

達者知浩浩。昧者泥涓涓。

三宗爭鼎足。五葉分單傳。

不有超方志。誰懲鬥諍愆。
師承普門願。憫濁來施權。
奮然脫愛網。習教還修禪。
放生廣檀度。說戒結深緣。
慈容藹冬日。機辯赫炎天。
德重如岱嶽。懷虛若沖淵。
足跡徧寰宇。操持脫言詮。
握拳念大士。撒手宅金蓮。
舍利鎮祖窟。爪髮留福田。
照此石城地。永永百千年。

祭顓愚大師爪髮衣鉢塔文

嗚呼。人不難相愛。難於相知。翁真知我者哉。世縱有一二愛且知者。而志操相攜。旭雖不敢擬翁泰山之德。幸三事略無違焉。尚質樸。詘虛文。不肯苟合時宜。註經論。讚戒律。不肯懸羊頭而賣狗脂。甘淡薄。受枯寂。不肯受叢席桎梏而掣其羈縻。嗚呼。以法門耆宿如翁。而旭過蒙知愛。又志操相合如此。其能已於懷也。翁所證深淺。非旭能擬。而生平最傾心處。請略紀之。

當今知識。罕不以名相牽、利相餌。聲勢權位相依倚。如翁古道自愛者有幾。

當今知識。罕不以掠虛伎倆籠罩淺識。令生驚詫。如翁平實穩當者有幾。

當今知識。罕不侈服飾、據華堂。恣情適意。如翁破衫草履、茅茨土階者有幾。

當今知識。罕不精選侍從。前列後隨。如翁躬自作役。不圖安享者有幾。

當今知識。罕不同流合污。自謂善權方便。慈悲順俗。如翁不肯苟殉諸方。甘受擔板之誚者有幾。

故凡聞翁之風者。頑夫廉而不濫。懦夫立而不傾。伯夷之隘。所以為聖之清也。豈似枉尋直尺、詭遇一朝者身雖存、名已先淪也哉。

旭每悲如來正法。一壞於道聽塗說、入耳出口之夫。再壞於色厲內荏、羊質虎皮之徒。其父報讎。其子必且行劫。尤而效之。何所不徑。翁之爪髮衣鉢幸存。則翁之道風未滅。必有聞而興起者。庶共砥狂瀾於末葉乎。

讚顛愚大師

古雪哲禪師

(出古雪哲禪師語錄卷十四)

入空印室。契圓通旨。
華發五臺菴中。果結石頭城裏。
向人自稱。我無起止。
子細檢點將來。正是抱橋柱澡洗。
而今喜離葛藤窠。壞笠枯筇也自多。
颺下不須收拾得。坐看明月挂松蘿。

輓顛愚大師（二首）

古雪哲禪師

(出古雪哲禪師語錄卷十八)

織居常閉戶。語默悉圓通。
但願精三學。無心繼五宗。
石城華正菱。歐阜月當空。
恨我生遲暮。區區仰德風。

世外全高節。寰中獨讓師。
王侯曾莫致。名利豈能移。
一旦津梁歇。千峰猿鳥悲。

未諳籌室⁶⁶裏。幾箇是親兒。

⁶⁶ 西天四祖優波笈多每教化一弟子，則命之投一四寸竹籌至石室中，至尊者入滅時，石室已滿，即以之茶毗。此喻顯祖所度者。

印行說明：

此明朝末年顓愚祖師的語錄，係清康熙時，由其嗣法門人法璽正印法師重編（其有同門師兄弟先編三十卷，正印法師重編為二十卷），2017-2018年間，由學人(釋合然)點校而成。

此版《紫竹林顓愚衡和尚語錄》，收于嘉興藏第二十八冊，部分文字及標點之修正，參考了CBETA相關文獻和部分網絡文章，以及《雲居法匯》（大象出版社，純聞和尚主編，明堯明潔整理）中的《雲居顓愚觀衡禪師語錄》，細節不遑一一記錄。至丁酉歲末，又發現上海圖書館藏珍本年譜叢刊內之《五臺顓愚和尚年譜》（門人音乘編），其中文句可對證者，亦並參考。另外亦參考虛雲老和尚時期出版之《雲居山志》。謹依據上述資料，加以重新整理，標點校對。

因文體句式較為複雜，而可參考的版本極少，能力及時間亦相當有限，分段未及細緻，個別錯字錯讀恐怕在所難免，若發現此類問題，煩請各位讀者反饋給學人(釋合然)，郵箱：407200385@qq.com，以便再版修正。

以上組織及大德法師居士，暨發起印行、出資助印、參與整理校對及排版之善信等，今一併致謝，唯願福慧日增，般若深契，祈祝佛法興盛，祖印永傳。

普為出資及讀誦受持
輾轉流通者回向偈曰

願以此功德
消除宿現業
增長諸福慧
圓成勝善根
所有刀兵劫
及與饑饉等
悉皆盡滅除
人各習禮讓
讀誦受持人
輾轉流通者
現眷咸安樂
先亡獲超昇
風雨常調順
人民悉康寧
法界諸含識
同證無上道

佛曆 2563 年\西元 2019 年 01 月

恭印 1200 本

紫竹林顛愚衡和尚語錄

CH854-17/16385

發行人：簡豐文

出版者：財團法人佛陀教育基金會

地址：100 台北市杭州南路一段五十五號十一樓

網址：<http://www.budaedu.org>

E-mail：budaedu@budaedu.org

電話：(02) 2395-1198

傳真：(02) 2391-3415

佛陀基金會行動網：m.budaedu.org

劃撥戶名：財團法人佛陀教育基金會

郵局劃撥帳號：07694979

銀行名稱：台灣銀行城中分行（請於電匯或轉帳後告知本會用途）

銀行帳號：045004597503

本會經書免費結緣之請取方式如下：

(一)親臨本會三樓講堂。

(二)利用傳真：(02)23965959

(三)撥打電話：(02)23951198 分機：11、12、13

(四)網址：<http://www.budaedu.org/books/>。

(五)寫信指定：本會法寶流通股。

為提高服務效率，請您嚴謹考量，慎選所需經書；儘量少用電話，多利用文字方式請取，並請詳寫經書名稱、冊數及收件人姓名、地址、電話、郵遞區號，以減少本會之處理時間；若大量申請，請註明用途，且避免姓名、地址等文字上書寫之錯誤。



◎本會交通-

※捷運：善導寺站 5 號出口，至杭州南路右轉，過兩個紅綠燈。

※公車站牌：審計部站→212、299、232、205、276、605、257、262

台北商業技術學院→253、297、237

仁愛路二段→253、297 開南商工→208

仁愛路、杭州南路(紹興街)口→630、270、263、621、651、37、261

行政院新聞局出版事業登記證局版臺業字第
三 八 六 九 號

